

平成22年度
和光市男女共同参画意識調査
報告書

平成22年10月

和光市

目 次

第1章 調査の概要	4
1. 調査実施の目的	4
2. 調査の種類	4
3. 調査方法と回収状況	4
4. 調査項目	4
5. 報告書の見方	4
6. 回答者の属性（市民意識調査）	4
第2章 市民意識調査結果の分析	4
1. 男女共同参画に関する意識について	4
（1）男女の地位の平等感	4
（2）性別役割分担意識	4
（3）性別役割分担意識に同感する理由	4
（4）性別役割分担意識に同感しない理由	4
（5）性別による固定的な役割分担意識	4
（6）女性の人権が尊重されていないと感じるとき	4
（7）メディアでの性に関する表現について	4
2. 家庭生活について	4
（1）家庭生活での役割分担	4
（2）平日や休日に家事にかかわる時間	4
（3）男女がともに家事・子育て・介護へ参加するために必要だと思うこと	4
3. 地域参加について	4
（1）社会活動の参加実態と今後の参加意向	4
（2）活動に参加していない・参加したいと思わない理由	4
（3）自治会等の役職、議員、行政委員における女性の役割が低い理由	4
4. 配偶者や恋人からの暴力について	4
（1）夫婦・恋人間の暴力と認識される行為	4
（2）配偶者・恋人への加害経験の有無	4
（3）加害行為に至ったきっかけ	4
（4）配偶者・恋人からの被害経験の有無	4
（5）配偶者・恋人からの被害経験の時期	4
（6）命の危険を感じたこと	4
（7）ケガや医師の治療の有無	4
（8）子どもの目撃	4
（9）子どもへの行為	4
（10）暴力に関する相談	4
（11）相談した相手	4
（12）相談できなかった理由	4

(13) 不愉快な経験の有無	4
5. 仕事について	4
(1) 就業状況	4
(2) 職場での立場	4
(3) 職場の実態	4
(4) 女性が働き続けるのに必要なこと	4
(5) 育児休業や介護休業を取得することへの抵抗感	4
(6) 女性の就業についての意識	4
(7) 現在就労していない理由	4
(8) 今後の就労意向	4
(9) 希望する就労形態	4
6. 健康について	4
(1) 性感染症の予防方法の認知状況	4
(2) 性感染症の予防対策として必要なこと	4
(3) 日常生活での不満、悩み、苦労、ストレスの有無	4
(4) 日常生活での不満、悩み、苦労、ストレスの原因	4
(5) 気分がひどく落ち込むことの有無	4
7. 男女共同参画の取り組みについて	4
(1) 男女共同参画に関する言葉の認知度	4
(2) 男女共同参画の推進で和光市に期待すること	4
(3) 男女共同参画社会の実現のために重点的に解決すべき課題	4
8. 自由意見	4

第3章 中学生意識調査結果の分析	4
(1) 回答者の性別	4
(2) 男女の性差についての意識	4
(3) 性別役割意識に対する大人の言動	4
(4) 性別役割意識に対する大人の言動のきっかけ	4
(5) 性別役割意識に対する大人の言動による影響	4
(6) 男女の地位の平等感について	4
(7) 家の中でのお手伝いの状況	4
(8) 家庭での役割分担	4
(9) 女性が仕事を持つことについて	4
(10) 性別役割分担について	4
(11) 将来の職業について	4
(12) 就きたい仕事がない理由	4
(13) 仕事を選ぶ時に重視すること	4
(14) 男女共同参画に関する言葉の周知度	4

第4章 小生意識調査結果の分析	4
(1) 回答者の性別	4
(2) 男女の性差についての意識	4
(3) 性別役割意識に対する大人の言動	4
(4) 性別役割意識に対する大人の言動のきっかけ	4
(5) 性別役割意識に対する大人の言動による影響	4
(6) 家の中でのお手伝いの状況	4
(7) 家庭での役割分担	4
(8) 性別役割分担について	4
(9) 将来の職業について	4
(10) 男女共同参画に関する言葉の周知度	4
第5章 調査票	4

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

和光市は、平成23年3月に「第2次男女共同参画わこうプラン」の満期を迎えることから、「第3次男女共同参画わこうプラン」の策定に向けた基礎資料とする他、今後の男女共同参画施策へと反映するために「和光市男女共同参画意識調査」を実施した。また、和光市の子どもにおける男女共同参画にかかわる意識・意向と実態を把握するために「中学生意識調査」および「小学生意識調査」を併せて実施した。

2. 調査の種類

調査名	調査対象
1. 市民意識調査	和光市内に在住する満20歳以上の男女2,000人
2. 中学生意識調査	和光市立の全中学校に通う中学2年生
3. 小学生意識調査	和光市立の全小学校に通う小学4年生

3. 調査方法と回収状況

◎市民意識調査

抽出方法：無作為抽出

調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）

調査期間：平成22年6月1日（火）～6月30日（水）

回収結果：

	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	2,000	831	41.9%
女 性	1,000	485	48.5%
男 性	1,000	335	33.5%
性別不明	—	11	—

◎中学生意識調査および小学生意識調査

調査方法：学校において授業、朝会、ホームルーム等で実施

調査期間：平成22年6月1日（火）～6月30日（水）

回収結果：中学生意識調査 全体450（女子217、男子225、性別不明8）

小学生意識調査 全体692（女子340、男子335、性別不明17）

4. 調査項目

調査名	調査項目
1. 市民意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共同参画に関する意識について ・ 家庭生活について ・ 地域参加について ・ 配偶者や恋人からの暴力について ・ 仕事について ・ 健康について ・ 男女共同参画の取り組みについて ・ ご自身のことについて
2. 中学生意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女の性差についての意識 ・ 性別役割意識に対する大人の言動 ・ 男女の地位の平等感について ・ 家の中でのお手伝いの状況 ・ 家庭での役割分担 ・ 女性が仕事を持つことについて ・ 性別役割分担について ・ 将来の職業について ・ 男女共同参画に関する言葉の周知度 他
3. 小学生意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女の性差についての意識 ・ 性別役割意識に対する大人の言動 ・ 家の中でのお手伝いの状況 ・ 家庭での役割分担 ・ 性別役割分担について ・ 将来の職業について ・ 男女共同参画に関する言葉の周知度 他

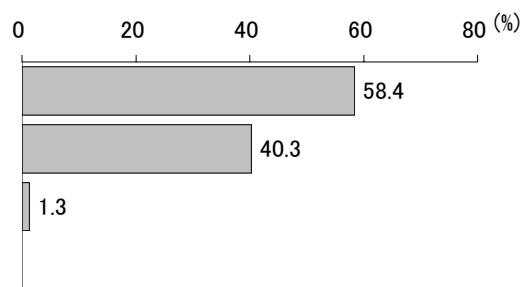
5. 報告書の見方

- (1) 調査結果の数値は原則として回答率(%)で表記している。%の母数は、その質問項目に該当する回答者の数であり、n=と表記している。また、複数回答についても回答者の数としている。
- (2) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。このため、各%を足しあげても、100.0%にならない場合がある。また、複数回答可の質問では、母数に対する回答率のため、各回答率の足し上げは100.0%を超える場合がある。
- (3) 「時系列比較」を行っている部分は、和光市において平成19年度に実施した調査の結果を用いている。
- (4) 分析の軸(=縦軸)としたプロフィールや設問は、無回答を除いているため、各プロフィールの基数の合計が全体と一致しない場合がある。また、分析によっては、必要な選択肢を抽出して使用したり、複数の選択肢をまとめて使用しているところもある。
- (5) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。
- (6) 回答者数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

6. 回答者の属性（市民意識調査）

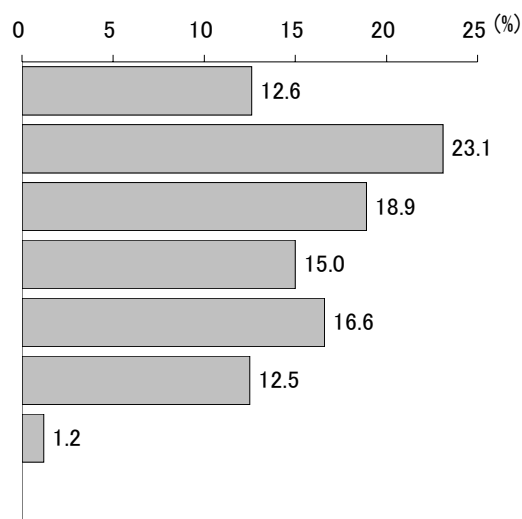
（1）性別

	基数	構成比
女性	485	58.4%
男性	335	40.3%
無回答	11	1.3%
全体	831	100.0%



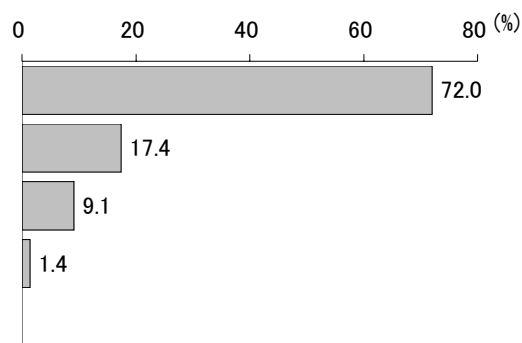
（2）年齢別

	基数	構成比
20歳代	105	12.6%
30歳代	192	23.1%
40歳代	157	18.9%
50歳代	125	15.0%
60歳代	138	16.6%
70歳以上	104	12.5%
無回答	10	1.2%
全体	831	100.0%



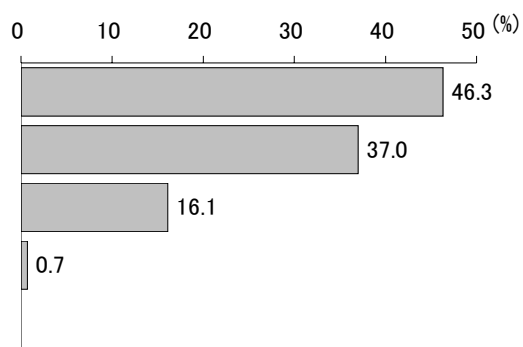
（3）結婚の有無

	基数	構成比
結婚している	598	72.0%
結婚していない	145	17.4%
結婚していたが、離・死別した	76	9.1%
無回答	12	1.4%
全体	831	100.0%



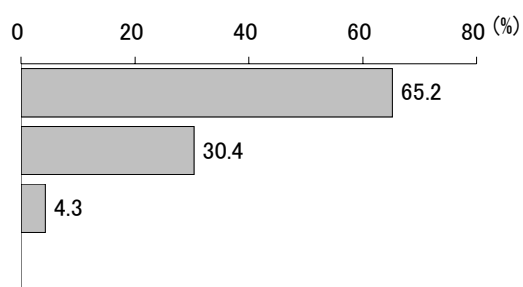
(4) 共働きの有無

	基数	構成比
共働きである	277	46.3%
共働きではない	221	37.0%
2人とも働いていない	96	16.1%
無回答	4	0.7%
全体	598	100.0%



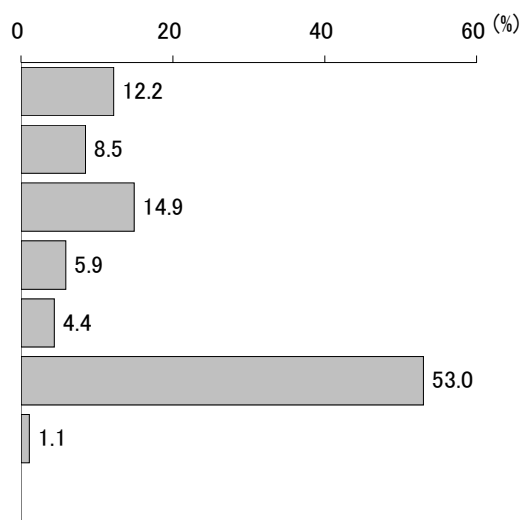
(5) 子どもの有無

	基数	構成比
いる	542	65.2%
いない	253	30.4%
無回答	36	4.3%
全体	831	100.0%



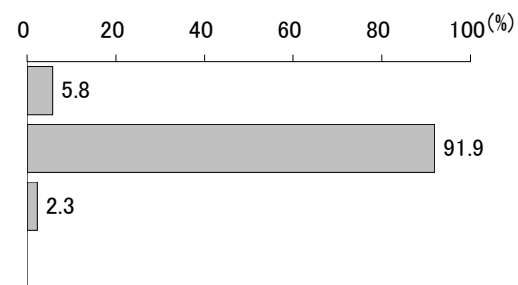
(6) 一番下の子どもの状況

	基数	構成比
乳幼児(3歳未満の子ども)	66	12.2%
未就学児(3歳以上小学校入学前の子ども)	46	8.5%
小学生	81	14.9%
中学生	32	5.9%
高校生(その年齢にあたる方を含む)	24	4.4%
19歳以上の子ども	287	53.0%
無回答	6	1.1%
全体	542	100.0%



(7) 介護の必要な同居者の有無

	基数	構成比
いる	48	5.8%
いない	764	91.9%
無回答	19	2.3%
全体	831	100.0%



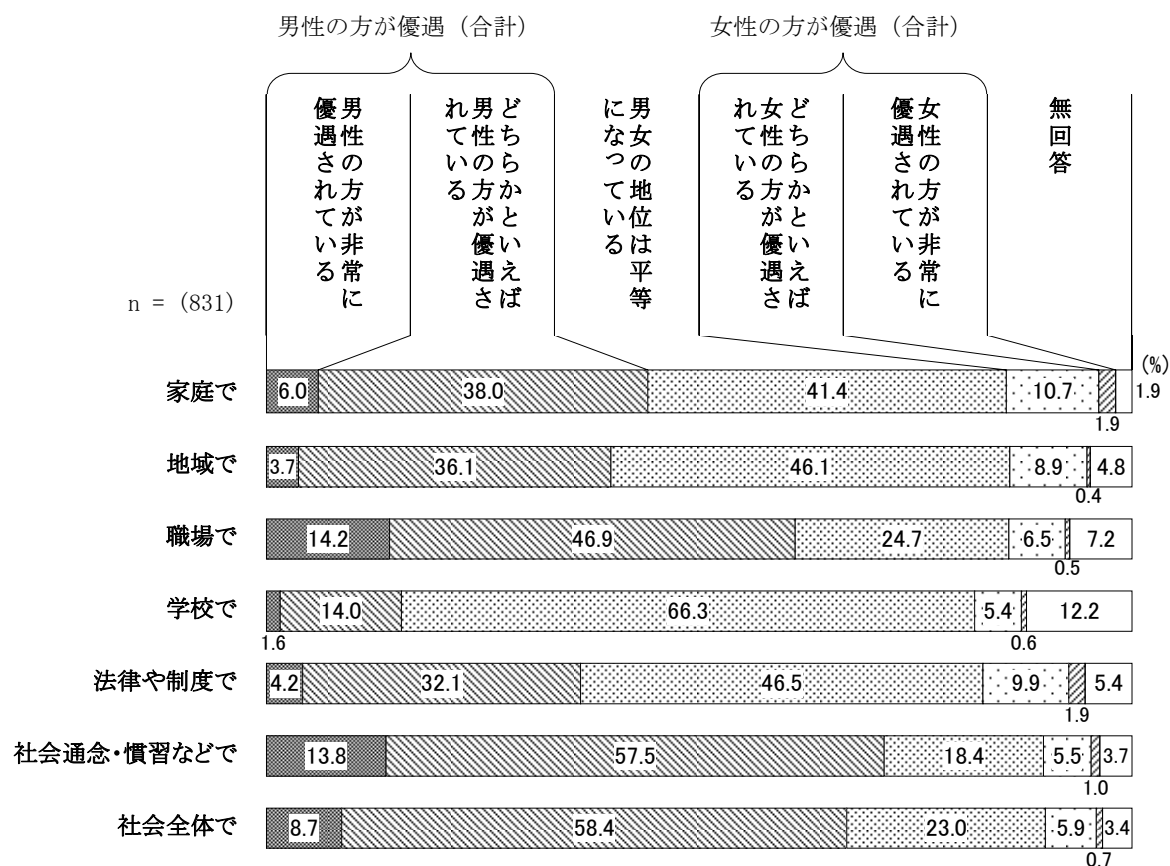
第2章 市民意識調査結果の分析

1. 男女共同参画に関する意識について

(1) 男女の地位の平等感

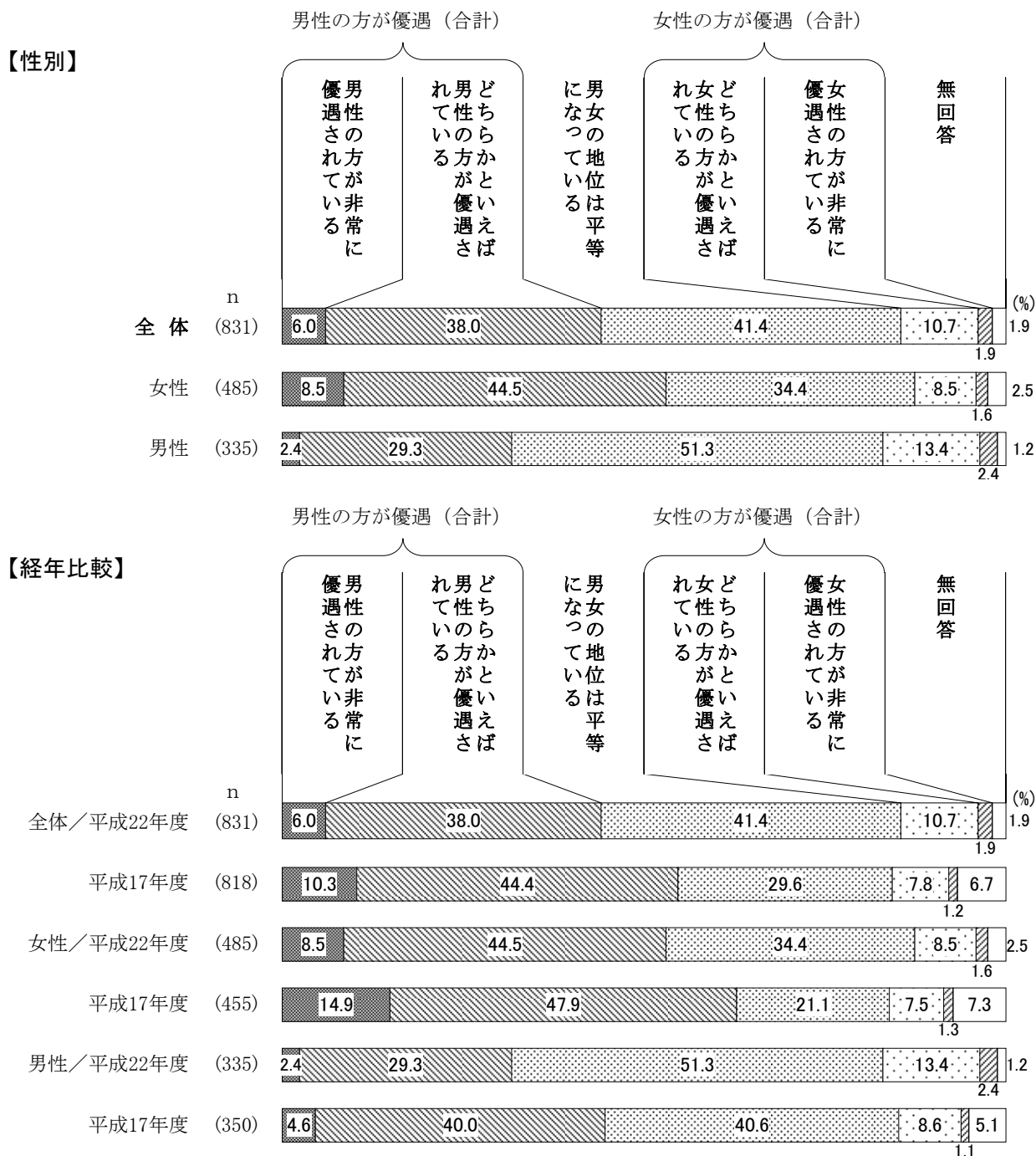
問1 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (○はそれぞれ1つずつ)

図表1-1 男女の地位の平等感



男女の地位の平等感については、「男女の地位は平等になっている」は学校で（66.3%）が最も高く、法律や制度で（46.5%）、地域で（46.1%）が半数近くとなっている。「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性の方が優遇（合計）」は社会通念・慣習などで（71.3%）、社会全体で（67.1%）、職場で（61.1%）がそれぞれ過半数となっている。（図表1-1）

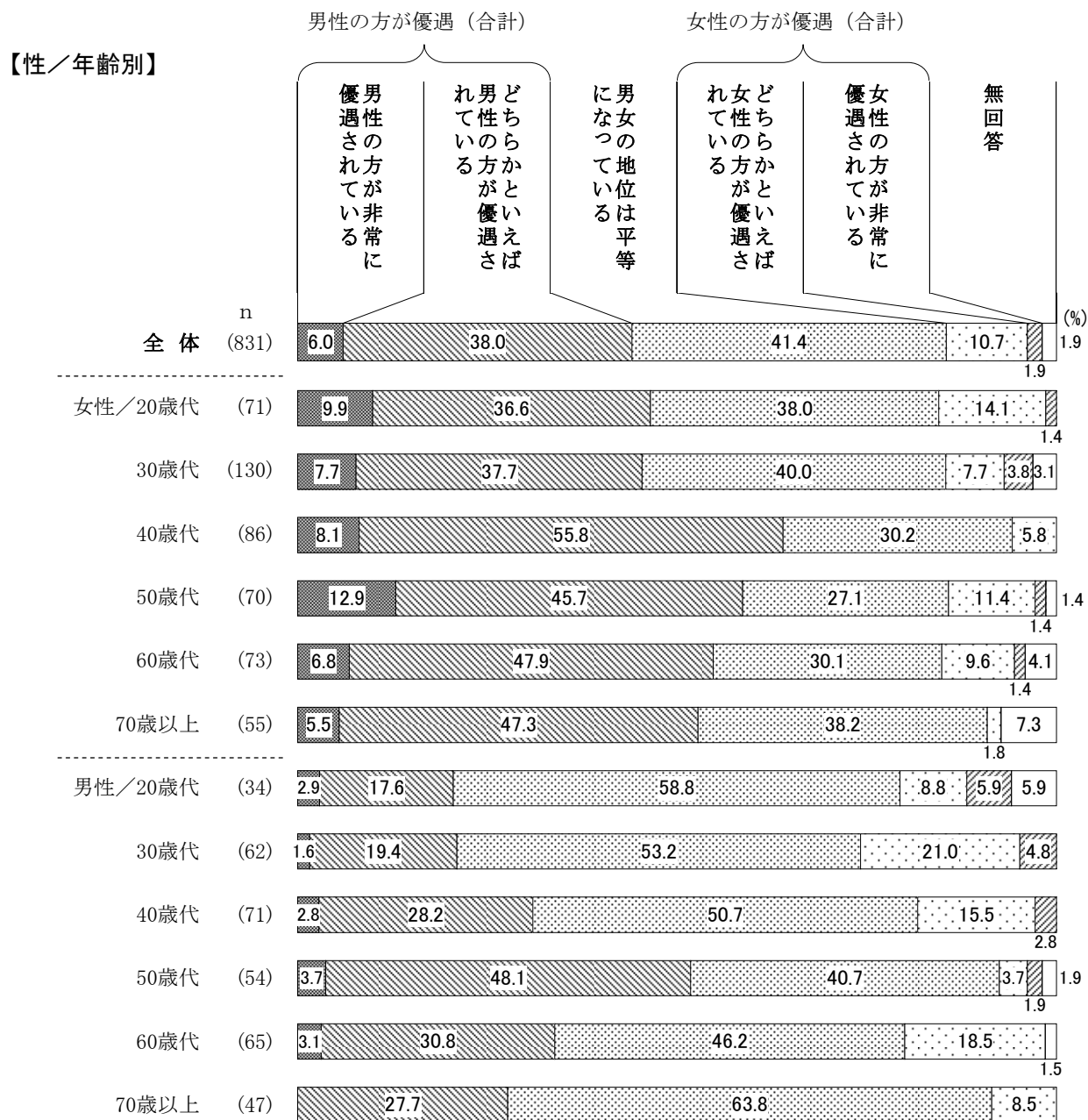
図表1-2 男女の地位の平等感 ア 家庭で



家庭について、性別で見ると、「男女の地位は平等になっている」が女性34.4%、男性51.3%と、男性で過半数となっている。女性では「男性の方が優遇（合計）」が53.0%を占める。

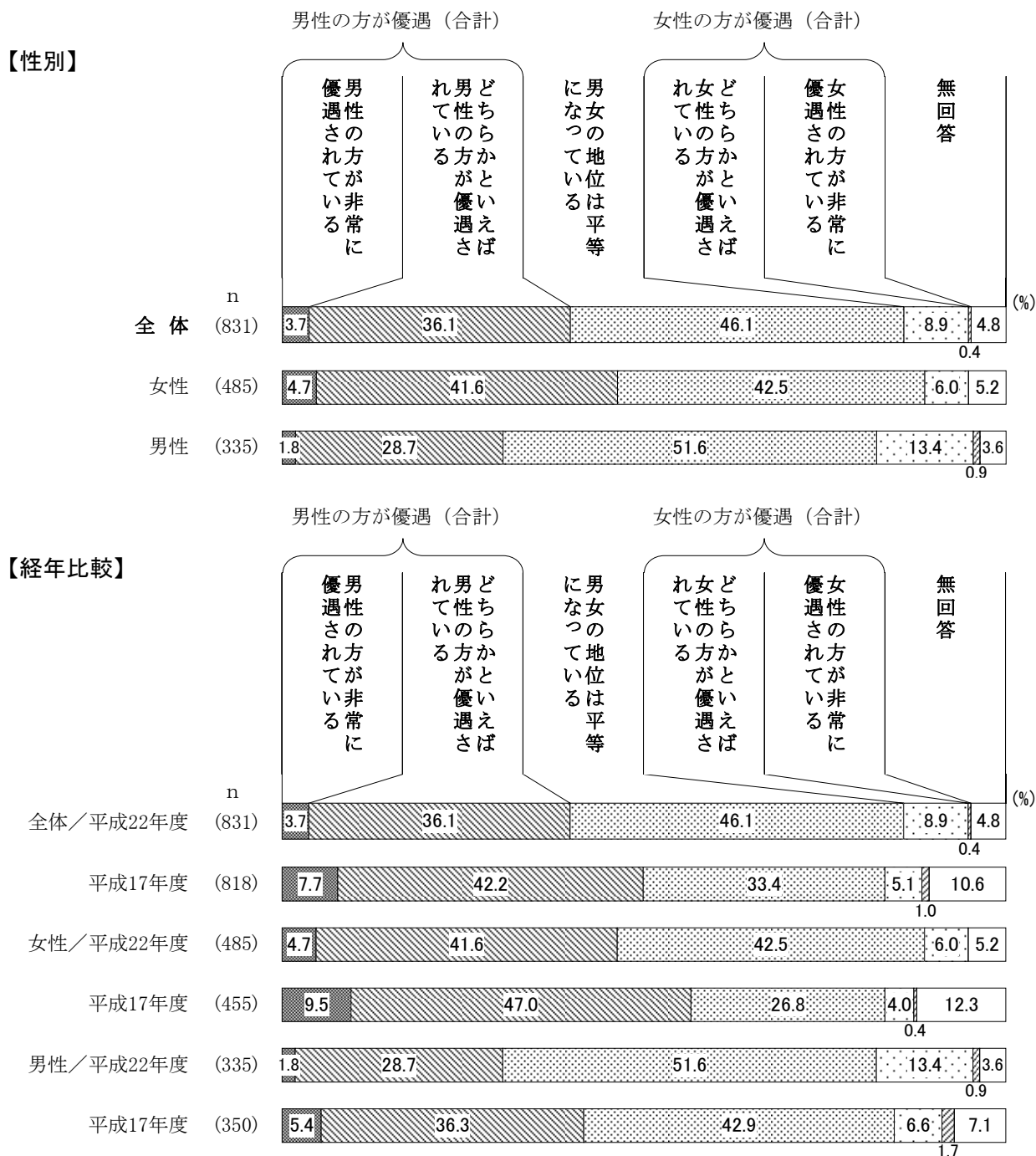
平成17年度調査と比較すると、男女ともに「男女の地位は平等になっている」が増加している。（図表1-2）

図表1-3 男女の地位の平等感 ア 家庭で



家庭について、性／年齢別でみると、「男女の地位は平等になっている」は、男女ともに20～30歳代、70歳以上で高く、50歳代で最も低くなっている。《男性の方が優遇 (合計)》は、女性では40歳以上で過半数となっており、男性では50歳代で過半数である。(図表1-3)

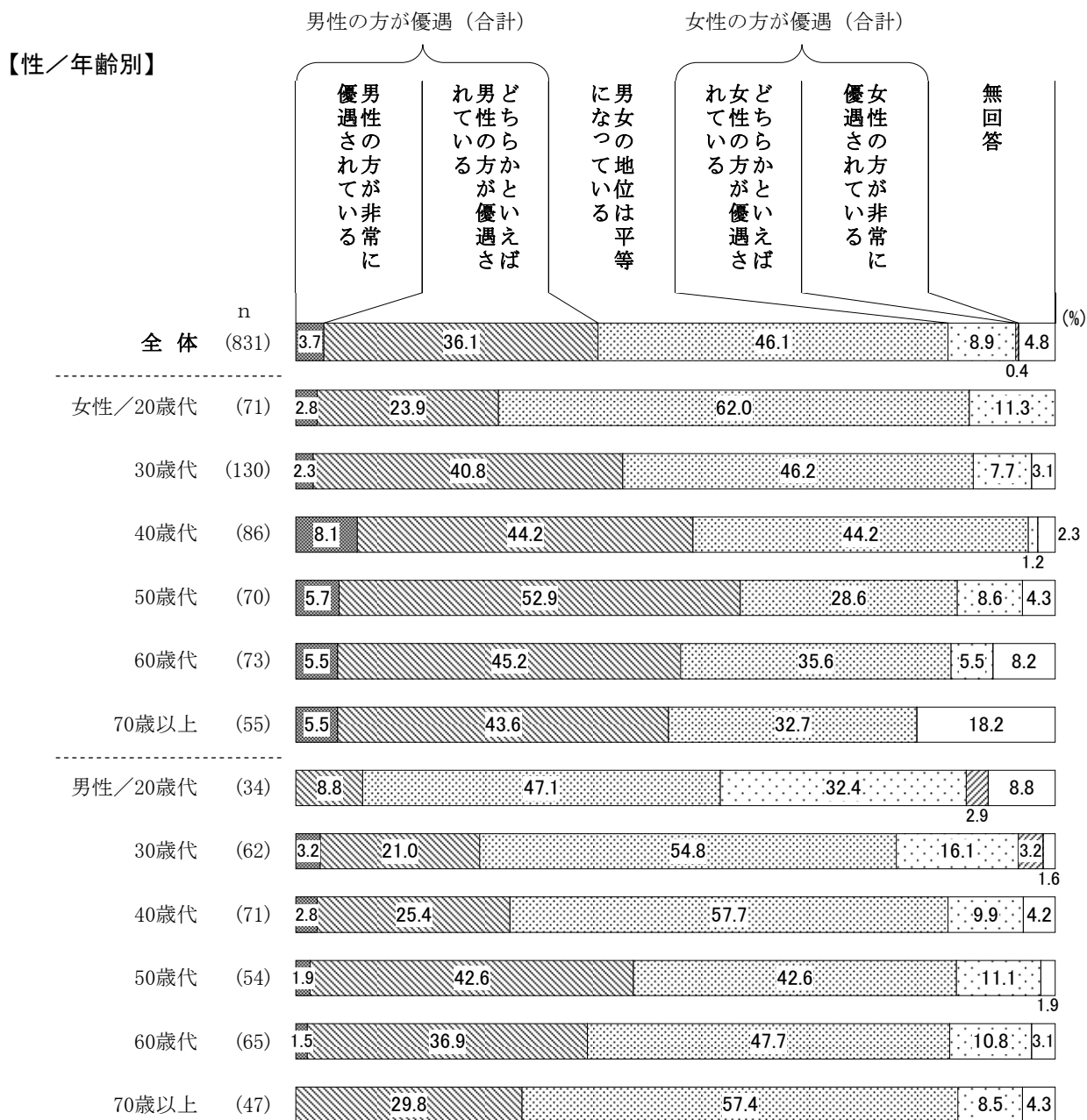
図表1-4 男女の地位の平等感



地域について、性別で見ると、「男女の地位は平等になっている」が女性42.5%、男性51.6%と、男性で過半数となっている。女性では「男性の方が優遇 (合計)」が46.3%と半数近い。

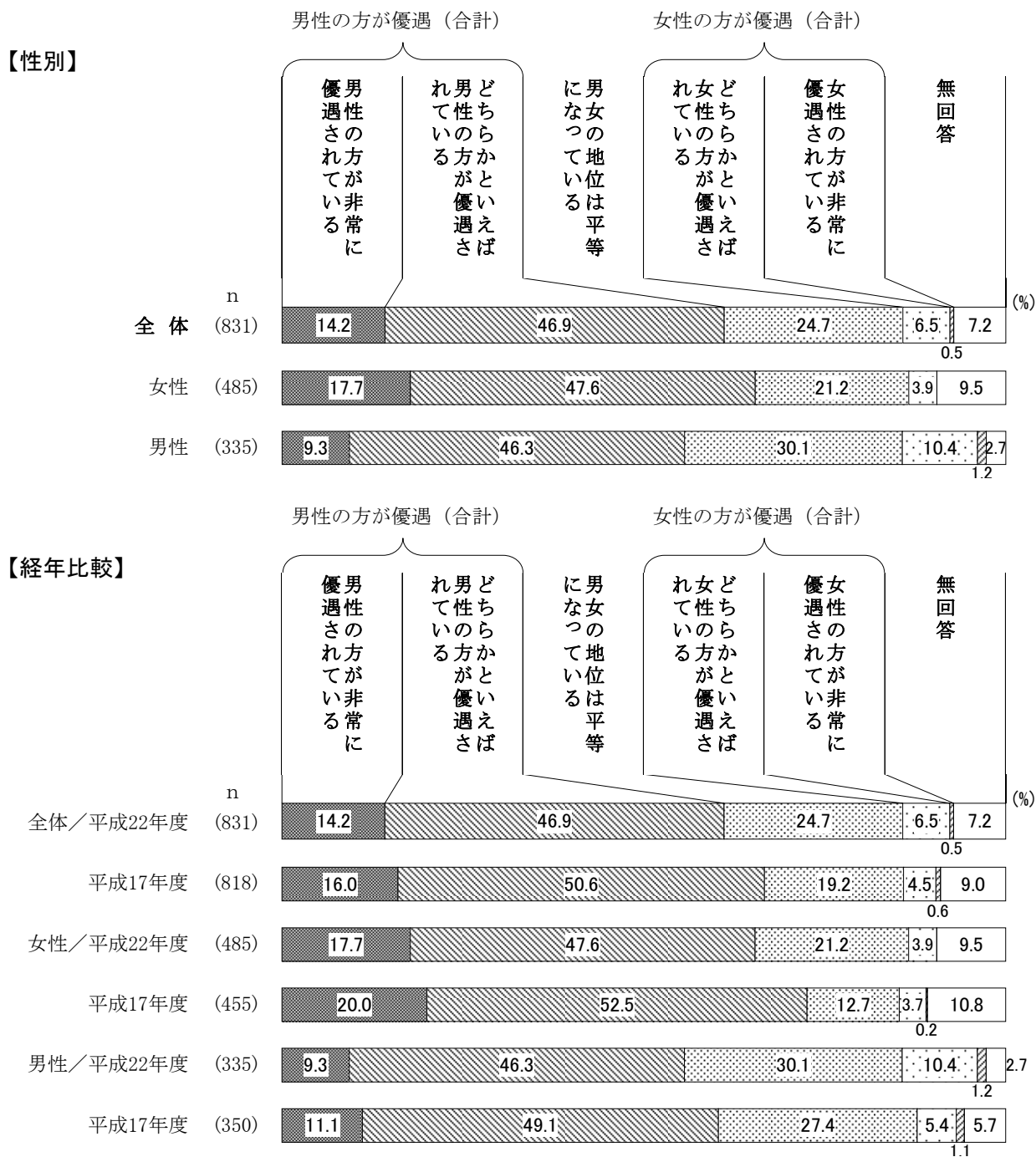
平成17年度調査と比較すると、男女ともに「男女の地位は平等になっている」が増加している。(図表1-4)

図表1-5 男女の地位の平等感 イ 地域で



地域について、性／年齢別でみると、「男女の地位は平等になっている」は、女性では20歳代で過半数となっており、50歳代で最も低い。男性では30～40歳代、70歳以上で過半数となっている。《男性の方が優遇 (合計)》は、男女ともに50歳代で最も高く、女性では40～60歳代で過半数となっている。《女性の方が優遇 (合計)》は、男性では20歳代で3割を超えている。(図表1-5)

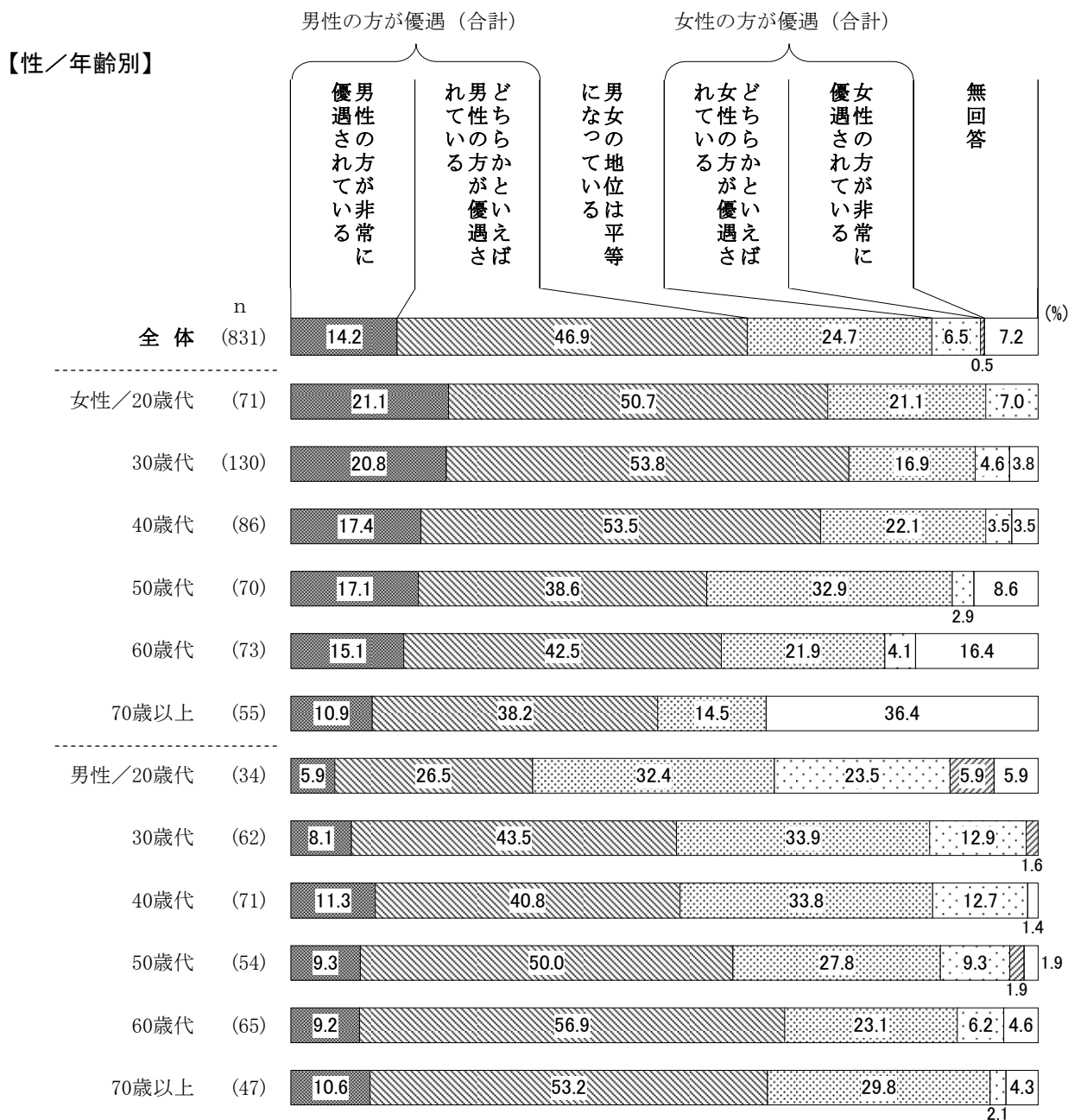
図表1-6 男女の地位の平等感 ウ 職場で



職場について、性別で見ると、「男女の地位は平等になっている」が女性21.2%、男性30.1%と、男性でやや高い。男女ともに「男性の方が優遇（合計）」が過半数となっている。

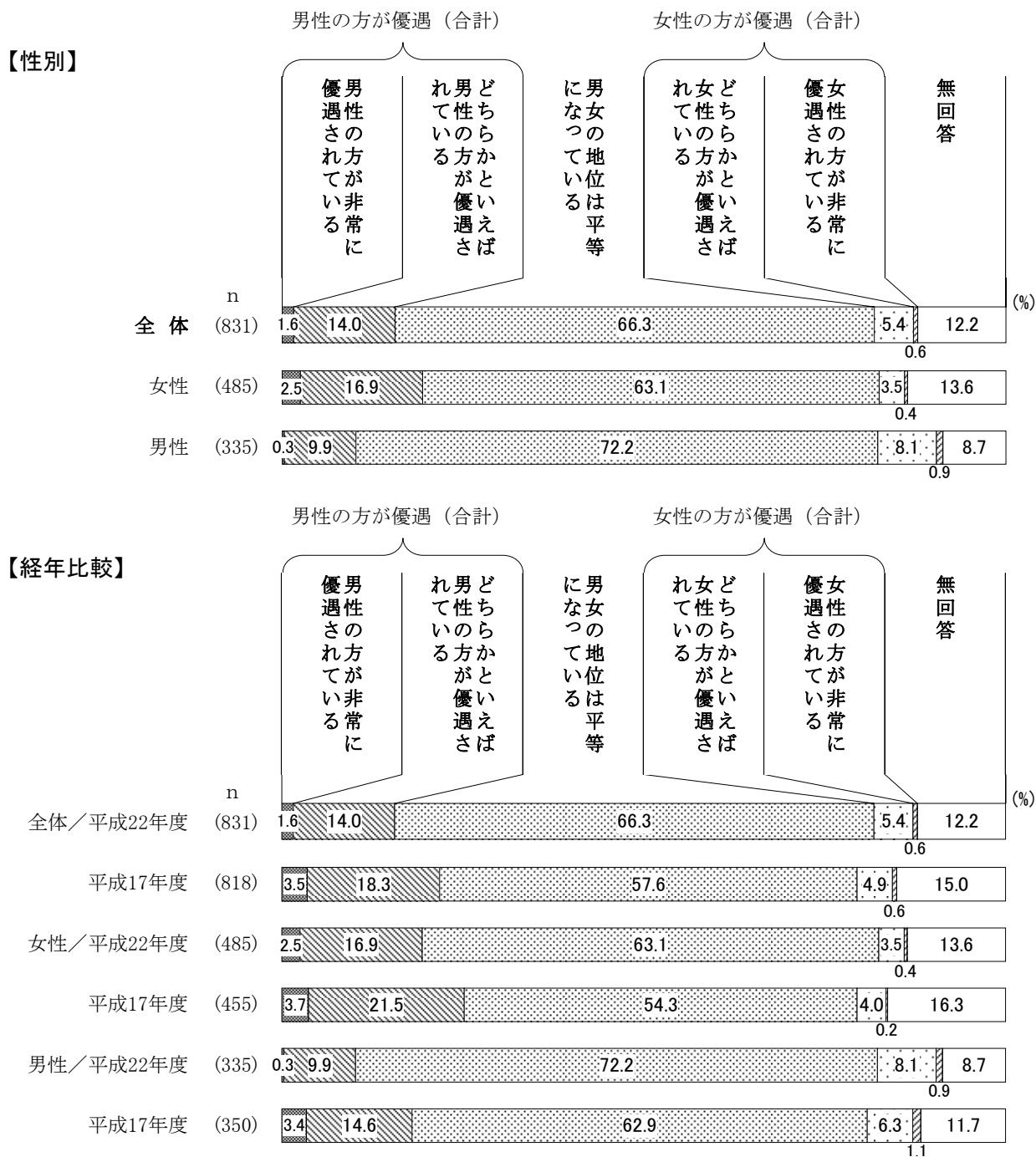
平成17年度調査と比較すると、女性で「男女の地位は平等になっている」が増加している。（図表1-6）

図表1-7 男女の地位の平等感 ウ 職場で



職場について、性／年齢別でみると、「男女の地位は平等になっている」は、女性では50歳代、男性では20～40歳代で3割を超えている。《男性の方が優遇（合計）》は、女性では20～40歳代で7割を超えている。男性では60歳以上で6割を超えている。《女性の方が優遇（合計）》は、男性では20歳代で3割近い。(図表1-7)

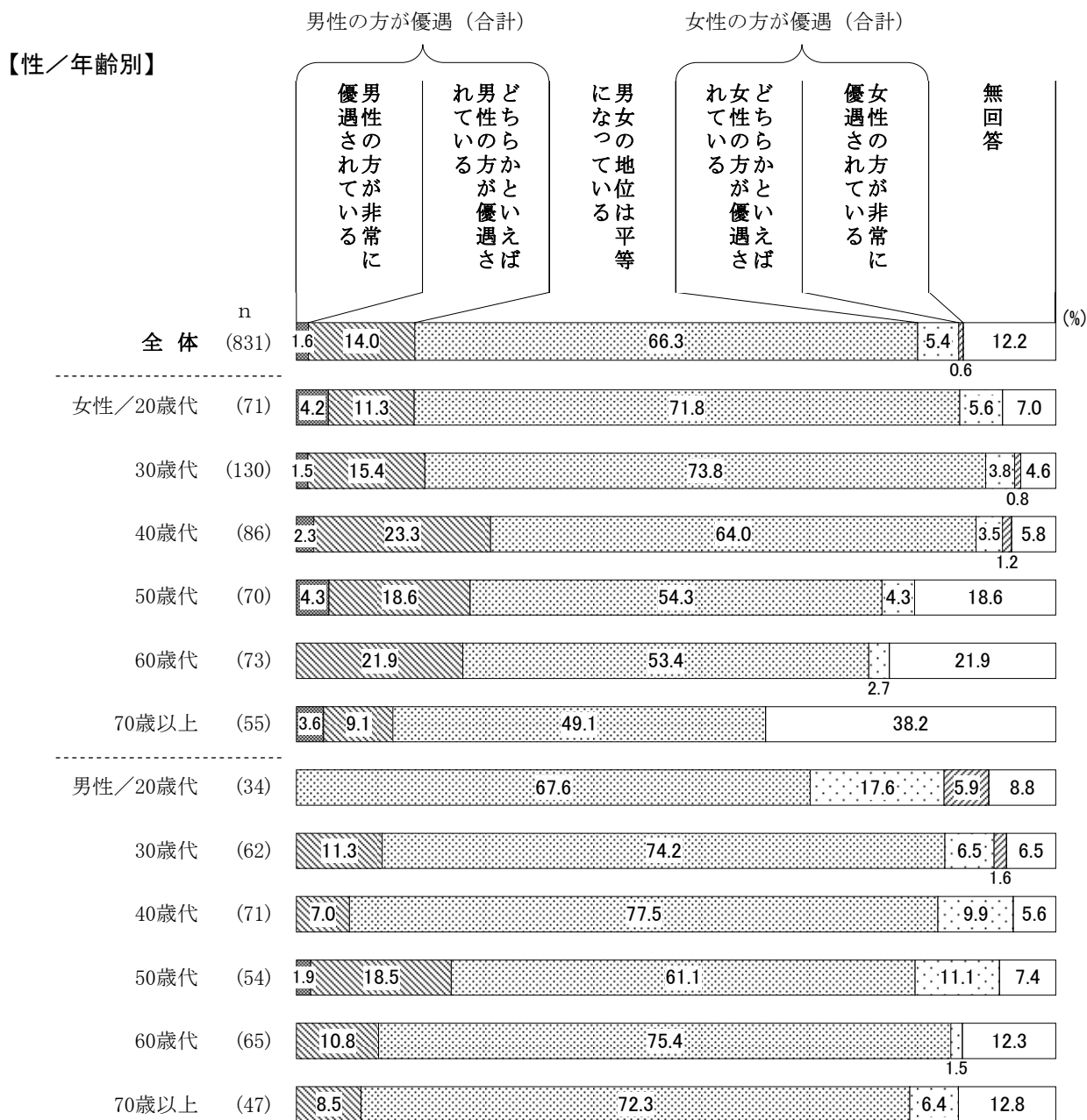
図表1-8 男女の地位の平等感 エ 学校で



学校について、性別で見ると、「男女の地位は平等になっている」が女性63.1%、男性72.2%と、男女ともに多数を占めている。

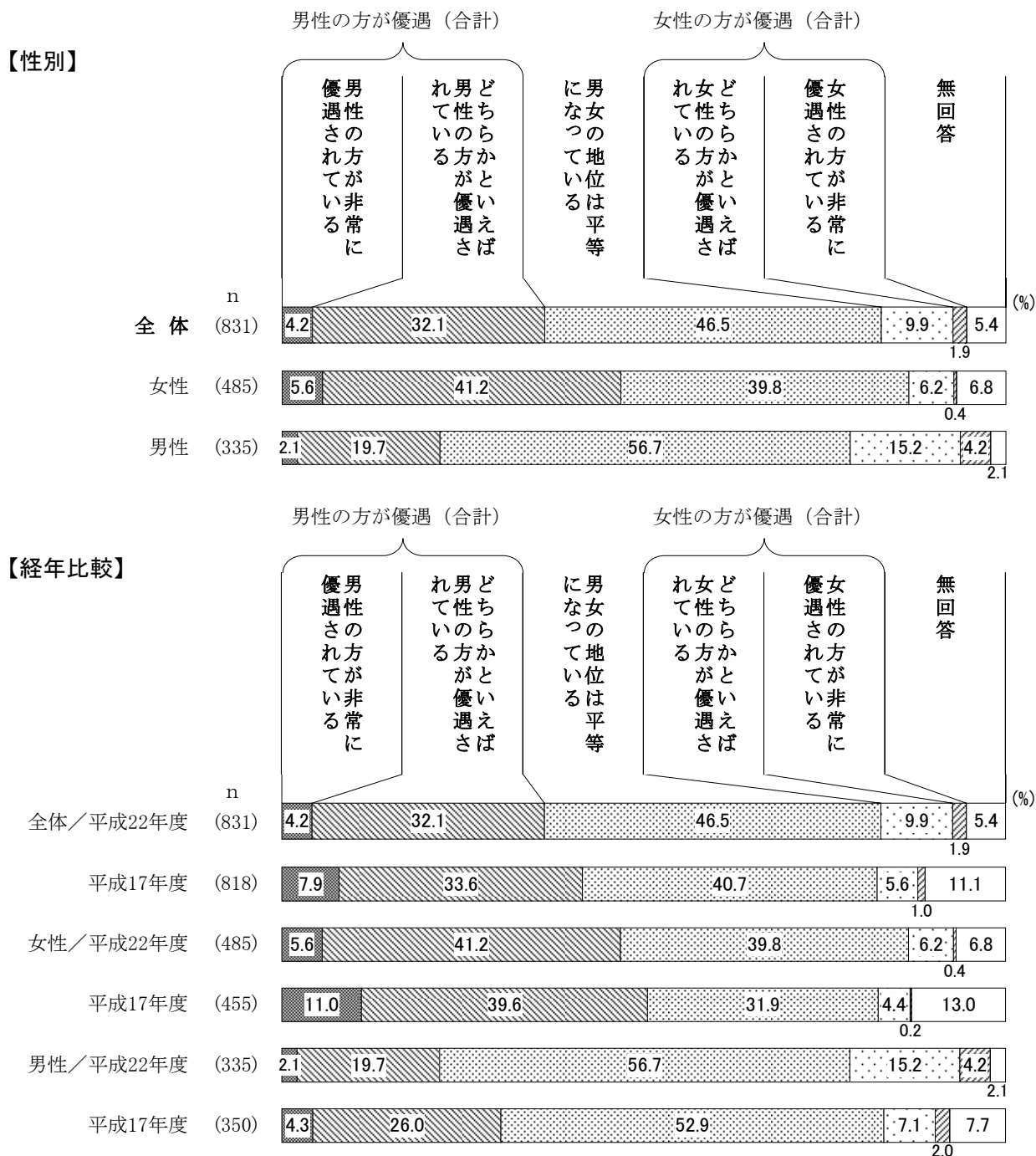
平成17年度調査と比較すると、男女ともに「男女の地位は平等になっている」が増加している。(図表1-8)

図表1-9 男女の地位の平等感 エ 学校で



学校について、性／年齢別でみると、「男女の地位は平等になっている」は、女性では20～30歳代、男性では30～40歳代、60歳以上で7割を超えている。《男性の方が優遇（合計）》は、女性では40～60歳代で2割を超えている。男性では50歳代で2割を超えている。《女性の方が優遇（合計）》は、男性では20歳代で2割を超えている。（図表1-9）

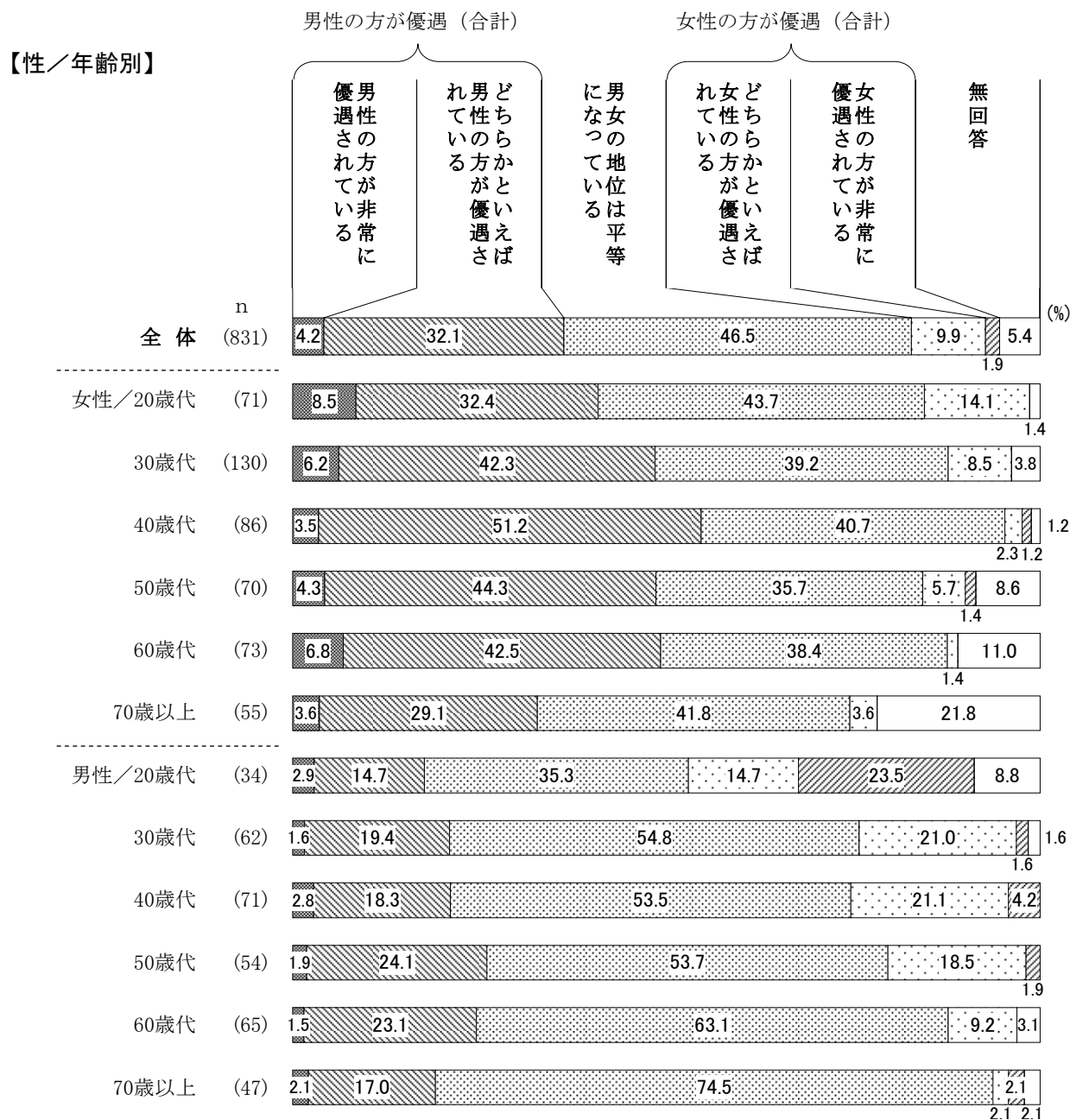
図表1-10 男女の地位の平等感 才 法律や制度で



法律や制度について、性別でみると、「男女の地位は平等になっている」が女性39.8%、男性56.7%と、男性で過半数となっている。女性では「男性の方が優遇（合計）」が46.8%と半数近い。

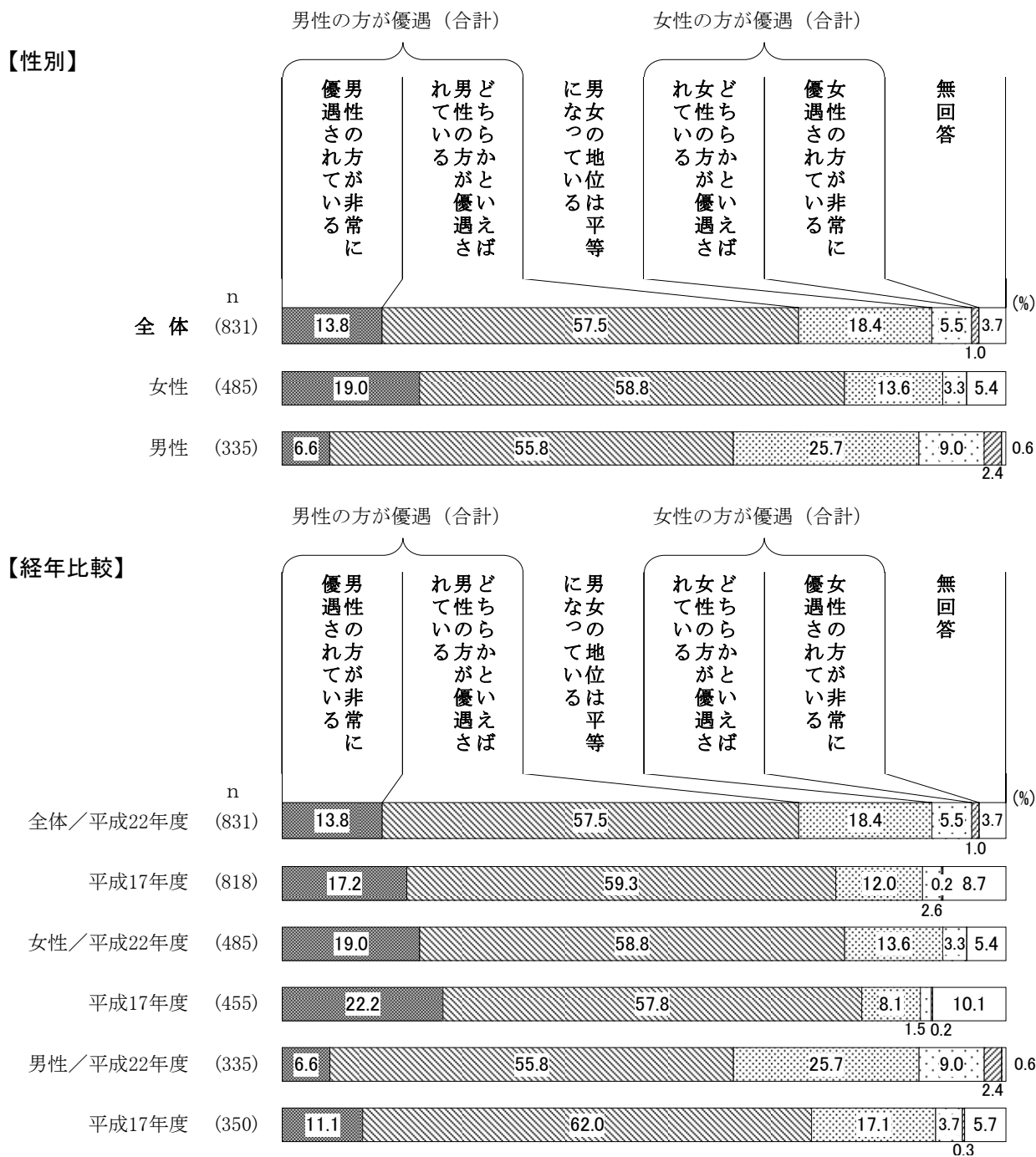
平成17年度調査と比較すると、女性で「男女の地位は平等になっている」が増加している。一方、男性では「女性の方が優遇（合計）」が増加している。（図表1-10）

図表1-11 男女の地位の平等感 才 法律や制度で



法律や制度について、性／年齢別でみると、「男女の地位は平等になっている」は、女性では20歳代で最も高くなっている。男性では70歳以上で7割、60歳代で6割を占め、20歳代で最も低い。《男性の方が優遇 (合計) 》は、女性では30～60歳代で約半数となっている。《女性の方が優遇 (合計) 》は、男性では20歳代で4割近くとなっている。(図表1-11)

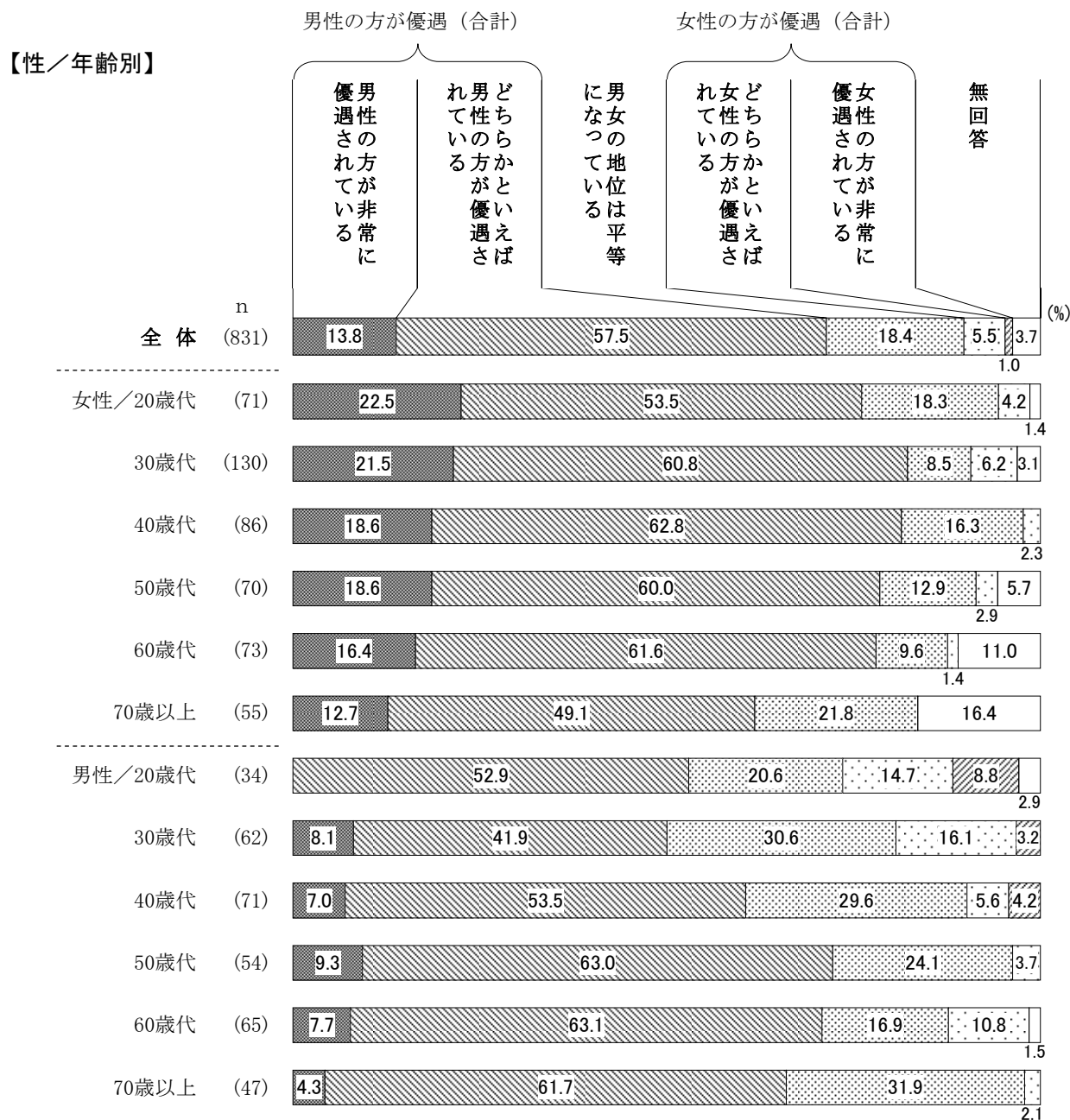
図表1-12 男女の地位の平等感 社会通念・慣習などで



社会通念・慣習などについて、性別でみると、《男性の方が優遇（合計）》が女性77.8%、男性62.4%と、男女ともに多数を占めている。

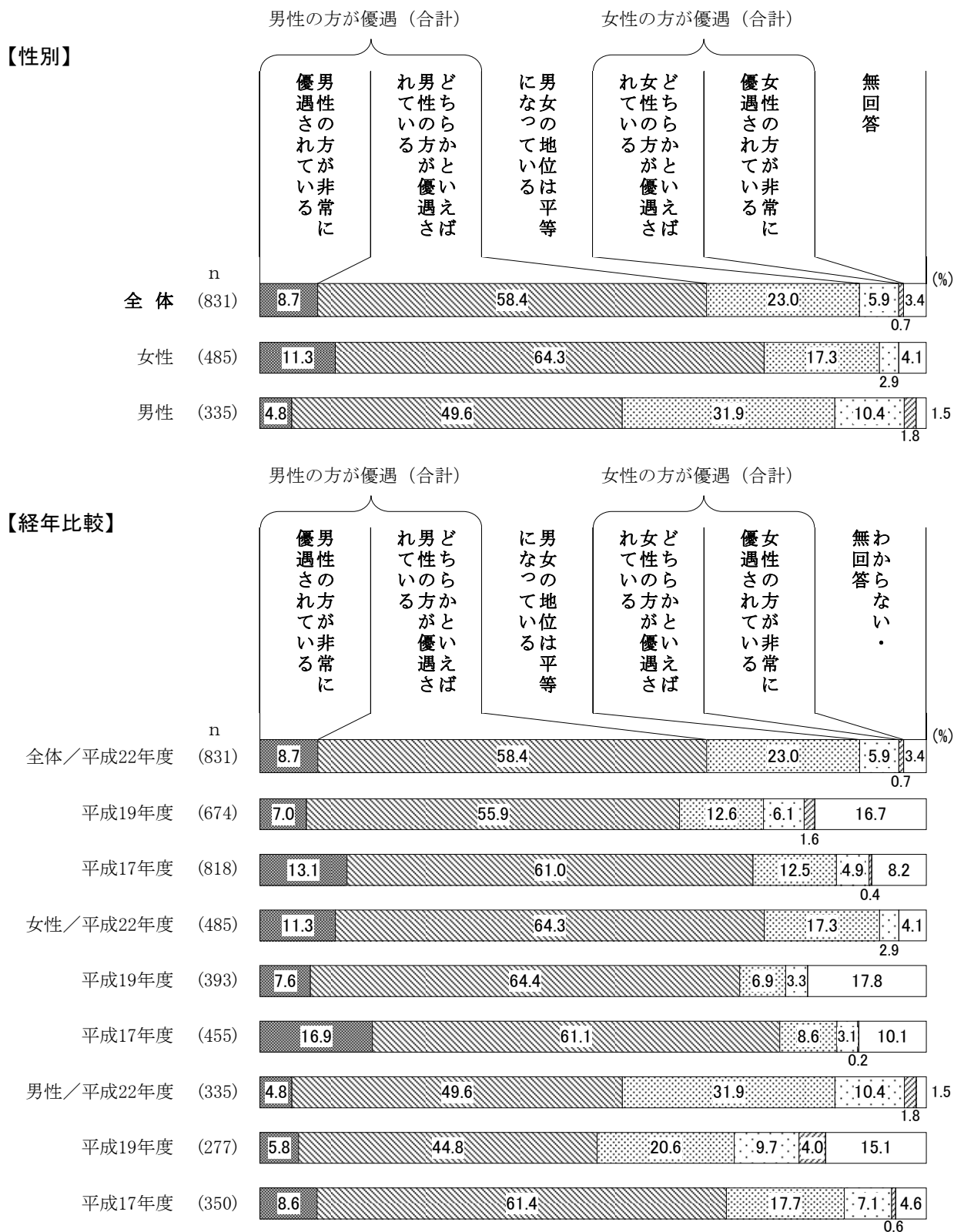
平成17年度調査と比較すると、男性で「男女の地位は平等になっている」と《女性の方が優遇（合計）》がそれぞれ増加している。（図表1-12）

図表1-13 男女の地位の平等感 社会通念・慣習などで



社会通念・慣習などについて、性/年齢別でみると、「男女の地位は平等になっている」は、女性では70歳以上、男性では30～40歳代、70歳以上で高くなっている。《男性の方が優遇（合計）》は、女性では30～40歳代で8割を超えている。男性では50～60歳代で7割を超えている。《女性の方が優遇（合計）》は、男性では20～30歳代で高くなっている。（図表1-13）

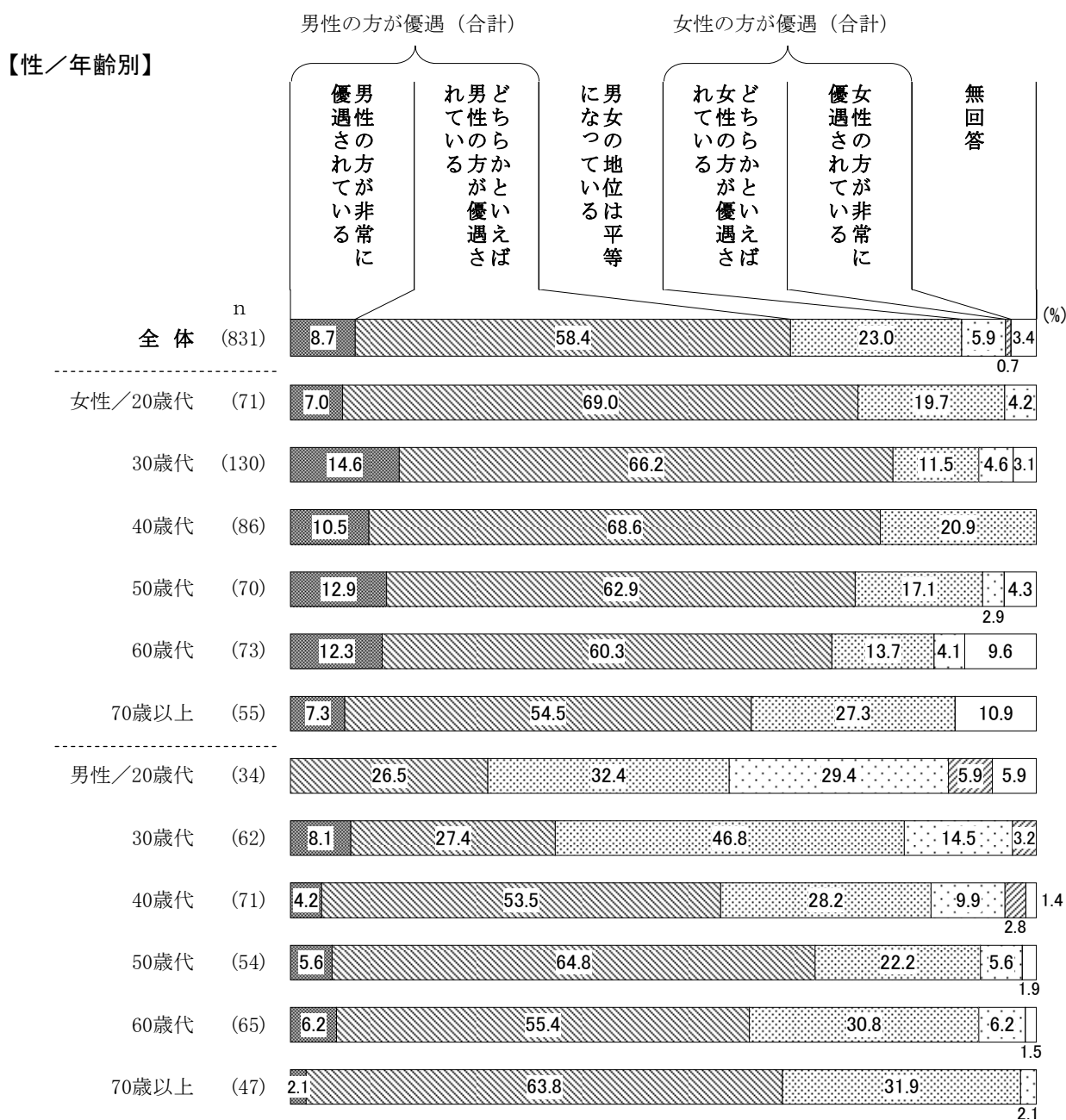
図表1-14 男女の地位の平等感 キ 社会全体で



社会全体について、性別でみると、《男性の方が優遇（合計）》が女性75.6%、男性54.4%と、女性で多数を占め、男性で過半数となっている。

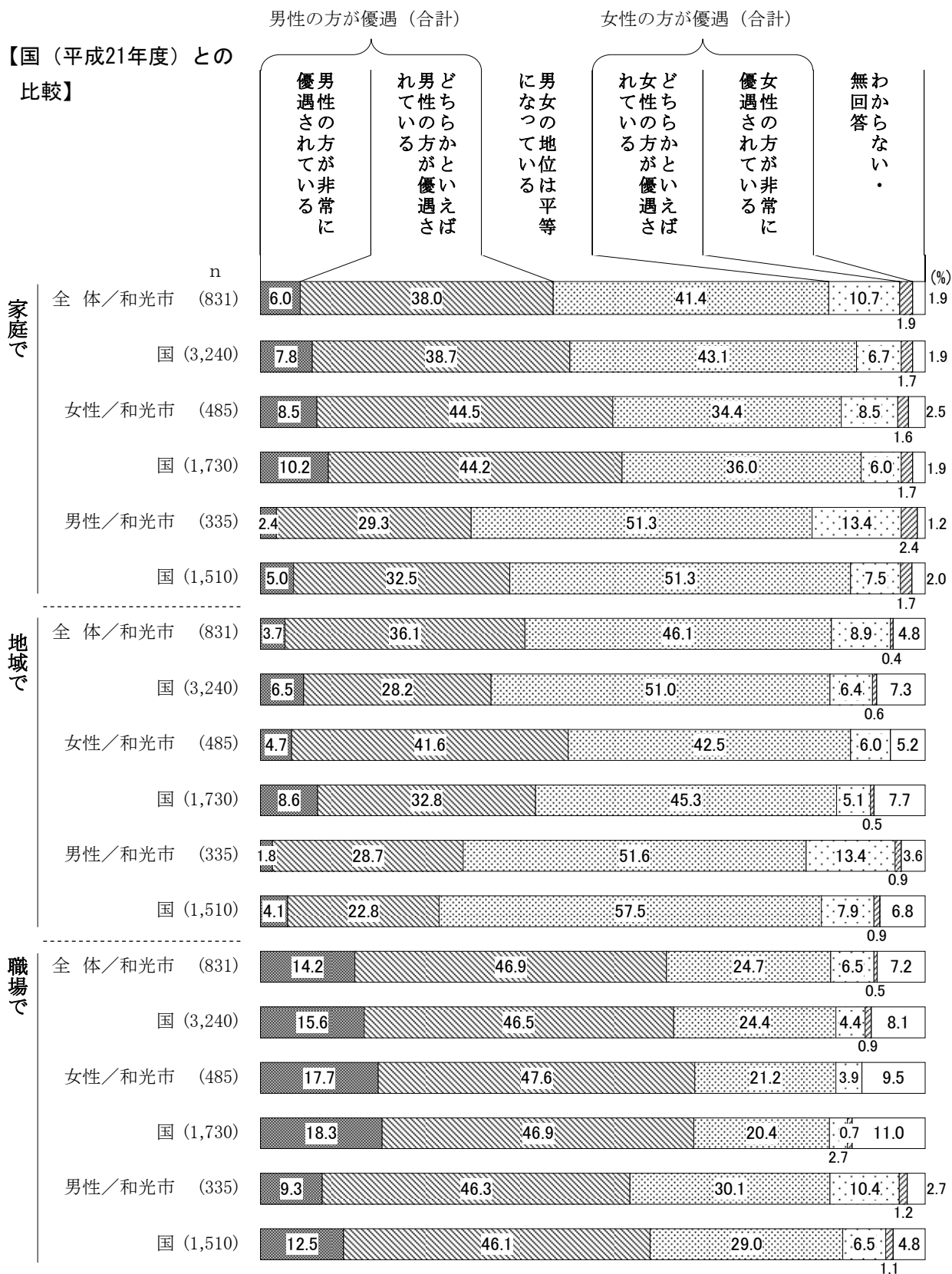
経年で比較すると、「男女の地位は平等になっている」が平成19年度から22年度にかけて、男女ともに増加している。(図表1-14)

図表1-15 男女の地位の平等感 キ 社会全体で

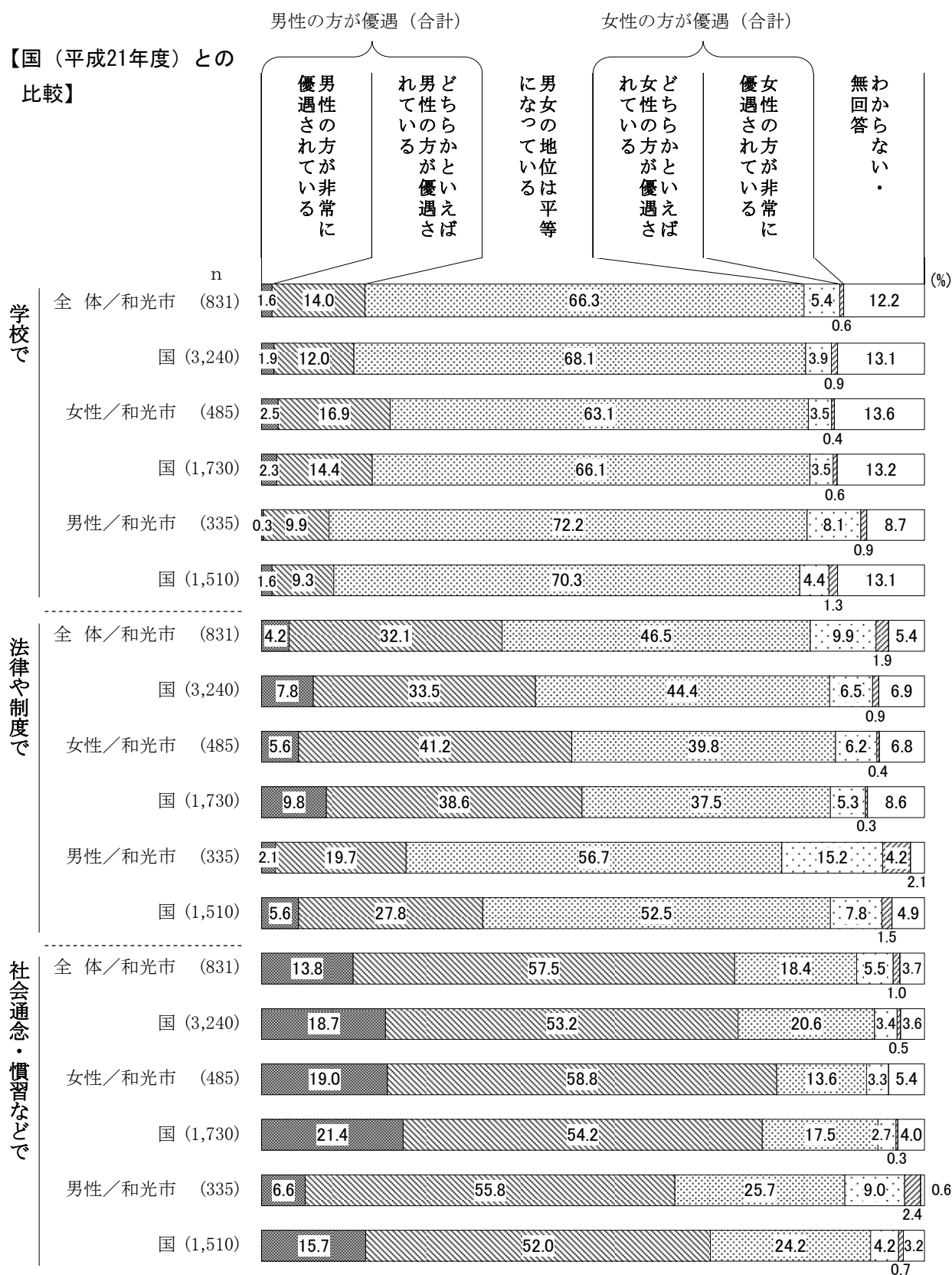


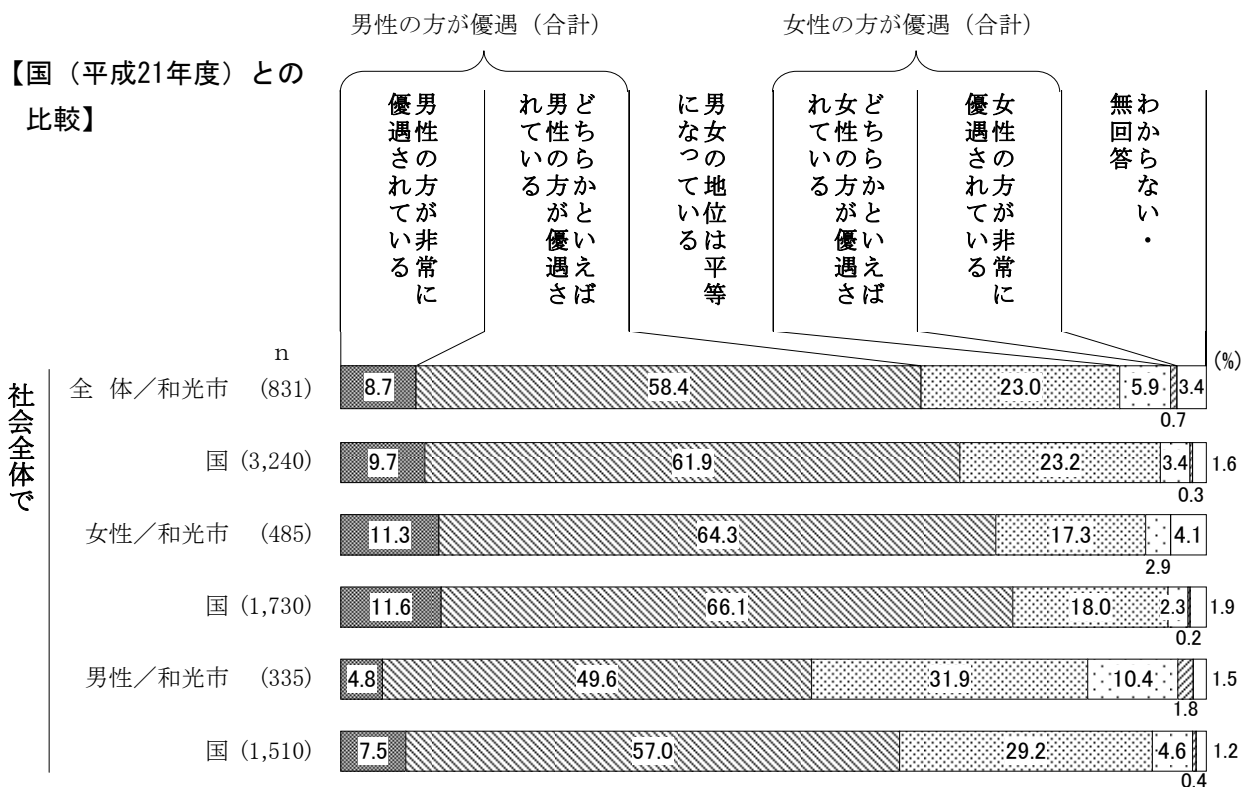
社会全体について、性/年齢別でみると、「男女の地位は平等になっている」は、女性では70歳以上で高く、男性では30歳代で半数近くとなっている。《男性の方が優遇 (合計)》は、女性では30~40歳代で約8割となっている。男性では50歳代で7割を超えている。《女性の方が優遇 (合計)》は、男性では20歳代で高くなっている。(図表1-15)

図表1-16 男女の地位の平等感



【国（平成21年度）との比較】

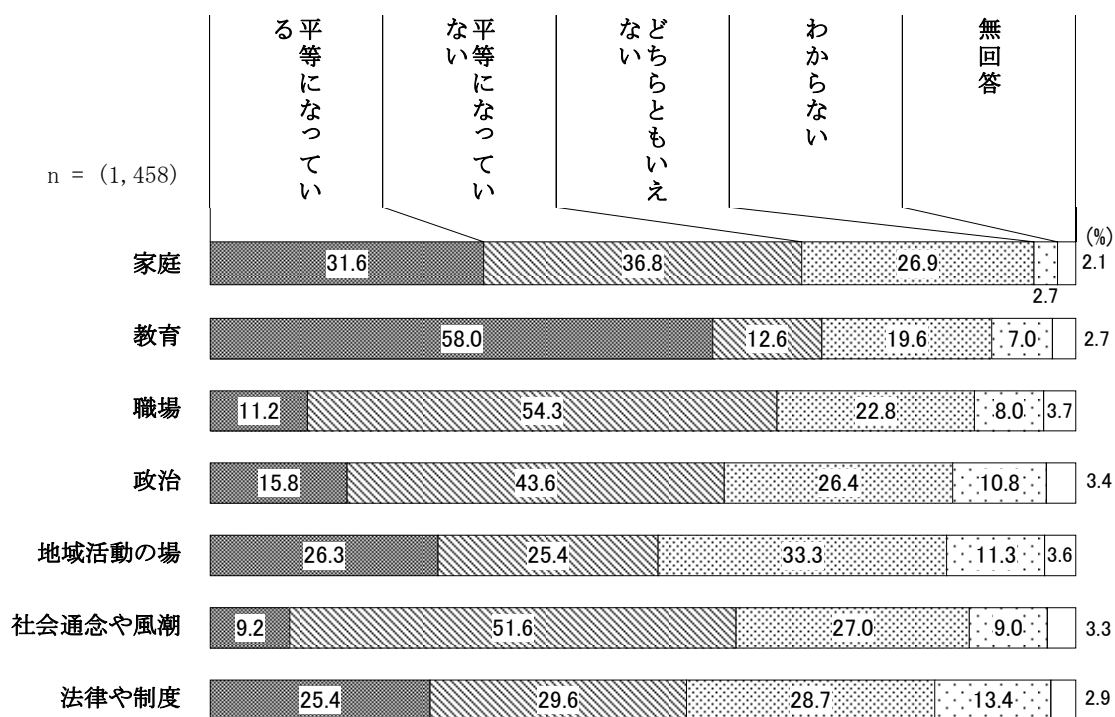




国の調査結果と比較すると、すべての分野で、男性において《女性の方が優遇（合計）》で和光市が国を上回っている。家庭、職場、法律や制度、社会通念・慣習など、社会全体では、男性において、《男性の方が優遇（合計）》で和光市が国を下回っている。地域では、男女ともに、「男女の地位は平等になっている」で和光市が国を下回っており、《男性の方が優遇（合計）》で和光市が国を上回っている。学校では、大きな差は見られない。（図表1-16）

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

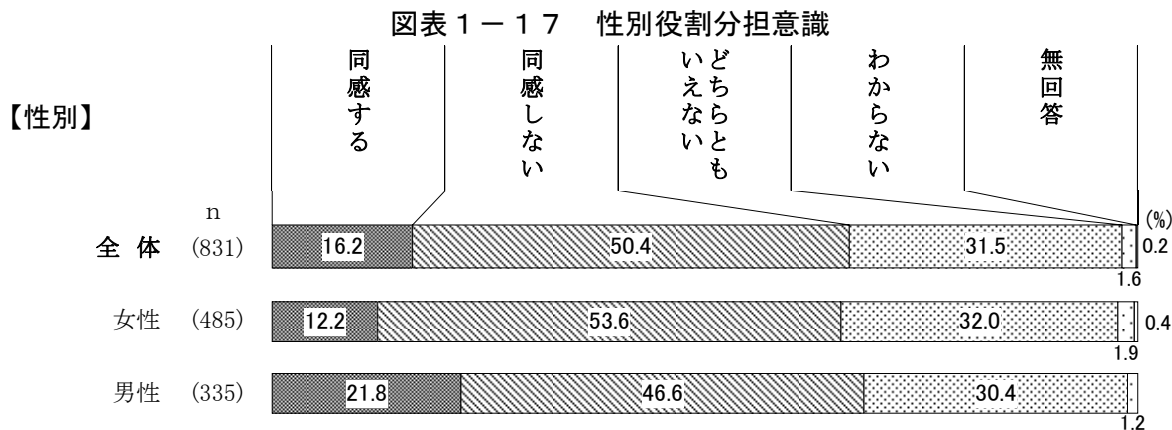
男女の地位の平等感



※埼玉県の設問は、選択肢が異なるため、参考として表示する。

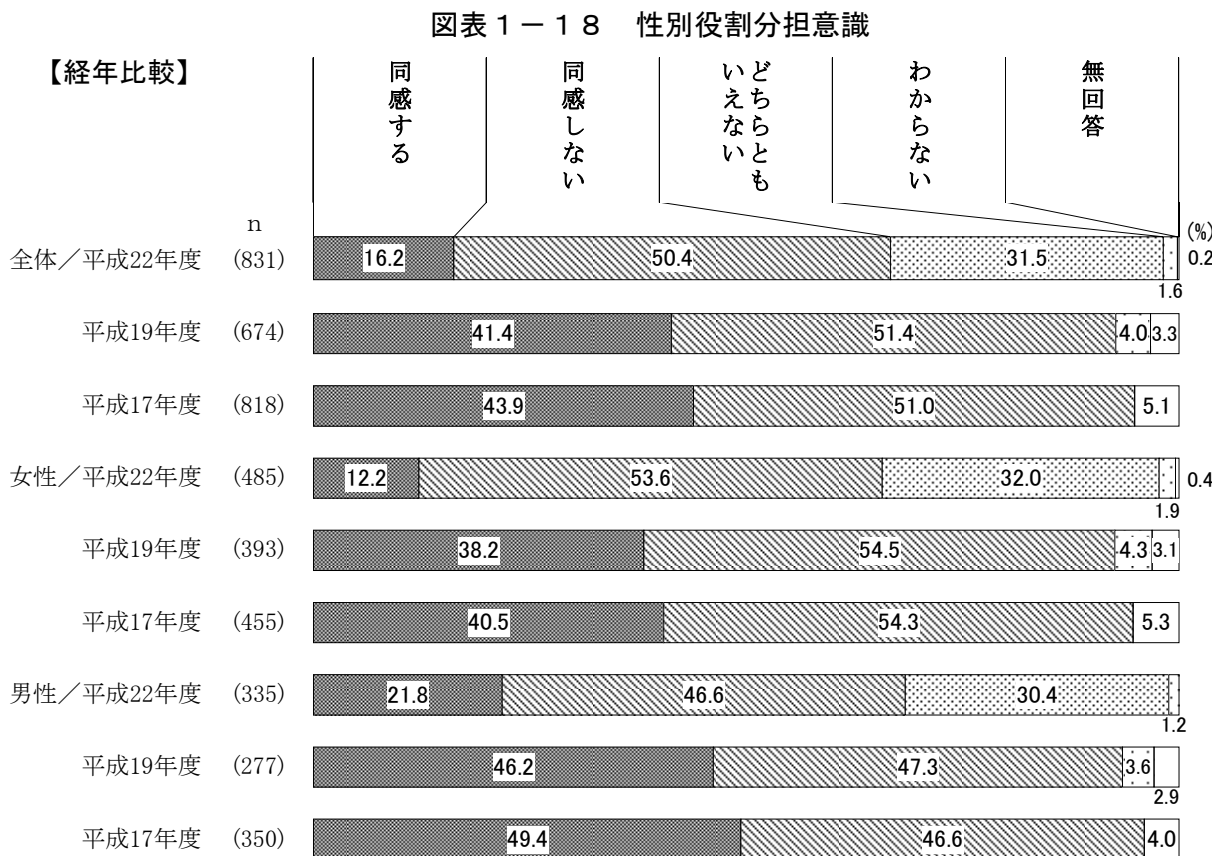
(2) 性別役割分担意識

問2 「男は仕事、女は家庭」という性別による固定的な役割分担意識に同感しますか。
 (○は1つ)



性別役割分担については、「同意しない」が50.4%を占めており、「同意する」が16.2%となっている。また、「どちらともいえない」が31.5%である。

性別で見ると、「同意する」が女性12.2%、男性21.8%と、男性が女性を上回っている。一方、「同意しない」が女性53.6%、男性46.6%と、女性が男性をやや上回っている。(図表 1-17)

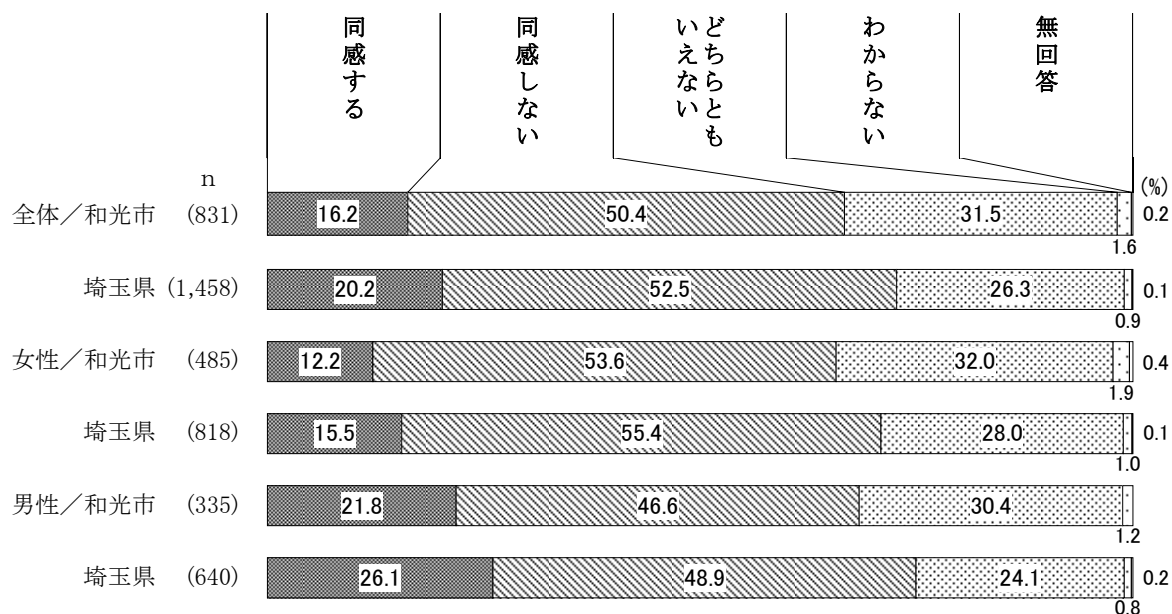


※平成19年度調査および17年度調査には、「どちらともいえない」がない。

経年で比較すると、選択肢が異なる為に参考程度とするが、「同感する」は平成19年度から22年度にかけて、男女ともに大きく減少している。一方、「同感しない」は男女ともに横ばいとなっている。
 (図表1-18)

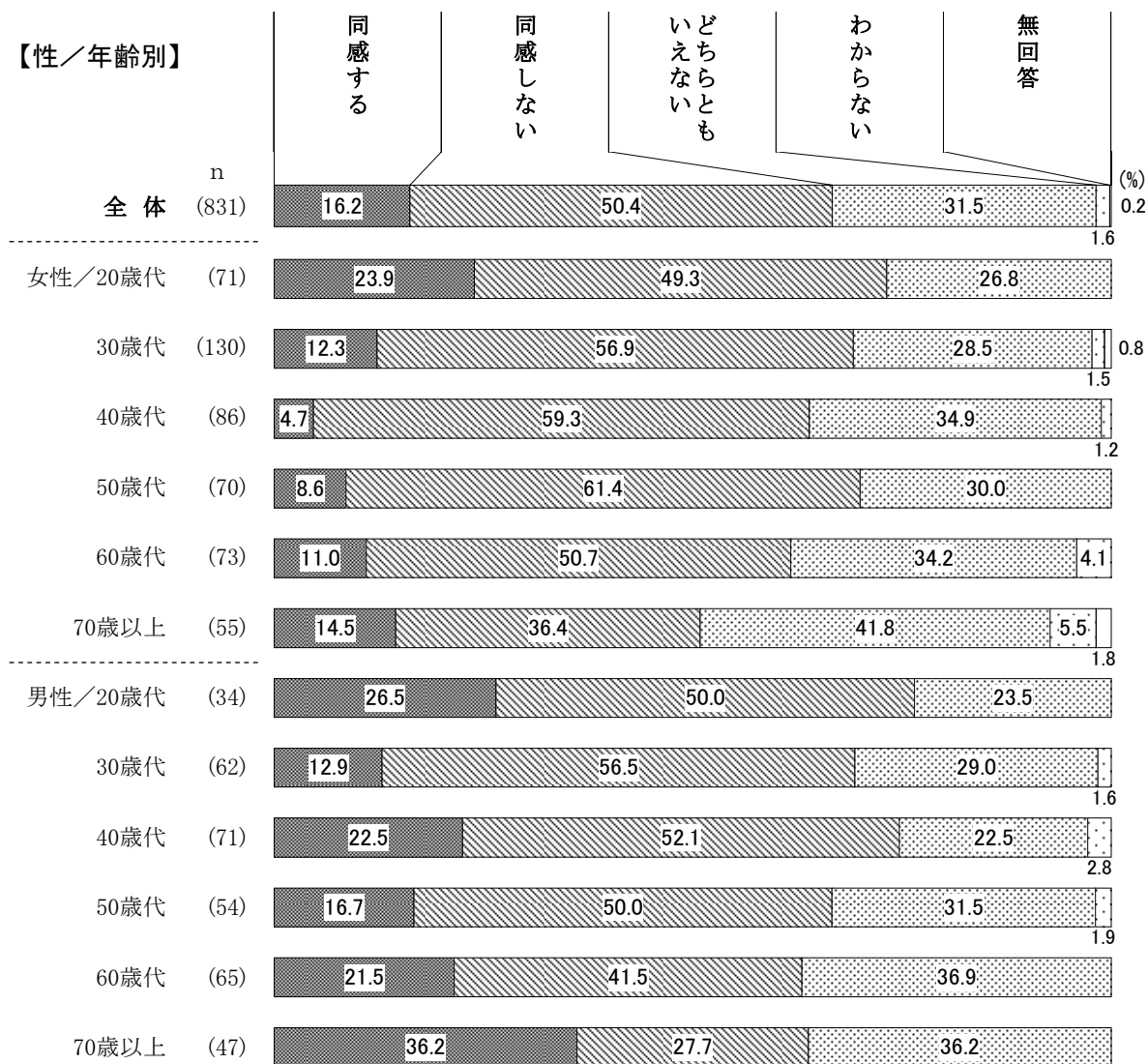
図表1-19 性別役割分担意識

【埼玉県（平成21年度）との比較】



埼玉県の調査と比較すると、「同意しない」は県が全体で52.5%（市50.4%）を占めており、男女でも市との大きな差はみられない。一方、「同意する」は県が全体で20.2%、男性では26.1%と、市をやや上回っている。(図表1-19)

図表1-20 性別役割分担意識



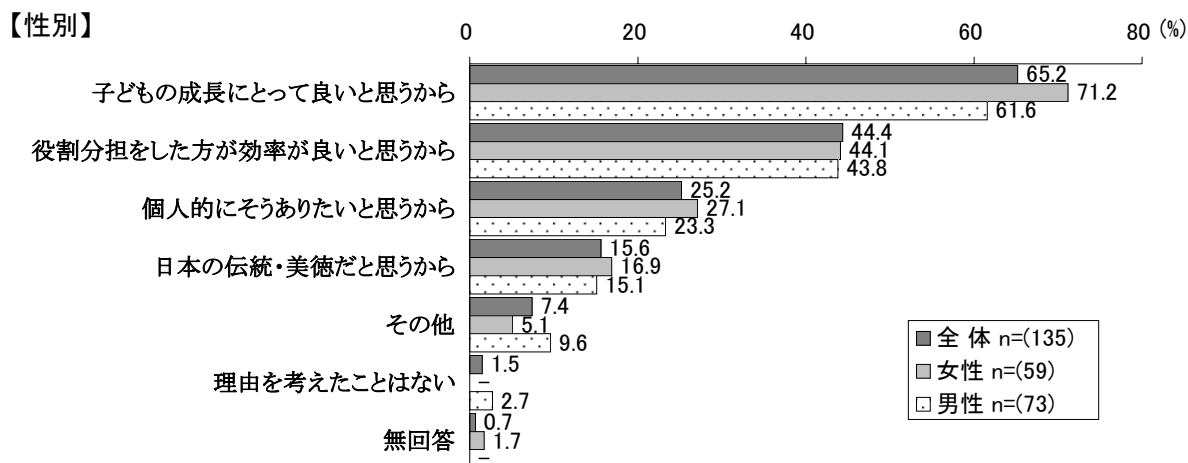
性／年齢別で見ると、「同意する」は、女性では20歳代で2割を超えている。男性では70歳以上で3割を超えている。また、「同意しない」は、女性では30～60歳代で半数を超え、50歳代で6割を超えている。男性では20～50歳代で半数を占めている。(図表1-20)

(3) 性別役割分担意識に同感する理由

問2で「同感する」と回答された方のみにおたずねします。

問2-1 同感する理由は何ですか。(〇は2つまで)

図表1-21 性別役割分担意識に同感する理由

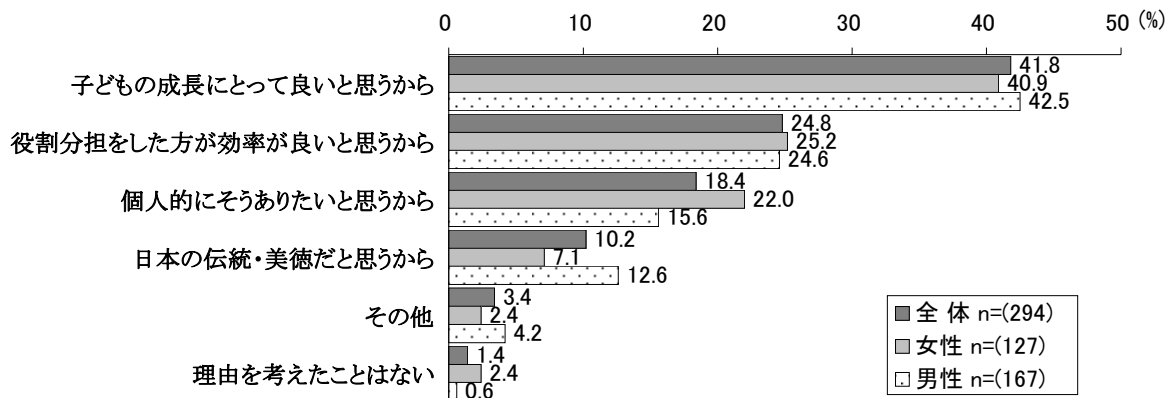


性別役割分担意識に同感する理由としては、「子どもの成長にとって良いと思うから」が65.2%と最も多くなっている。次いで「役割分担をした方が効率が良いと思うから」が44.4%、「個人的にそうありたいと思うから」が25.2%となっている。

性別で見ると、女性では「子どもの成長にとって良いと思うから」(71.2%)が男性に比べて高くなっている。(図表1-21)

参考 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

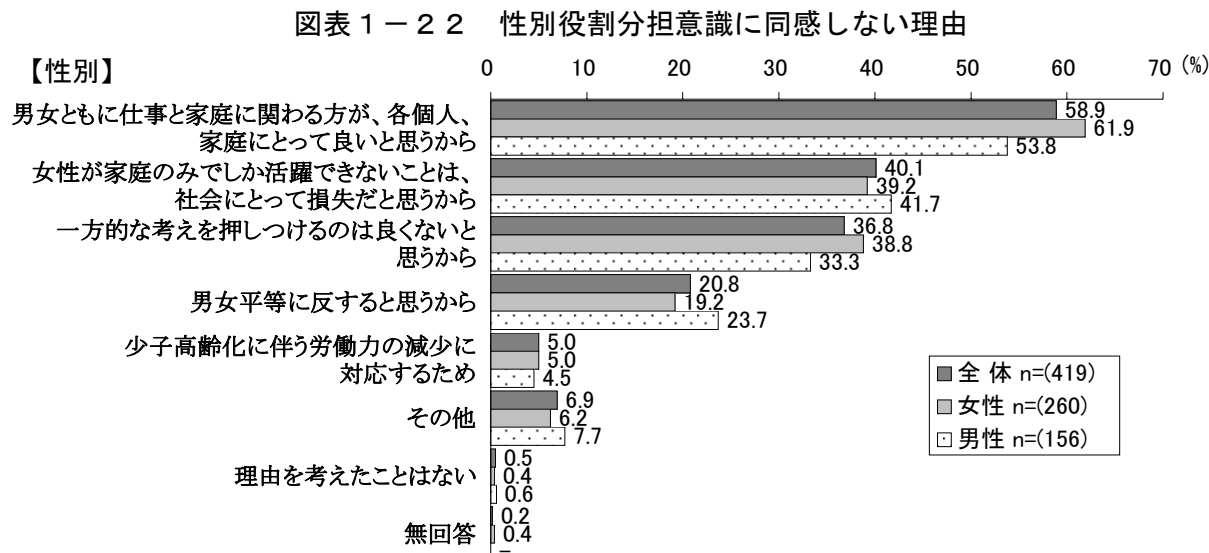
性別役割分担意識に同感する理由



※埼玉県の設問では、回答数を〇は1つに制限しているため、参考として表示する。

(4) 性別役割分担意識に同感しない理由

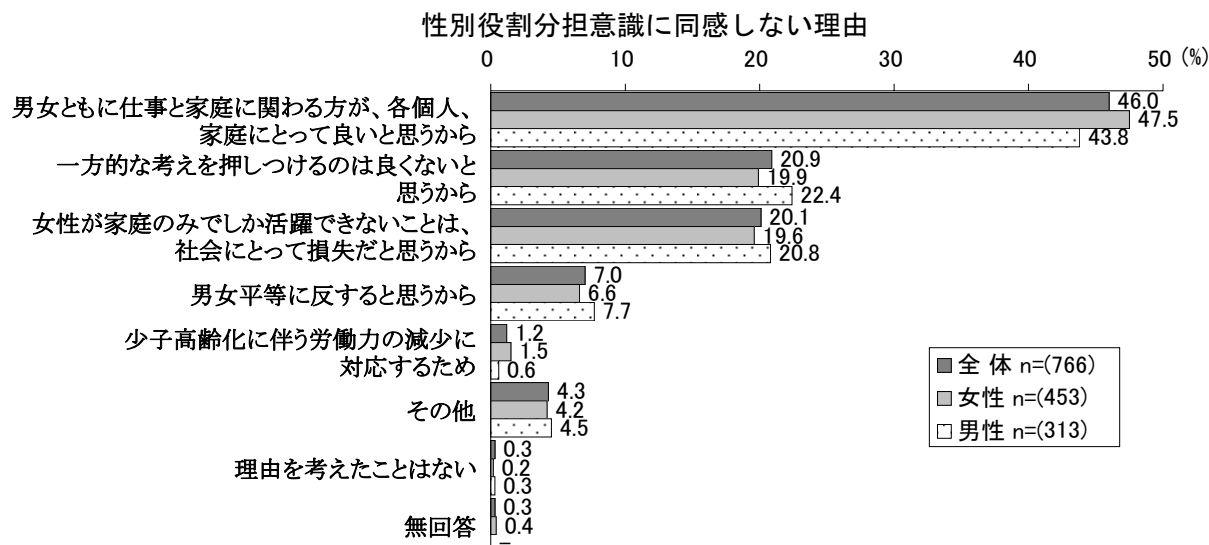
【問2で「同感しない」と回答された方のみにおたずねします。】
 問2-2 同感しない理由は何ですか。(〇は2つまで)



性別役割分担意識に同感しない理由としては、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が58.9%と最も多くなっている。次いで「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が40.1%、「一方的な考えを押しつけるのは良くないと思うから」が36.8%となっている。

性別でみると、女性では「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」(61.9%)、「一方的な考えを押しつけるのは良くないと思うから」(38.8%)が男性に比べて高くなっている。男性では「男女平等に反すると思うから」(23.7%)が女性に比べてやや高くなっている。(図表1-22)

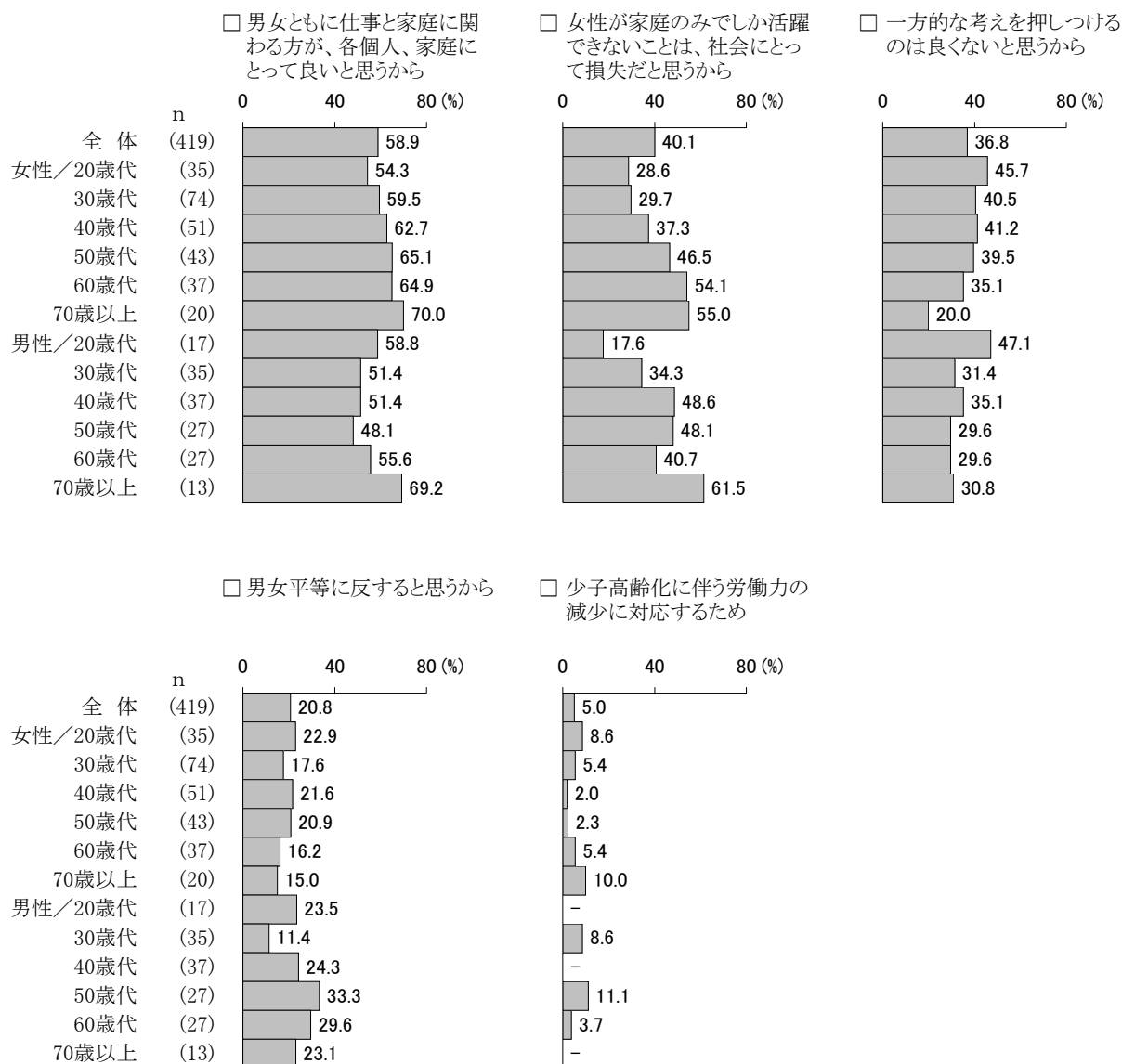
■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果



※埼玉県の設問では、回答数を「〇は1つ」に制限しているため、参考として表示する。

図表1-23 性別役割分担意識に同感しない理由

【性／年齢別】



性／年齢別でみると、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」は、女性では40歳以上で6割を超えている。「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」は、女性では60歳以上で半数を超えている。「一方的な考えを押しつけるのは良くないと思うから」は、女性では20歳代で4割台半ばとなっている。(図表1-23)

(5) 性別による固定的な役割分担意識

問3 あなたは以下の「A」「B」の意見のうち、どちらの考えに近いですか。
 (○はそれぞれ1つずつ)

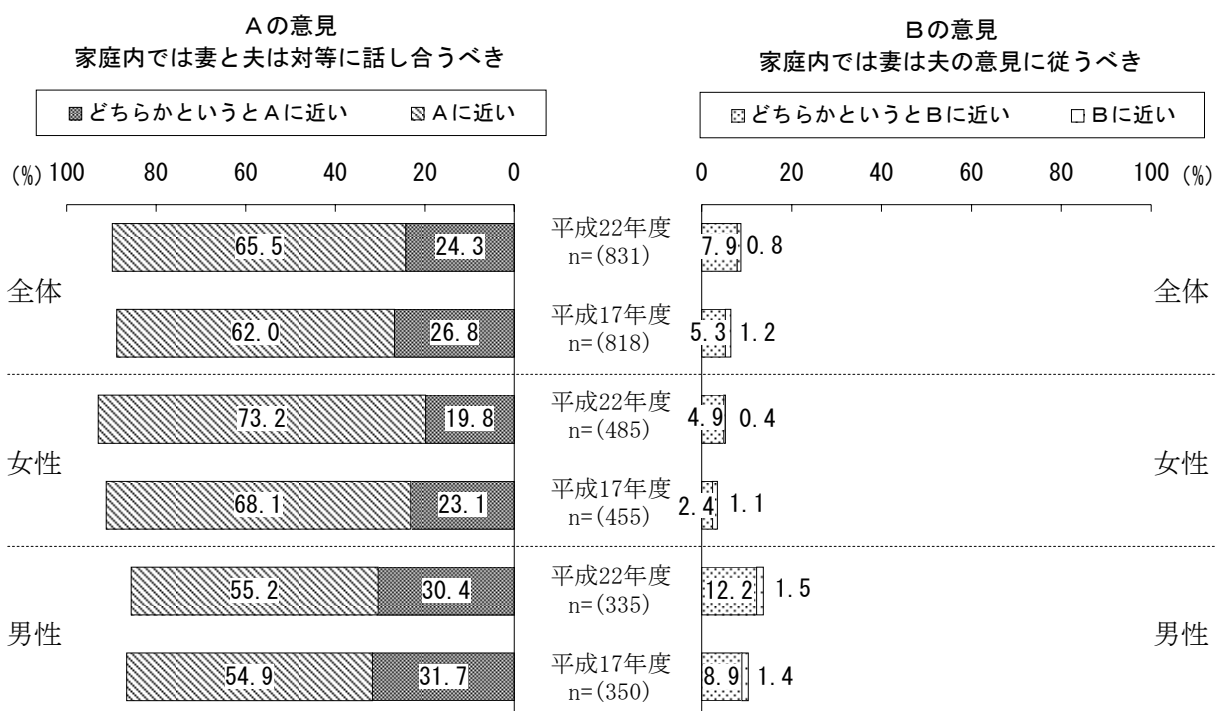
家庭内での夫婦の立場

Aの意見 家庭内では妻と夫は対等に話し合うべき

Bの意見 家庭内では妻は夫の意見に従うべき

図表1-24 性別による固定的な役割分担意識 家庭内での夫婦の立場

【性別および経年比較】



家庭内での夫婦の立場について、「Aに近い」、「どちらかというともAに近い」を合わせた「Aに近い(合計)」は、女性93.0%、男性85.6%とそれぞれ多数を占めている。「Bに近い」、「どちらかというともBに近い」を合わせた「Bに近い(合計)」は、男性では13.7%だが、女性では1割に満たない。

平成17年度調査と比較すると、「Aに近い(合計)」は、女性で僅かに増加している。「Bに近い(合計)」は、男女ともに僅かに増加している。(図表1-24)

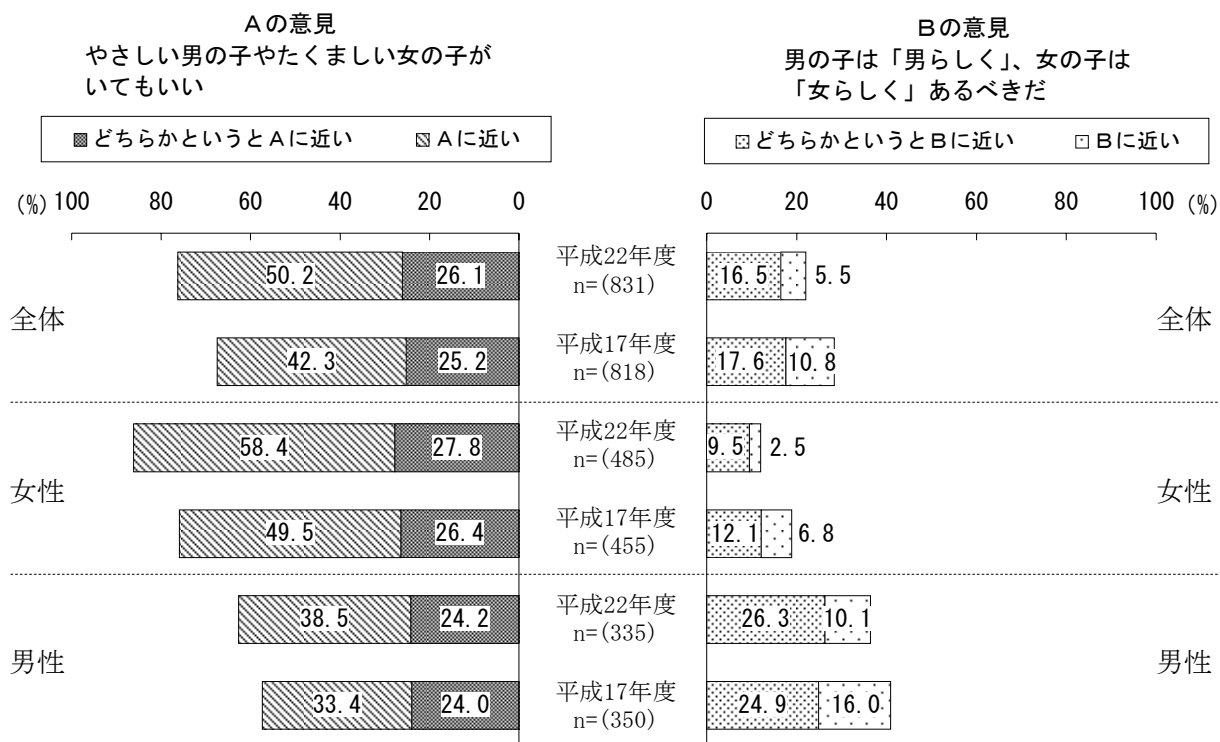
子育ての方針

Aの意見 やさしい男の子やたくましい女の子がいてもいい

Bの意見 男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」あるべきだ

図表1-25 性別による固定的な役割分担意識 子育ての方針

【性別および経年比較】



子育ての方針について、《Aに近い(合計)》は、女性86.2%、男性62.7%とそれぞれ多数を占めている。《Bに近い(合計)》は、男性では36.4%だが、女性では12.0%となっている。

平成17年度調査と比較すると、男女ともに、《Aに近い(合計)》は増加し、《Bに近い(合計)》はやや減少している。(図表1-25)

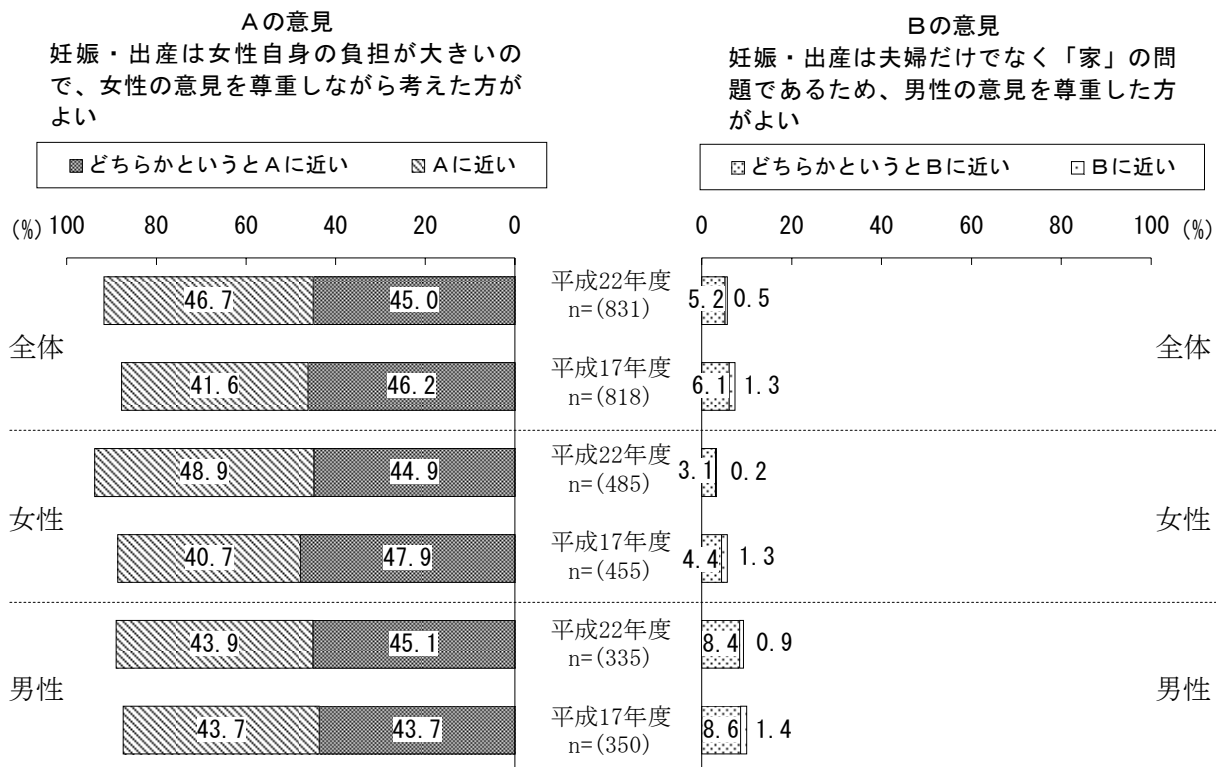
妊娠・出産について

Aの意見 妊娠・出産は女性自身の負担が大きいので、女性の意見を尊重しながら考えた方がよい

Bの意見 妊娠・出産は夫婦だけでなく「家」の問題であるため、男性の意見を尊重した方がよい

図表1-26 性別による固定的な役割分担意識 妊娠・出産について

【性別および経年比較】



妊娠・出産について、《Aに近い(合計)》は、女性93.8%、男性89.0%とそれぞれ多数を占めている。《Bに近い(合計)》は、男女ともに1割に満たない。

平成17年度調査と比較すると、《Aに近い(合計)》は、女性ではやや増加し、男性でも僅かに増加している。《Bに近い(合計)》は、女性で僅かに減少している。(図表1-26)

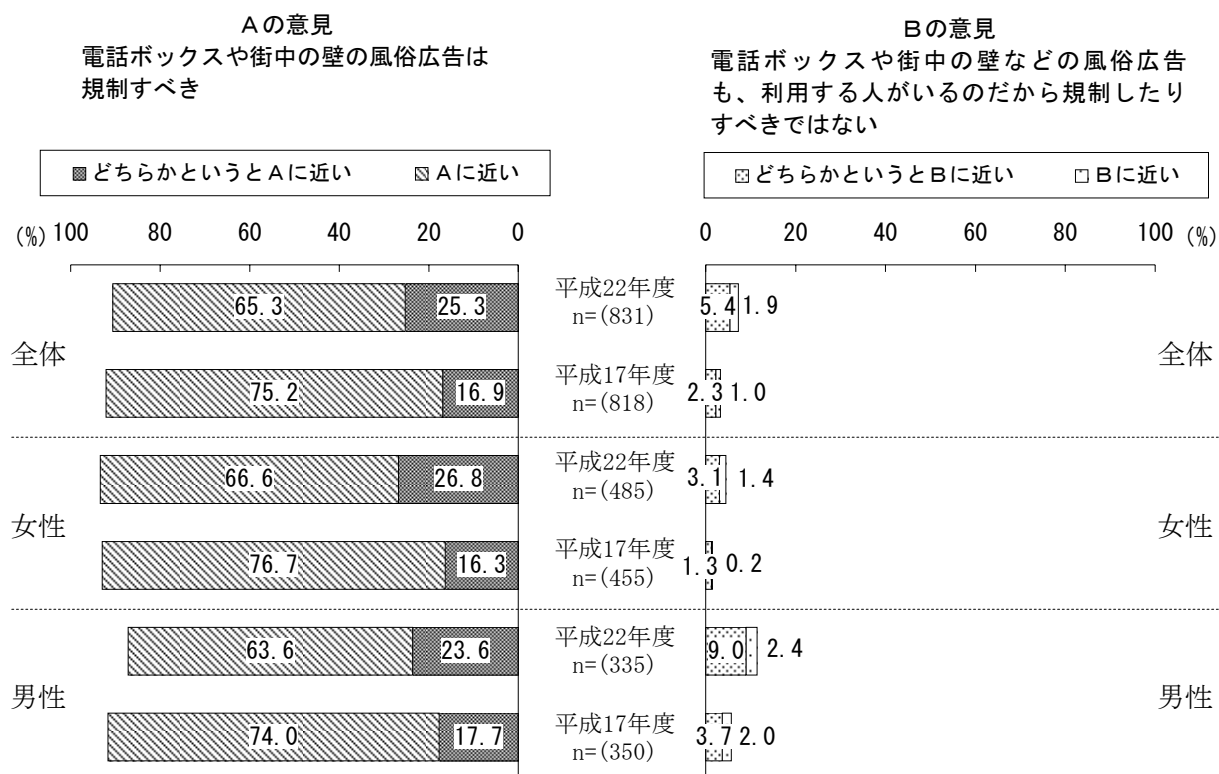
風俗広告の規制について

Aの意見 電話ボックスや街中の壁の風俗広告は規制すべき

Bの意見 電話ボックスや街中の壁などの風俗広告も、利用する人がいるのだから規制したりすべきではない

図表1-27 性別による固定的な役割分担意識 風俗広告の規制について

【性別および経年比較】



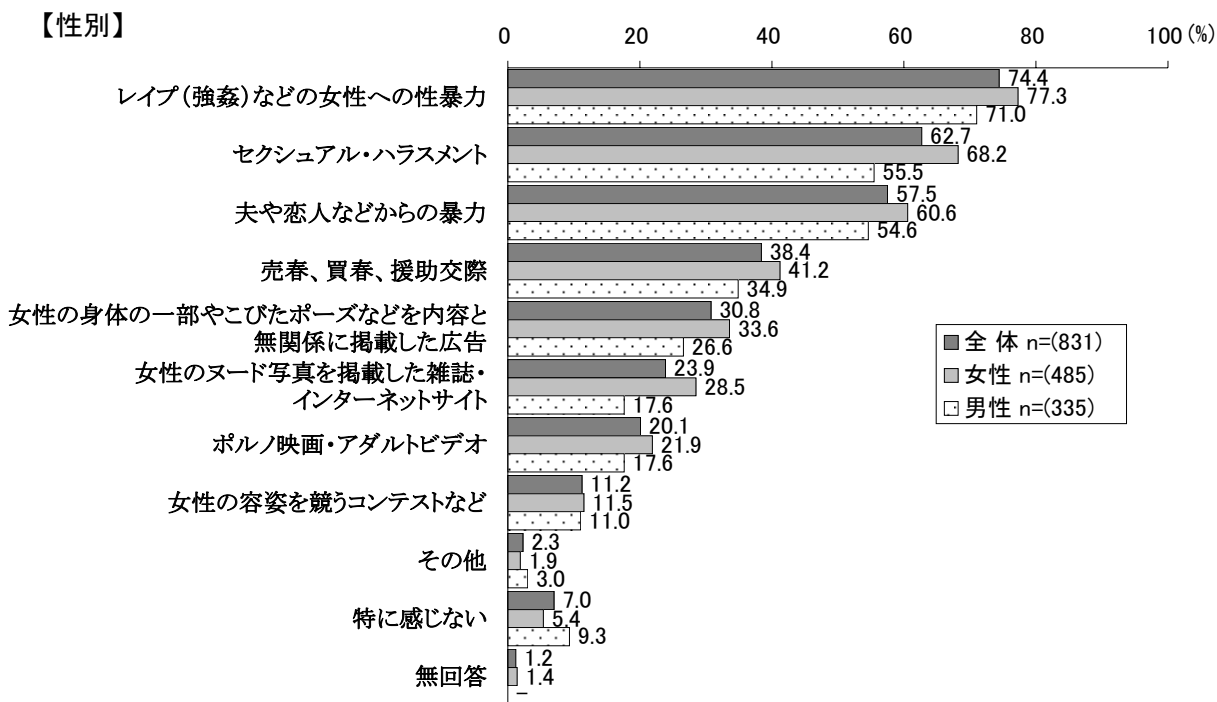
風俗広告の規制について、「Aに近い（合計）」は、女性93.4%、男性87.2%とそれぞれ多数を占めている。「Bに近い」は、男性では11.4%だが、女性では1割に満たない。

平成17年度調査と比較すると、「Aに近い（合計）」は、女性では横ばいだが、男性ではやや減少している。「Bに近い（合計）」は、男性でやや増加し、女性でも僅かに増加している。（図表1-27）

(6) 女性の人権が尊重されていないと感じるとき

問4 人権に関してお尋ねします。あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなときですか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-28 女性の人権が尊重されていないと感じるとき

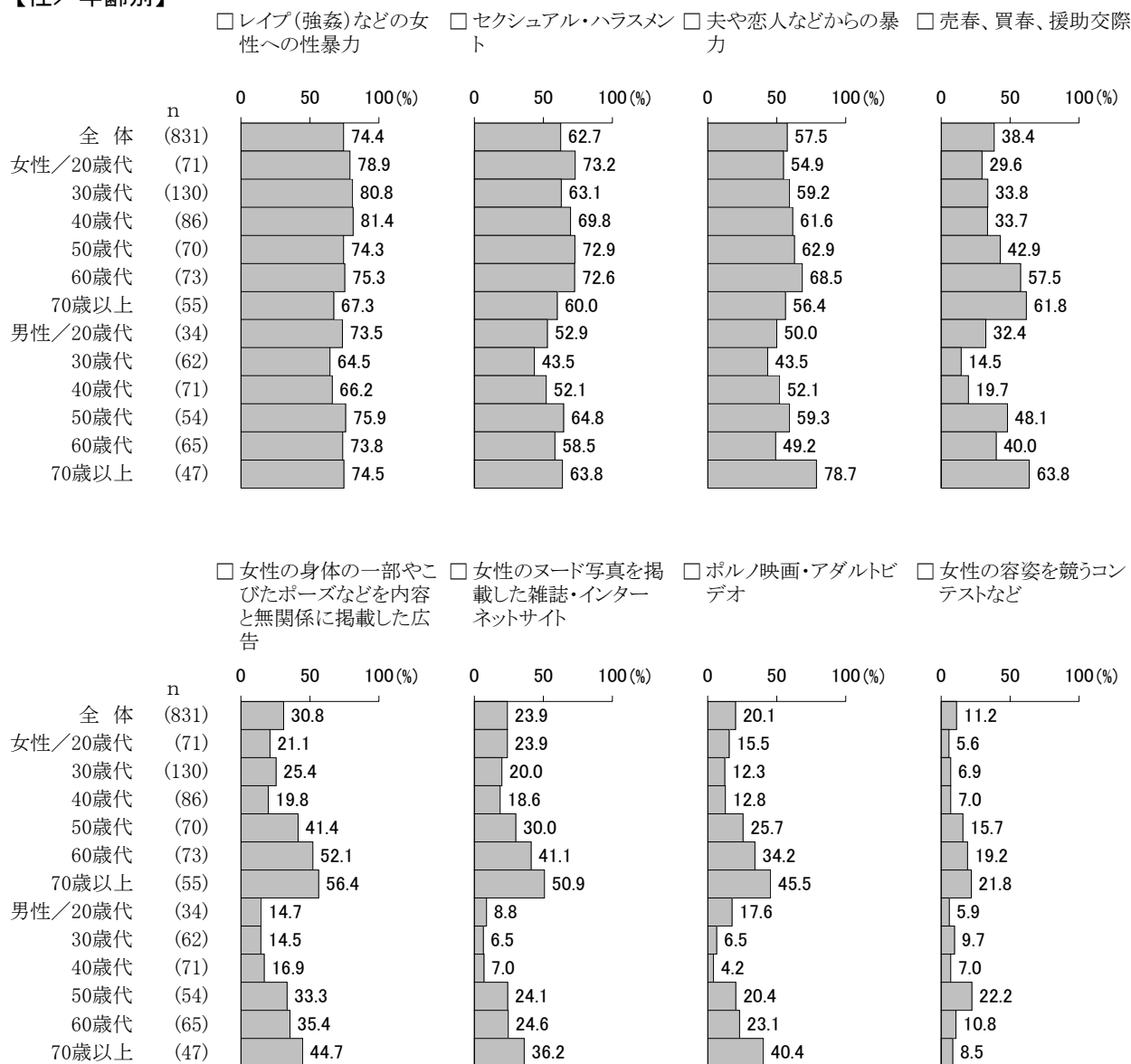


女性の人権が尊重されていないと感じることとしては、「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」が74.4%と最も多くなっている。次いで「セクシュアル・ハラスメント」が62.7%、「夫や恋人などからの暴力」が57.5%となっている。

性別で見ると、全体的に女性が男性を上回っており、特に「セクシュアル・ハラスメント」(68.2%)、「女性のヌード写真を掲載した雑誌・インターネットサイト」(28.5%)が男性に比べて高くなっている。(図表1-28)

図表1-29 女性の人権が尊重されていないと感じるとき

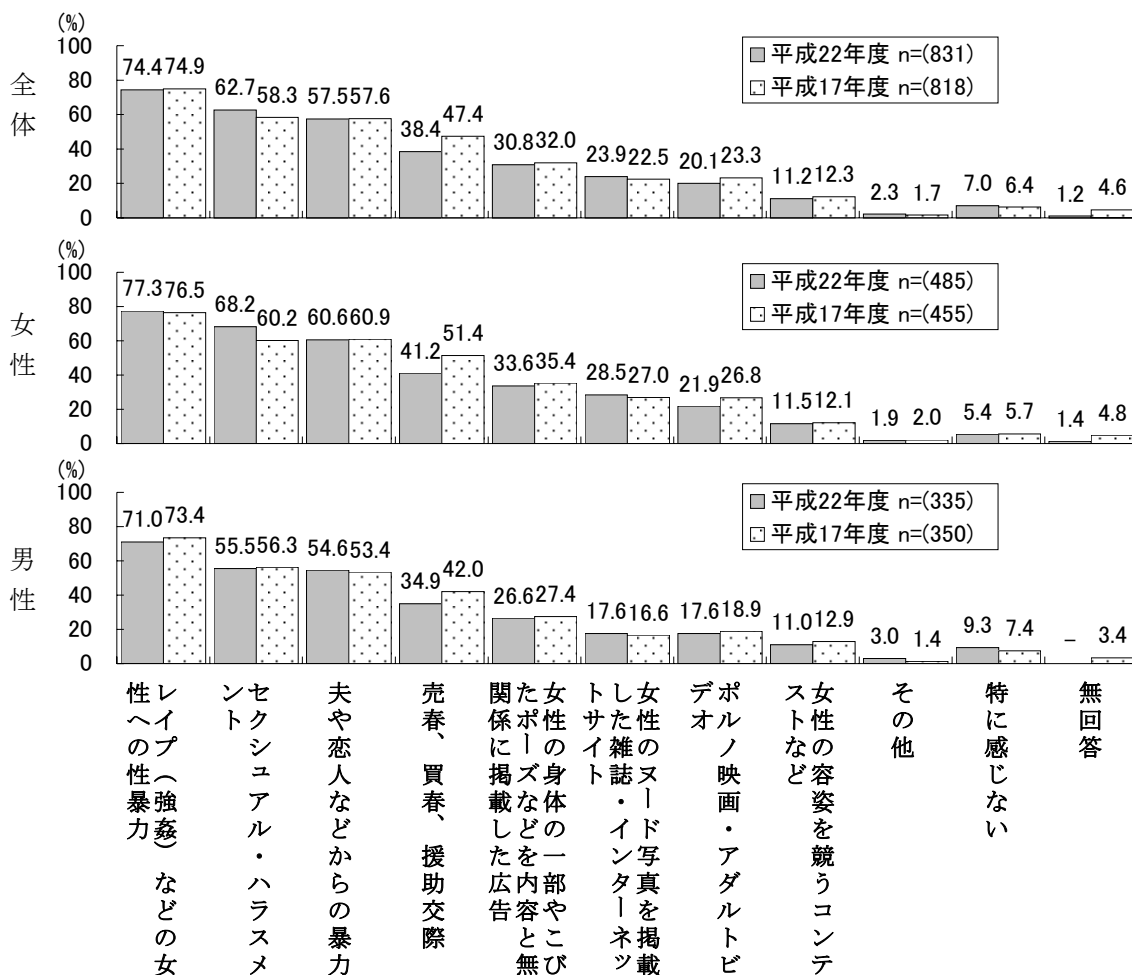
【性／年齢別】



性／年齢別でみると、「レイプ（強姦）などの女性への性暴力」は、女性では30～40歳代で8割を超えている。男性では50歳代で7割台半ばである。「セクシュアル・ハラスメント」は、女性では20歳代、50歳以上で7割を超えている。男性では50歳代、70歳以上で6割を超えている。「夫や恋人などからの暴力」は、女性では60歳代で7割近い。男性では70歳以上で8割近い。「売春、買春、援助交際」、「女性の身体の一部やこびたポーズなどを内容と無関係に掲載した広告」、「女性のヌード写真を掲載した雑誌・インターネットサイト」、「ポルノ映画・アダルトビデオ」は、それぞれ男女ともに50歳以上で高く、20～40歳で低くなっている。（図表1-29）

図表1-30 女性の人権が尊重されていないと感じるとき

【経年比較】

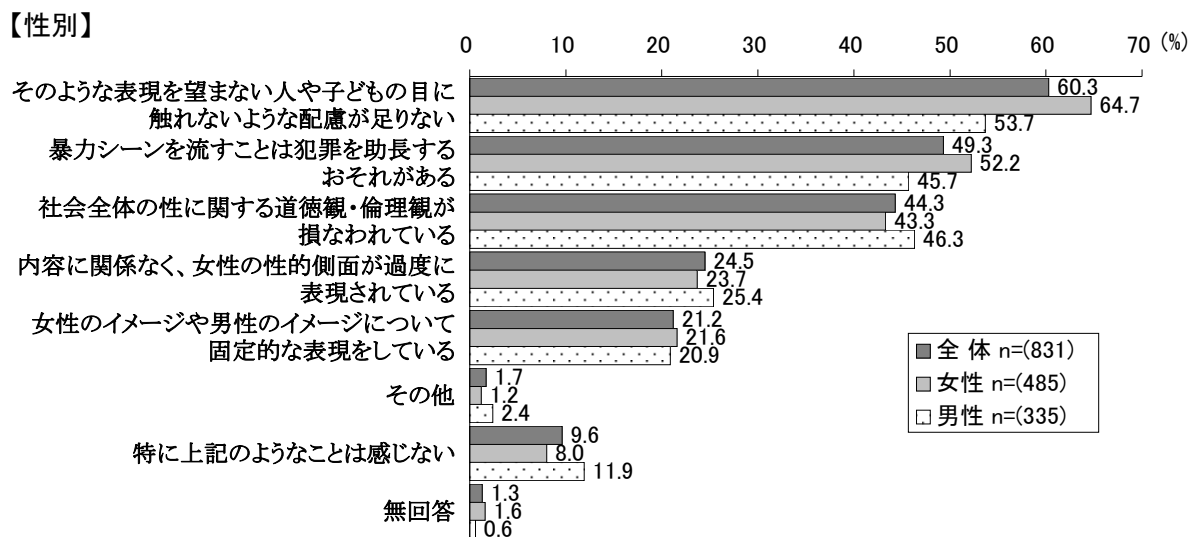


平成17年度調査と比較すると、「セクシュアル・ハラメント」は女性では増加している。「売春、買春、援助交際」は男女ともに減少している。「ポルノ映画・アダルトビデオ」は女性でやや減少している。(図表1-30)

(7) メディアでの性に関する表現について

問5 テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

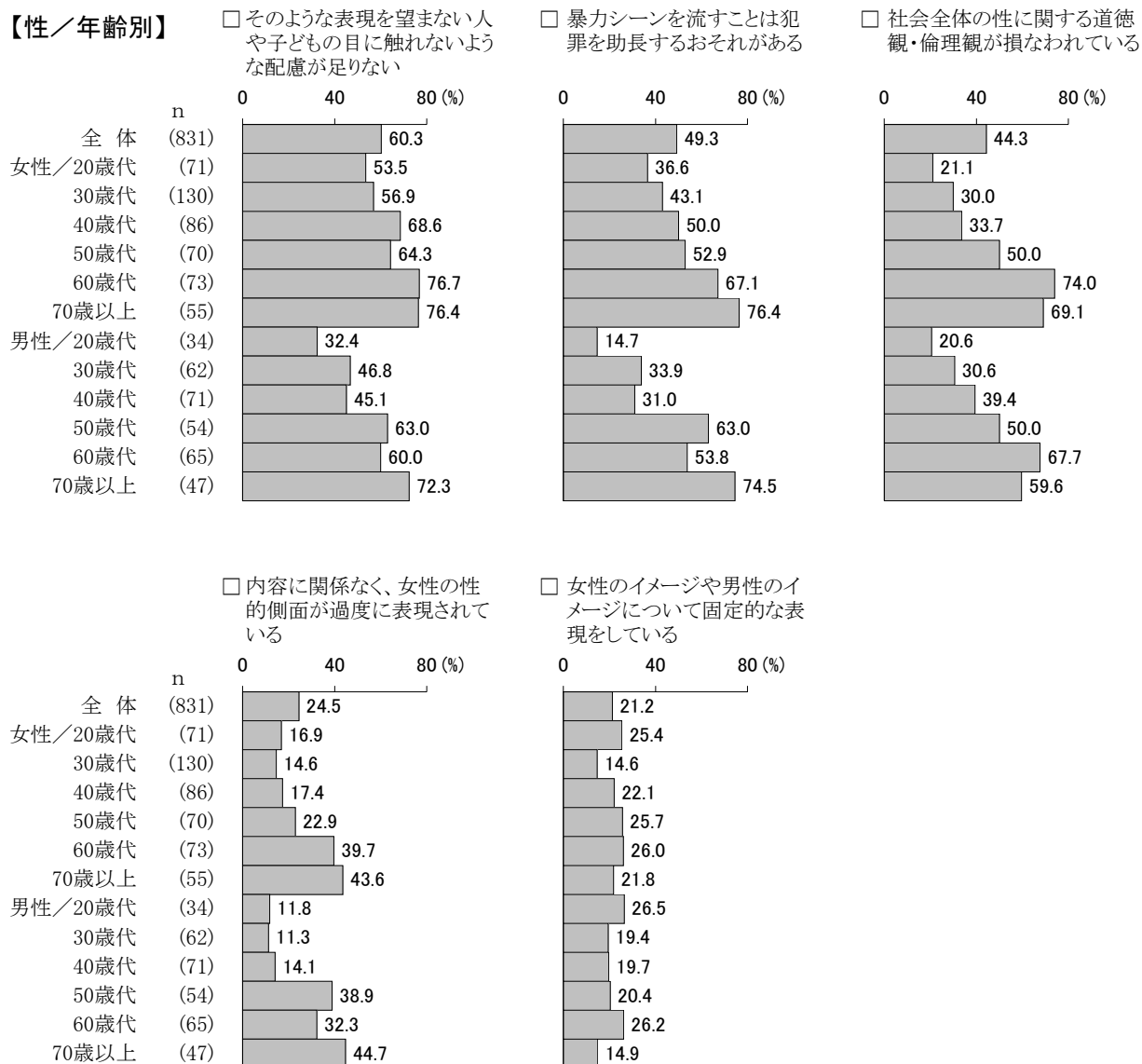
図表1-31 メディアでの性に関する表現について



メディアでの性に関する表現については、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が60.3%と最も多くなっている。次いで「暴力シーンを流すことは犯罪を助長するおそれがある」が49.3%、「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」が44.3%となっている。

性別でみると、女性では「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」(64.7%)、「暴力シーンを流すことは犯罪を助長するおそれがある」(52.2%)が男性に比べて高くなっている。(図表1-31)

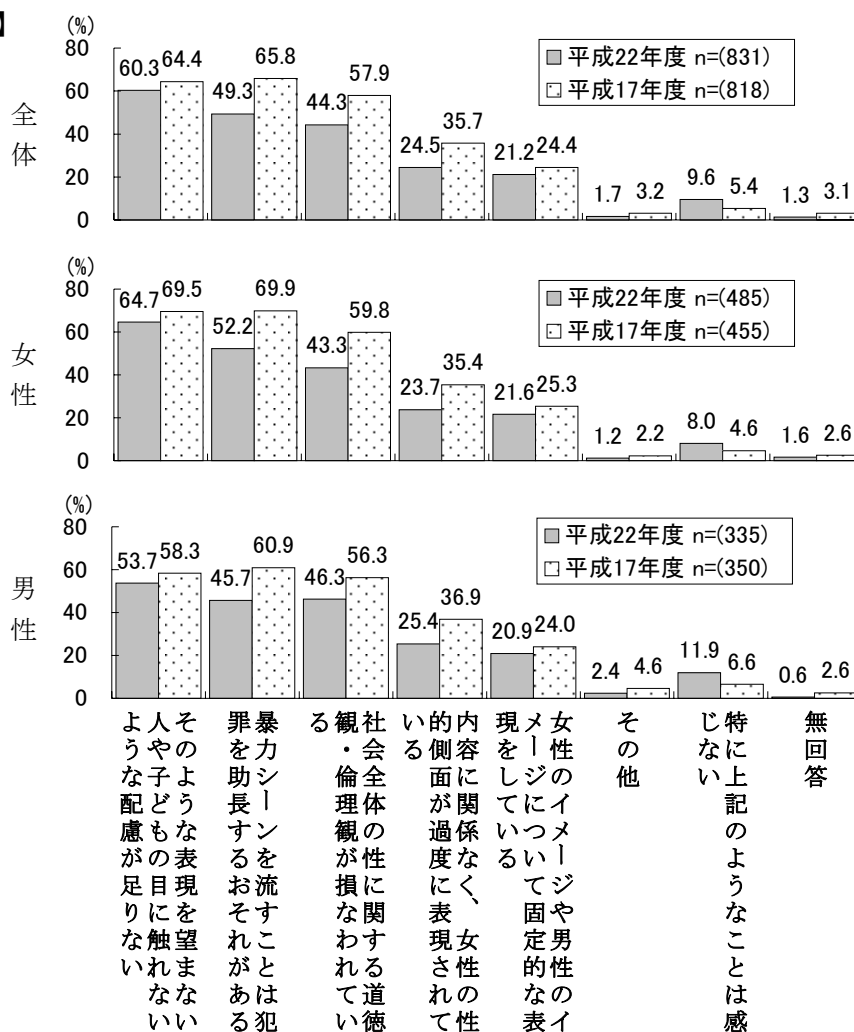
図表1-32 メディアでの性に関する表現について



性／年齢別でみると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」は、女性では60歳以上、男性では70歳以上で7割を超えている。「暴力シーンを流すことは犯罪を助長するおそれがある」は、男女ともに70歳以上で半数を超えている。「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」は、男女ともに50歳以上で高く、特に女性の60歳代で7割を超えている。「内容に関係なく、女性の性的側面が過度に表現されている」は、女性では60歳以上、男性では50歳以上で3割を超えている。(図表1-32)

図表1-33 メディアでの性に関する表現について

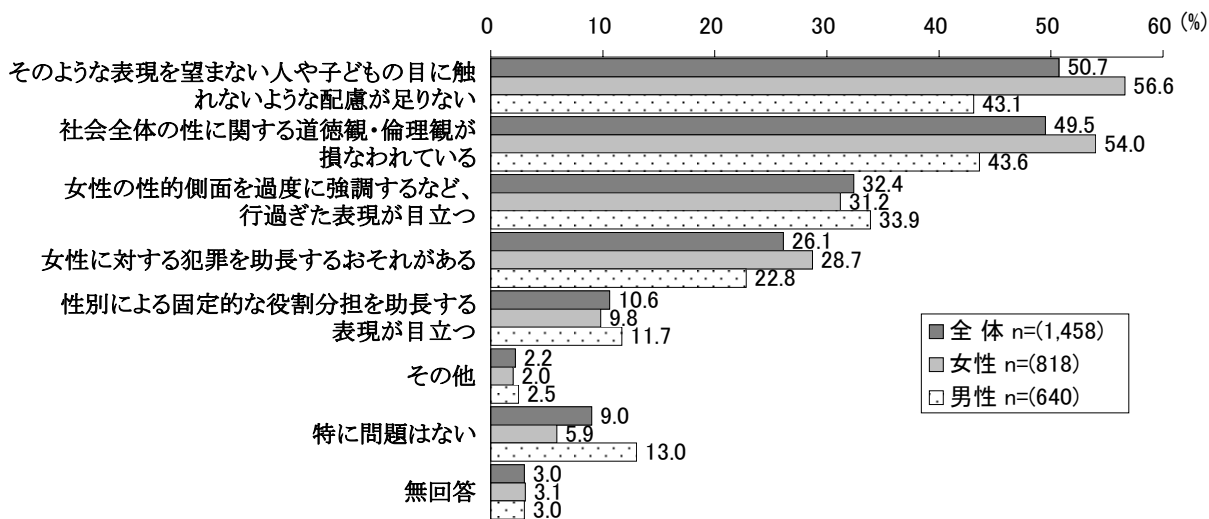
【経年比較】



平成17年度調査と比較すると、男女ともにメディアでの性に関する表現を問題視する選択肢が全体的に減少傾向にあり、特に「暴力シーンを流すことは犯罪を助長するおそれがある」、「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」、「内容に関係なく、女性の性的側面が過度に表現されている」がそれぞれ減少している。(図表1-33)

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

メディアでの性に関する表現について



※埼玉県の設問は、選択肢が異なるため、参考として表示する。

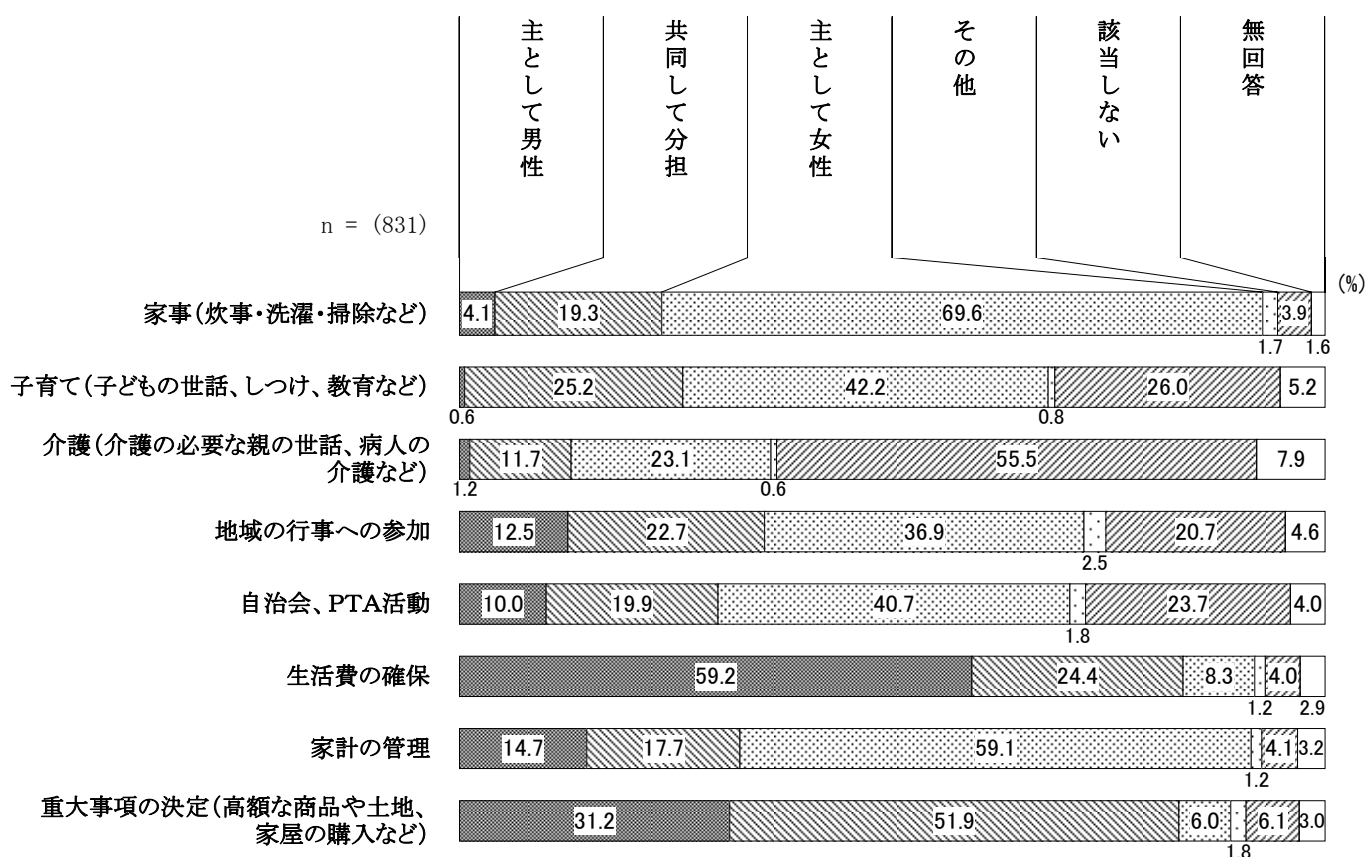
2. 家庭生活について

(1) 家庭生活での役割分担

問6 あなたの家庭では次のことについて、主にどなたが行っていますか。

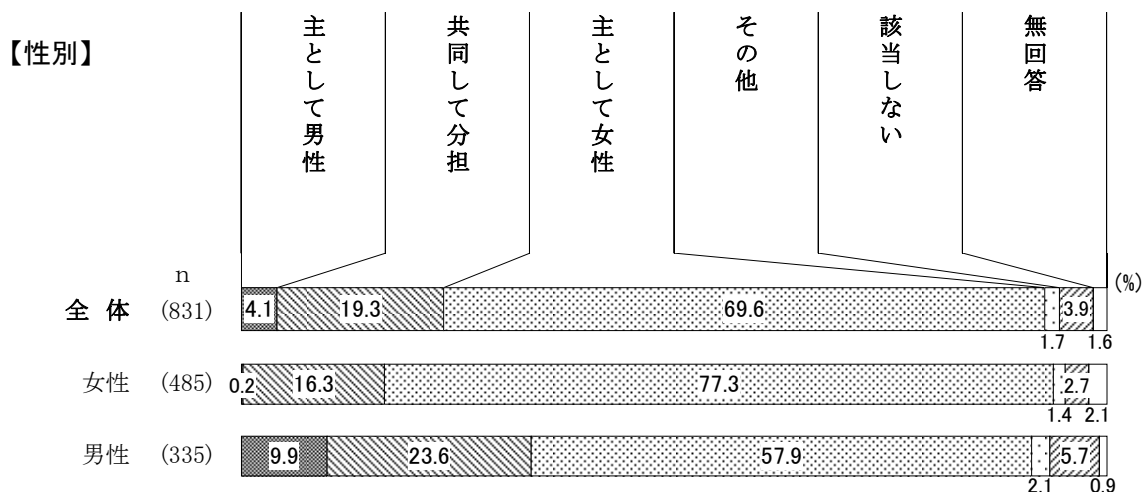
(○はそれぞれ1つずつ)

図表2-1 家庭生活での役割分担



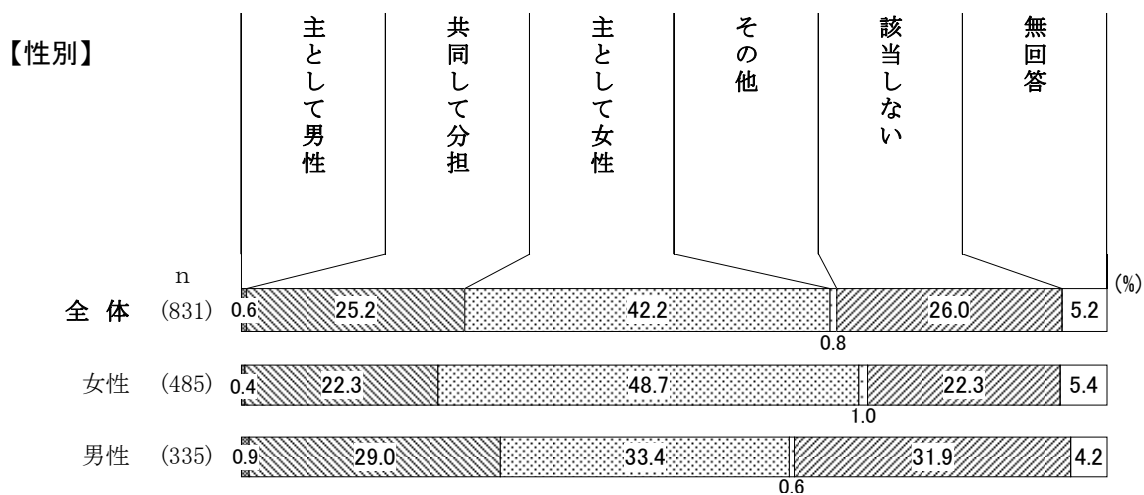
家庭生活での役割分担については、「共同して分担」は重大事項の決定（高額な商品や土地、家屋の購入など）（51.9%）で過半数となっている。「主として女性」は家事（炊事・洗濯・掃除など）（69.6%）、家計の管理（59.1%）でそれぞれ過半数、「主として男性」は生活費の確保（59.2%）で過半数となっている。（図表2-1）

図表2-2 家庭生活での役割分担 ア 家事（炊事・洗濯・掃除など）



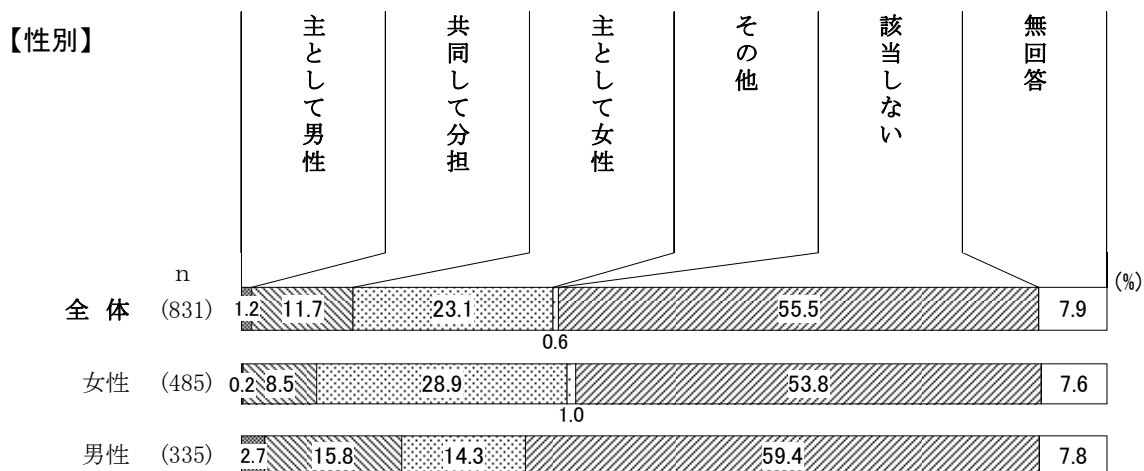
家事（炊事・洗濯・掃除など）について、性別で見ると、「主として女性」（女性77.3%、男性57.9%）は男女ともに過半数となっている。「主として男性」（女性0.2%、男性9.9%）、「共同して分担」（女性16.3%、男性23.6%）は、男性が女性を上回っている。（図表2-2）

図表2-3 家庭生活での役割分担 イ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）



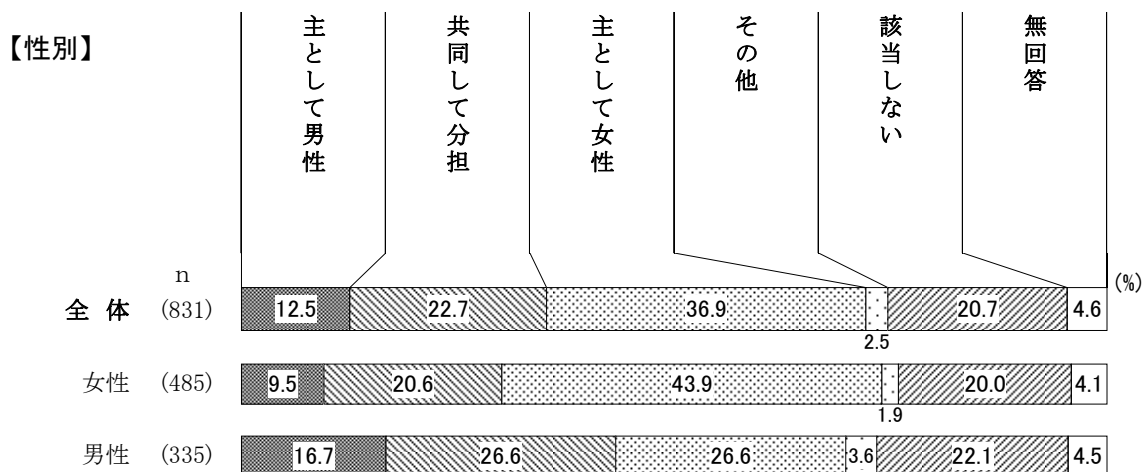
子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）について、性別で見ると、「主として女性」は女性で48.7%を占めている。「共同して分担」（女性22.3%、男性29.0%）は、男性が女性をやや上回っている。（図表2-3）

図表2-4 家庭生活での役割分担 ウ 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）



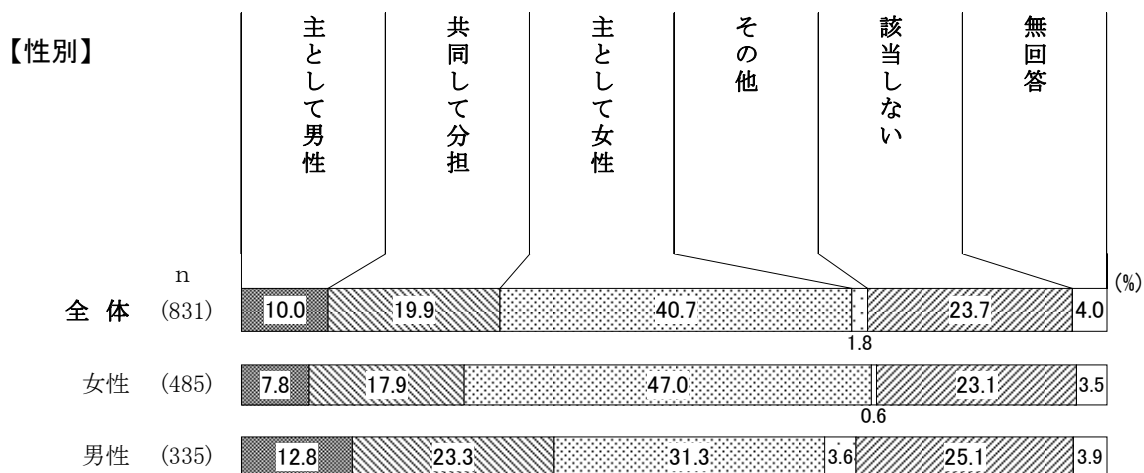
介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）について、性別で見ると、「主として女性」（女性28.9%、男性14.3%）は、女性が男性を上回っている。「共同して分担」（女性8.5%、男性15.8%）は、男性が女性を上回っている。（図表2-4）

図表2-5 家庭生活での役割分担 エ 地域の行事への参加



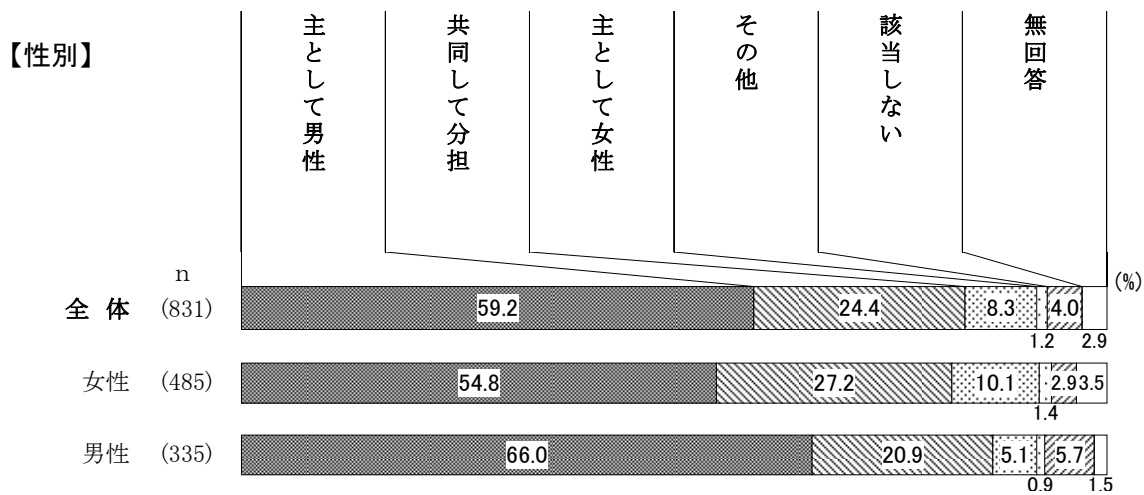
地域の行事への参加について、性別で見ると、「主として女性」は女性で43.9%を占めている。「主として男性」（女性9.5%、男性16.7%）、「共同して分担」（女性20.6%、男性26.6%）は、男性が女性をやや上回っている。（図表2-5）

図表2-6 家庭生活での役割分担 才 自治会、PTA活動



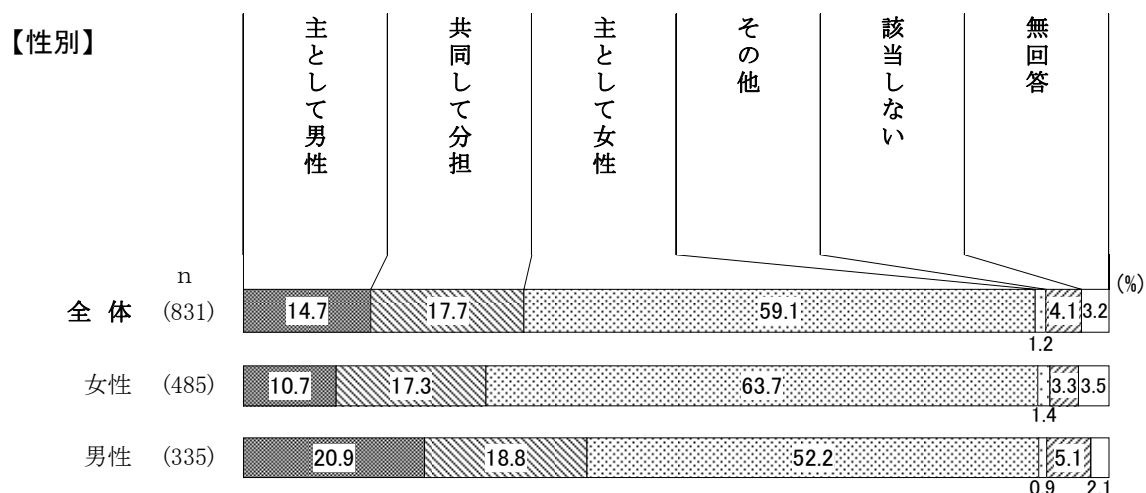
自治会、PTA活動について、性別で見ると、「主として女性」は女性で47.0%を占めている。「主として男性」(女性7.8%、男性12.8%)、「共同して分担」(女性17.9%、男性23.3%)は、男性が女性を上回っている。(図表2-6)

図表2-7 家庭生活での役割分担 カ 生活費の確保



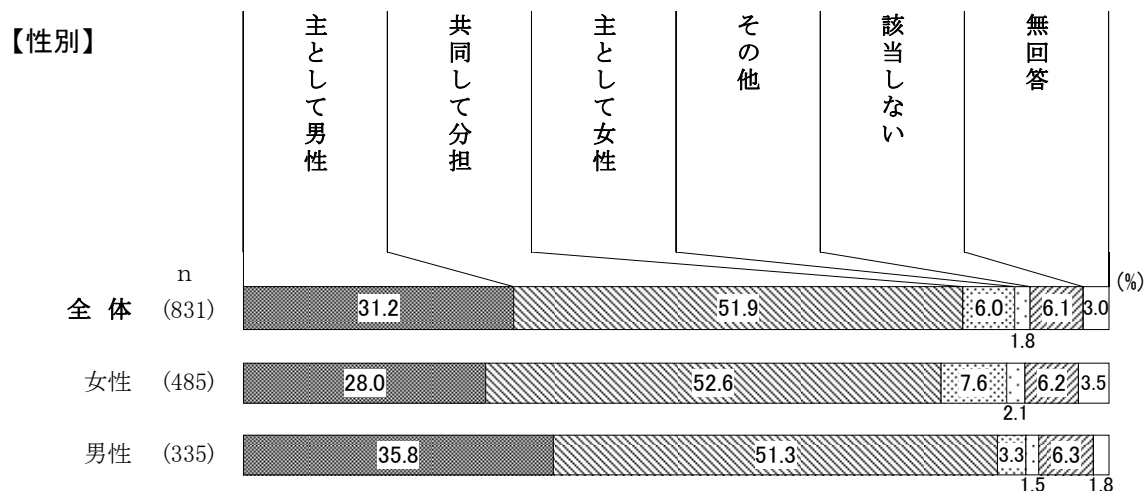
生活費の確保について、性別で見ると、「主として男性」(女性54.8%、男性66.0%)は男女ともに過半数となっている。「共同して分担」(女性27.2%、男性20.9%)、「主として女性」(女性10.1%、男性5.1%)、女性が男性を上回っている。(図表2-7)

図表2-8 家庭生活での役割分担 キ 家計の管理



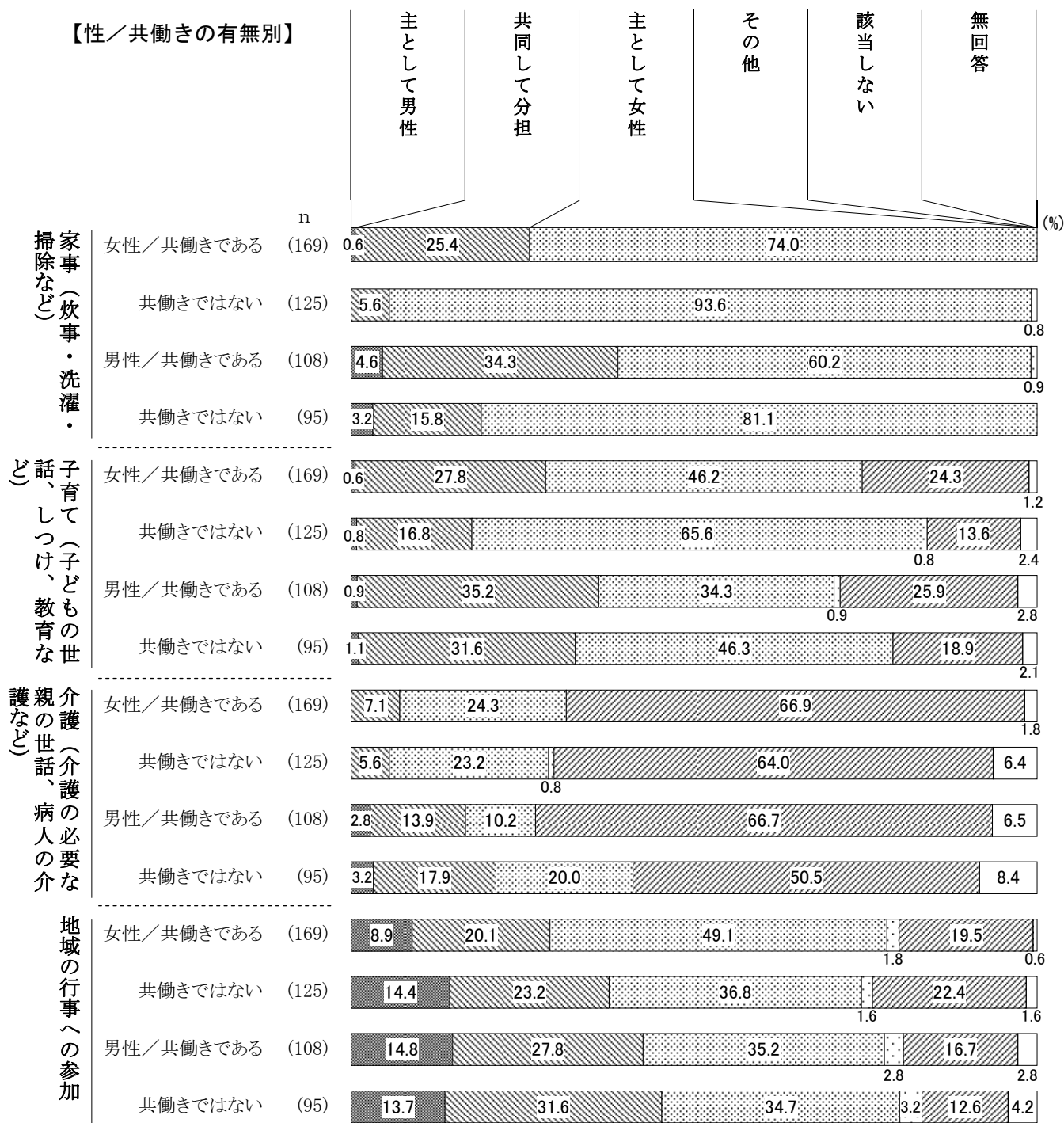
家計の管理について、性別で見ると、「主として女性」（女性63.7%、男性52.2%）は男女ともに過半数となっている。「主として男性」（女性10.7%、男性20.9%）は、男性が女性を上回っている。（図表2-8）

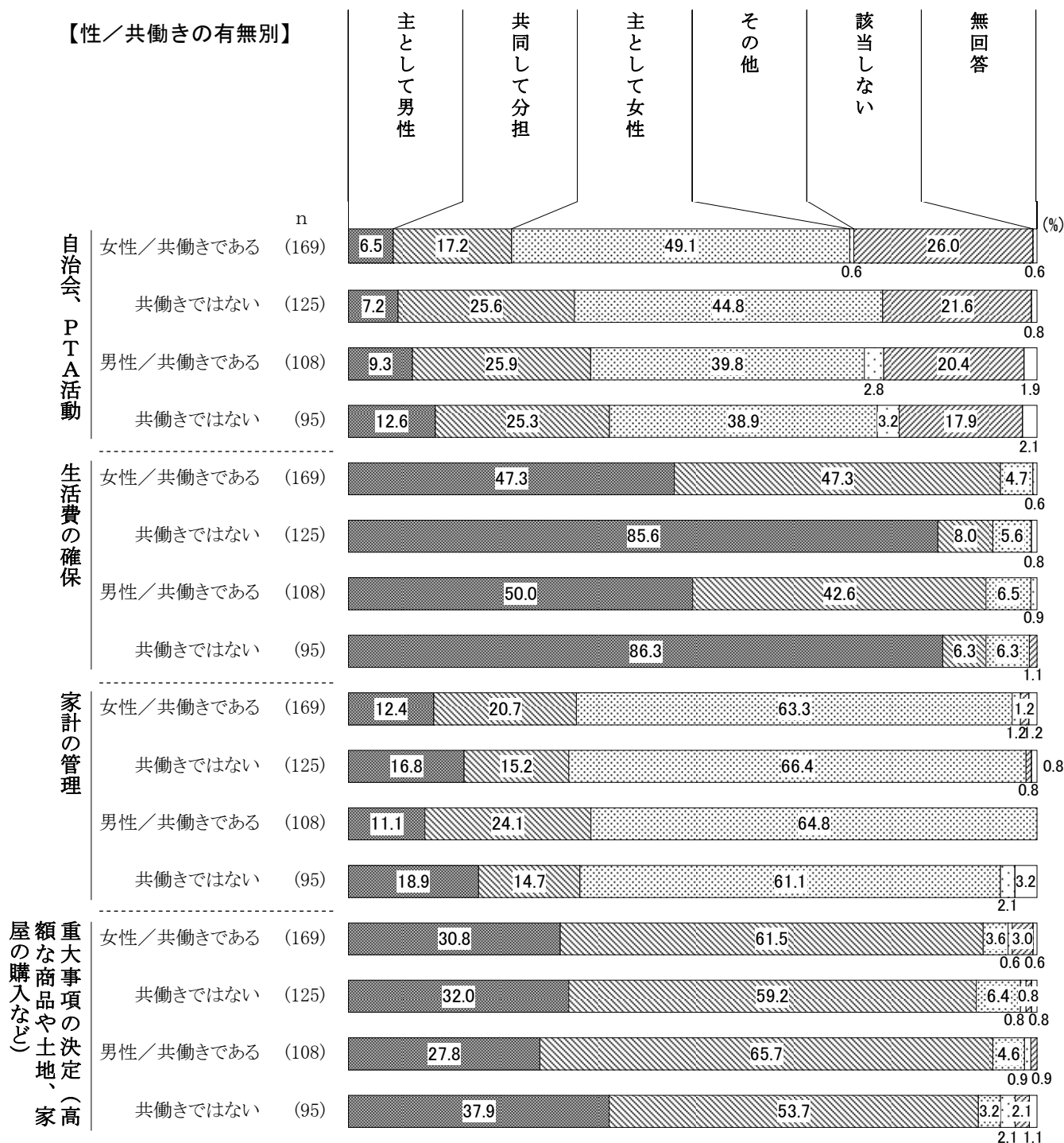
図表2-9 家庭生活での役割分担 ク 重大事項の決定（高額な商品や土地、家屋の購入など）



重大事項の決定（高額な商品や土地、家屋の購入など）について、性別で見ると、「共同して分担」（女性52.6%、男性51.3%）は男女ともに過半数となっている。「主として男性」（女性28.0%、男性35.8%）は、男性が女性を上回っている。（図表2-9）

図表2-10 家庭生活での役割分担



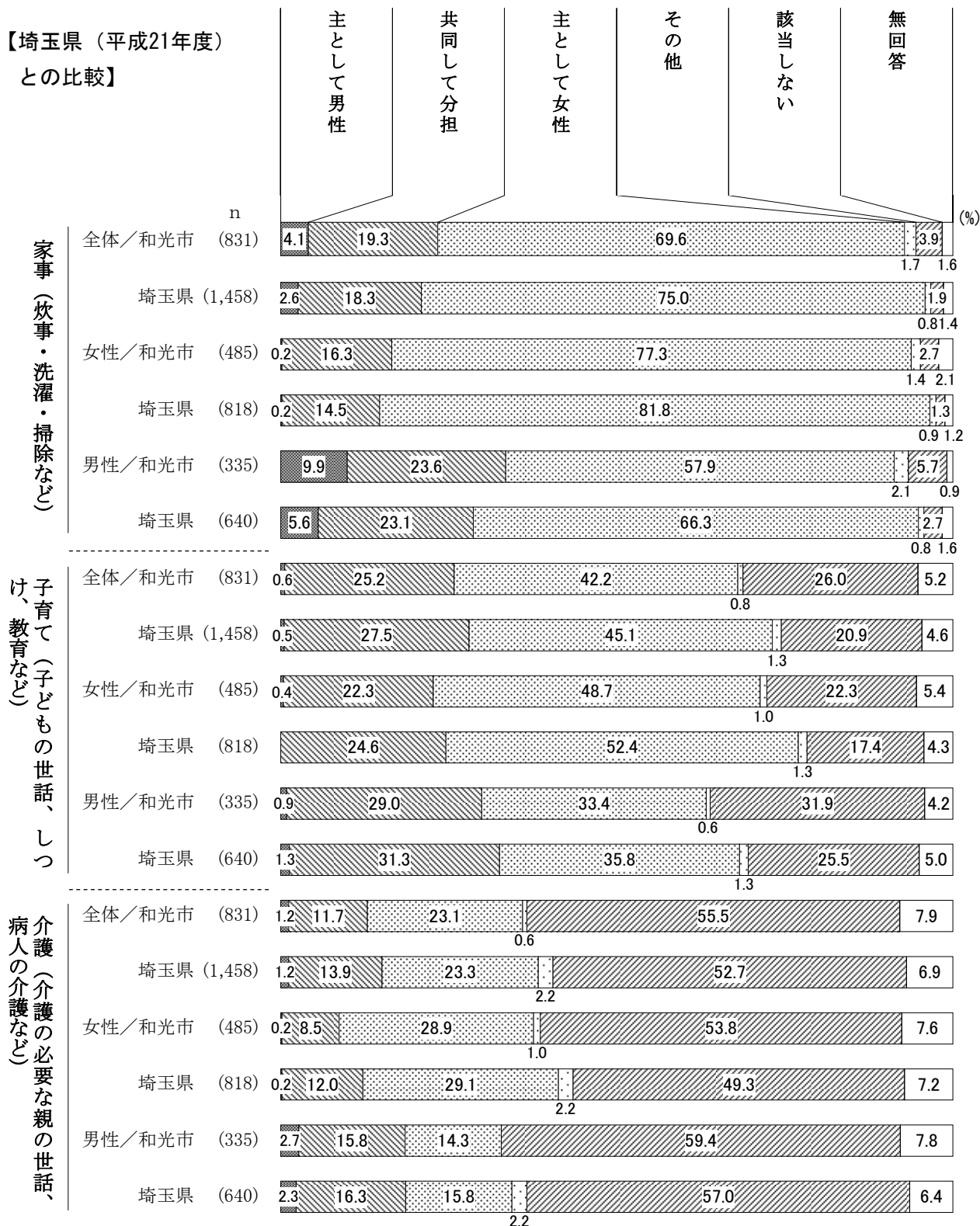


性／共働きの有無別でみると、家事（炊事・洗濯・掃除など）では、男女ともに「共同して分担」は共働きである人が共働きでない人を大きく上回っている。一方、「主として女性」は共働きである人が共働きでない人を大きく下回っている。子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）では、女性で「共同して分担」は共働きである人が共働きでない人を上回り、男女ともに「主として女性」は共働きである人が共働きでない人を下回っている。地域の行事への参加では、女性で「主として女性」が共働きである人が共働きでない人を上回っている。自治会、PTA活動では、女性で「共同して分担」は共働きである人が共働きでない人を下回っている。生活費の確保では、男女ともに「主として

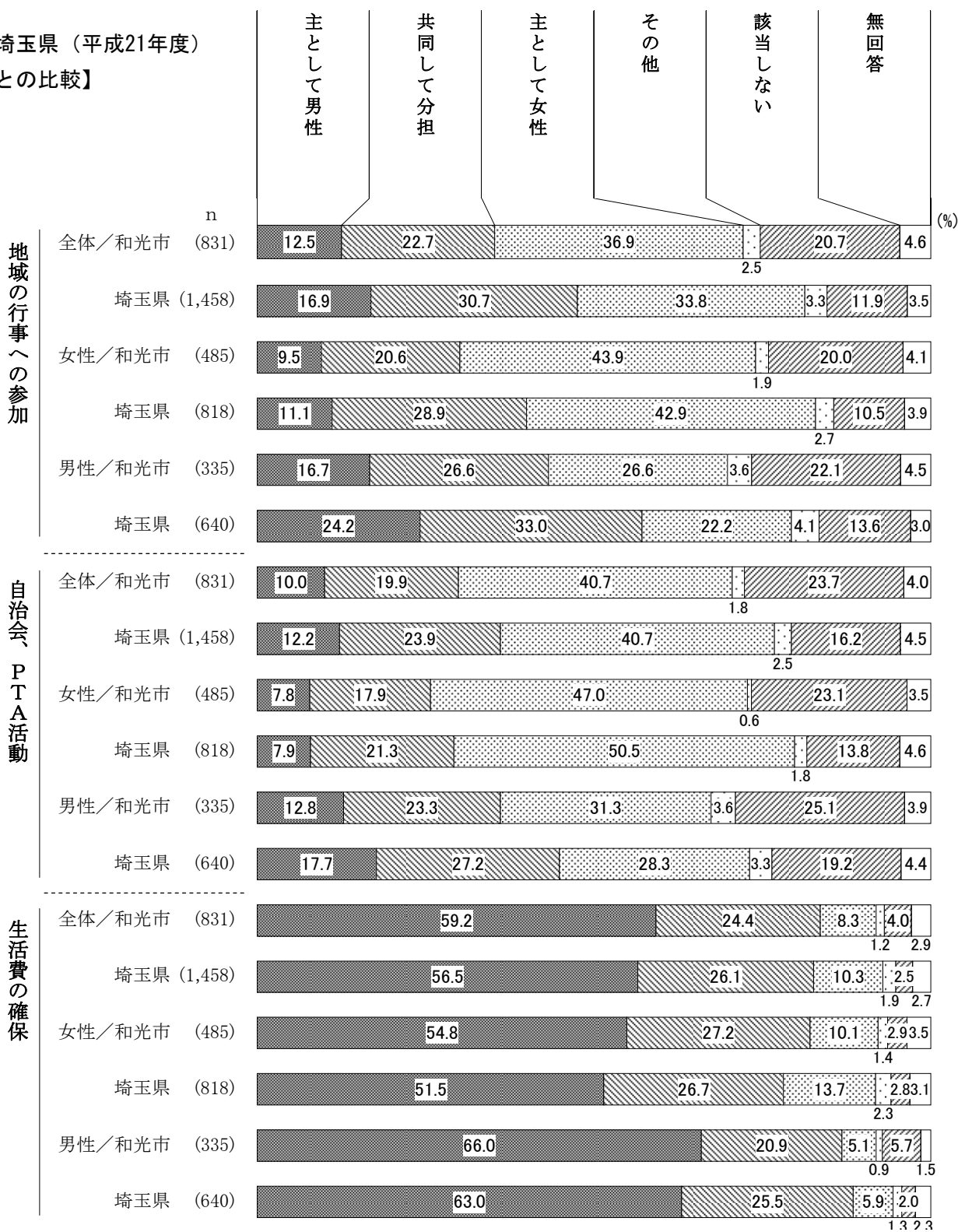
男性」は共働きである人が共働きでない人を大きく下回り、「共同して分担」は共働きである人が共働きでない人を大きく上回っている。家計の管理では、「共同して分担」は共働きである人が共働きでない人を上回っている。(図表2-10)

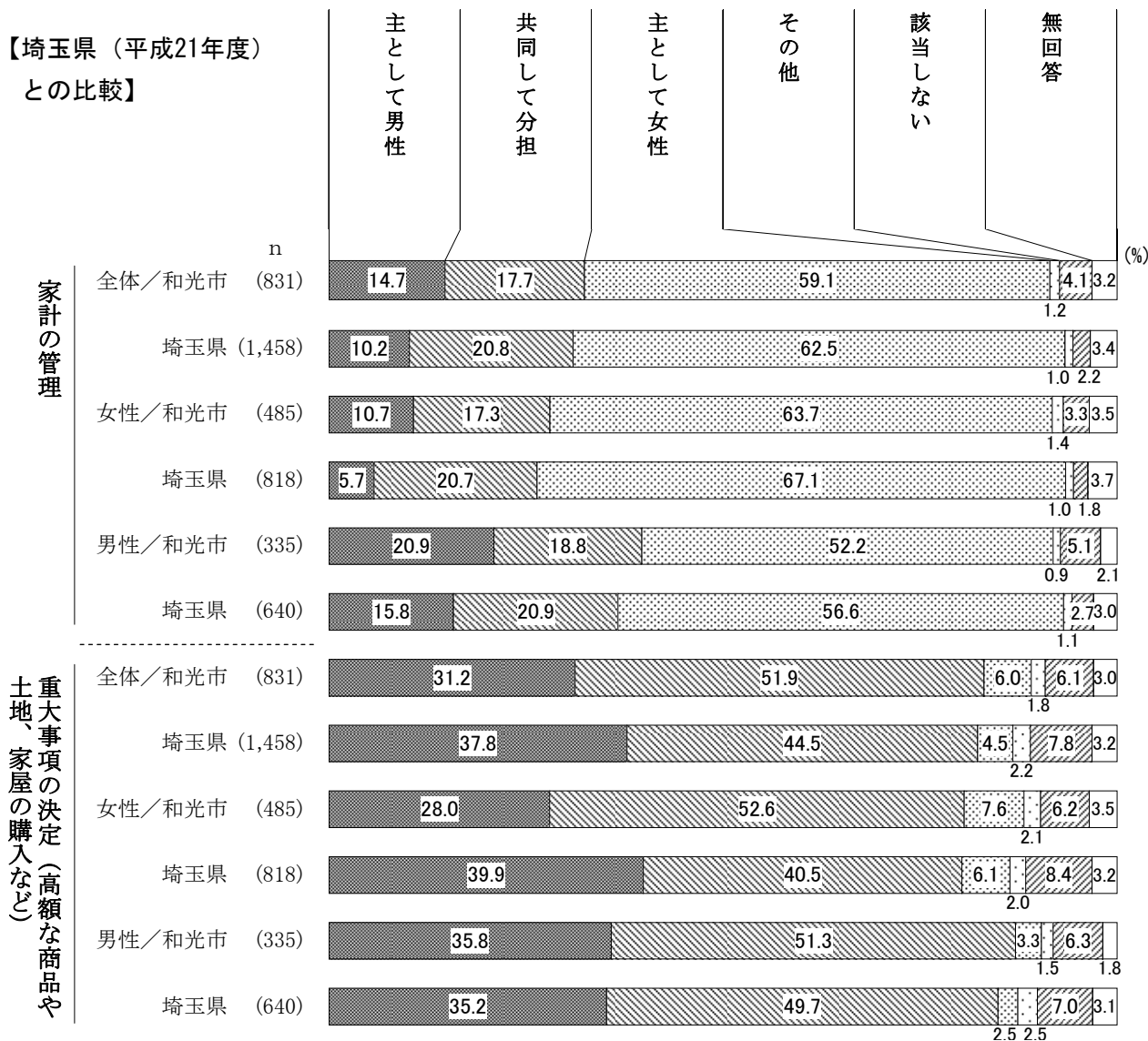
図表2-11 家庭生活での役割分担

【埼玉県（平成21年度）との比較】



【埼玉県（平成21年度）との比較】



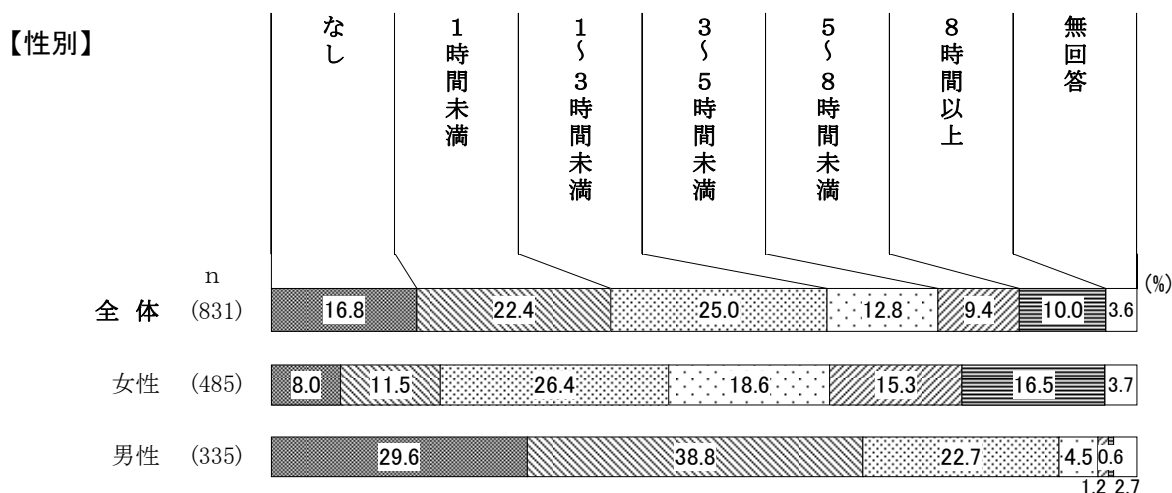


埼玉県の調査結果と比較すると、家事（炊事・洗濯・掃除など）では、男女ともに「共同して分担」は和光市が埼玉県を上回り、「主として女性」は和光市が埼玉県を下回っている。子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）、介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）、家計の管理では、男女ともに「主として女性」は和光市が埼玉県を下回っているものの、「共同して分担」も和光市が埼玉県を下回っている。地域の行事への参加では、男女ともに「主として女性」は和光市が埼玉県を上回り、「主として男性」、「共同して分担」は和光市が埼玉県を下回っている。自治会、PTA活動では、男女ともに「共同して分担」は和光市が埼玉県を下回っている。生活費の確保では、男女ともに「主として男性」は和光市が埼玉県を上回っている。「重大事項の決定（高額な商品や土地、家屋の購入など）」では、男女ともに「共同して分担」は和光市が埼玉県を上回っている。（図表2-11）

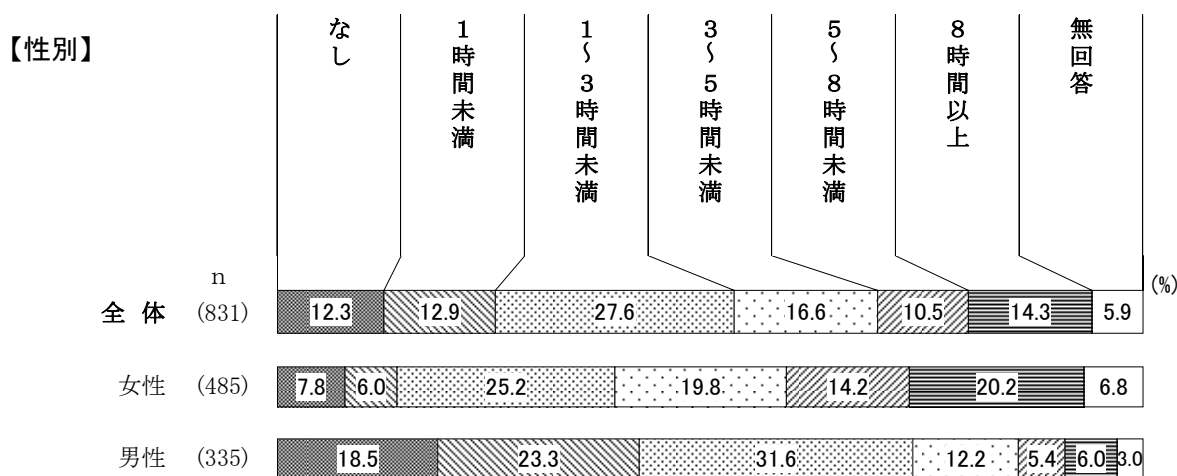
(2) 平日や休日に家事にかかわる時間

問7 あなたが平日や休日に、家事・子育て・介護にかかわる時間はどのくらいですか。
(○はそれぞれ1つずつ)

図表2-12 平日に家事・子育て・介護にかかわる時間

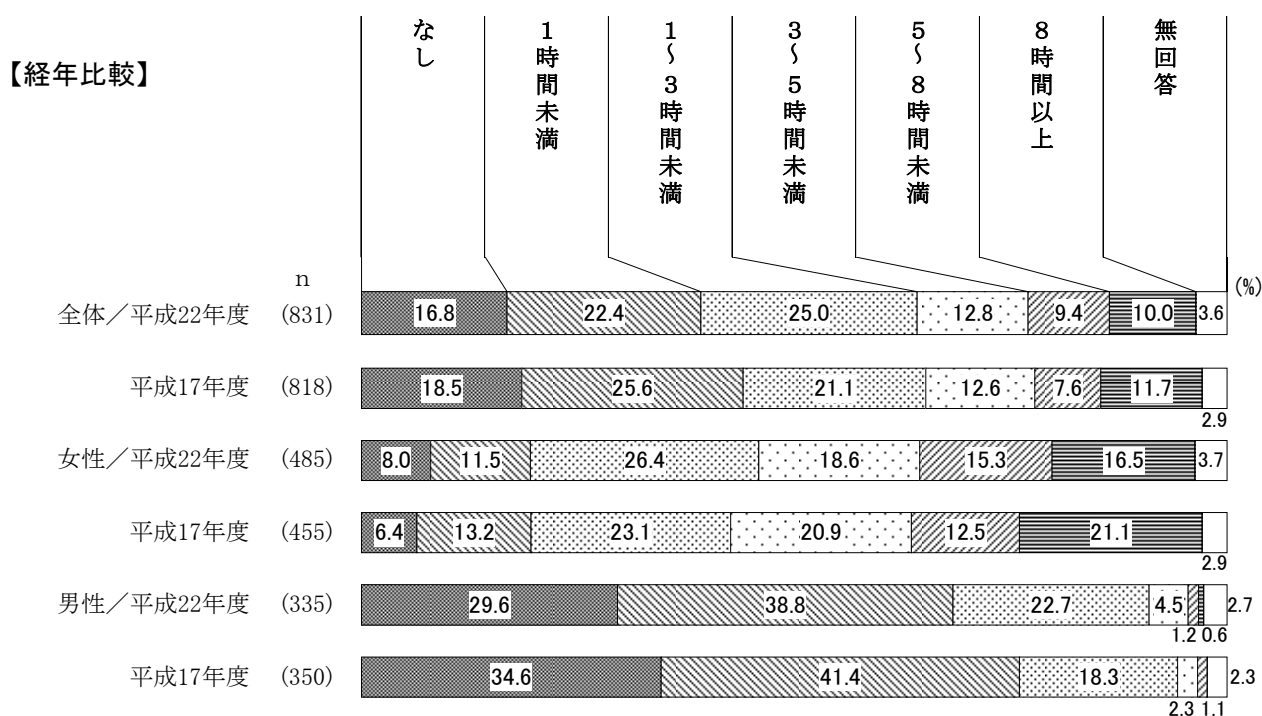


図表2-13 休日に家事・子育て・介護にかかわる時間

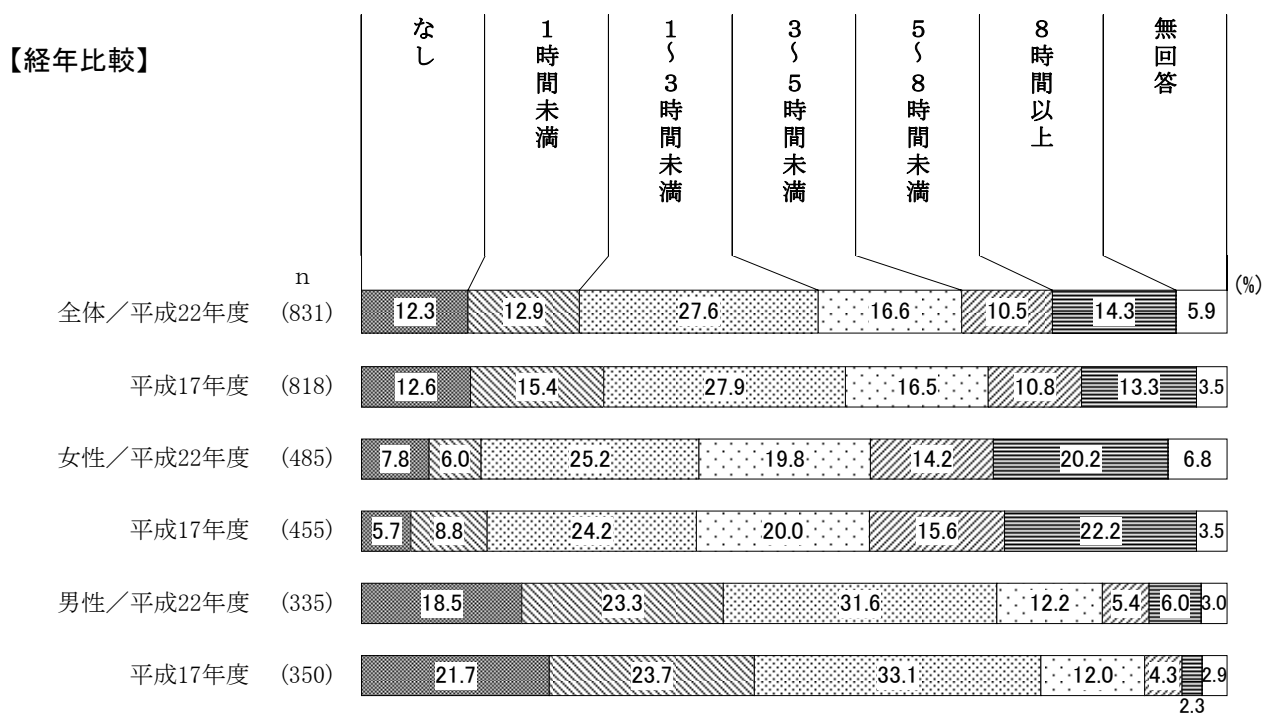


平日に家事・子育て・介護にかかわる時間は、女性では「1〜3時間未満」(26.4%)が最も高いが、「3〜5時間未満」(18.6%)、「8時間以上」(16.5%)も高くなっている。一方、男性では「1時間未満」(38.8%)、「なし」(29.6%)が高くなっている。休日についても、女性では「1〜3時間未満」(25.2%)、「8時間以上」(20.2%)、「3〜5時間未満」(19.8%)が高く、男性では「1〜3時間未満」(31.6%)、「1時間未満」(23.3%)、「なし」(18.5%)が高くなっている。(図表2-12、図表2-13)

図表2-14 平日に家事・子育て・介護にかかわる時間

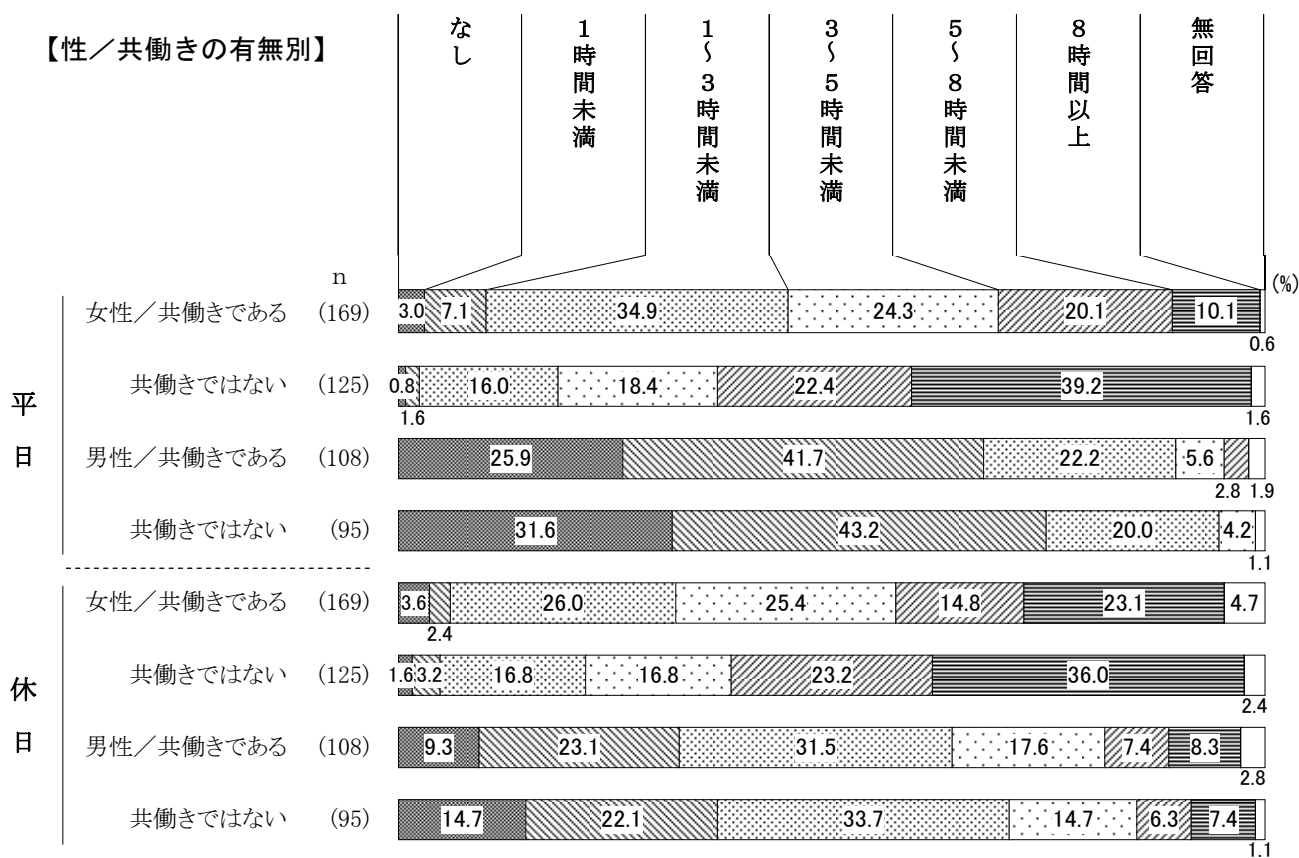


図表2-15 休日に家事・子育て・介護にかかわる時間



平成17年度調査と比較すると、平日に家事・子育て・介護にかかわる時間は、女性では「1～3時間未満」、「5～8時間未満」が僅かに増加し、「8時間以上」がやや減少している。一方、男性では「なし」がやや減少、「1時間未満」が僅かに減少し、「1～3時間未満」がやや増加している。休日については、女性では横ばいだが、男性では「なし」がやや減少し、「8時間以上」がやや増加している。(図表2-14、図表2-15)

図表2-16 平日や休日に家事・子育て・介護にかかわる時間

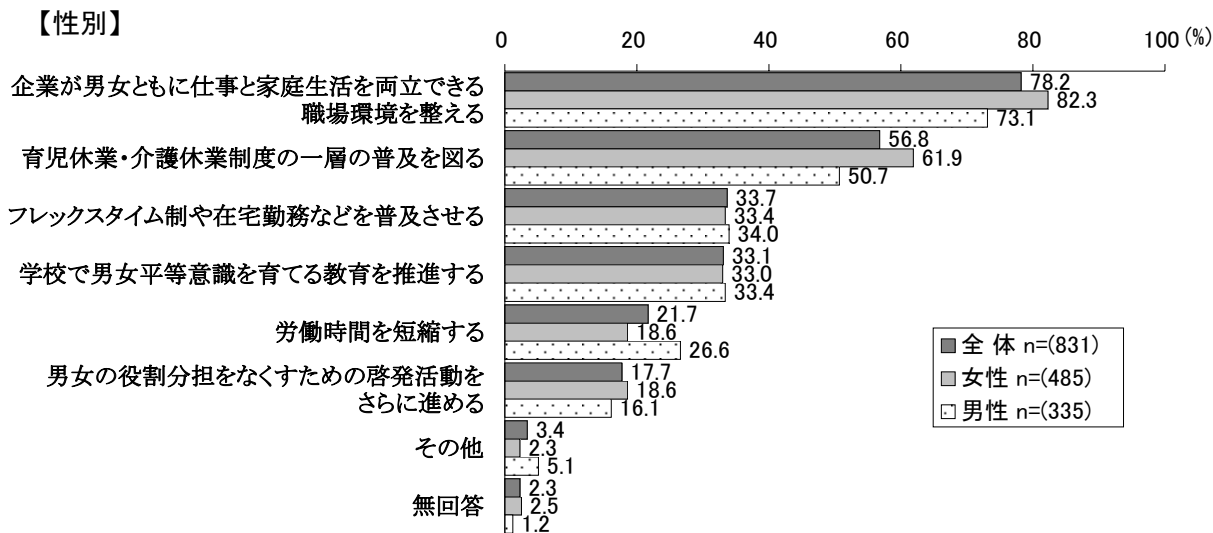


性／共働きの有無別で見ると、女性では、平日については「8時間以上」は共働きである人が共働きでない人を大きく下回り、「1～3時間未満」は共働きである人が共働きでない人を大きく上回っている。休日についても、「8時間以上」、「5～8時間未満」は共働きである人が共働きでない人を下回り、「1～3時間未満」、「3～5時間未満」は共働きである人が共働きでない人を上回っている。一方、男性では、平日、休日ともに「なし」は共働きである人が共働きでない人をやや下回っているが、それ以外では女性ほどの変化は見られない。(図表2-16)

(3) 男女がともに家事・子育て・介護へ参加するために必要だと思うこと

問8 今後、男女がともに、家事・子育て・介護に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表2-17 男女がともに家事・子育て・介護へ参加するために必要だと思うこと

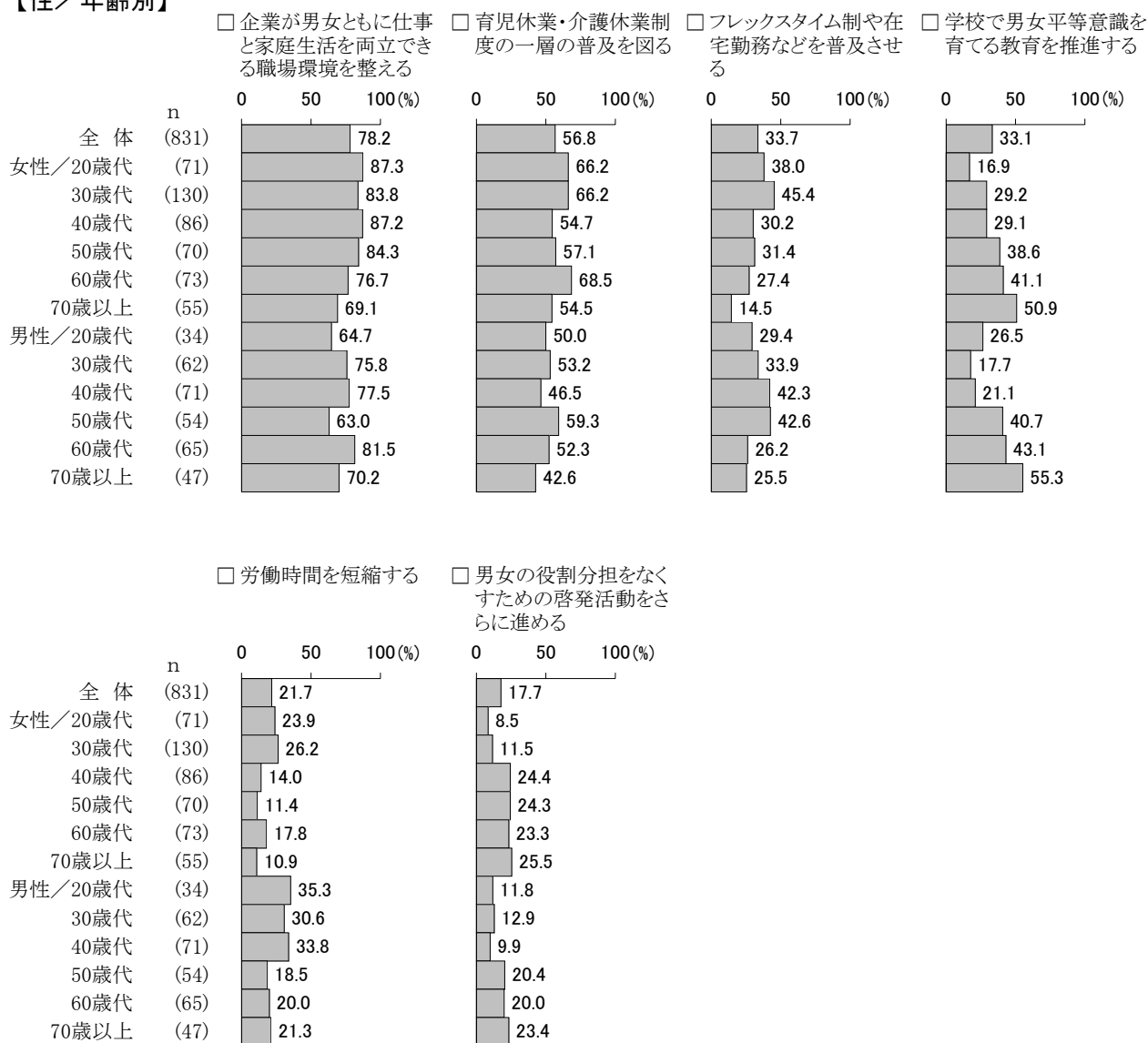


男女がともに家事・子育て・介護へ参加するために必要だと思うことは、「企業が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」が78.2%と最も多くなっている。次いで「育児休業・介護休業制度の一層の普及を図る」が56.8%、「フレックスタイム制や在宅勤務などを普及させる」が33.7%、「学校で男女平等意識を育てる教育を推進する」が33.1%となっている。

性別でみると、女性では「企業が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」(82.3%)、「育児休業・介護休業制度の一層の普及を図る」(61.9%)が男性に比べて高くなっている。一方、男性では「労働時間を短縮する」(26.6%)が女性に比べて高くなっている。(図表2-17)

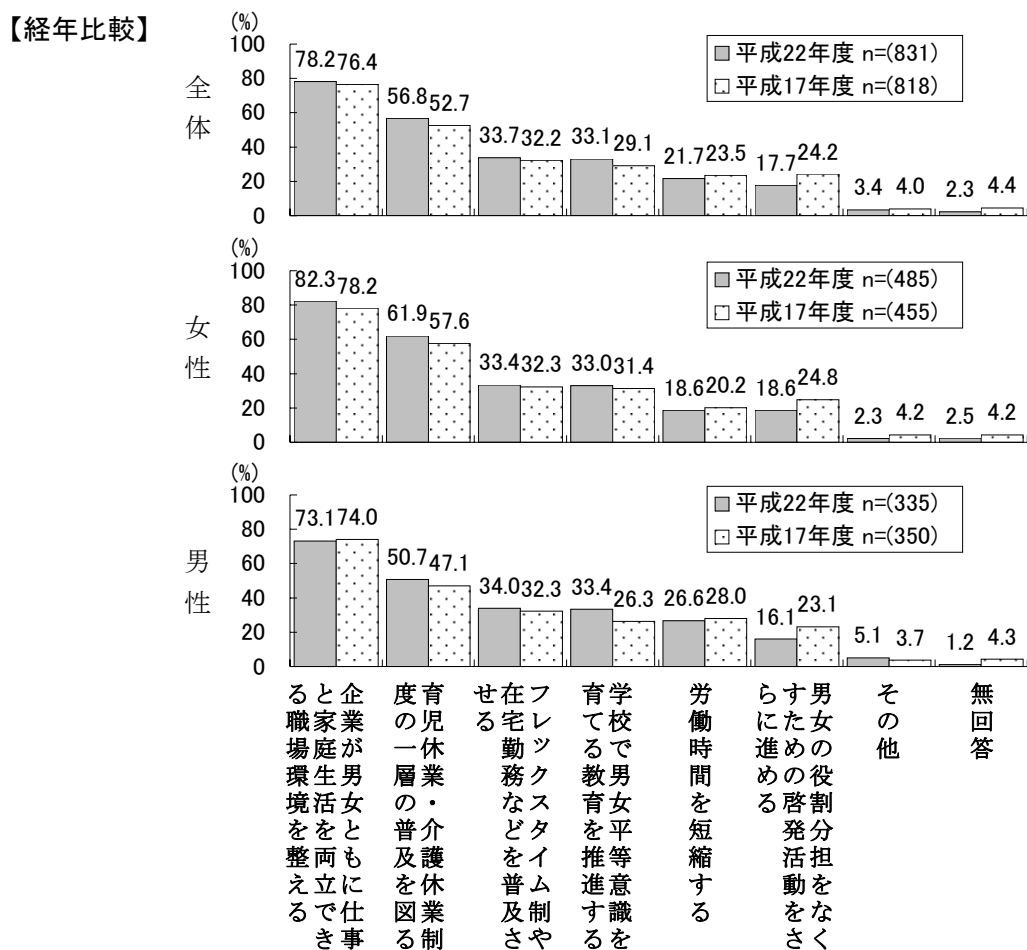
図表2-18 男女が家事・子育て・介護へ参加するために必要だと思うこと

【性／年齢別】



性／年齢別でみると、「企業が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」は、女性では20～50歳代で8割を超えている。男性では60歳代で8割を超えている。「育児休業・介護休業制度の一層の普及を図る」は、女性では60歳代で7割近く、20～30歳代で6割を超えている。男性では50歳代で6割近い。「フレックスタイム制や在宅勤務などを普及させる」は、女性では30歳代で4割台半ば、男性では40～50歳代で4割を超えている。「学校で男女平等意識を育てる教育を推進する」は、男女ともに70歳以上で過半数となっている。「労働時間を短縮する」は、男性の20～40歳代で3割を超えている。(図表2-18)

図表2-19 男女が家事・子育て・介護へ参加するために必要だと思うこと



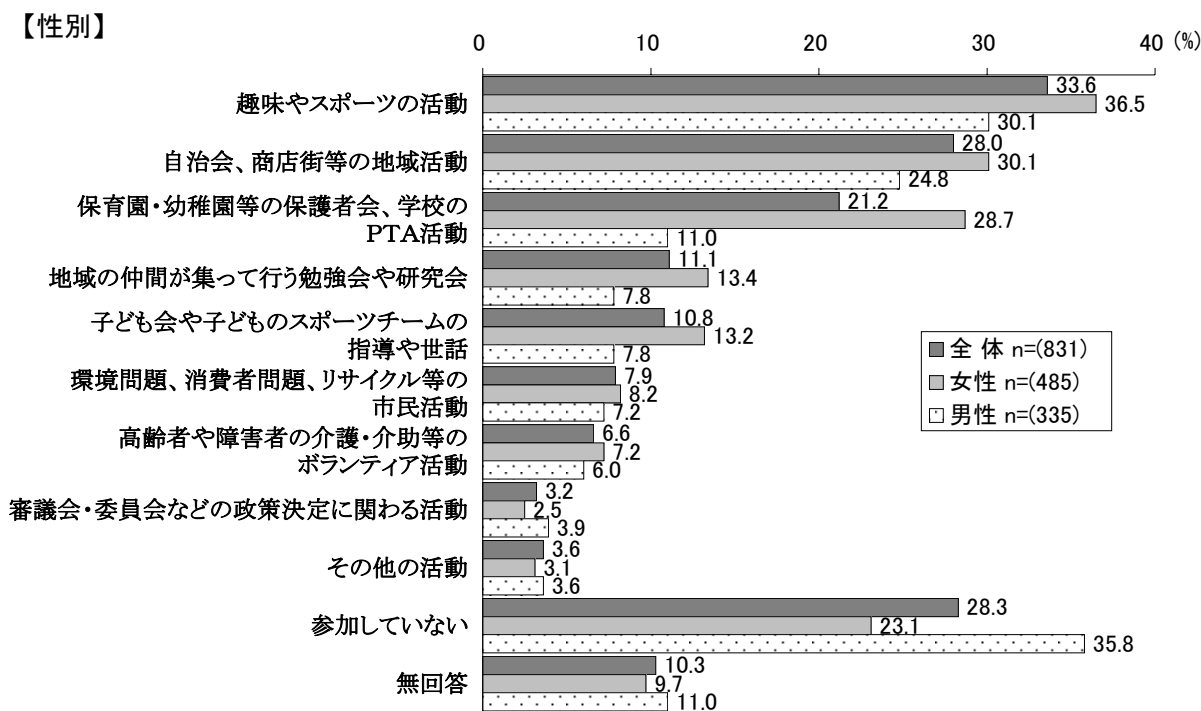
平成17年度調査と比較すると、「企業が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える」は女性でやや増加している。「育児休業・介護休業制度の一層の普及を図る」は男女ともにやや増加している。「学校で男女平等意識を育てる教育を推進する」は男性で増加している。(図表2-19)

3. 地域参加について

(1) 社会活動の参加実態と今後の参加意向

問9 あなたは、過去3年間に次のような活動に参加したことがありますか。また、今後参加してみたいですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-1 過去3年間に参加したことがある活動

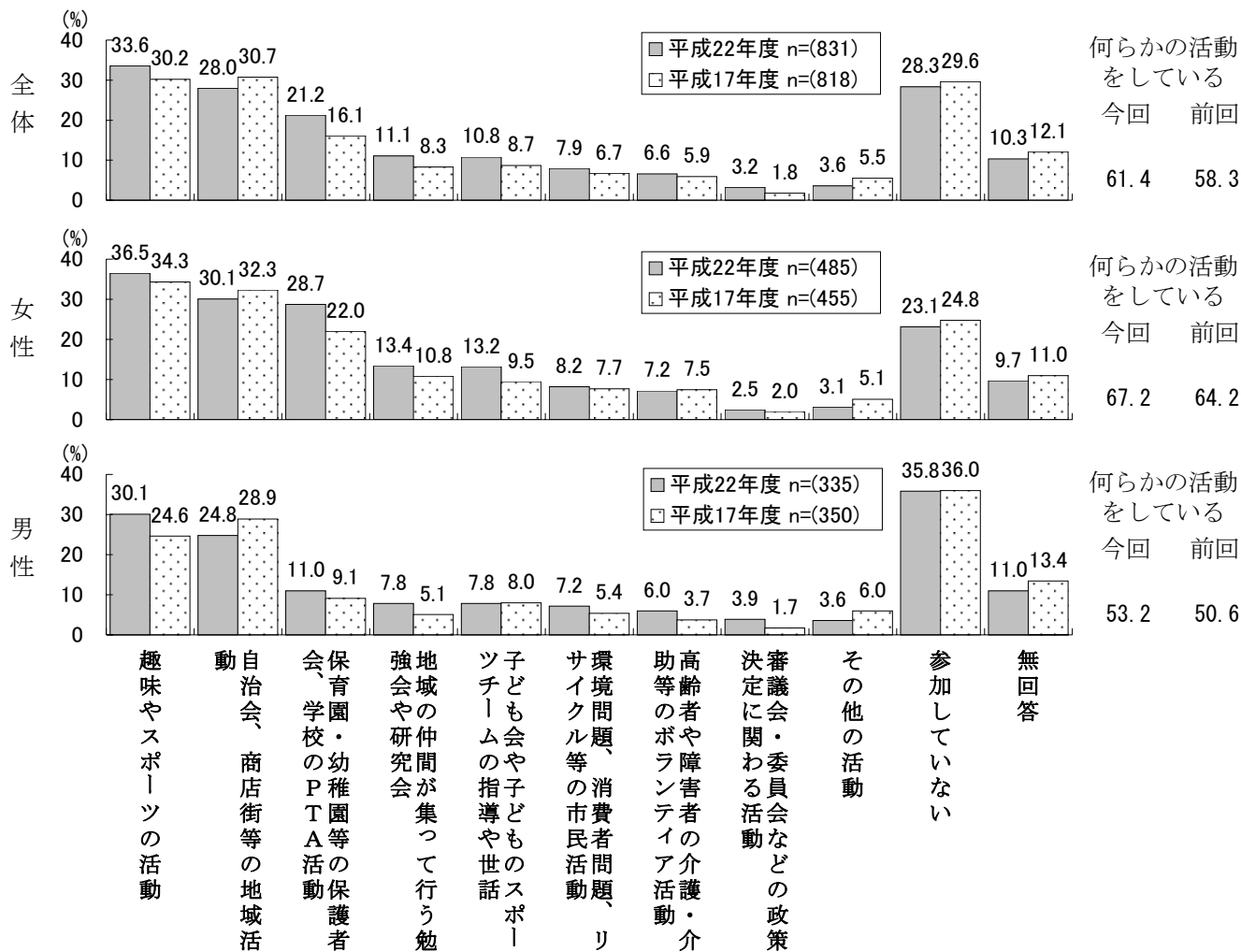


過去3年間に参加したことがある活動は、「趣味やスポーツの活動」が33.6%と最も多くなっている。次いで「自治会、商店街等の地域活動」が28.0%、「保育園・幼稚園等の保護者会、学校のPTA活動」が21.2%となっている。一方、「参加していない」は28.3%である。

性別で見ると、参加状況は全体的に女性が男性を上回っており、特に「趣味やスポーツの活動」(36.5%)、「保育園・幼稚園等の保護者会、学校のPTA活動」(28.7%)が男性に比べて高い。一方、男性では「参加していない」(35.8%)は男性が女性に比べて高くなっている。(図表3-1)

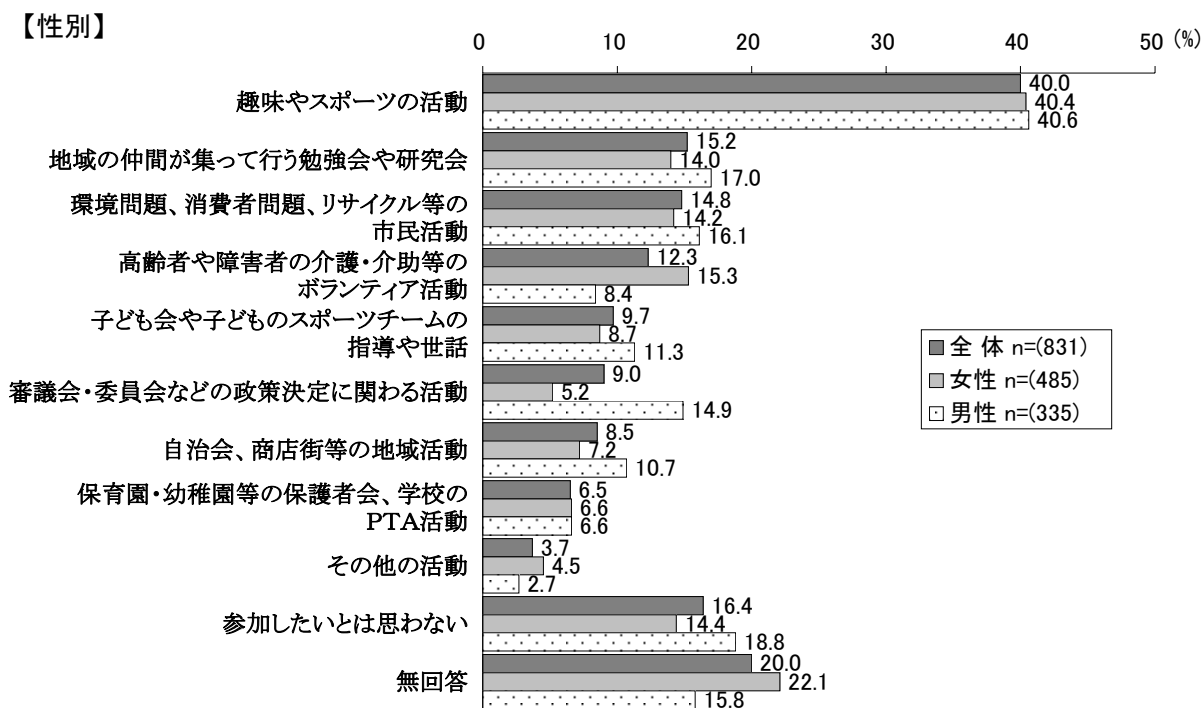
図表3-2 過去3年間に参加したことがある活動

【経年比較】



平成17年度調査と比較すると、「趣味やスポーツの活動」、「保育園・幼稚園等の保護者会、学校のPTA活動」、「地域の仲間が集って行う勉強会や研究会」は男女ともにやや増加している。「子ども会や子どものスポーツチームの指導や世話」は女性でやや増加している。「自治会、商店街等の地域活動」は男女ともにやや減少している。なお、何らかの活動をしている人の割合は、男女ともに僅かに増加している。(図表3-2)

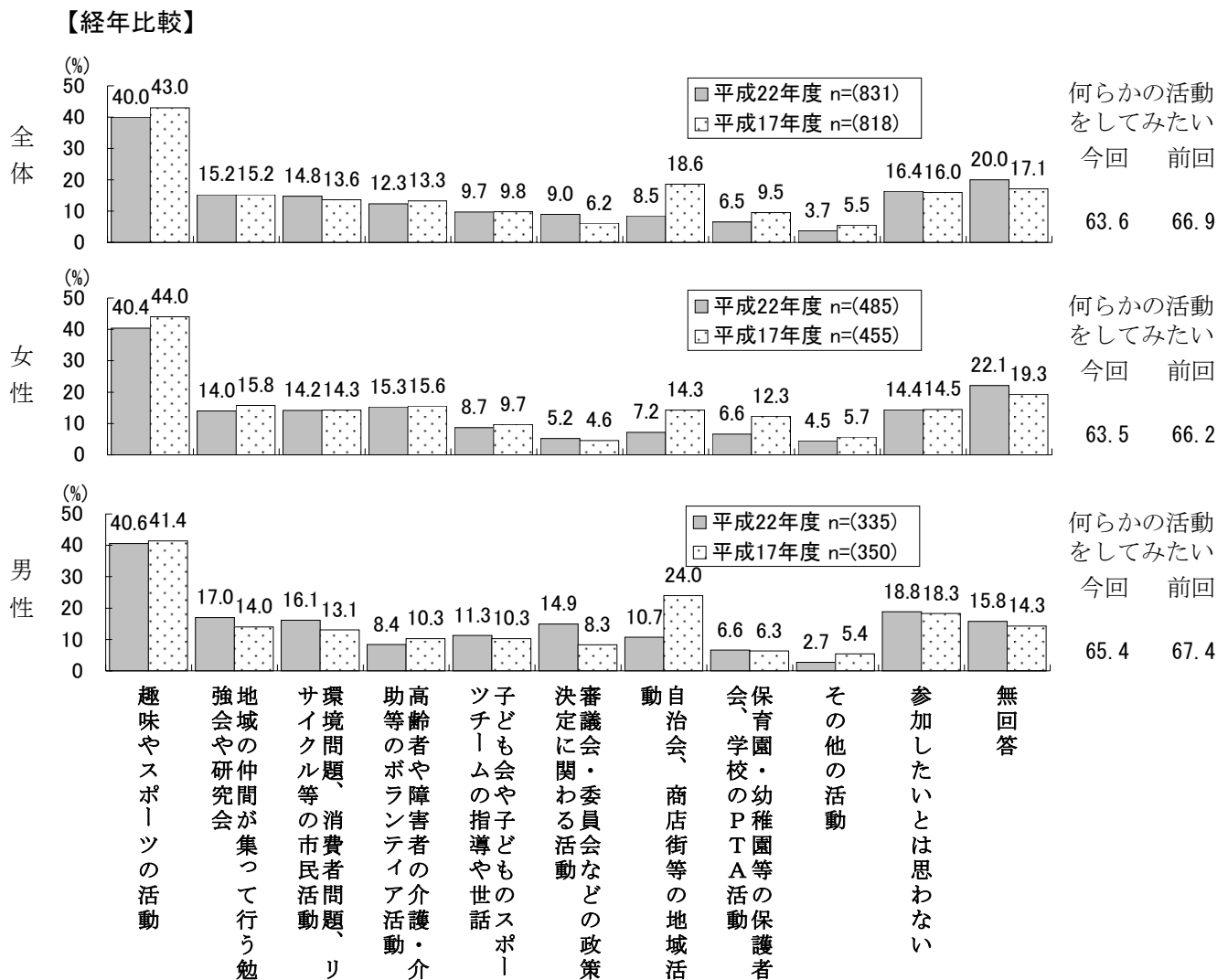
図表3-3 今後参加してみたい活動



今後参加してみたい活動は、「趣味やスポーツの活動」が40.0%と最も多くなっている。次いで「地域の仲間が集って行う勉強会や研究会」が15.2%、「環境問題、消費者問題、リサイクル等の市民活動」が14.8%、「高齢者や障害者の介護・介助等のボランティア活動」が12.3%となっている。一方、「参加したいとは思わない」は16.4%である。

性別でみると、女性では「高齢者や障害者の介護・介助等のボランティア活動」(15.3%)が男性に比べて高くなっている。男性では「審議会・委員会などの政策決定に関わる活動」(14.9%)が女性に比べて高くなっている。(図表3-3)

図表3-4 今後参加してみたい活動



平成17年度調査と比較すると、「審議会・委員会などの政策決定に関わる活動」は男性で増加している。「趣味やスポーツの活動」、「保育園・幼稚園等の保護者会、学校のPTA活動」は女性で減少している。「自治会、商店街等の地域活動」は男女ともに減少している。なお、何らかの活動をしてみたい人の割合は、男女ともに僅かに減少している。(図表3-4)

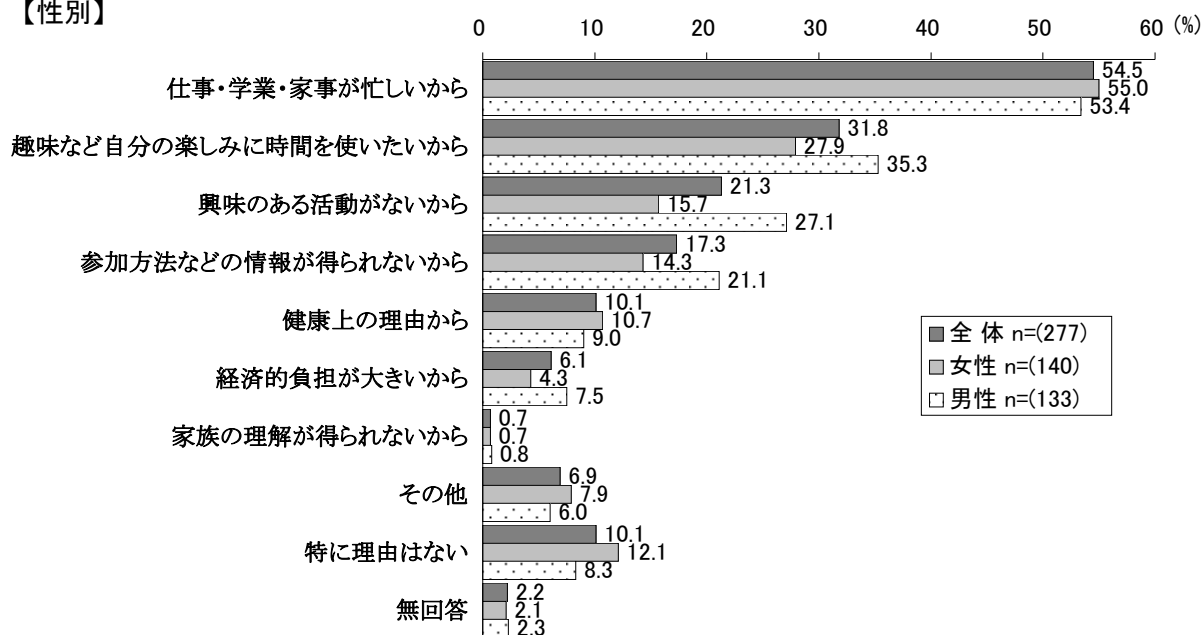
(2) 活動に参加していない・参加したいと思わない理由

【問9でアとイのいずれかで「10」と回答された方のみにおたずねします。】

問9-1 活動に参加していない・参加したいと思わない理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表3-5 活動に参加していない・参加したいと思わない理由

【性別】

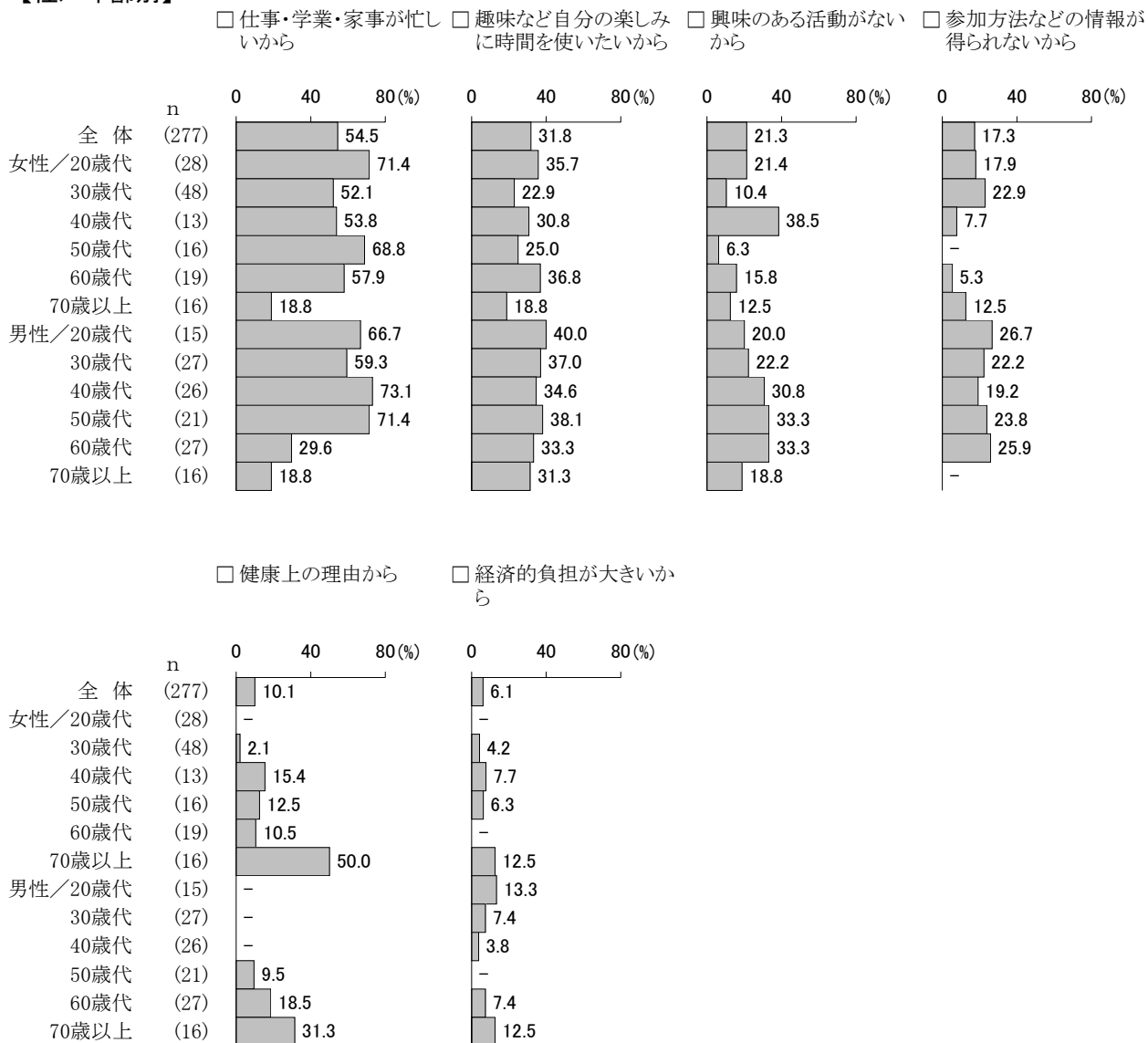


活動に参加していない・参加したいと思わない理由としては、「仕事・学業・家事が忙しいから」が54.5%と最も多くなっている。次いで「趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから」が31.8%、「興味のある活動がないから」が21.3%となっている。

性別でみると、「仕事・学業・家事が忙しいから」は男女ともに過半数と高くなっている。男性では「趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから」(35.3%)、「興味のある活動がないから」(27.1%)、「参加方法などの情報が得られないから」(21.1%)が女性に比べて高くなっている。(図表3-5)

図表3-6 活動に参加していない・参加したいと思わない理由（上位6項目）

【性／年齢別】

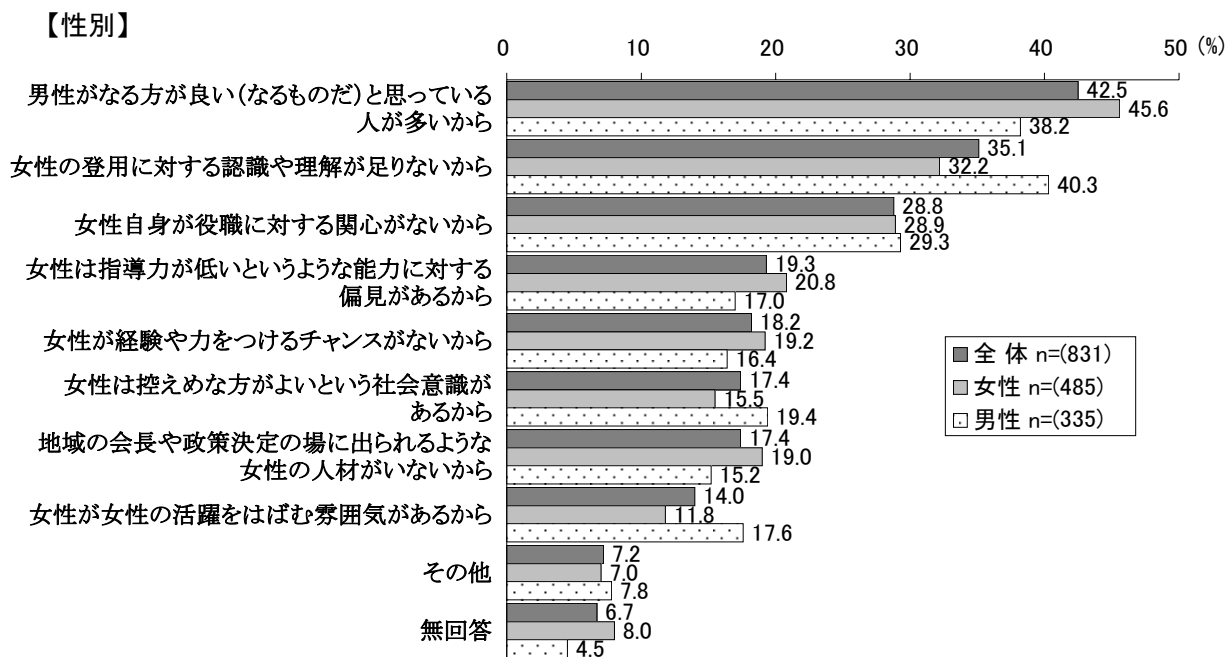


性／年齢別でみると、該当者が少ないため参考程度とするが、「仕事・学業・家事が忙しいから」は、女性では20歳代で7割を超えている。男性では40～50歳代で7割を超えている。「興味のある活動がないから」は、男性では40～60歳代で3割を超えている。（図表3-6）

(3) 自治会等の役職、議員、行政委員における女性の役割が低い理由

問10 現在、自治会、PTAなどの役職、議員や行政委員（審議会・委員会など）における女性の割合が低い傾向にありますが、その理由は何だと思えますか。（〇は3つまで）

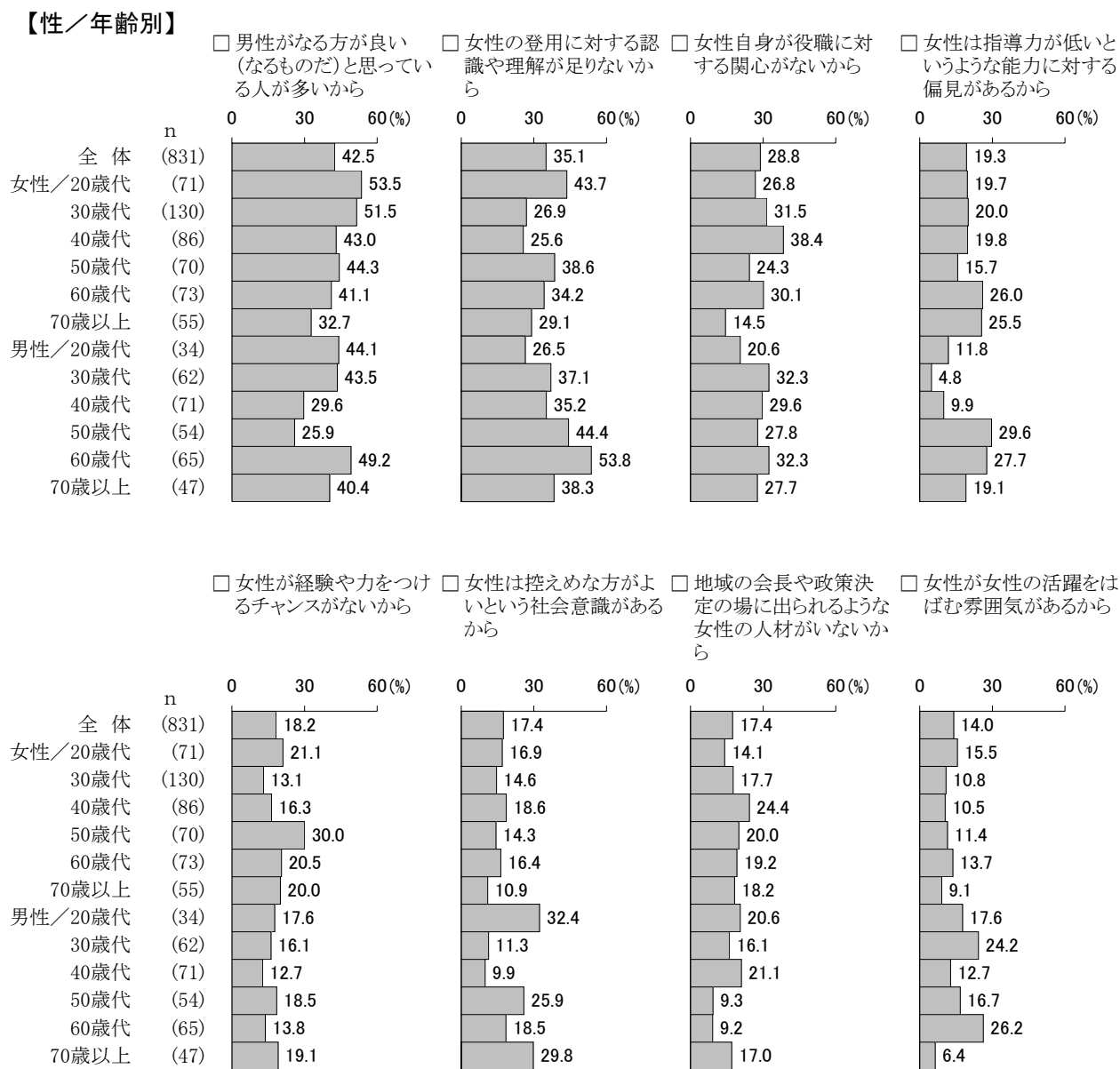
図表3-7 自治会等の役職、議員、行政委員における女性の役割が低い理由



自治会等の役職、議員、行政委員における女性の役割が低い理由としては、「男性になる方が良い(なるものだ)と思っている人が多いから」が42.5%と最も多くなっている。次いで「女性の登用に対する認識や理解が足りないから」が35.1%、「女性自身が役職に対する関心がないから」が28.8%となっている。

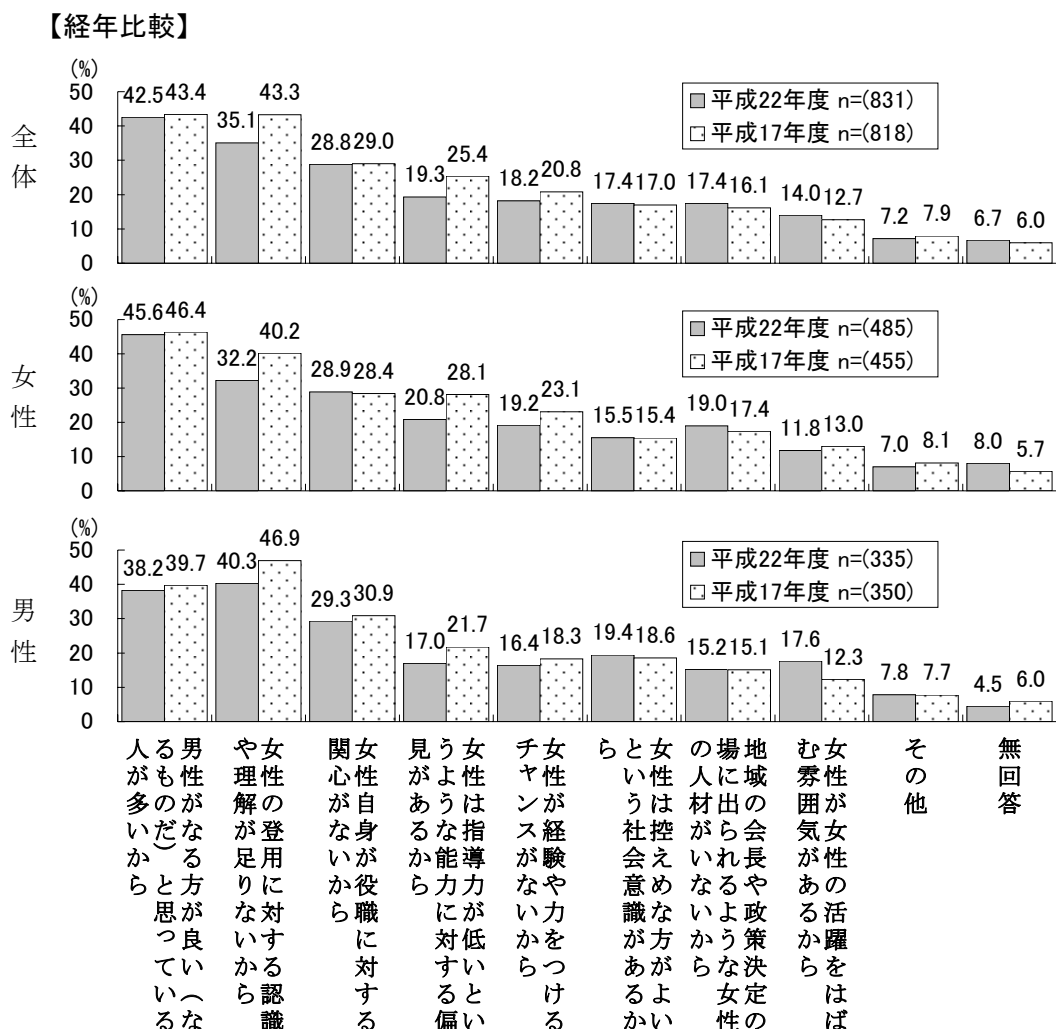
性別で見ると、女性では「男性になる方が良い(なるものだ)と思っている人が多いから」(45.6%)が男性に比べて高くなっている。男性では「女性の登用に対する認識や理解が足りないから」(40.3%)が女性に比べて高くなっている。(図表3-7)

図表3-8 自治会等の役職、議員、行政委員における女性の役割が低い理由



性／年齢別でみると、「男性がなる方が良い（なるものだ）と思っている人が多いから」は女性では20～30歳代で過半数となっている。男性では60歳代で約半数である。「女性の登用に対する認識や理解が足りないから」は女性では20歳代で4割を超えている。男性では60歳代で過半数となっている。「女性自身が役職に対する関心がないから」は女性では40歳代で4割近くとなっている。男性では30歳代と60歳代で3割を超えている。「女性は指導力が低いというような能力に対する偏見があるから」は女性では60歳以上で2割台半ば、男性では50歳代で約3割となっている。「女性が経験や力をつけるチャンスがないから」は女性では50歳代で3割となっている。「女性は控えめな方がよいという社会意識があるから」は男性では20歳代で3割を超え、70歳以上では約3割となっている。（図表3-8）

図表3-9 自治会等の役職、議員、行政委員における女性の役割が低い理由



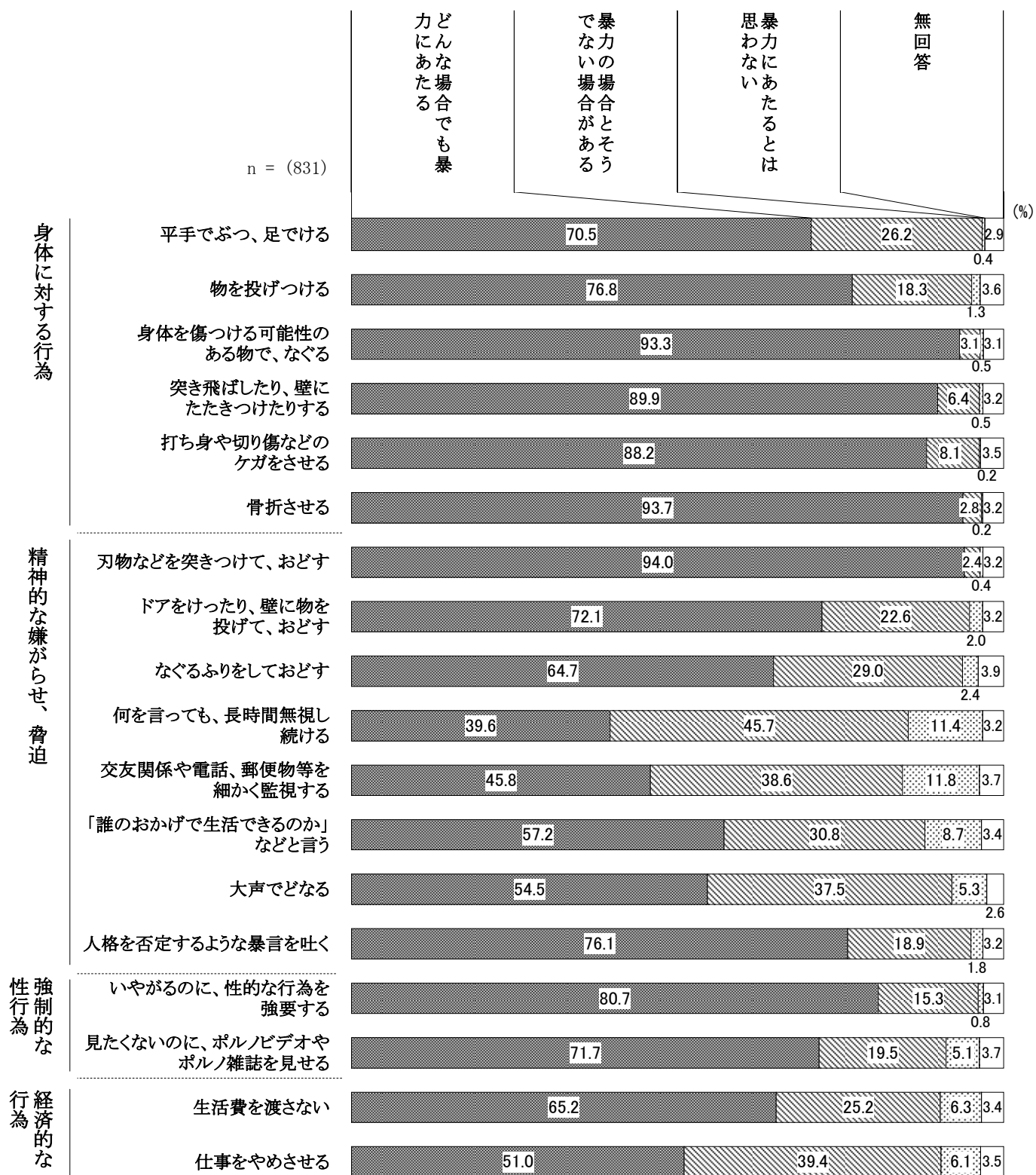
平成17年度調査と比較すると、「女性の登用に対する認識や理解が足りないから」、「女性は指導力が低い」というような能力に対する偏見があるから」は男女ともに減少している。「女性が女性の活躍を促す雰囲気があるから」は男性でやや増加している。(図表3-9)

4. 配偶者や恋人からの暴力について

(1) 夫婦・恋人間の暴力と認識される行為

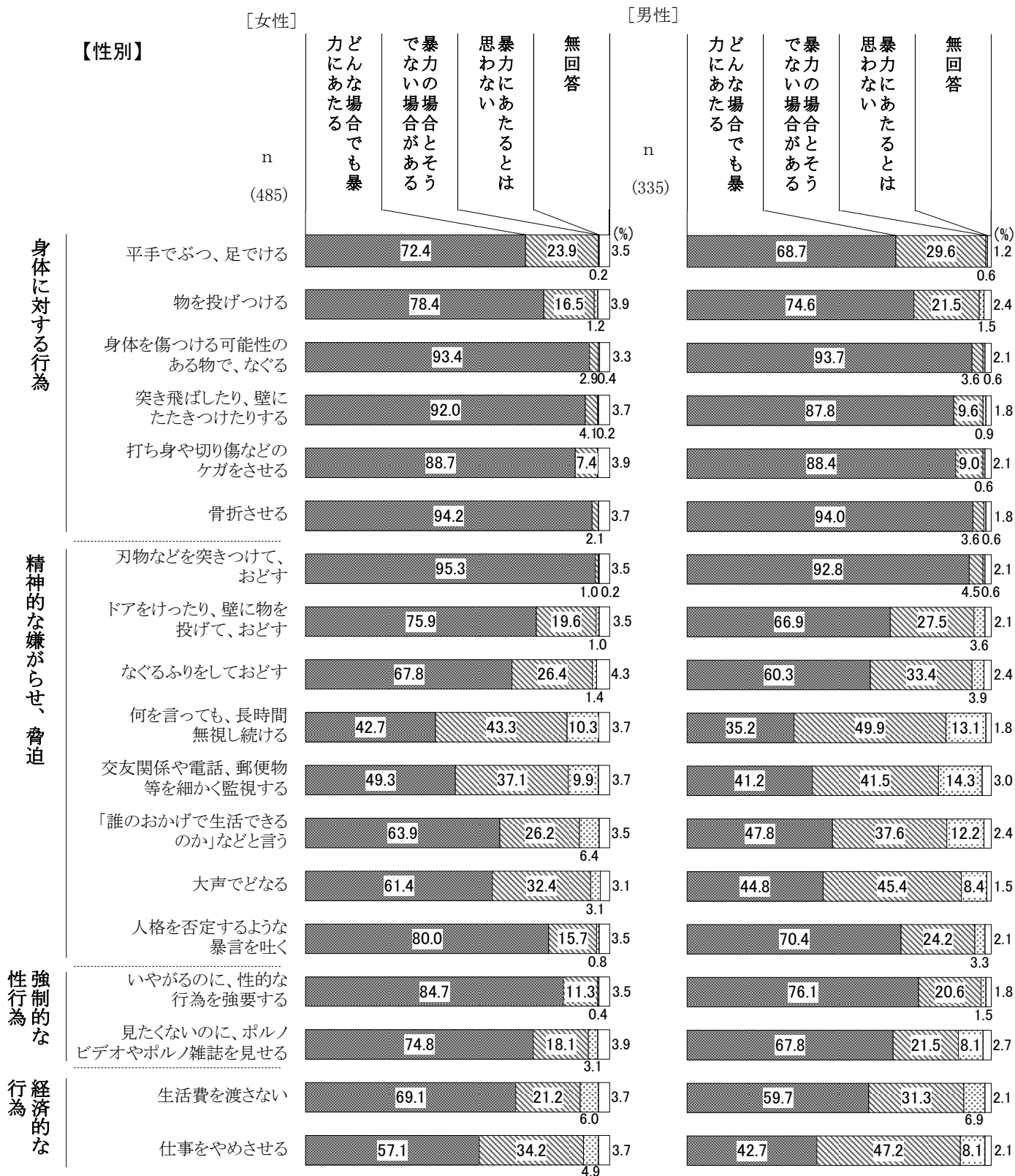
問11 あなたは、次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）

図表4-1 夫婦・恋人間の暴力と認識される行為



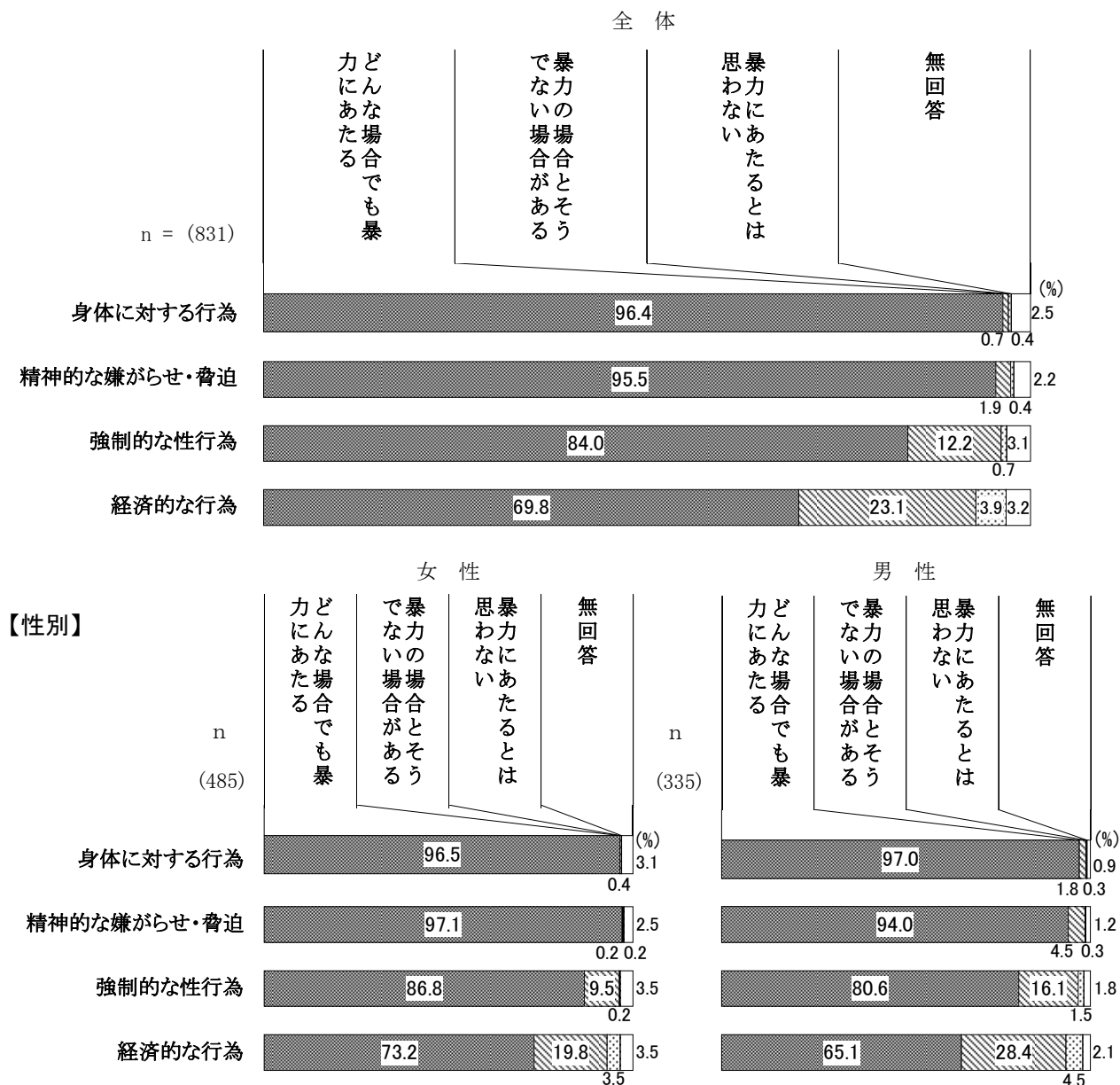
夫婦・恋人間の暴力と認識される行為を聞いたところ、「どんな場合でも暴力にあたる」は『身体に対する行為』では身体を傷つける可能性のある物で、なぐる、『精神的な嫌がらせ、脅迫』では刃物などを突きつけて、おどす、『強制的な性行為』ではいやがるのに、性的な行為を強要する、『経済的な行為』では生活費を渡さないが多くなっている。(図表4-1)

図表4-2 夫婦・恋人間の暴力と認識される行為



性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、『身体に対する行為』の身体を傷つける可能性のある物で、なぐる、骨折させる、『精神的な嫌がらせ、脅迫』の刃物などを突きつけて、おどすで、男女ともに9割を超えている。また、「どんな場合でも暴力にあたる」は、『身体に対する行為』の身体を傷つける可能性のある物で、なぐるを除くすべての項目で、女性が男性を上回っており、『精神的な嫌がらせ、脅迫』の大声でどなる、「誰のおかげで生活できるのか」などと言う、『経済的な行為』の仕事をやめさせるで、男女の差が比較的大きくなっている。(図表4-2)

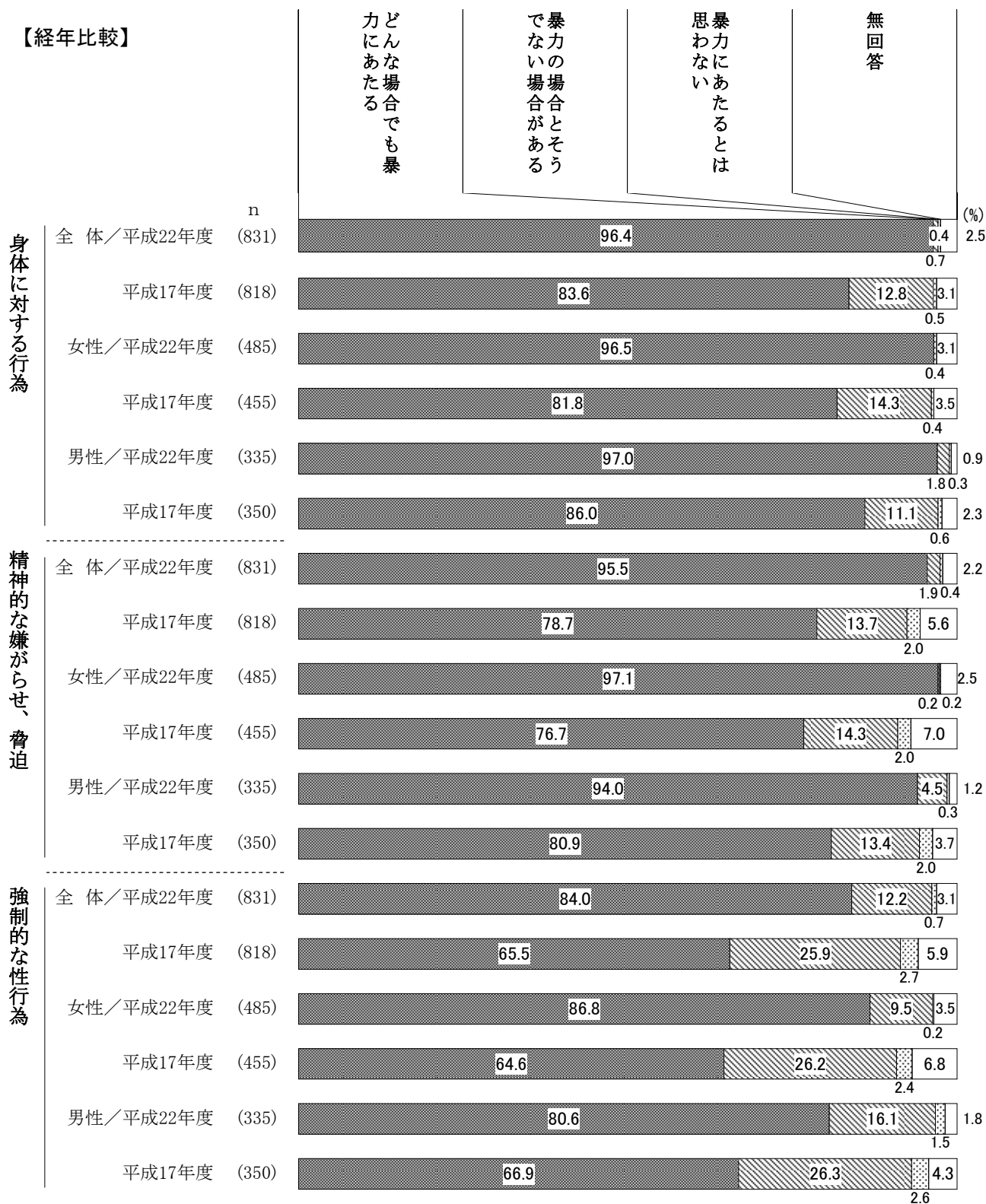
図表4-3 夫婦・恋人間の暴力と認識される行為(まとめ)



夫婦・恋人間の暴力と認識される行為について、『身体に対する行為』、『精神的な嫌がらせ、脅迫』、『強制的な性行為』、『経済的な行為』の4つの行為にまとめた。全体でみると、『身体に対する行為』、『精神的な嫌がらせ、脅迫』で「どんな場合でも暴力にあたる」が9割台半ばとなっている。

性別でみると、『身体に対する行為』、『精神的な嫌がらせ、脅迫』で男女ともに9割台半ばであるが、『経済的な行為』では、女性73.2%、男性65.1%と、女性が男性を上回っている。(図表4-3)

図表4-4 夫婦・恋人間の暴力と認識される行為（まとめ）



平成17年度調査と比較すると、すべての行為で「どんな場合でも暴力にあたる」が男女ともに大きく増加しており、特に『精神的な嫌がらせ、脅迫』、『強制的な性行為』で女性は20ポイント以上増加している。(図表4-4)

(2) 配偶者・恋人への加害経験の有無

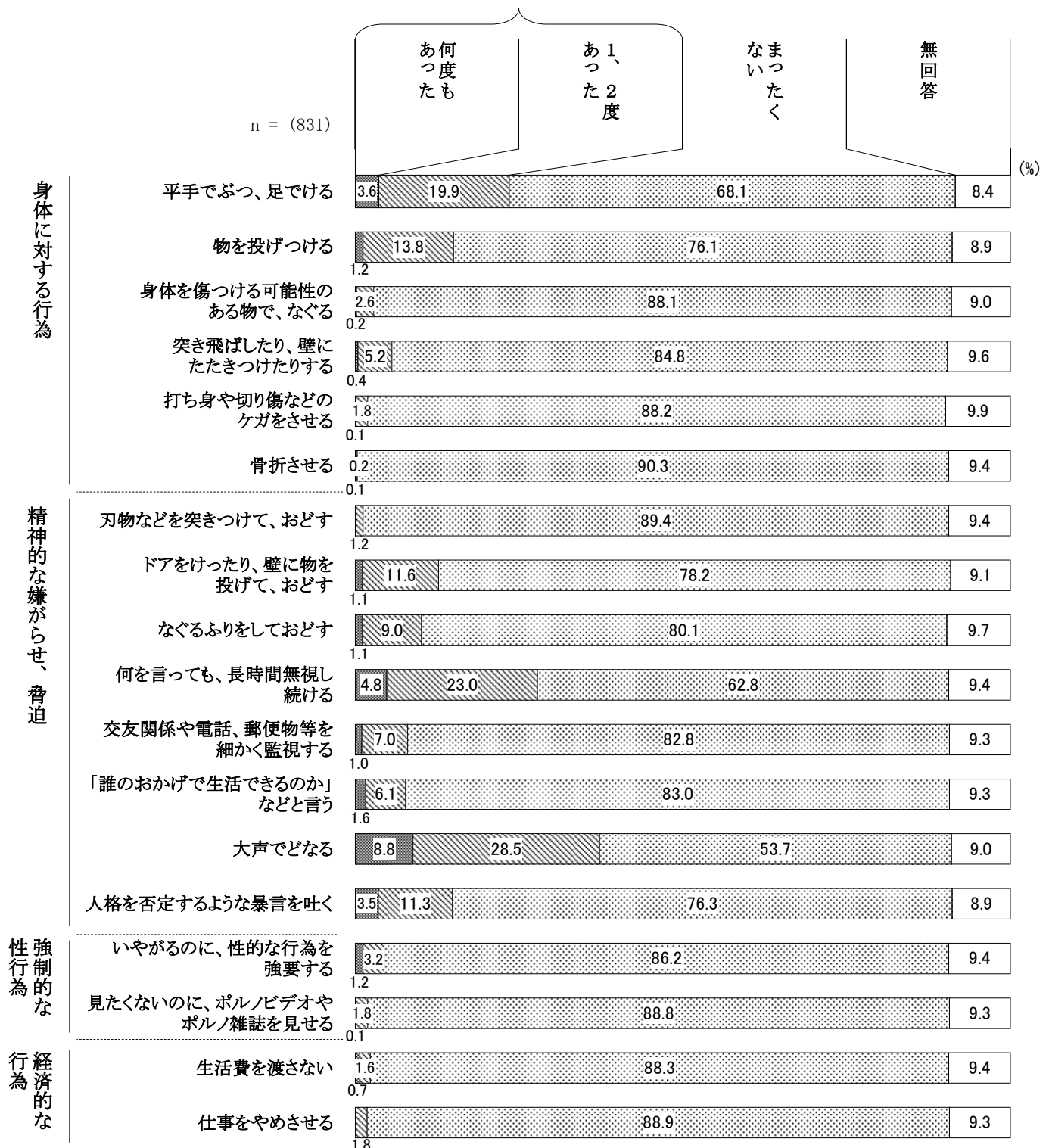
【問12から問13-8は、配偶者や恋人がいらっしゃる方（過去にいらっしゃった方）に伺います】

〔ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。〕

問12 これまでに、あなたの配偶者や恋人に対して次のような行為をしたことがありますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

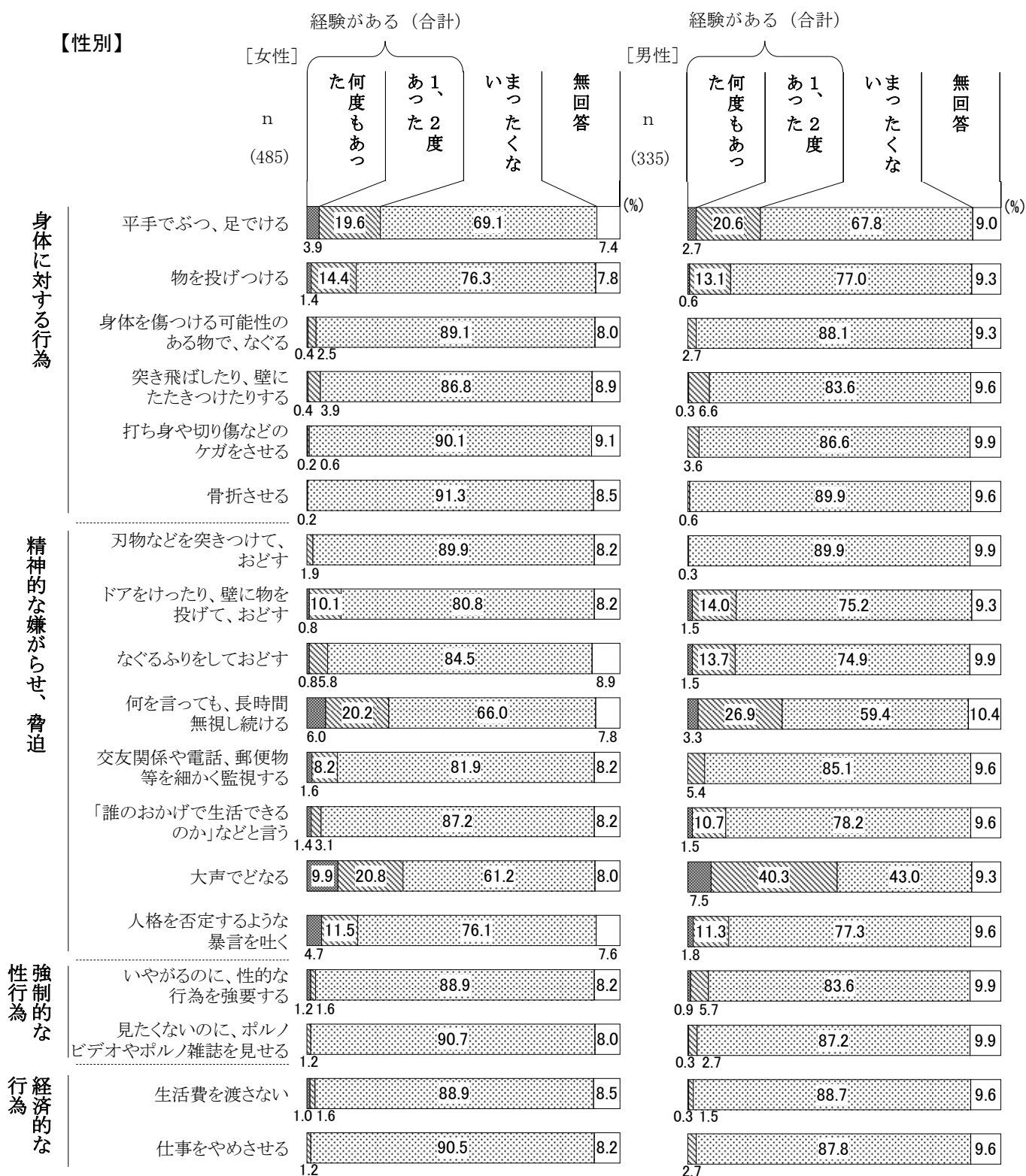
図表4-5 配偶者・恋人への加害経験の有無

経験がある（合計）



配偶者・恋人への加害経験を聞いたところ、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた「経験がある（合計）」は『身体に対する行為』では平手でぶつ、足でける、物を投げつける、『精神的な嫌がらせ、脅迫』では大声でどなる、何を言っても、長時間無視し続ける、『強制的な性行為』ではいやがるのに、性的な行為を強要する、『経済的な行為』では生活費を渡さないが多くなっている。（図表4-5）

図表4-6 配偶者・恋人への加害経験の有無



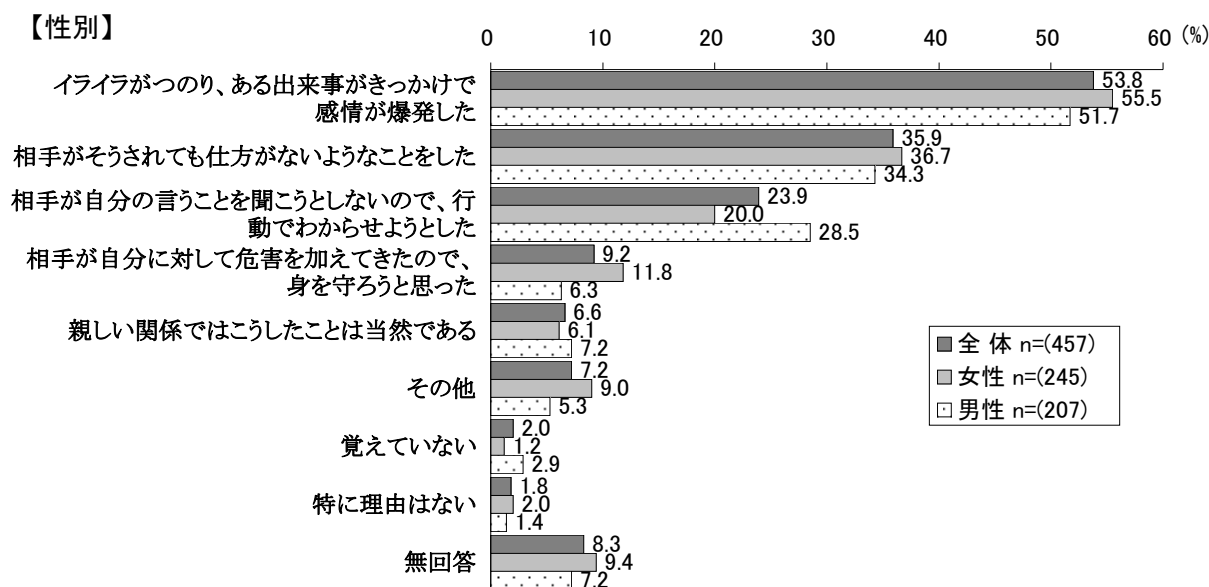
第2章 市民意識調査結果の分析

性別でみると、《経験がある（合計）》は、男性では『精神的な嫌がらせ、脅迫』の大声でどなるで半数近く、女性に比べて高くなっている。また、《経験がある（合計）》は、男性が女性を上回っている項目が多く、『精神的な嫌がらせ、脅迫』のなぐるふりをしておどす、「誰のおかげで生活できるのか」などと言うで、男女の差が比較的大きくなっている。（図表4-6）

(3) 加害行為に至ったきっかけ

【問12で1つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答された方のみにおたずねします。】
 問12-1 あなたが問12であげたような行為をするに至ったきっかけは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

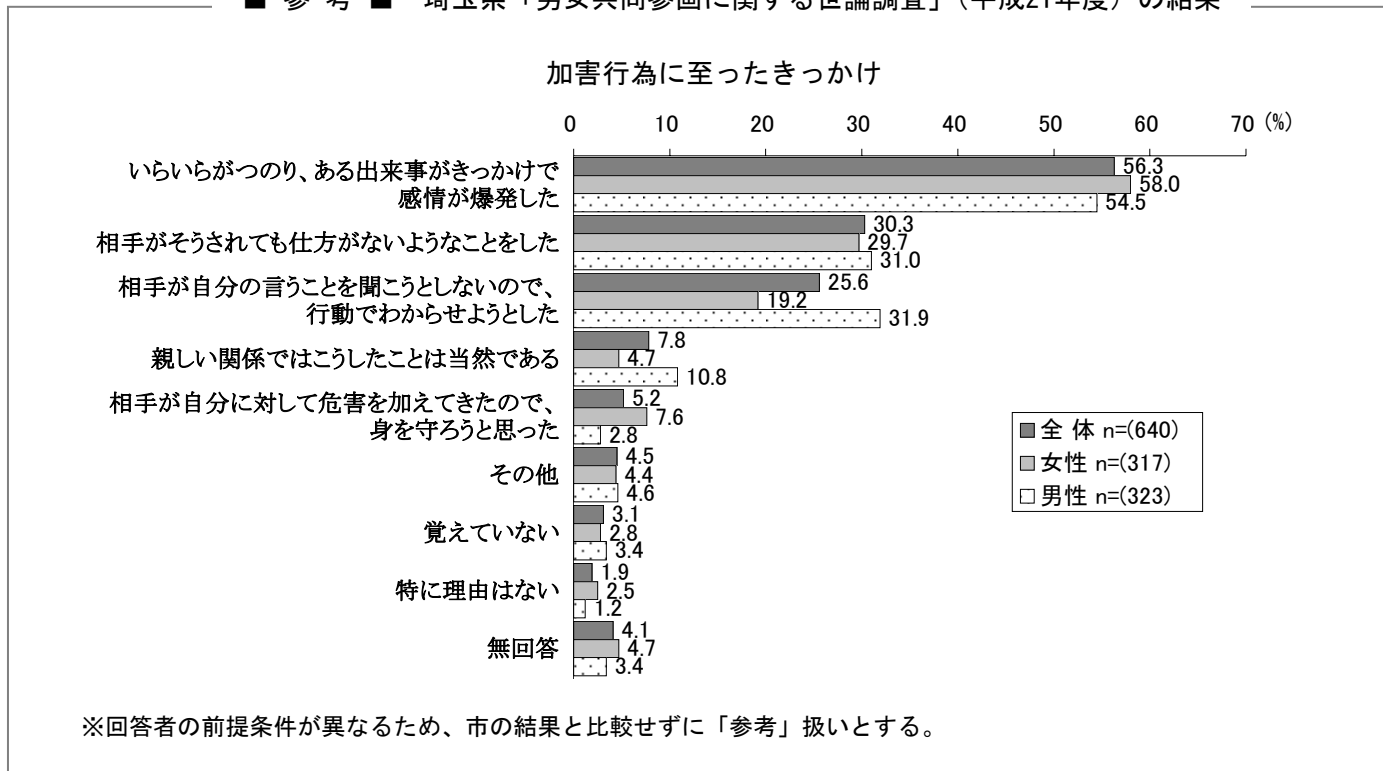
図表4-7 加害行為に至ったきっかけ



加害行為に至ったきっかけを聞いたところ、「イライラがつり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が53.8%と最も多くなっている。次いで「相手がそうされても仕方がないようなことをした」が35.9%、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」が23.9%となっている。

性別で見ると、女性では「相手が自分に対して危害を加えてきたので、身を守ろうと思った」(11.8%)が男性に比べてやや高くなっている。男性では「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」(28.5%)が女性に比べて高くなっている。(図表4-7)

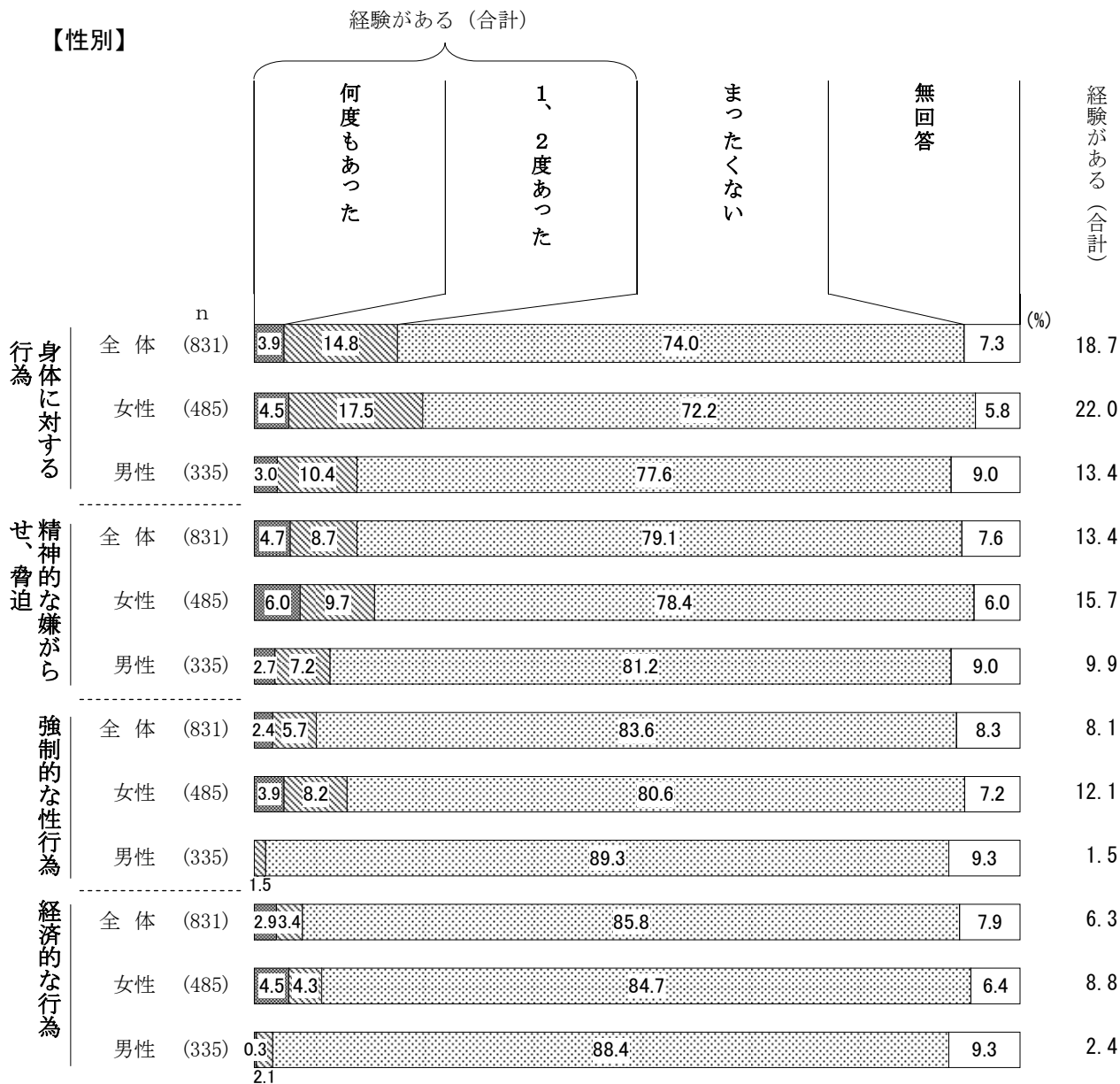
■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果



(4) 配偶者・恋人からの被害経験の有無

問13 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人から、次のような行為をされたことがありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

図表4-8 配偶者・恋人からの被害経験の有無



※説明を簡略化するため、以下のように各行為を略称している。

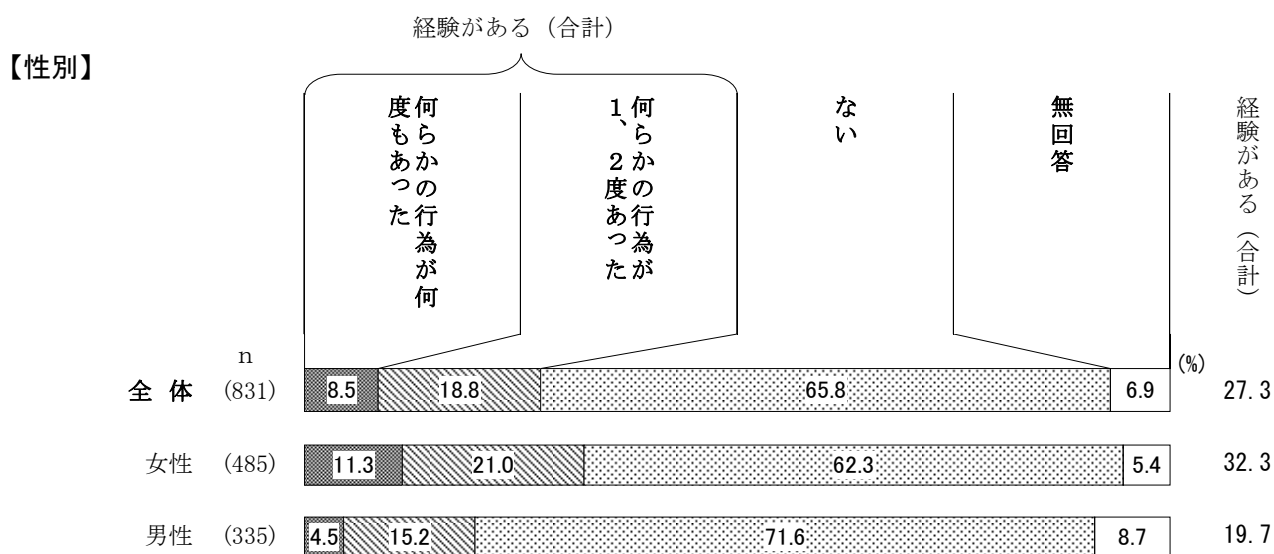
行為	略称
なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた	身体に対する行為
人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	精神的な嫌がらせ、脅迫
いやがっているのに、性的な行為を強要された	強制的な性行為
生活費を渡さない、お酒、ギャンブル、異性に生活費を使い込む、お金の使途を細かくチェックする、仕事をやめさせるなどの行為を受けた	経済的な行為

第2章 市民意識調査結果の分析

配偶者・恋人からの被害経験の有無を聞いたところ、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた《経験がある（合計）》は『身体に対する行為』18.7%、『精神的な嫌がらせ、脅迫』13.4%で多くなっている。

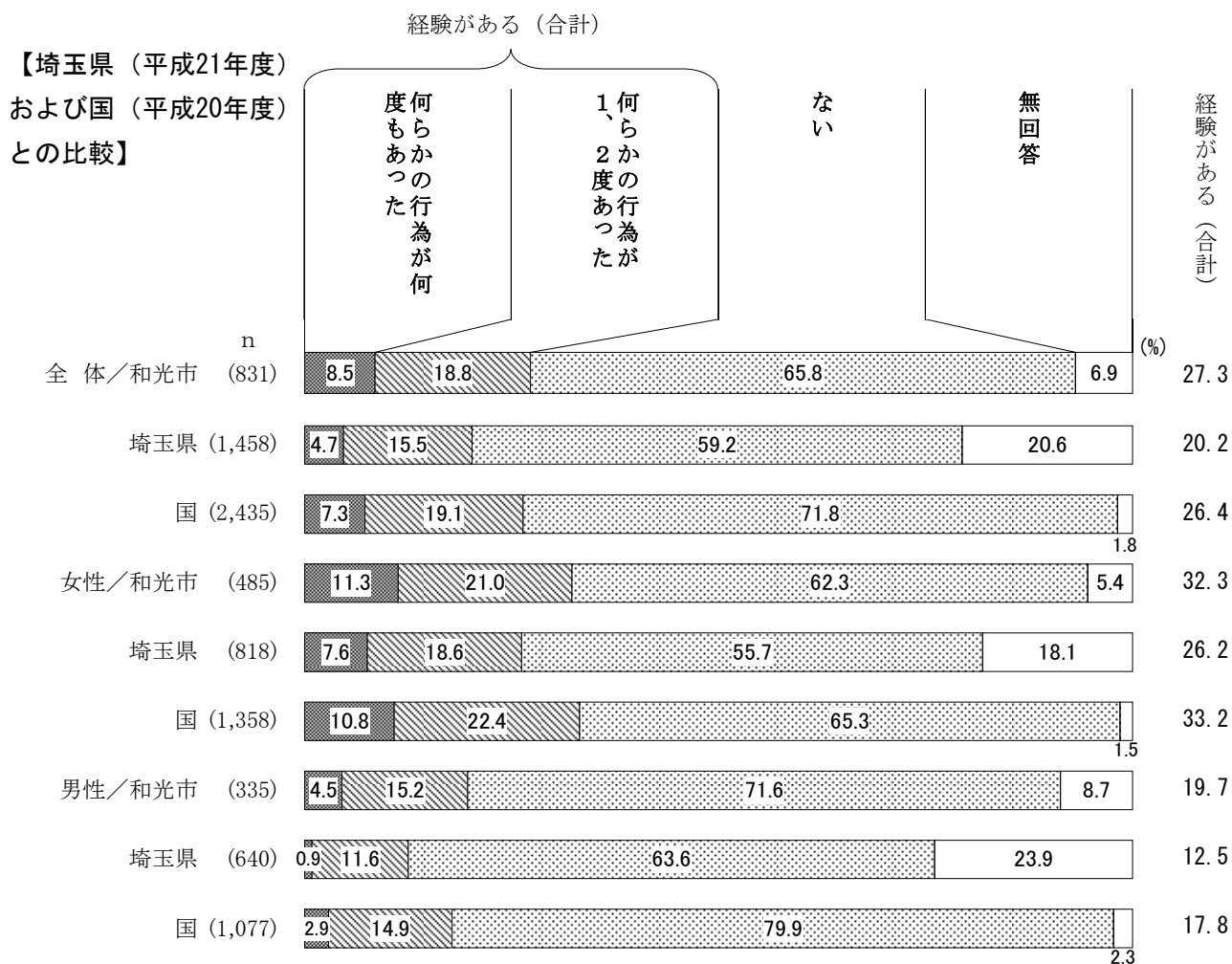
性別で見ると、《経験がある（合計）》は、女性では『身体に対する行為』で2割を超え、『精神的な嫌がらせ、脅迫』で1割台半ばとなっている。また、すべての項目において、《経験がある（合計）》は、女性が男性を上回っており、『身体に対する行為』、『強制的な性行為』で、男女の差が比較的大きくなっている。（図表4-8）

図表4-9 配偶者・恋人からの被害経験の有無（何らかの被害経験の有無）



4つの行為のうち、何らかの被害経験がある人をまとめたところ、「何らかの行為が何度もあった」、「何らかの行為が1、2度あった」を合わせた《経験がある（合計）》人は、全体で27.3%、女性で32.3%となっている。（図表4-9）

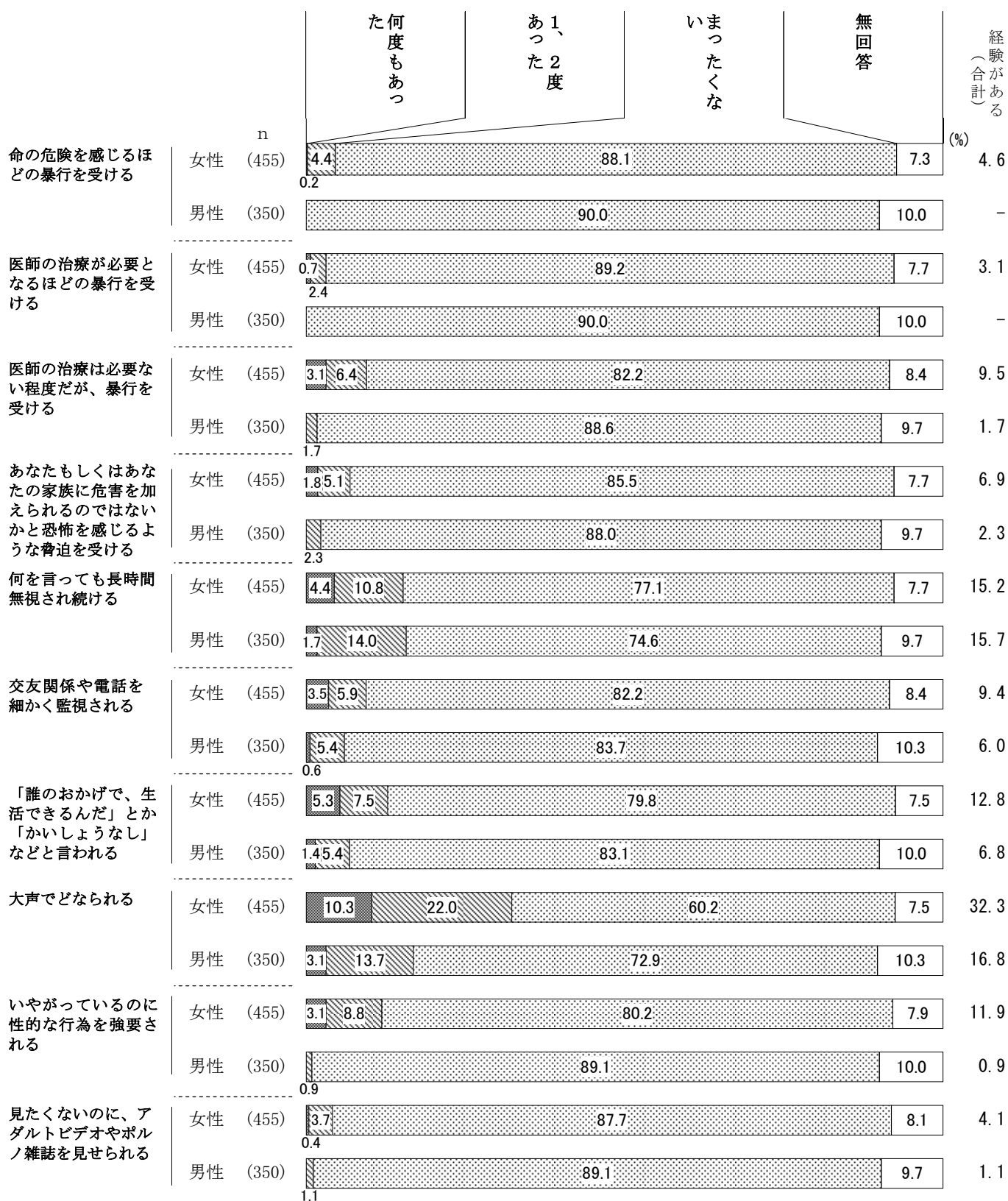
図表4-10 配偶者・恋人からの被害経験の有無（何らかの被害経験の有無）



埼玉県、国の調査結果と比較すると、女性では、《経験がある（合計）》人は、和光市と国で3割を超え、埼玉県で2割台半ばとなっている。男性では、《経験がある（合計）》人は、和光市で約2割となっている。（図表4-10）

■ 参考 ■ 和光市「男女共同参画意識調査」(平成17年度)の結果

配偶者や恋人から受けた行為



※選択肢の内容が異なるため、今回の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

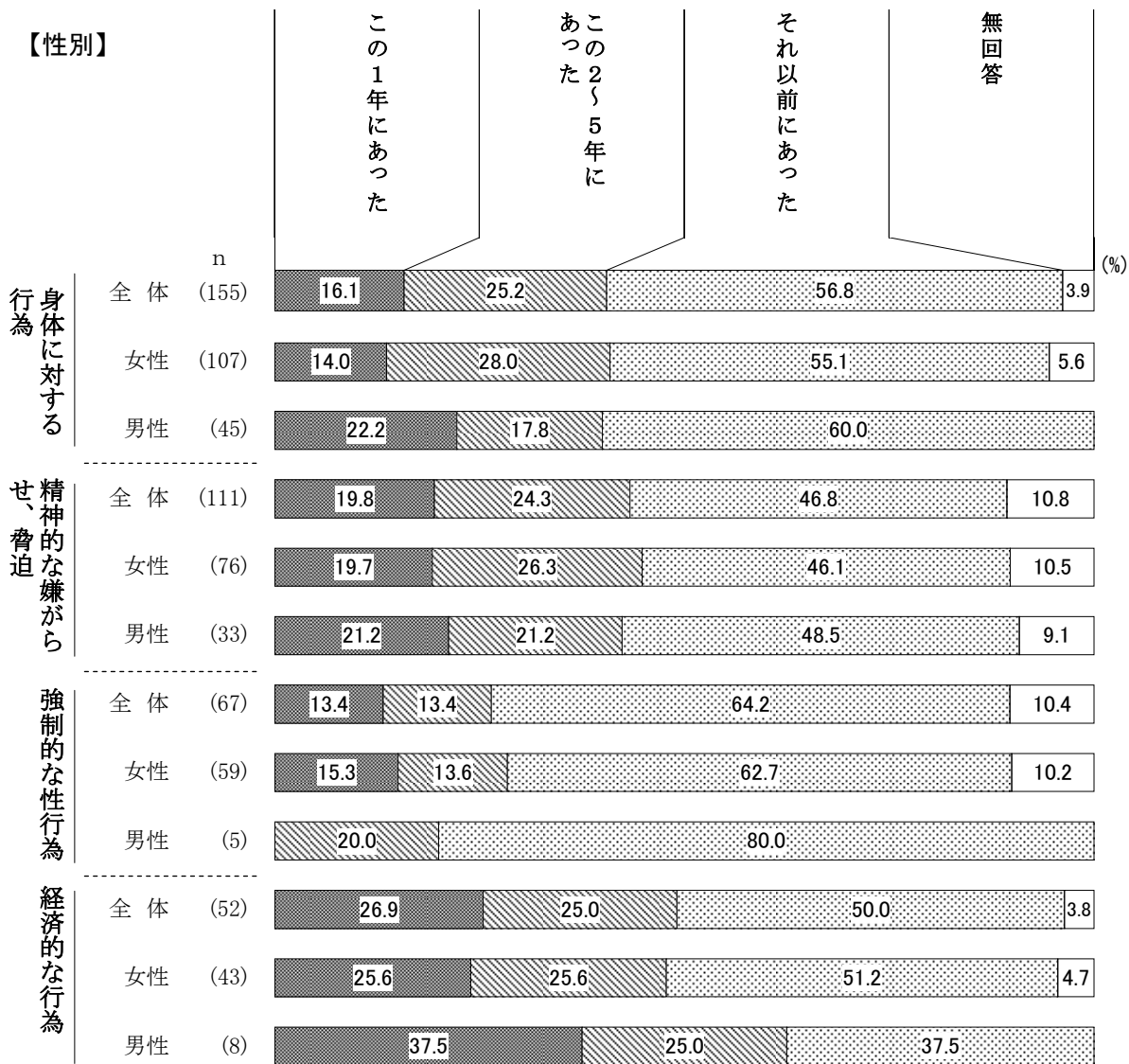
(5) 配偶者・恋人からの被害経験の時期

【問13で1つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答された方のみにおたずねします。】

問13-1 あなたが、その相手の行為を受けたのはいつ頃ですか。

(あてはまるものすべてに○)

図表4-11 配偶者・恋人からの被害経験の時期



※説明を簡略化するため、以下のように各行為を略称している。

行為	略称
なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた	身体に対する行為
人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	精神的な嫌がらせ、脅迫
いやがっているのに、性的な行為を強要された	強制的な性行為
生活費を渡さない、お酒、ギャンブル、異性に生活費を使い込む、お金の使途を細かくチェックする、仕事をやめさせるなどの行為を受けた	経済的な行為

第2章 市民意識調査結果の分析

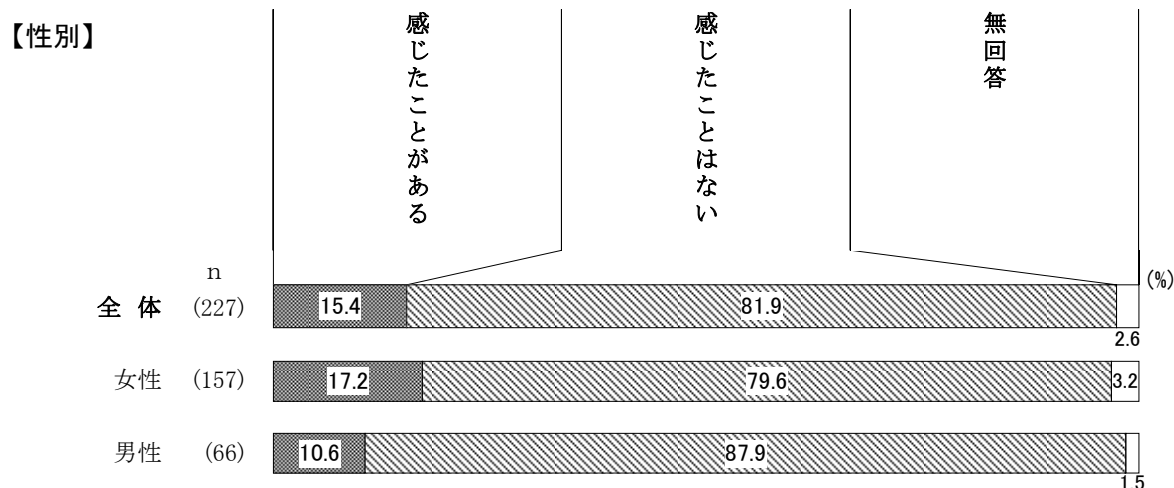
配偶者・恋人からの被害経験の時期を聞いたところ、「この1年にあった」は『経済的な行為』（26.9%）で最も多く、次いで『精神的な嫌がらせ、脅迫』（19.8%）となっている。「この2～5年にあった」は、『精神的な嫌がらせ、脅迫』、『経済的な行為』で2割台半ばとなっている。「それ以前にあった」は『強制的な性行為』（64.2%）で6割を超えている。

性別でみると、「この1年にあった」は『経済的な行為』で女性が2割台半ばとなっている。「この2～5年にあった」は『身体に対する行為』で女性が3割近くとなっている。「それ以前にあった」は『身体に対する行為』で男性が6割、『経済的な行為』で女性が半数を超えている。（図表4-11）

(6) 命の危険を感じたこと

問13-2 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(〇は1つ)

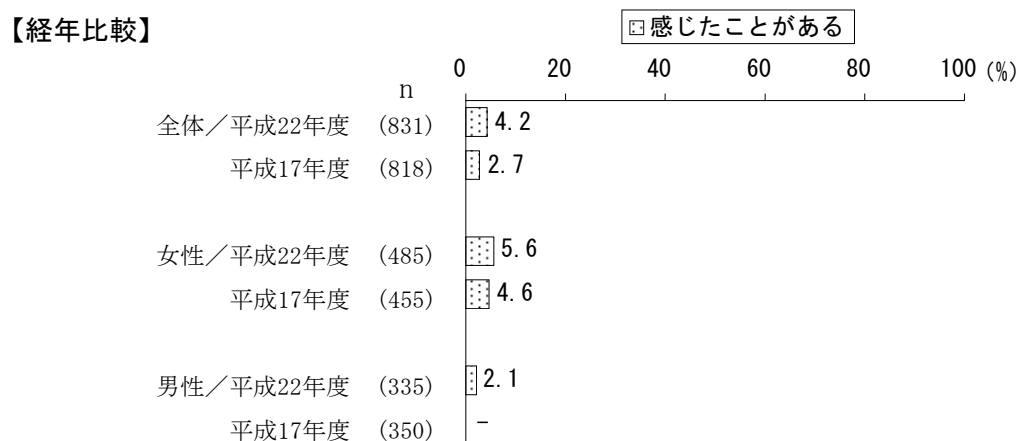
図表4-12 命の危険を感じたこと



相手の行為により、命の危険を感じたことがあるかどうかでは、「感じたことはない」が81.9%を占めているが、「感じたことがある」も15.4%となっている。

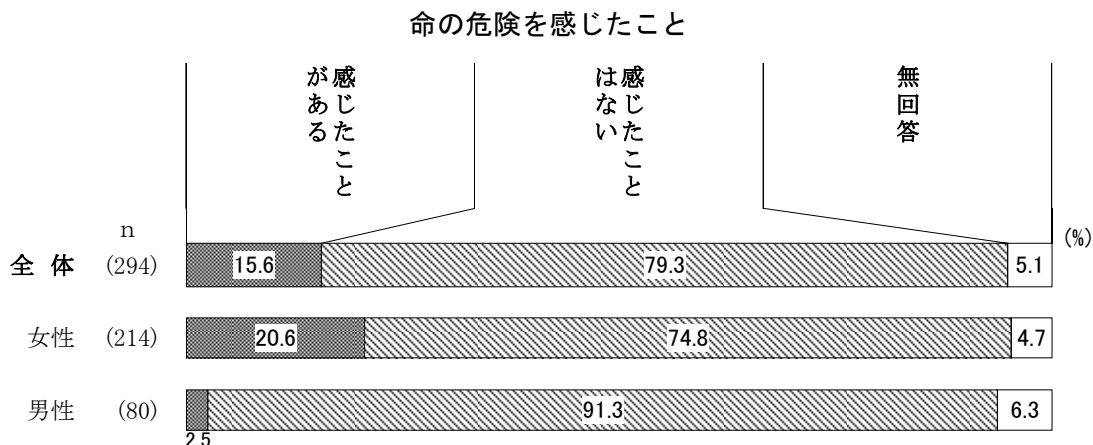
性別で見ると、「感じたことがある」が女性17.2%、男性10.6%と、女性が男性を上回っている。(図表4-12)

図表4-13 命の危険を感じたこと



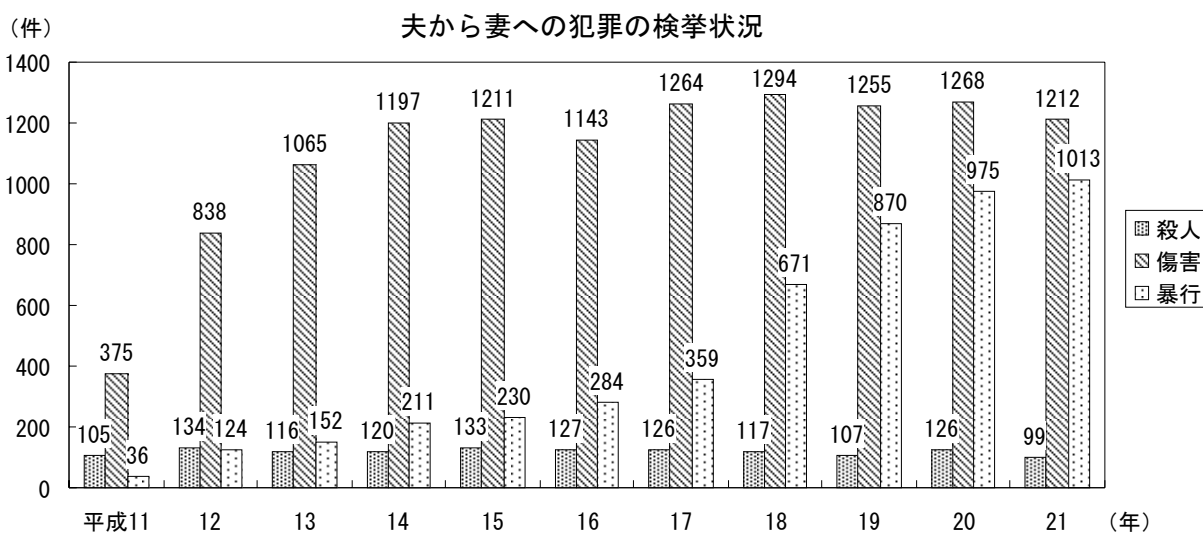
命の危険を「感じたことがある」人の割合を、調査対象全体に対する割合として再集計した。平成17年度調査と比較すると、男女ともに「感じたことがある」人の割合が僅かに増加している。(図表4-13)

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

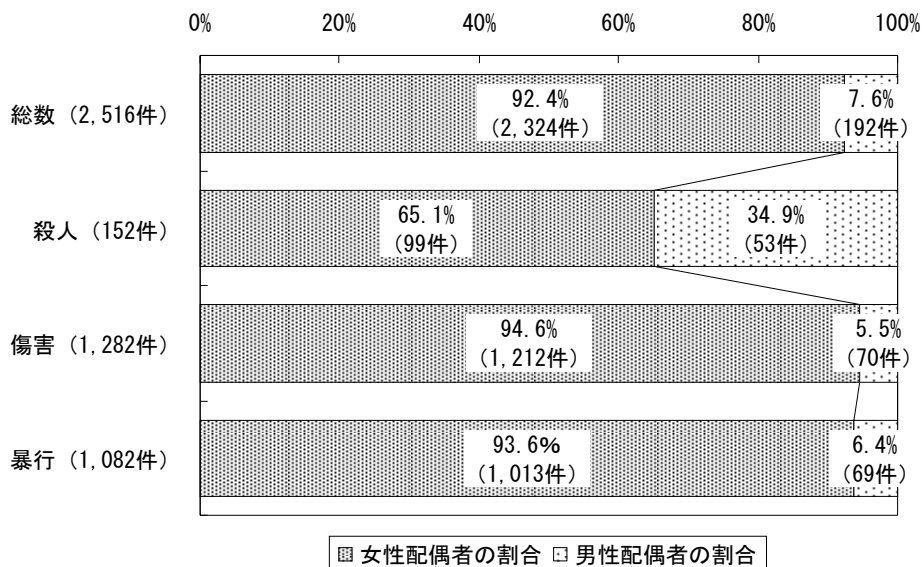


※回答者の前提条件が異なるため、市の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

■ 参考 ■ 警察庁資料より



配偶者(内縁を含む)における犯罪(殺人、傷害、暴行)の被害者(検挙件数の割合)(平成21年)

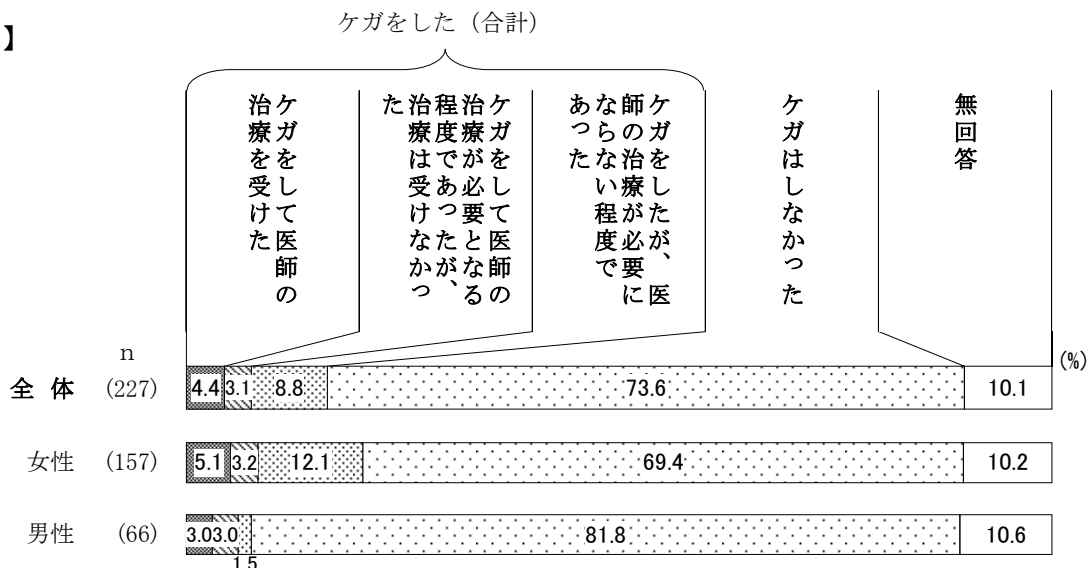


(7) ケガや医師の治療の有無

問13-3 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、ケガをしたり、医師の治療を受けたことがありますか。(〇は1つ)

図表4-14 ケガや医師の治療の有無

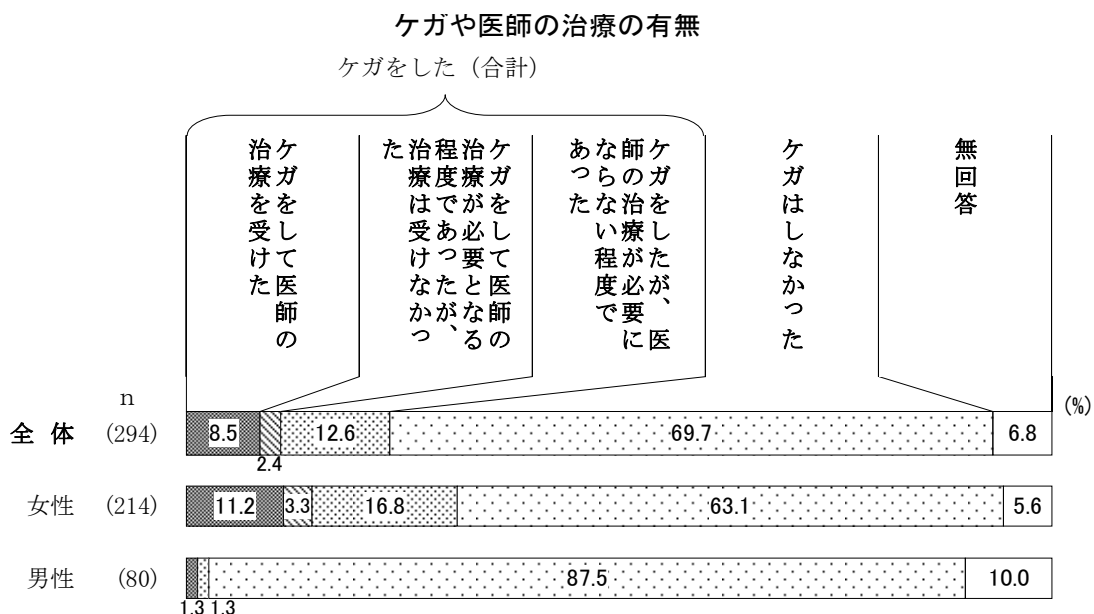
【性別】



相手の行為で「ケガをしなかった」が73.6%を占めているが、「ケガをしたが、医師の治療が必要にならない程度であった」(8.8%)などを合わせた《ケガをした (合計)》が16.3%となっている。

性別でみると、《ケガをした (合計)》が女性20.4%、男性7.5%と、女性が男性を上回っている。(図表4-14)

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

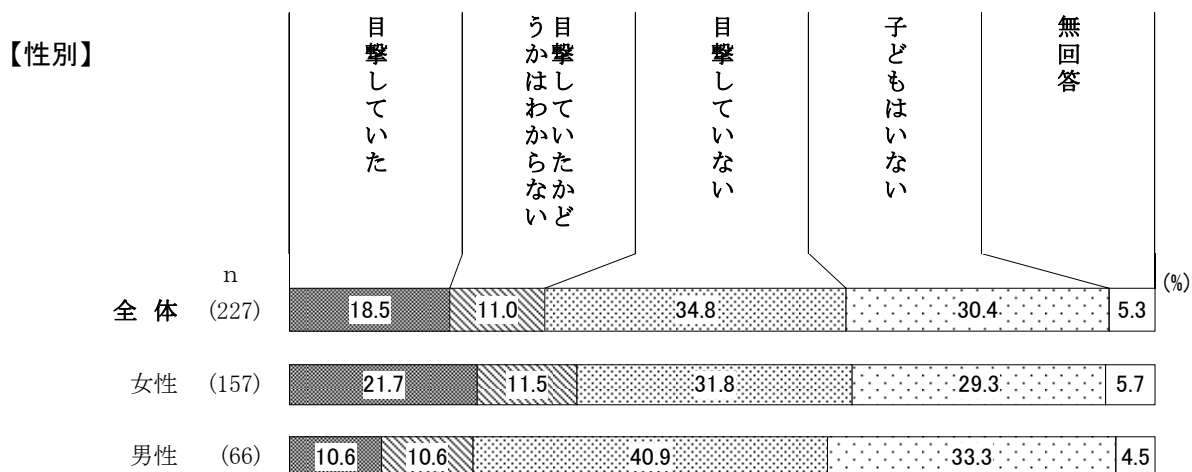


※回答者の前提条件が異なるため、市の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

(8) 子どもの目撃

問13-4 あなたが、その行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。
(○は1つ)

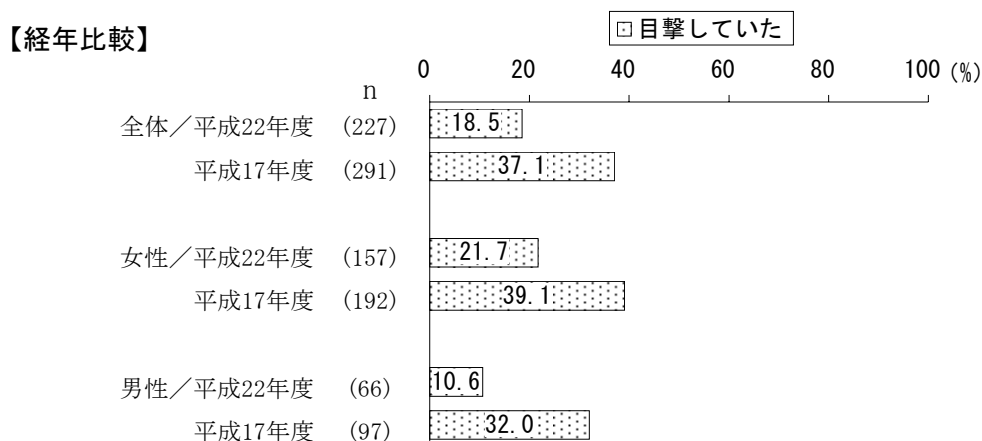
図表4-15 子どもの目撃



相手の行為を受けた際、子どもがその様子を目撃していたかどうかを聞いたところ、「目撃していた」が18.5%、「目撃してない」が34.8%となっている。

性別でみると、「目撃していた」が女性21.7%、男性10.6%と、女性が男性を上回っている。(図表4-15)

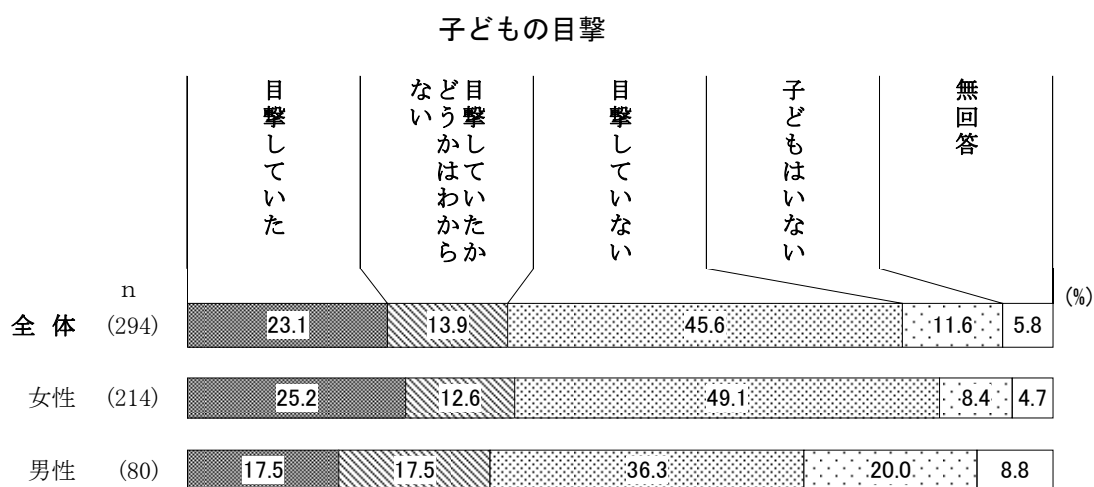
図表4-16 子どもの目撃



相手の行為を受けた際、子どもが「目撃していた」人の割合を、調査対象全体に対する割合として再集計した。

平成17年度調査と比較すると、男女ともに「目撃していた」人の割合が大きく減少している。(図表4-16)

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

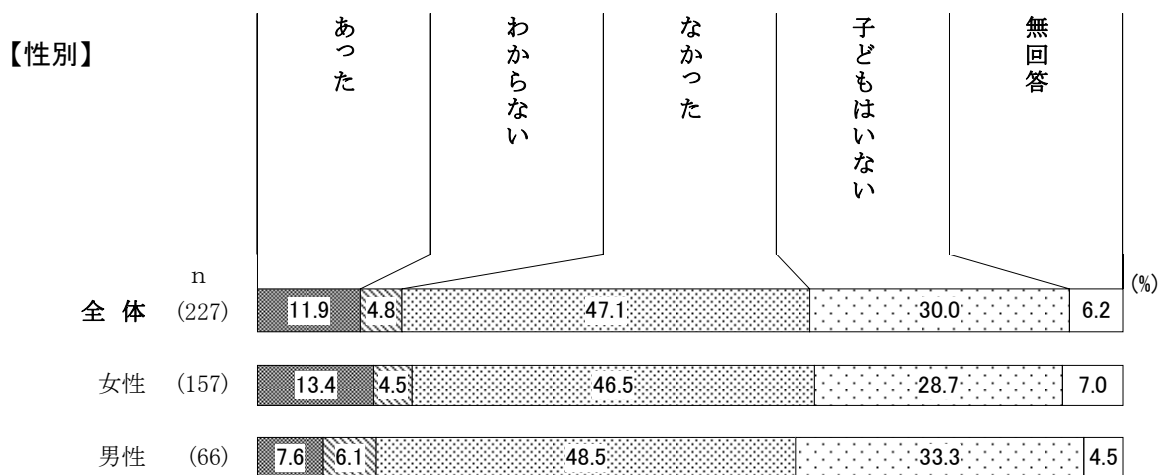


※回答者の前提条件が異なるため、市の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

(9) 子どもへの行為

問13-5 その相手は、あなたのお子さんに対して、あなたがされていたのと同じ行為をしたことがありましたか。(〇は1つ)

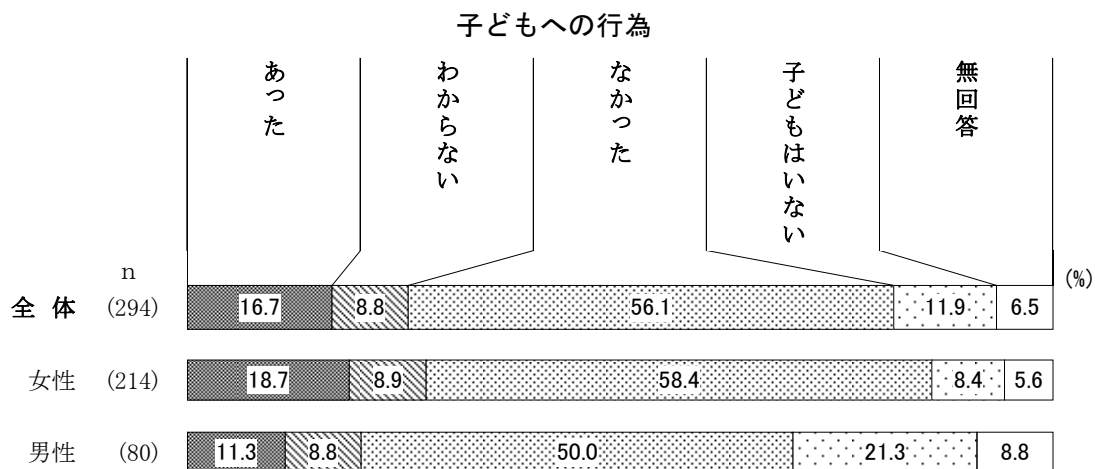
図表4-17 子どもへの行為



その相手が子どもに対しても同様な行為をしたかどうかについては、「あった」が11.9%、「なかった」が47.1%となっている。

性別でみると、「あった」が女性13.4%、男性7.6%と、女性が男性をやや上回っている。(図表4-17)

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

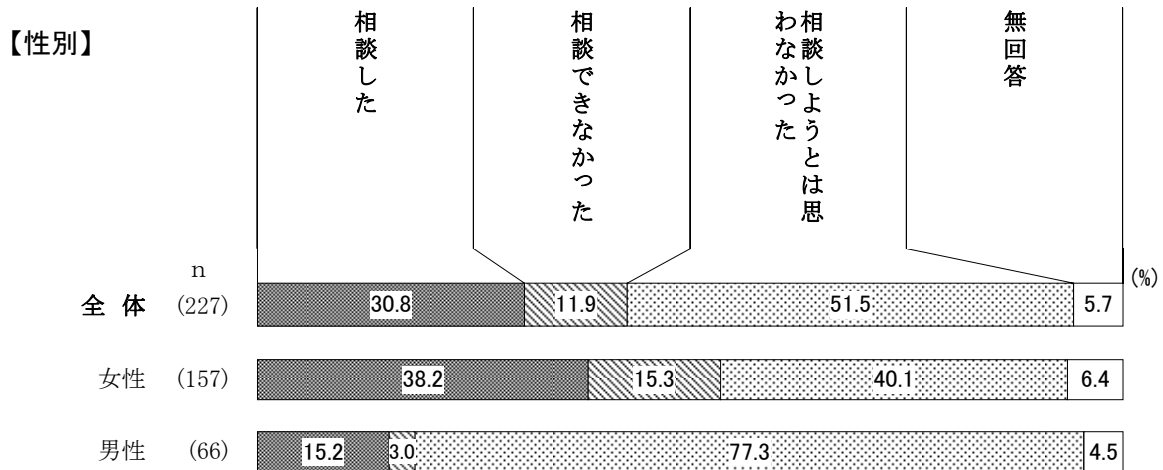


※回答者の前提条件が異なるため、市の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

(10) 暴力に関する相談

問13-6 あなたは問13であげたような行為を受けたことについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇は1つ)

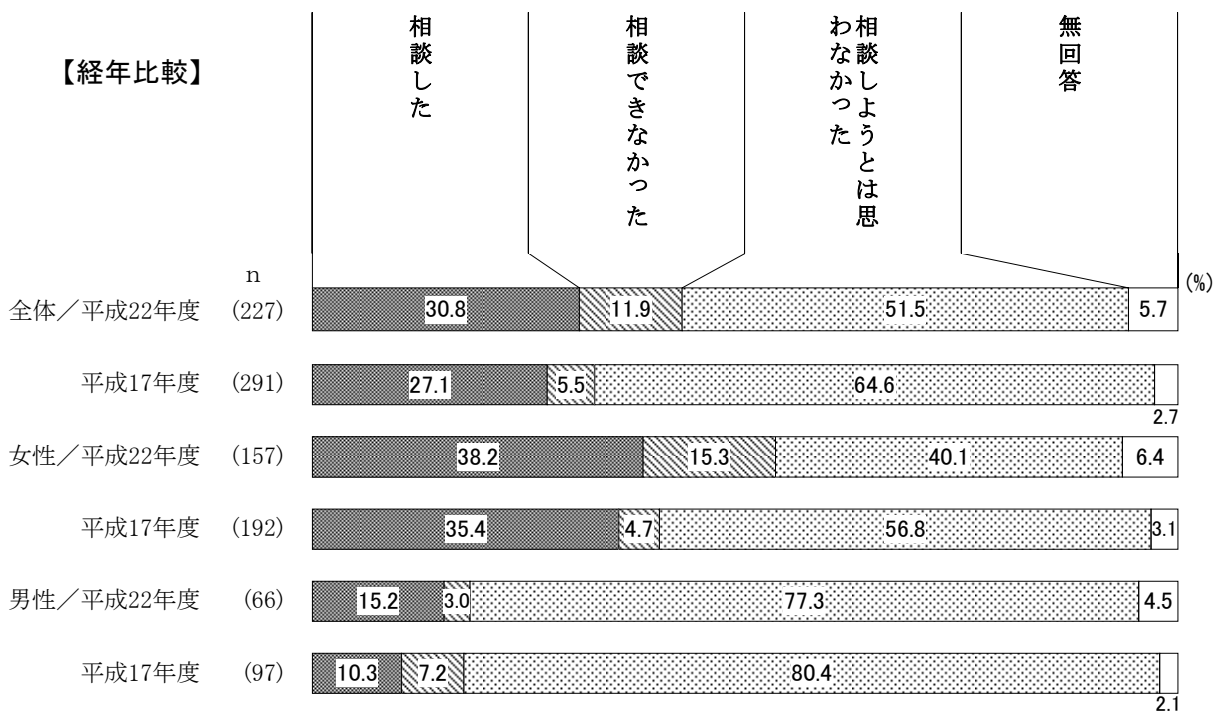
図表4-18 暴力に関する相談



相手から受けた行為について「相談した」が30.8%である。一方、「相談しようとは思わなかった」が51.5%を占めており、「相談できなかった」が11.9%となっている。

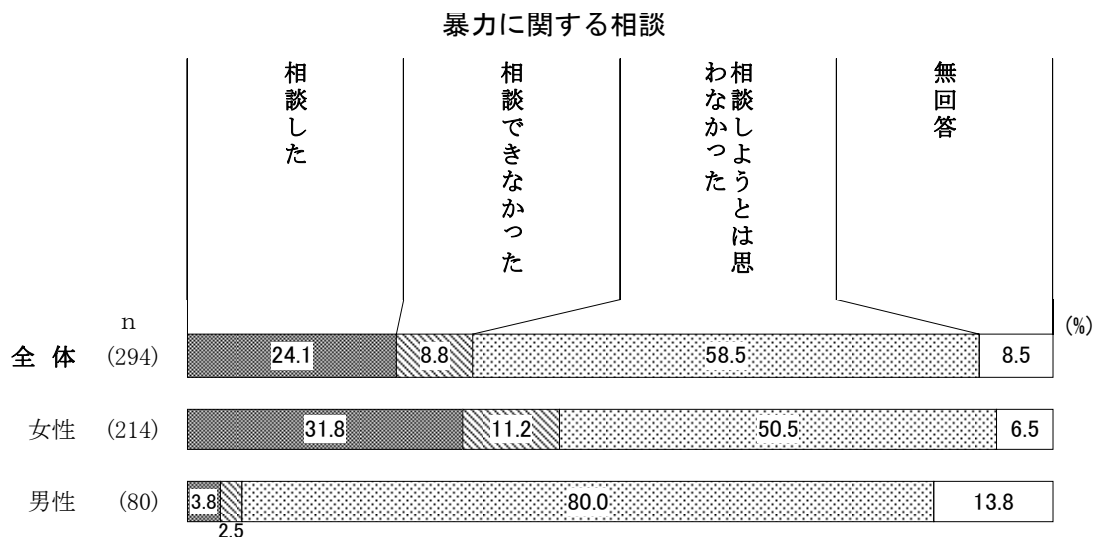
性別でみると、「相談した」が女性38.2%、男性15.2%と、女性が男性を大きく上回っている。一方、「相談しようとは思わなかった」が女性40.1%、男性77.3%と、男性が女性を大きく上回っている。(図表4-18)

図表4-19 暴力に関する相談



平成17年度調査と比較すると、「相談した」は男女ともに、やや増加している。また、女性では「相談できなかった」が増加し、「相談しようとは思わなかった」が減少している。(図表4-19)

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果



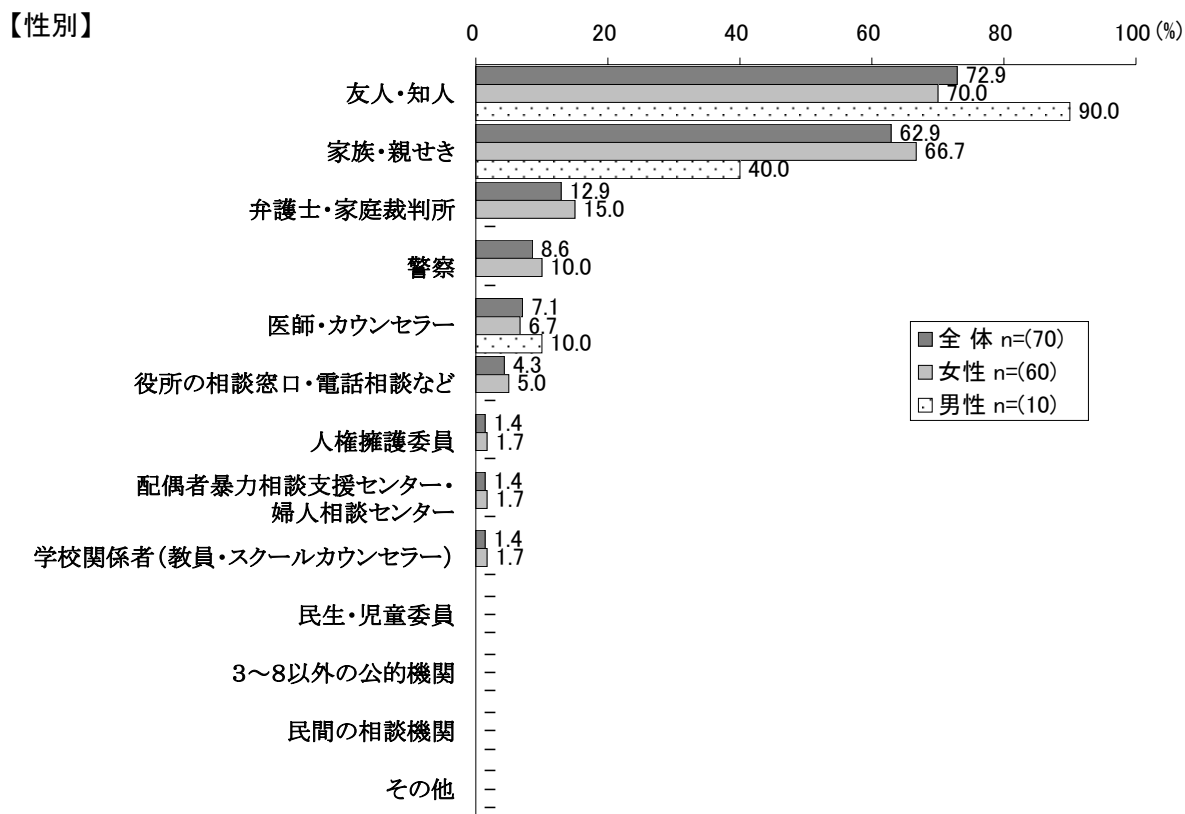
※回答者の前提条件が異なるため、市の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

(11) 相談した相手

【問13-6で「相談した」と回答された方のみにおたずねします。】

問13-7 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

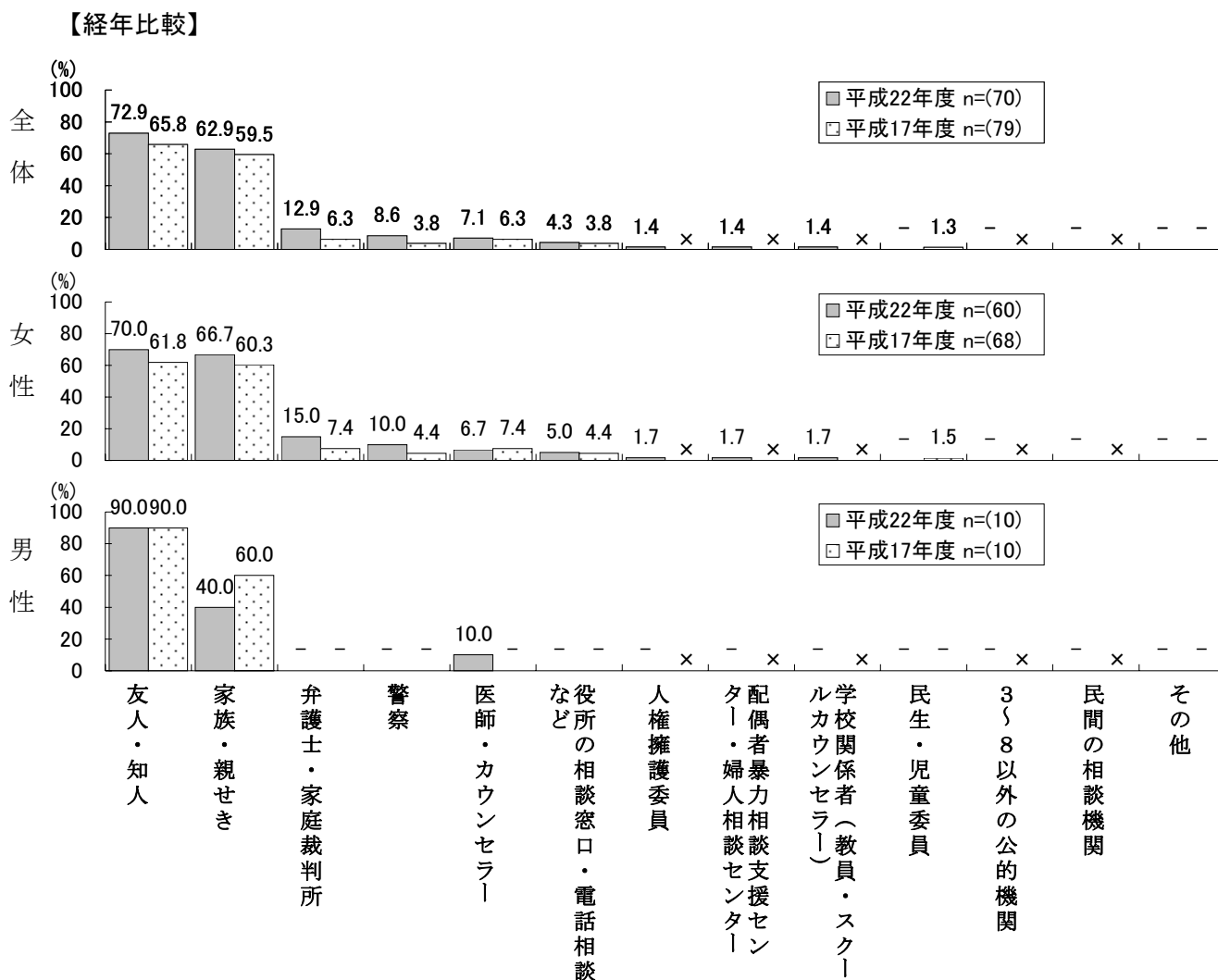
図表4-20 相談した相手



相談した相手については、「友人・知人」が72.9%と最も多くなっている。次いで「家族・親せき」が62.9%となっている。

性別でみると、男性の回答者数が少ないものの、女性では「家族・親せき」(66.7%)が男性に比べて高くなっている。(図表4-20)

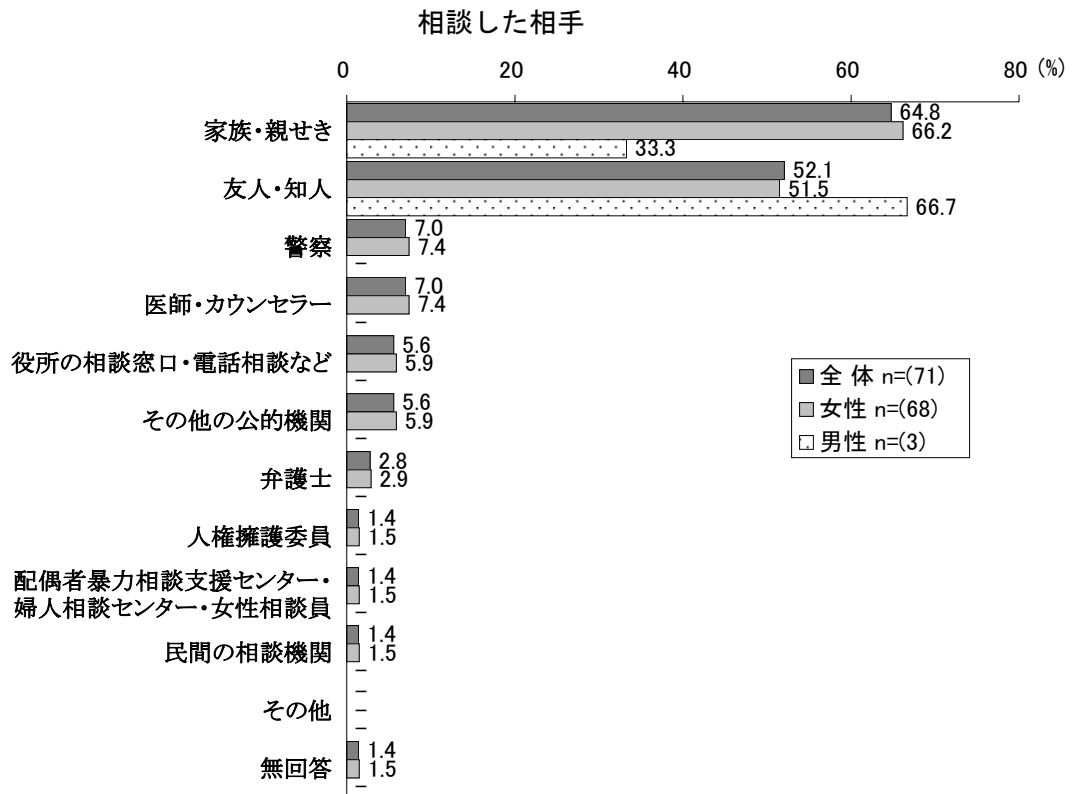
図表4-21 相談した相手



※「x」は、平成17年度調査の選択肢になかったもの。

平成17年度調査と比較すると、女性では「友人・知人」、「家族・親せき」がやや増加している。（図表4-21）

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果



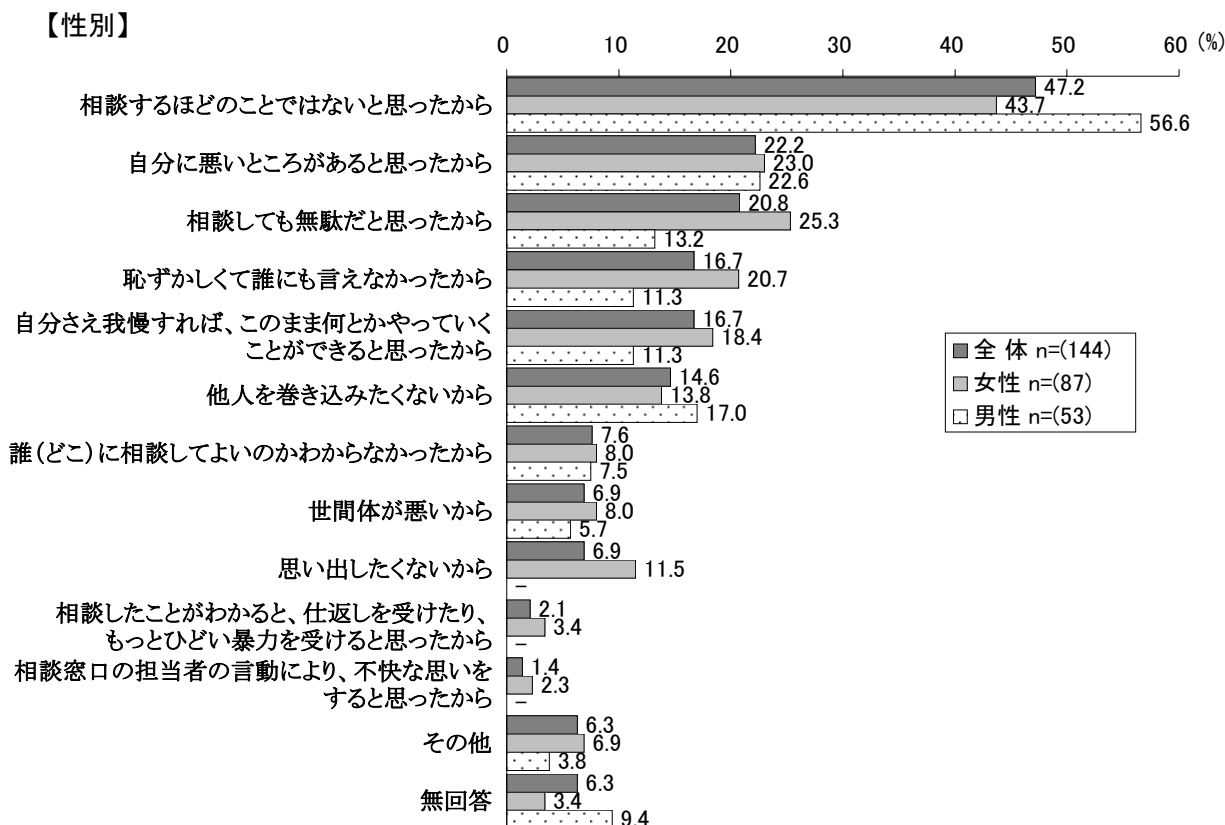
※回答者の前提条件が異なるため、市の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

(12) 相談できなかった理由

【問13-6で「相談できなかった」または「相談しようとは思わなかった」と回答された方のみにおたずねします。】

問13-8 誰（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

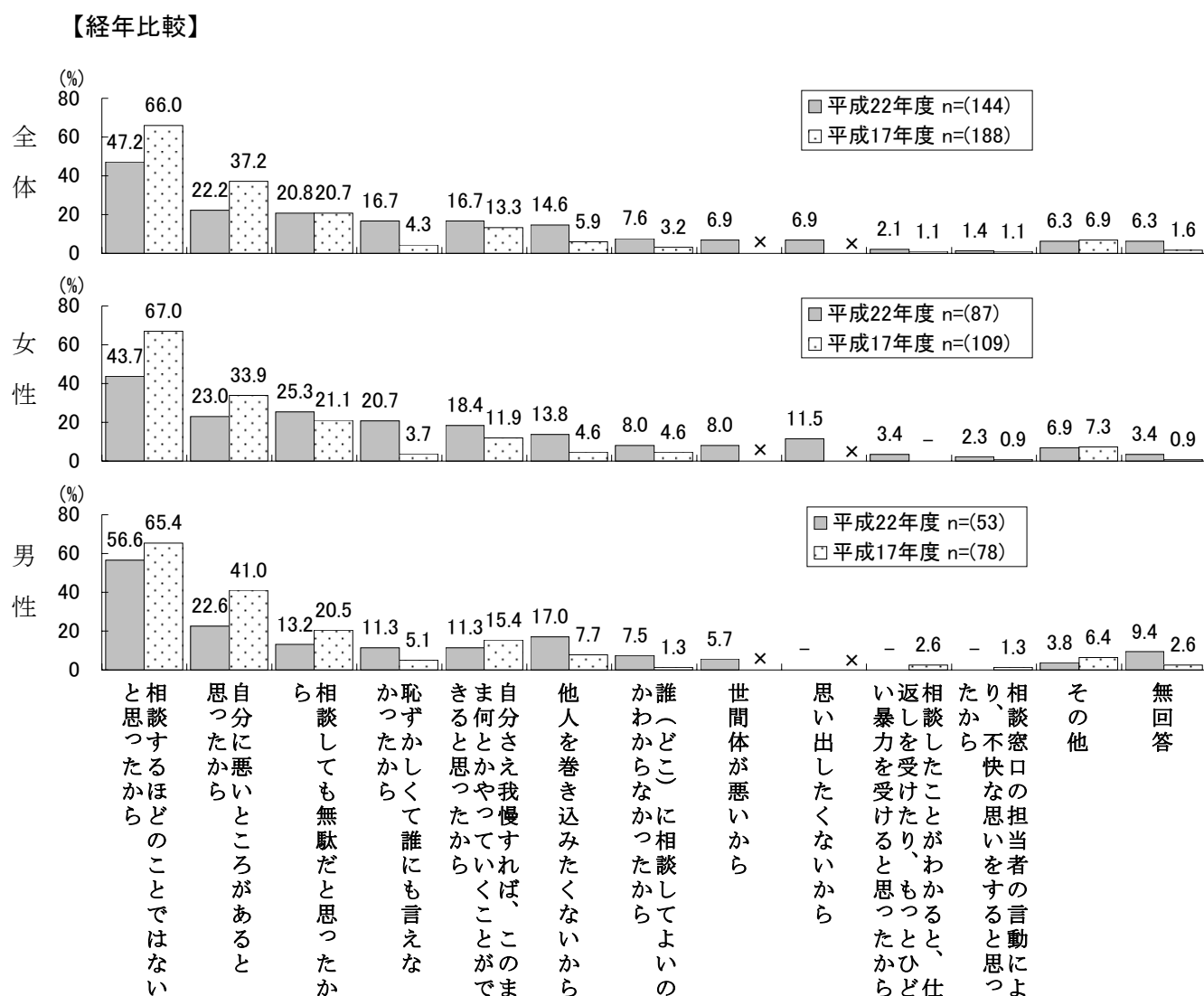
図表4-22 相談できなかった理由



相談できなかった理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」が47.2%と最も多くなっている。次いで「自分に悪いところがあると思ったから」が22.2%、「相談しても無駄だと思ったから」が20.8%となっている。

性別でみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」（25.3%）、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（20.7%）、「思い出したくないから」（11.5%）が男性に比べて高くなっている。男性では「相談するほどのことではないと思ったから」（56.6%）が女性に比べて高くなっている。（図表4-22）

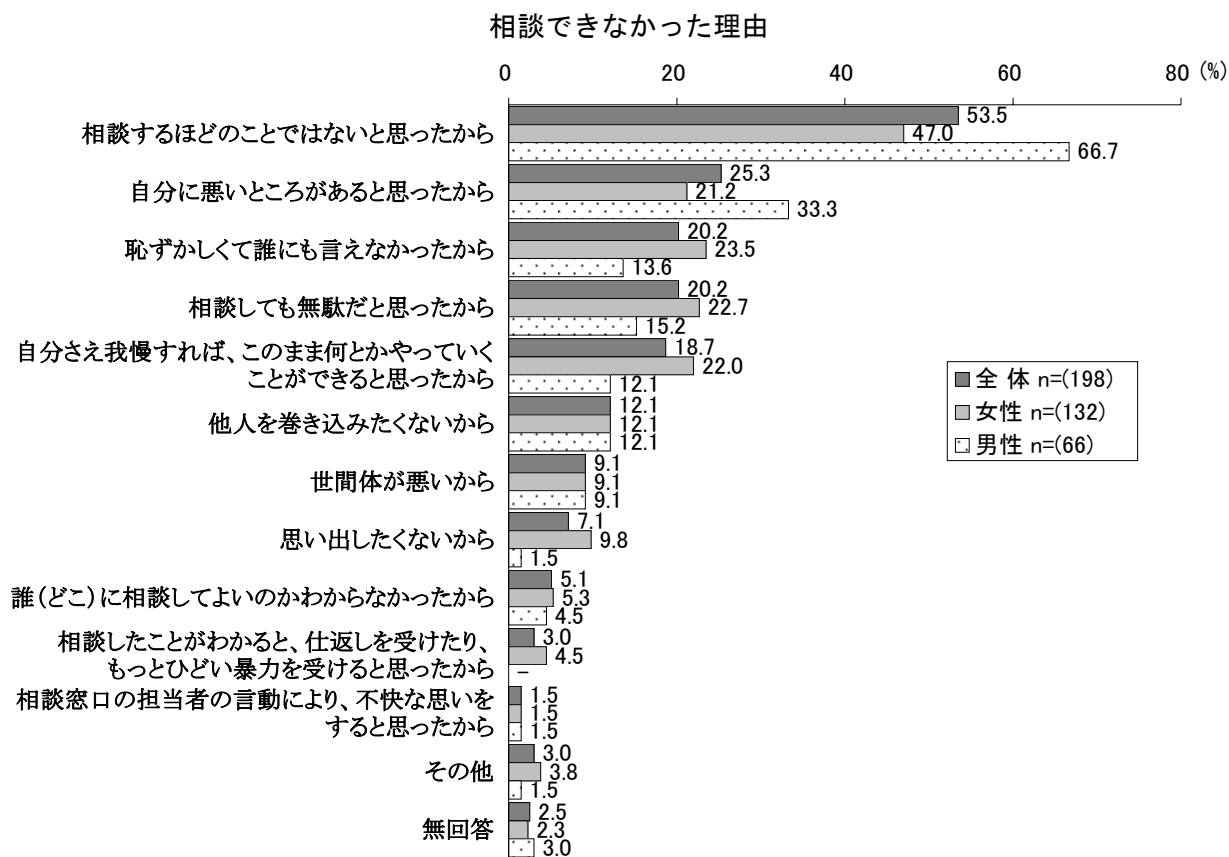
図表4-23 相談できなかった理由



※「×」は、平成17年度調査の選択肢になかったもの。

平成17年度調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」は男女ともに減少し、特に女性で大きく減少している。「自分に悪いところがあると思ったから」は男女ともに減少し、特に男性で大きく減少している。「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「他人を巻き込みたくないから」、「誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから」は男女ともにやや増加している。(図表4-23)

■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果

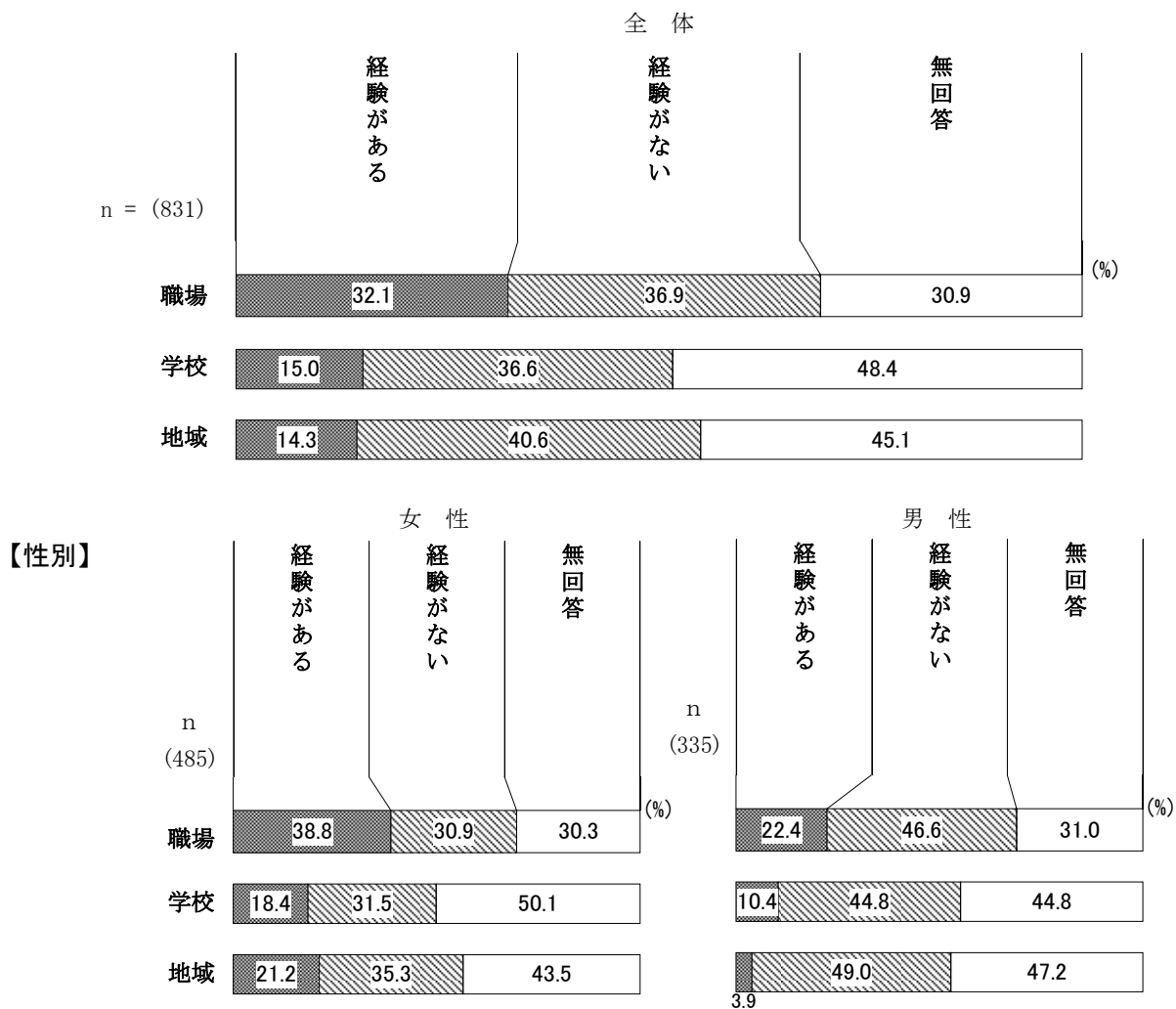


※回答者の前提条件が異なるため、市の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

(13) 不愉快な経験の有無

問14 あなたはこれまでに、職場・学校・地域で、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。職場、学校、地域ごとに、該当するものすべてに○をつけてください。

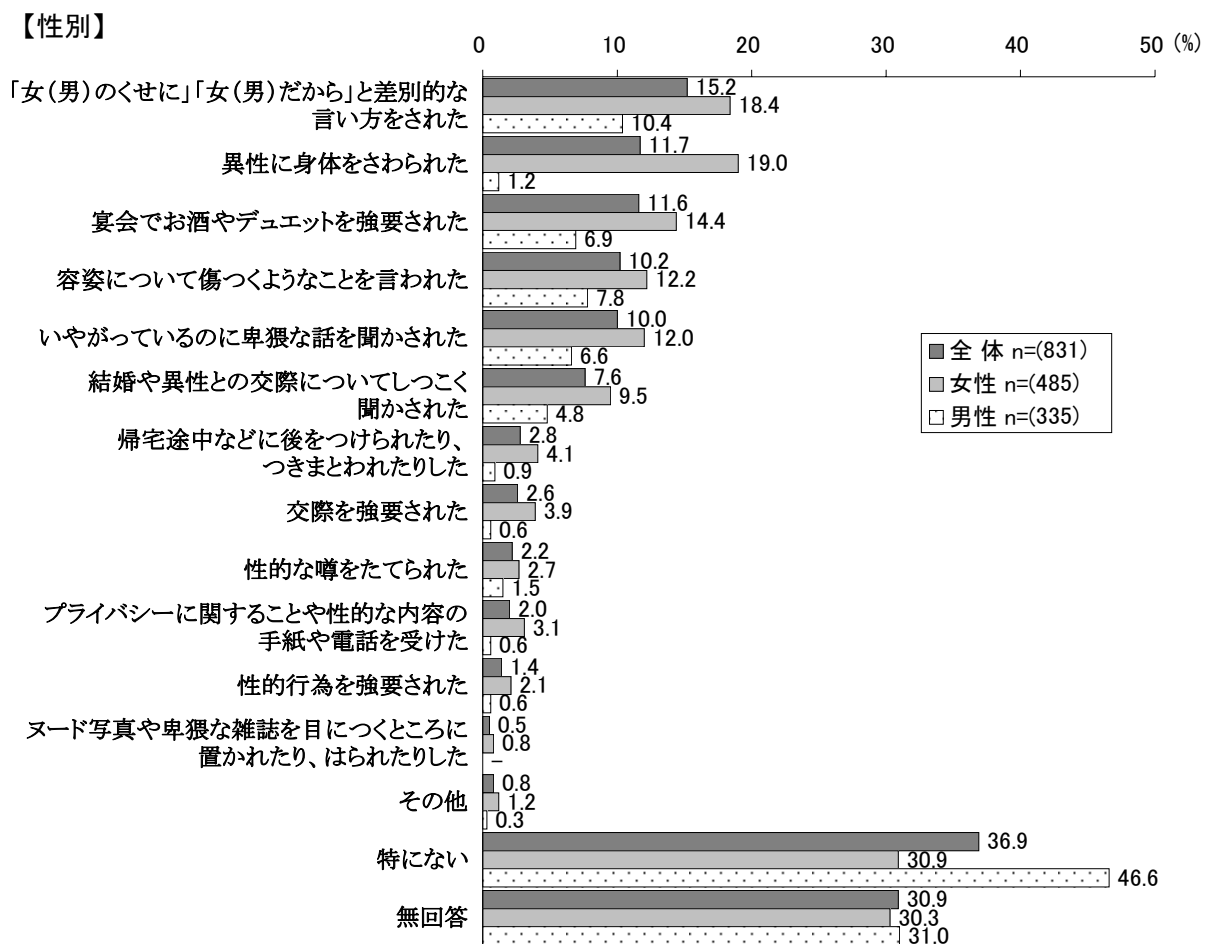
図表4-24 不愉快な経験の有無



これまで、職場、学校、地域で、不愉快な経験をしたことがあるか聞いた。何らかの「経験がある」と回答した人は、全体でみると、職場で3割を超え、職場と地域で1割台半ばとなっている。

性別でみると、女性では「経験がある」は職場で4割近く、地域、学校で2割前後と、男性に比べて高くなっている。「経験がない」は地域で男性が約半数、職場、学校で4割台半ばと、女性に比べて高くなっている。(図表4-24)

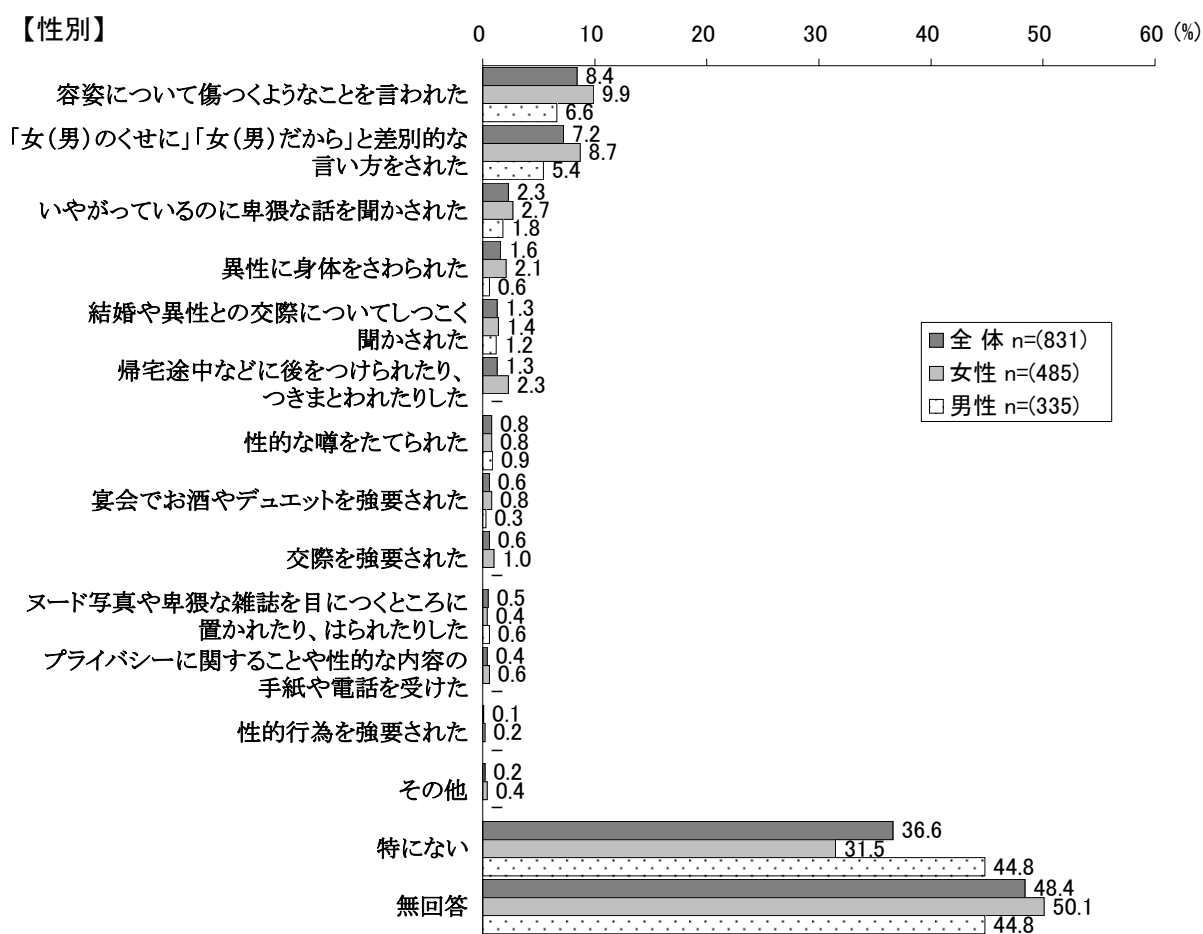
図表4-25 不愉快な経験の有無 職場



職場での不愉快な経験については、「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」が15.2%と最も多くなっている。次いで「異性に身体をさわられた」が11.7%、「宴会でお酒やデュエットを強要された」が11.6%となっている。

性別で見ると、全体的に女性が男性を上回っており、特に「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」（18.4%）、「異性に身体をさわられた」（19.0%）、「宴会でお酒やデュエットを強要された」（14.4%）が男性に比べて高くなっている。（図表4-25）

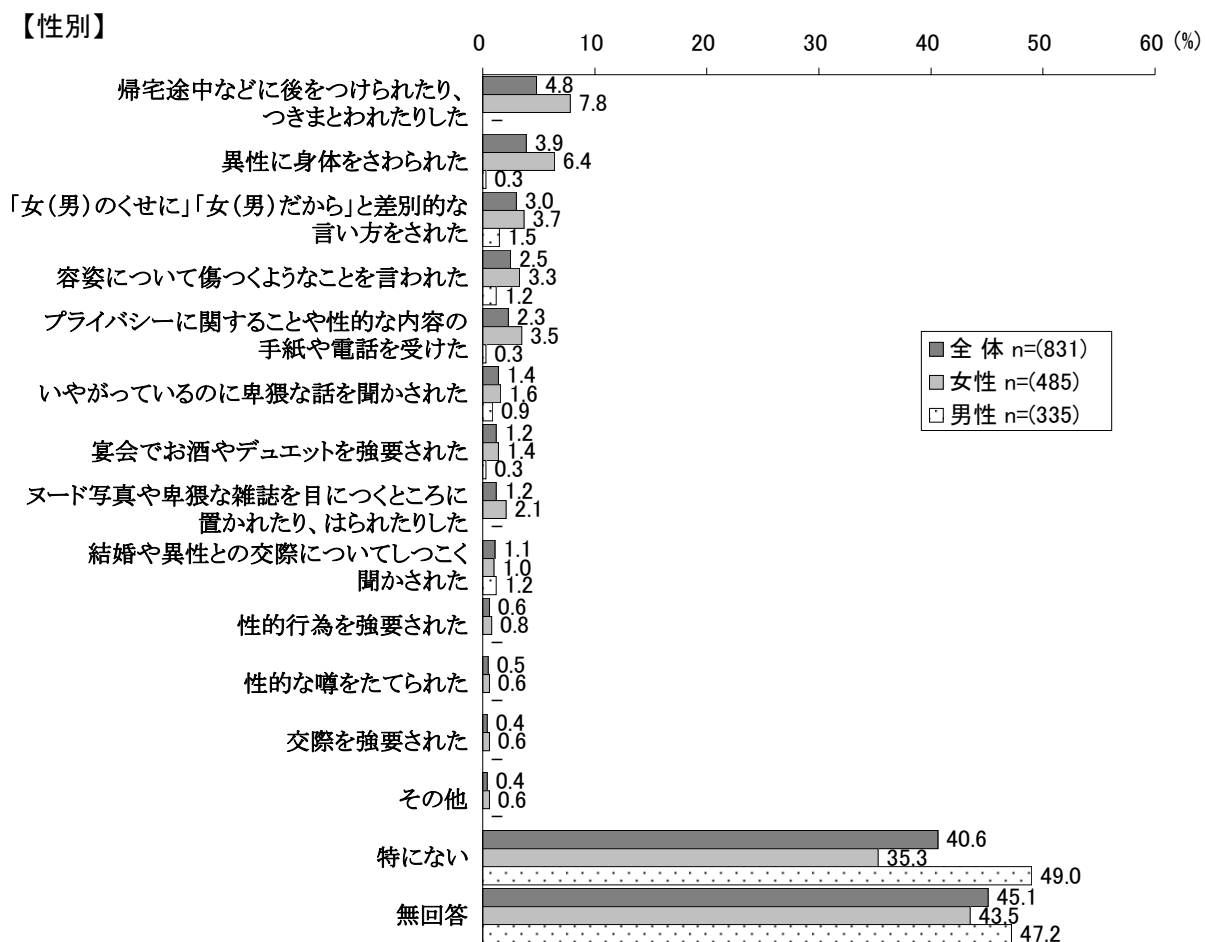
図表4-26 不愉快な経験の有無 学校



学校での不愉快な経験については、「容姿について傷つくようなことを言われた」が8.4%と最も多くなっている。次いで『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされた」が7.2%となっている。

性別で見ると、全体的に女性が男性を上回っており、特に「容姿について傷つくようなことを言われた」(9.9%)、「『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされた」(8.7%)が男性に比べて高くなっている。(図表4-26)

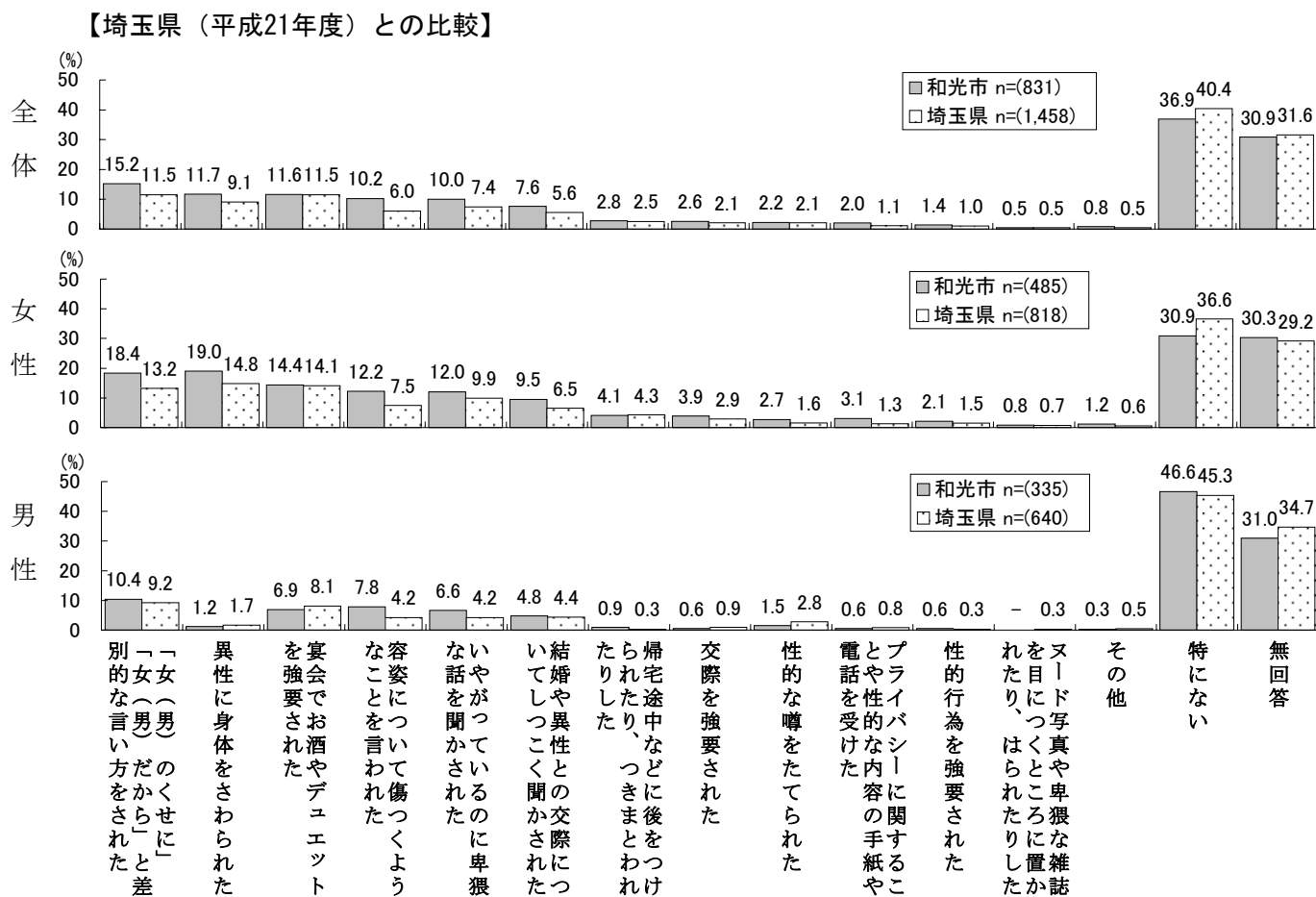
図表4-27 不愉快な経験の有無 地域



地域での不愉快な経験については、「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」が4.8%と最も多くなっている。次いで「異性に身体をさわられた」が3.9%となっている。

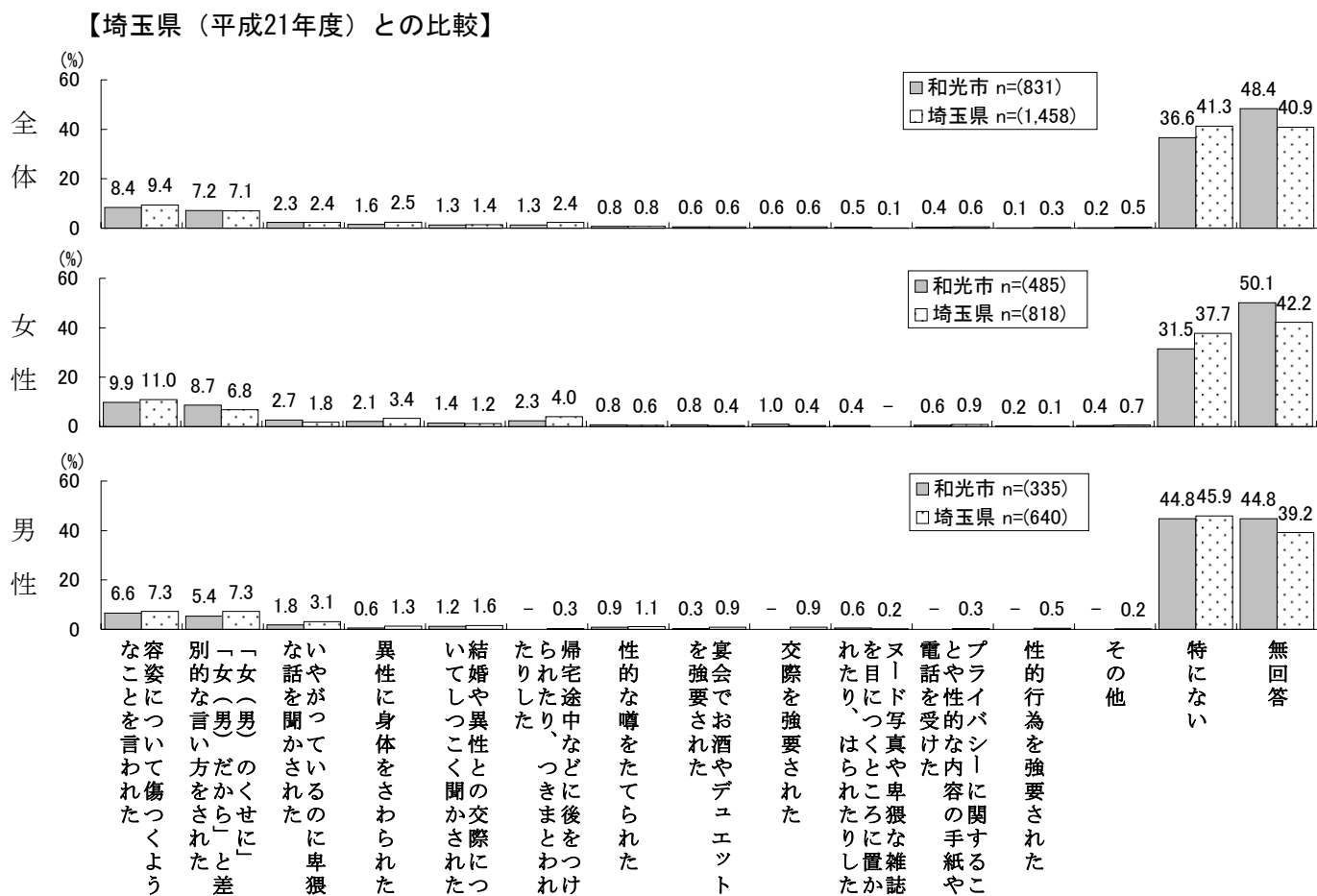
性別でみると、全体的に女性が男性を上回っており、特に「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」(7.8%)、「異性に身体をさわられた」(6.4%)が男性に比べて高くなっている。(図表4-27)

図表4-28 不愉快な経験の有無 職場



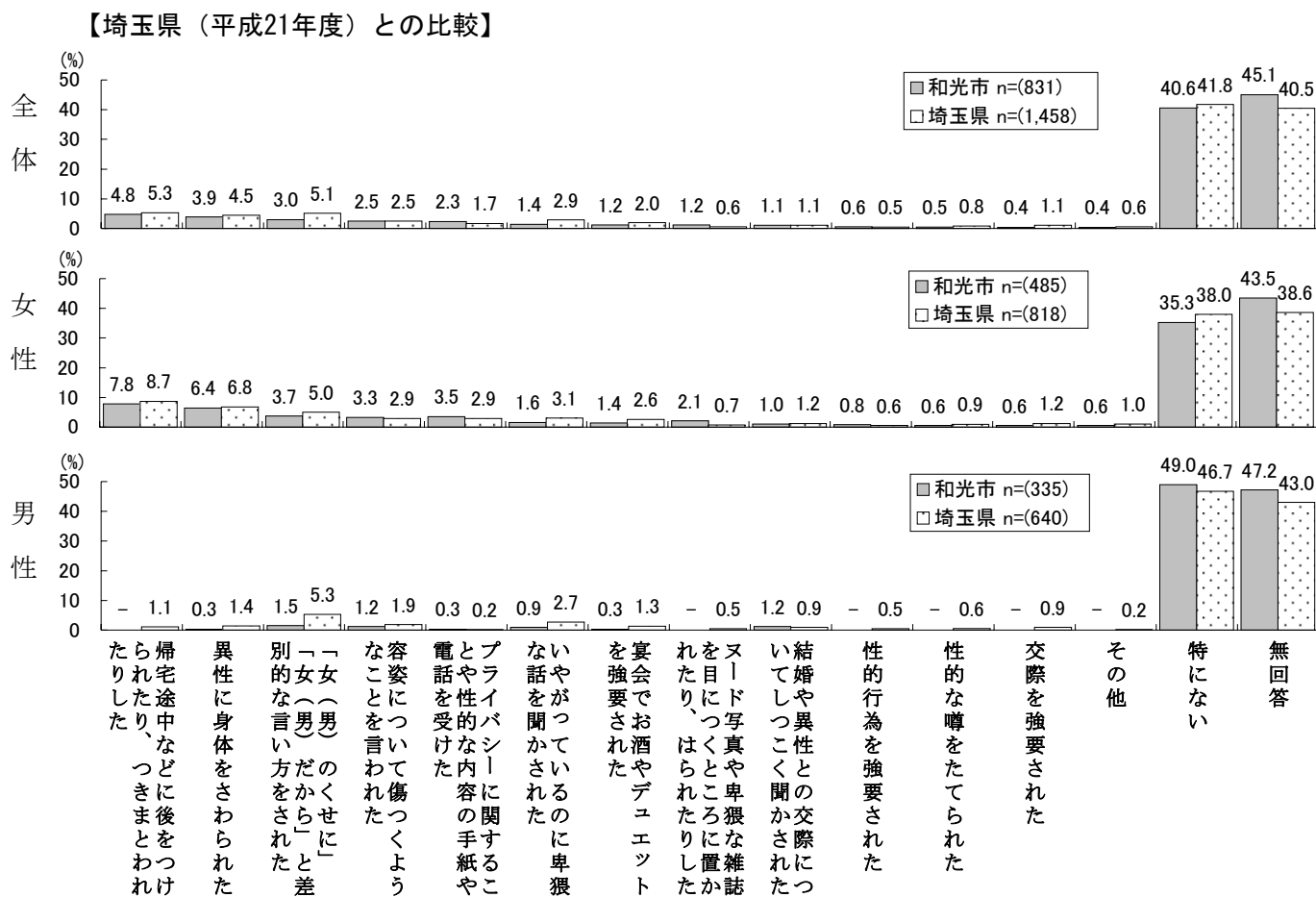
職場での不愉快な経験について埼玉県の調査結果と比較すると、男女ともに「容姿について傷つくようなことを言われた」と「いやがっているのに卑猥な話を聞かされた」で和光市が埼玉県を上回っている。女性では「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」で和光市が埼玉県を5ポイント前後上回っている。（図表4-28）

図表4-29 不愉快な経験の有無 学校



学校での不愉快な経験について埼玉県の調査結果と比較すると、大きな差はみられない。(図表4-29)

図表4-30 不愉快な経験の有無 地域



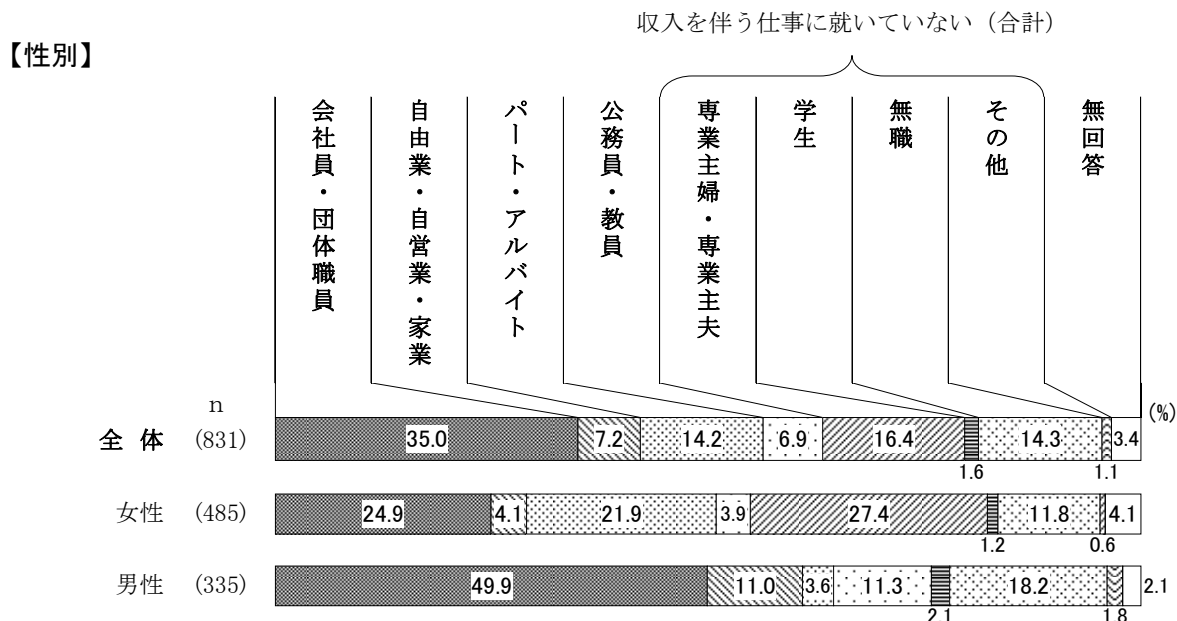
地域での不愉快な経験について埼玉県の調査結果と比較すると、男性では「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」で和光市が埼玉県を下回っている。（図表4-30）

5. 仕事について

(1) 就業状況

問15 あなたは、今、収入を伴う仕事に就いていますか（出産や育児・介護のために休んでいる場合は働いていると考えてください）。（○は1つ）

図表5-1 就業状況



現在収入を伴う仕事に就いているか聞いたところ、「会社員・団体職員」が35.0%、「パート・アルバイト」が14.2%となっている。一方、「収入を伴う仕事に就いてない（合計）」は33.4%である。

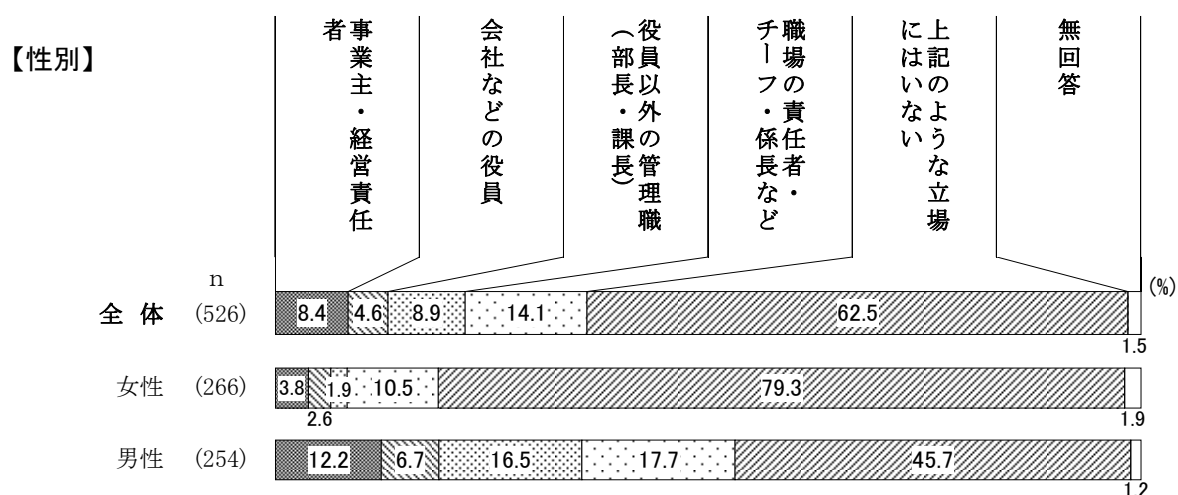
性別で見ると、女性では「専業主婦・専業主夫」が27.4%で、「収入を伴う仕事に就いてない（合計）」が41.0%と男性（22.1%）を大きく上回っている。男性では「会社員・団体職員」が49.9%を占めている。（図表5-1）

(2) 職場での立場

【問15で「1 会社員・団体職員」「2 自由業・自営業・家業」「3 パート・アルバイト」「4 公務員・教員」と回答された方のみにおたずねします。】

問15-1 あなたは現在以下のような立場にありますか。(○は1つ)

図表5-2 職場での立場



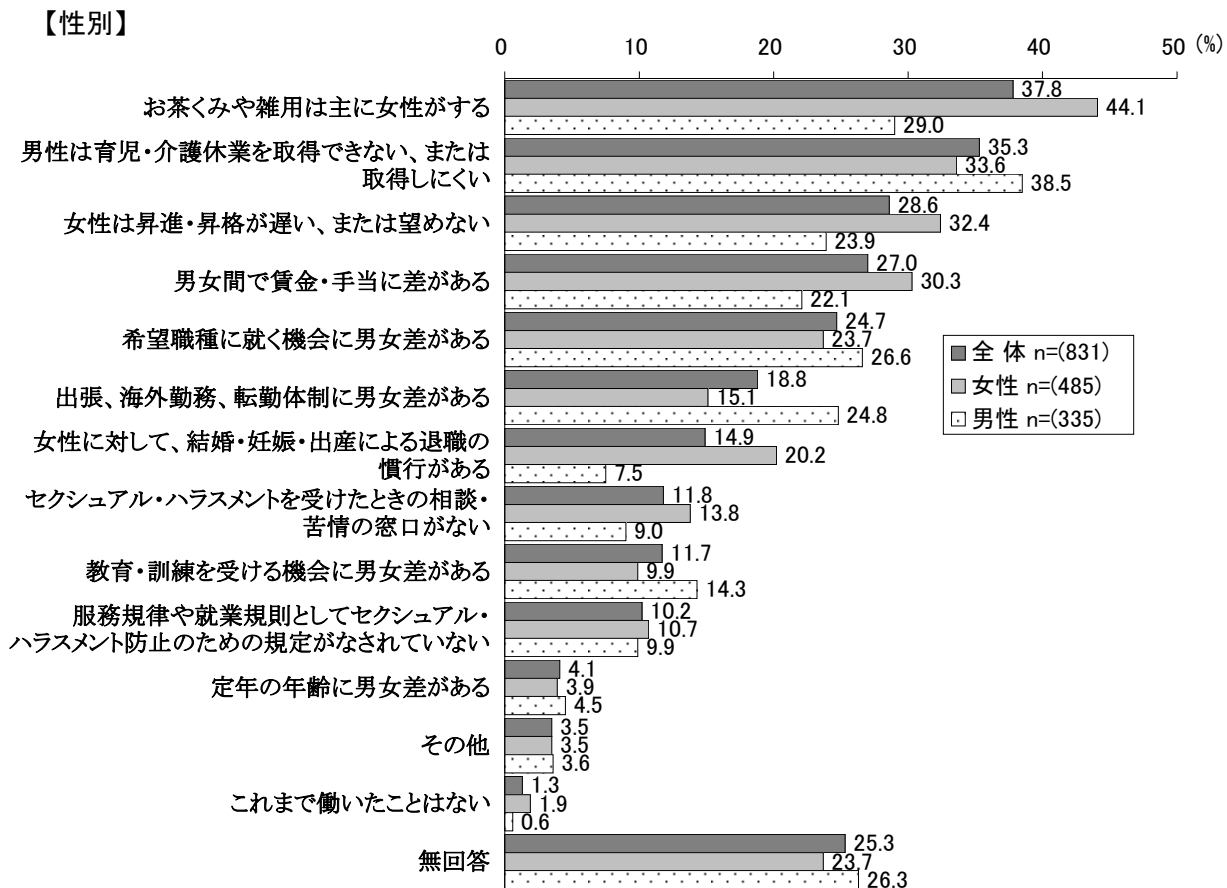
職場での立場としては、「職場の責任者・チーフ・係長など」が14.1%である。また、「上記のような立場にはいない」が62.5%を占めている。

性別でみると、「上記のような立場にはいない」が女性79.3%、男性45.7%と、女性が男性を大きく上回っている。(図表5-2)

(3) 職場の実態

問16 以下の事柄のうち、あなたの職場であてはまるものはありますか。現在お勤めでない方は過去の経験からお答えください。(あてはまるものすべてに○)

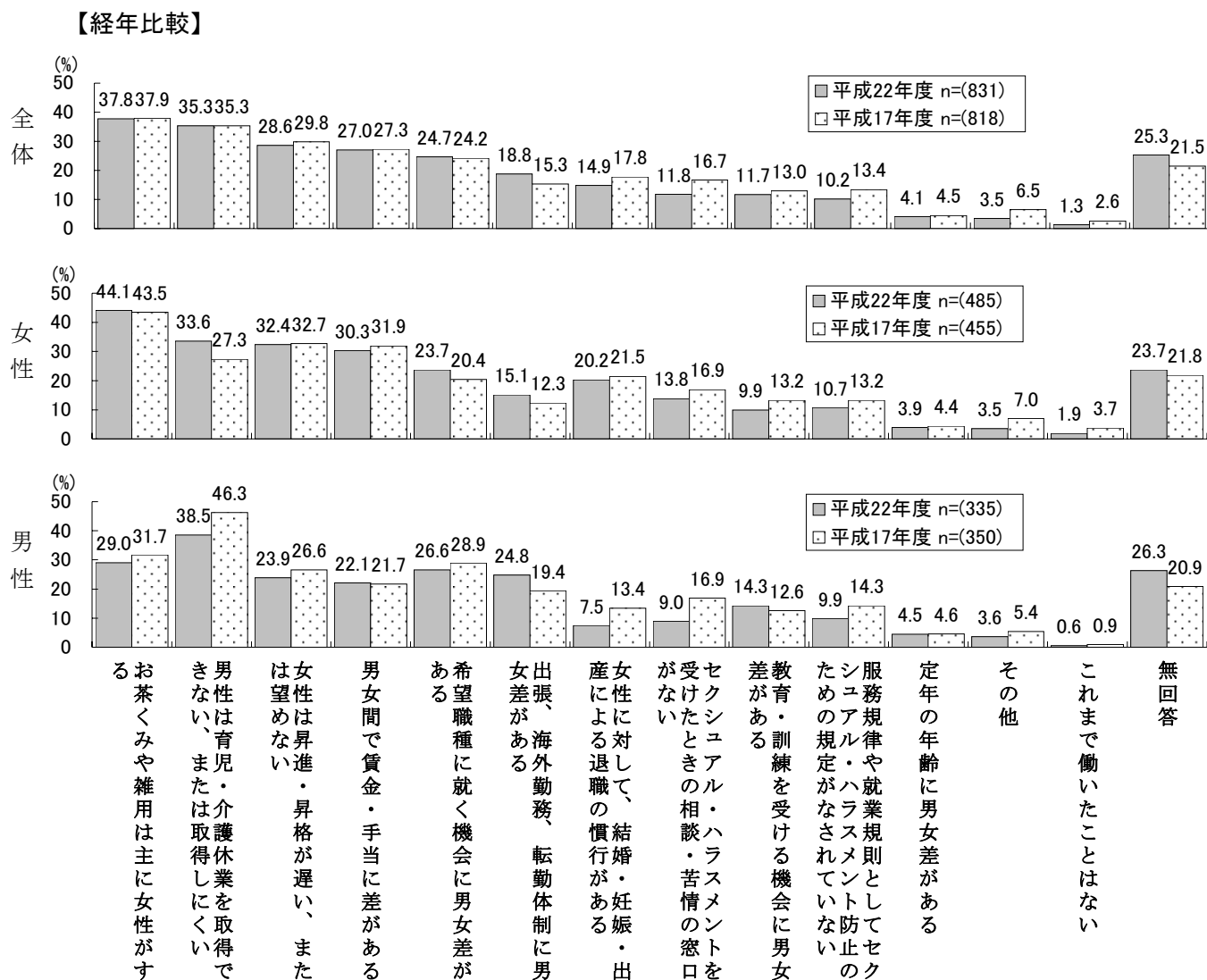
図表5-3 職場の実態



職場の実態としては、「お茶くみや雑用は主に女性がする」が37.8%と最も多くなっている。次いで「男性は育児・介護休業を取得できない、または取得しにくい」が35.3%、「女性は昇進・昇格が遅い、または望めない」が28.6%となっている。

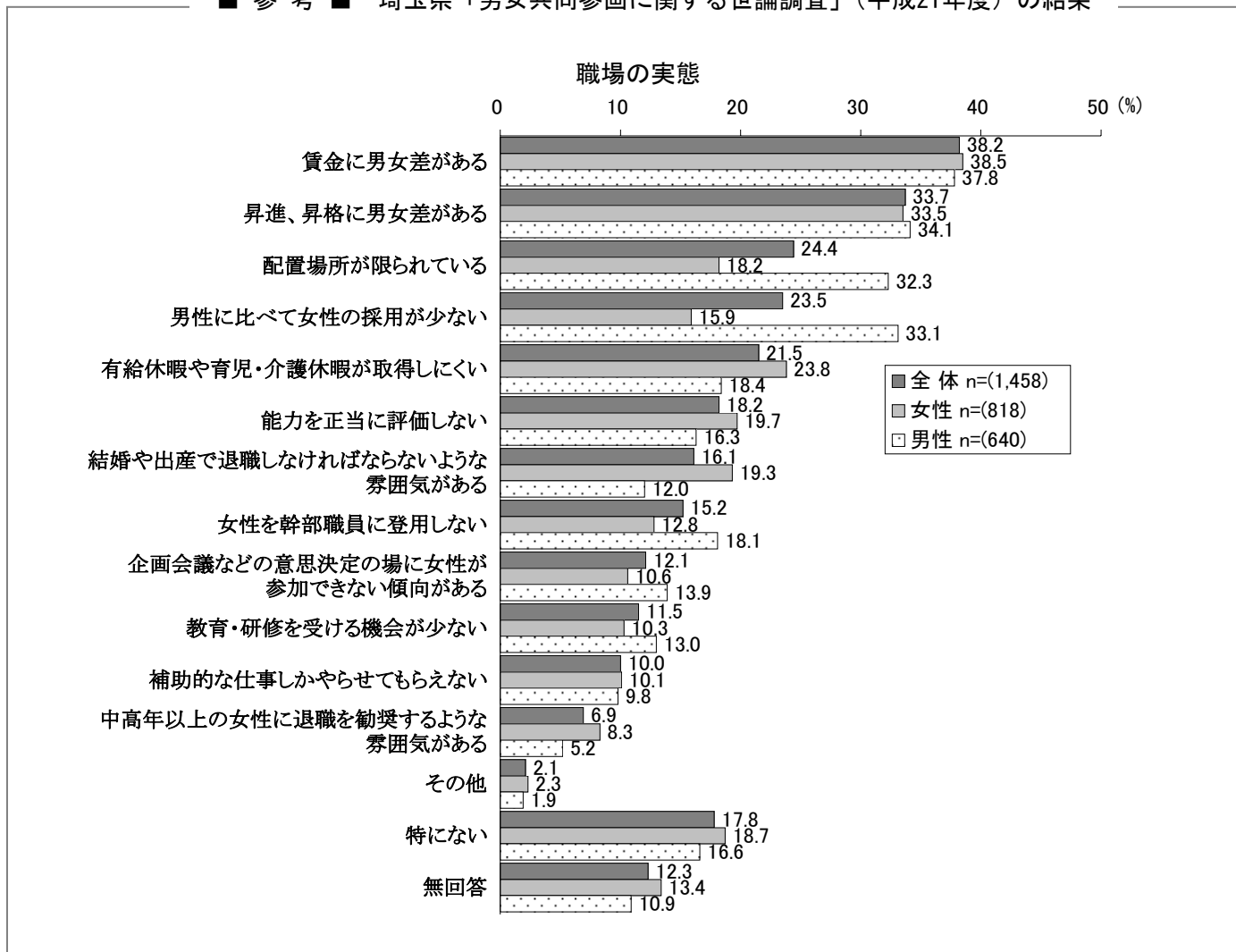
性別でみると、女性では「お茶くみや雑用は主に女性がする」(44.1%)、「女性に対して、結婚・妊娠・出産による退職の慣行がある」(20.2%)が男性に比べて高くなっている。男性では「出張、海外勤務、転勤体制に男女差がある」(24.8%)が女性に比べて高くなっている。(図表5-3)

図表5-4 職場の実態



平成17年度調査と比較すると、男女ともに「セクシュアル・ハラスメントを受けたときの相談・苦情の窓口がない」と「サービス規律や就業規則としてセクシュアル・ハラスメント防止のための規定がなされていない」が減少している。女性では「男性は育児・介護休業を取得できない、または取得しにくい」と「希望職種に就く機会に男女差がある」が増加している。男性では「男性は育児・介護休業を取得できない、または取得しにくい」と「女性に対して、結婚・妊娠・出産による退職の慣行がある」が減少し、「出張、海外勤務、転勤体制に男女差がある」が増加している。(図表5-4)

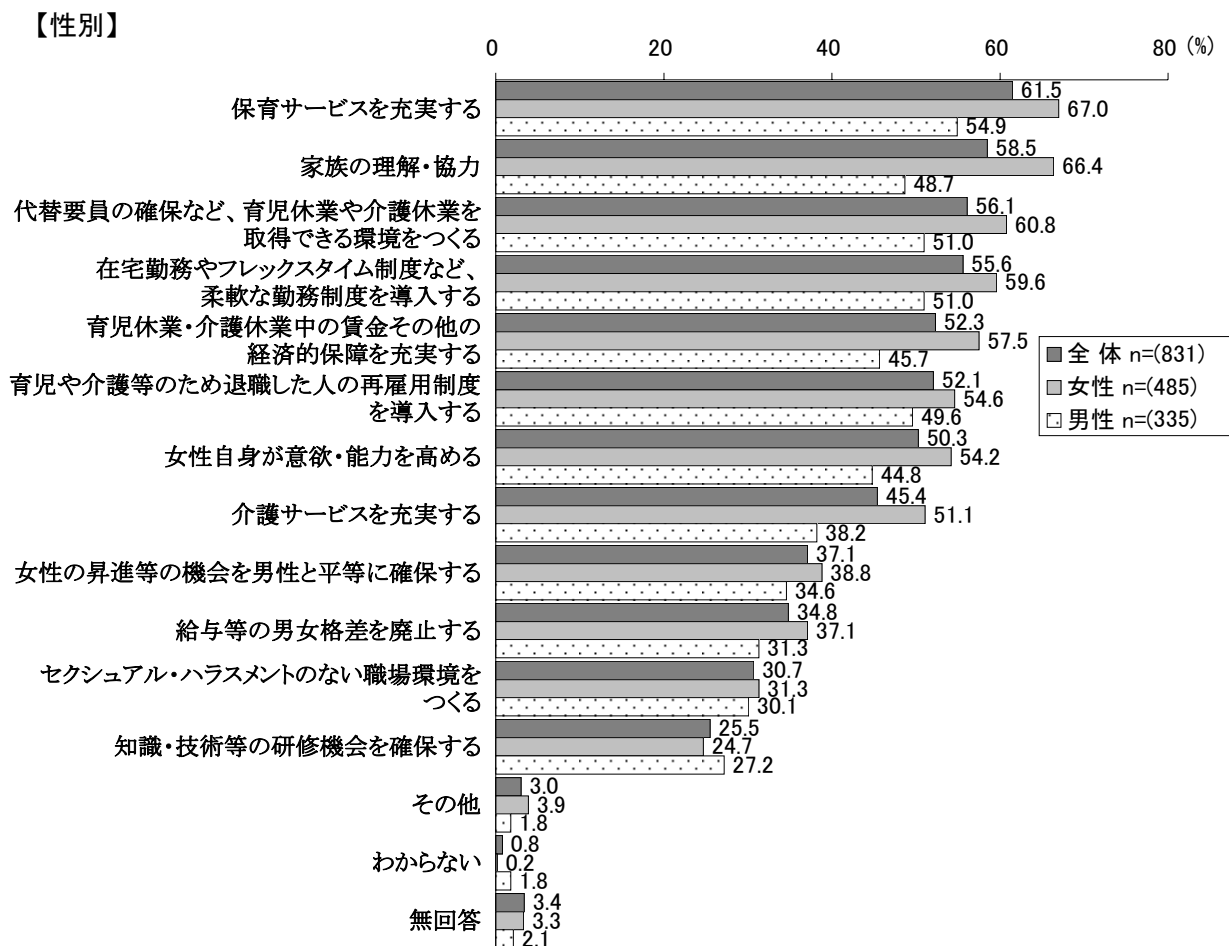
■ 参考 ■ 埼玉県「男女共同参画に関する世論調査」(平成21年度)の結果



(4) 女性が働き続けるのに必要なこと

問17 働くことを希望する女性が働き続けるのに必要なことは何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 5-5 女性が働き続けるのに必要なこと

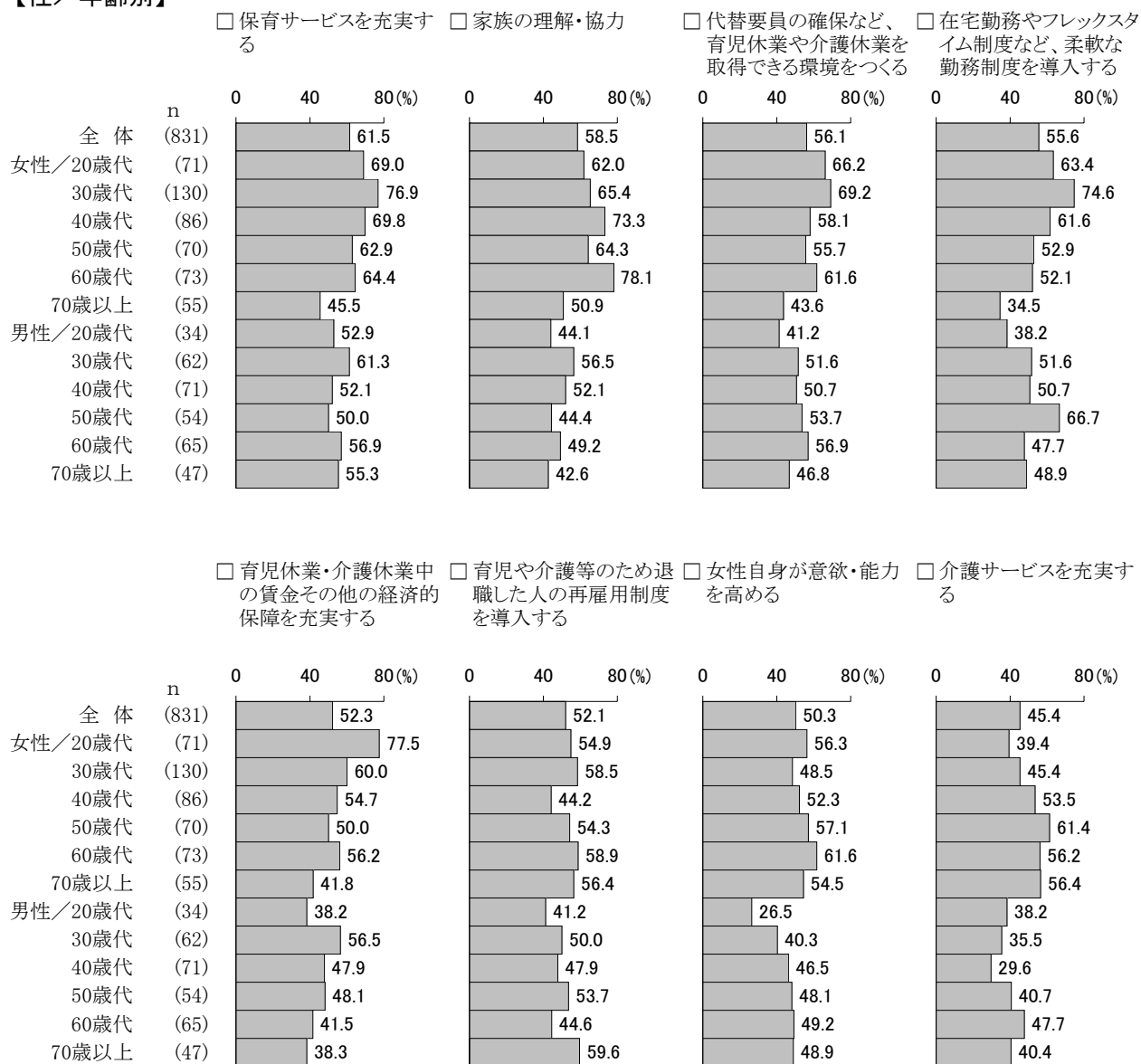


女性が働き続けるのに必要なことは、「保育サービスを充実する」が61.5%と最も多くなっている。次いで「家族の理解・協力」が58.5%、「代替要員の確保など、育児休業や介護休業を取得できる環境をつくる」が56.1%、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」が55.6%となっている。

性別で見ると、全体的に女性が男性を上回っており、特に「保育サービスを充実する」(67.0%)、「家族の理解・協力」(66.4%)、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する」(57.5%)、「介護サービスを充実する」(51.1%)が男性に比べて高い。(図表 5-5)

図表5-6 女性が働き続けるのに必要なこと（上位8項目）

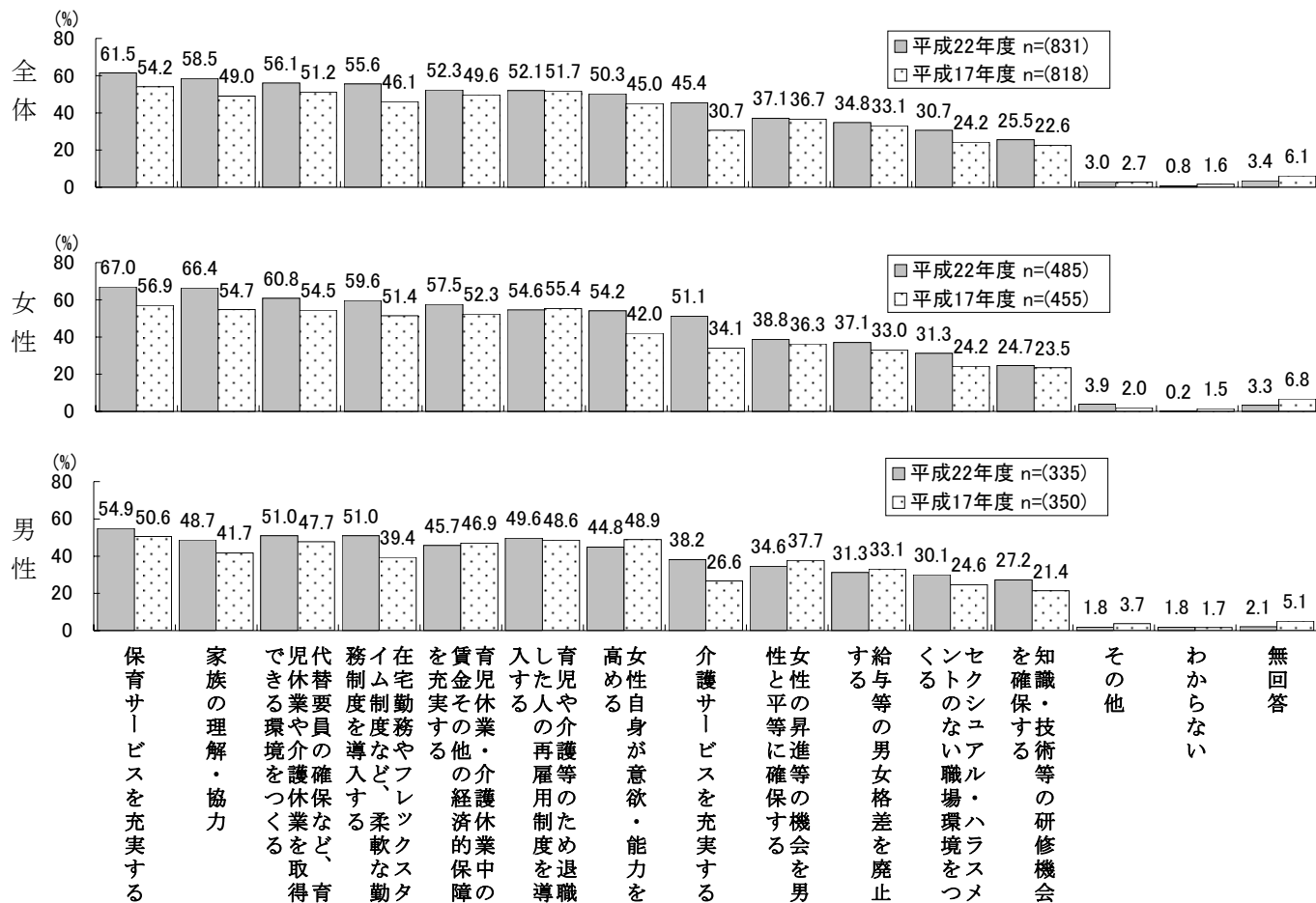
【性／年齢別】



性／年齢別でみると、「保育サービスを充実する」は、女性では30歳代で7割台半ばとなっている。男性では30歳代で6割を超えている。「家族の理解・協力」は、女性では60歳代で8割近く、40歳代で7割を超えている。「代替要員の確保など、育児休業や介護休業を取得できる環境をつくる」は、女性では30歳代で約7割、20歳代で6割台半ばである。「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」は、女性では20～40歳代で高く、特に30歳代で7割台半ばである。男性では50歳代で6割台半ばである。「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する」は、女性では20歳代で8割近くとなっている。（図表5-6）

図表5-7 女性が働き続けるのに必要なこと

【経年比較】

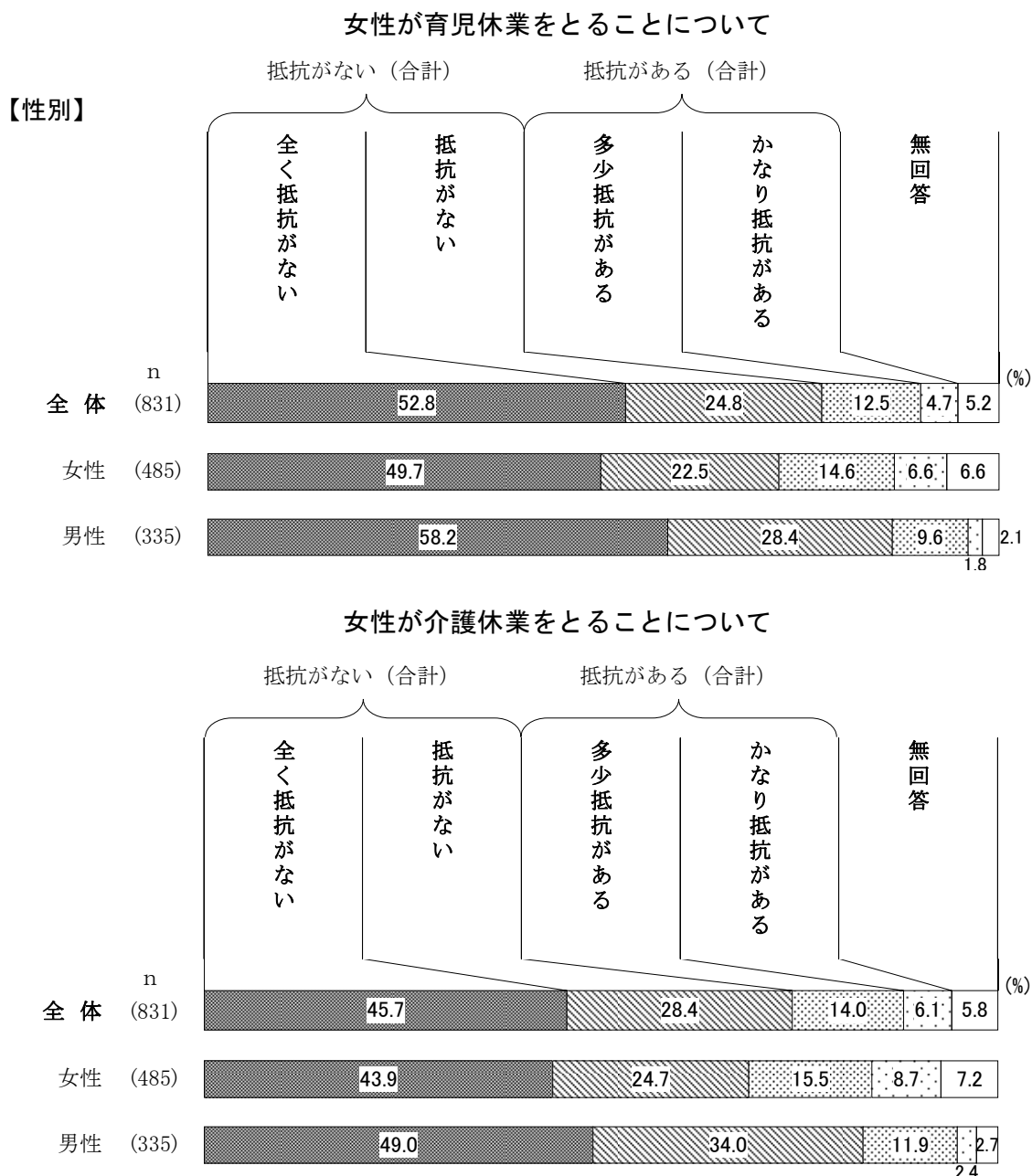


平成17年度調査と比較すると、男女ともに「家族の理解・協力」、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」「介護サービスを充実する」が増加している。女性では、「女性自身が意欲・能力を高める」が増加しているが、男性では減少している。(図表5-7)

(5) 育児休業や介護休業を取得することへの抵抗感

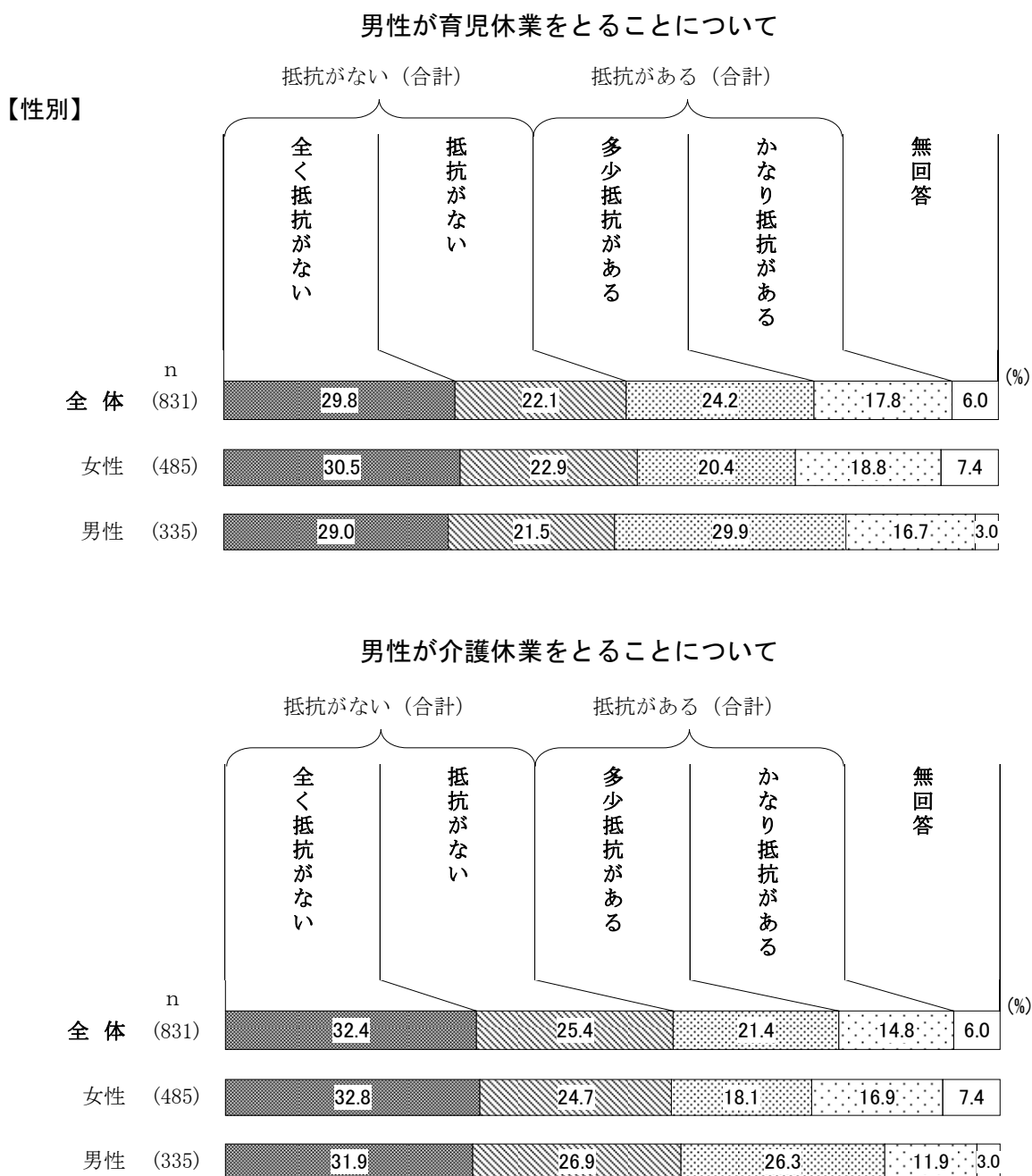
問18 育児休業や介護休業は男女ともに利用できる制度ですが、あなたの職場の人がこれらの制度を利用することについて、あなたはどのように思いますか。現在お勤めでない方は過去の経験からお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表5-8 育児休業や介護休業を取得することへの抵抗感



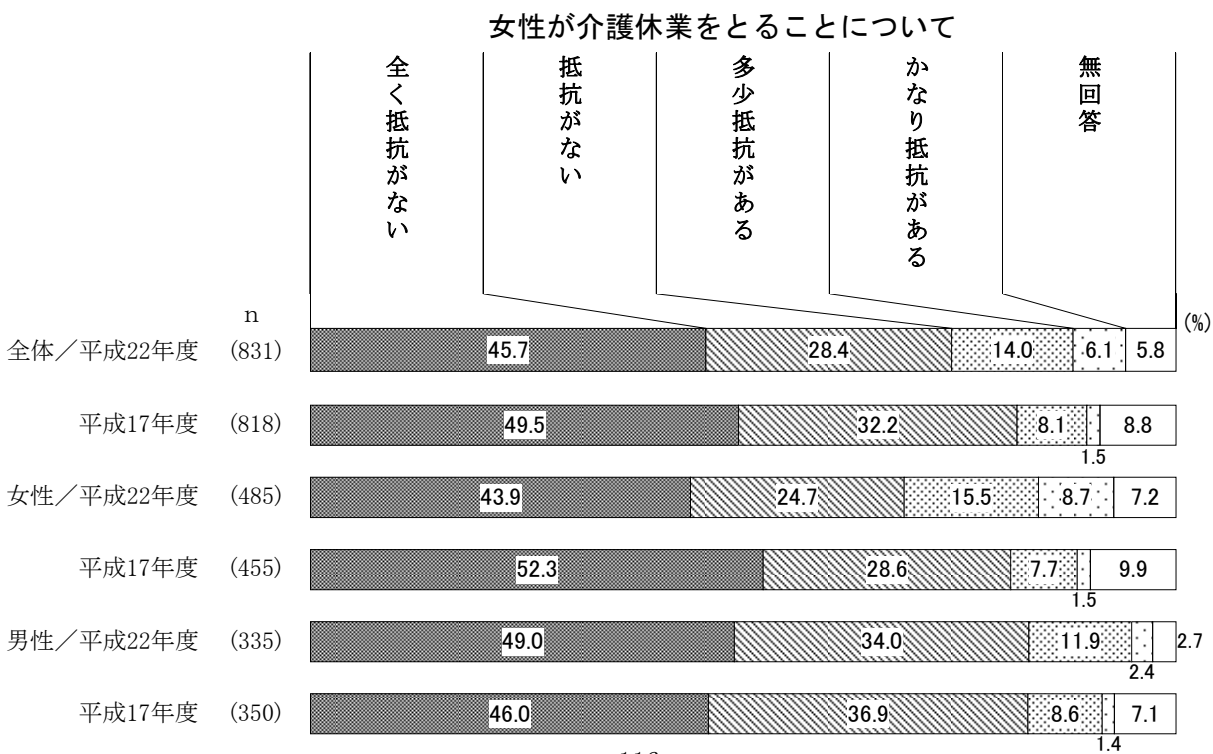
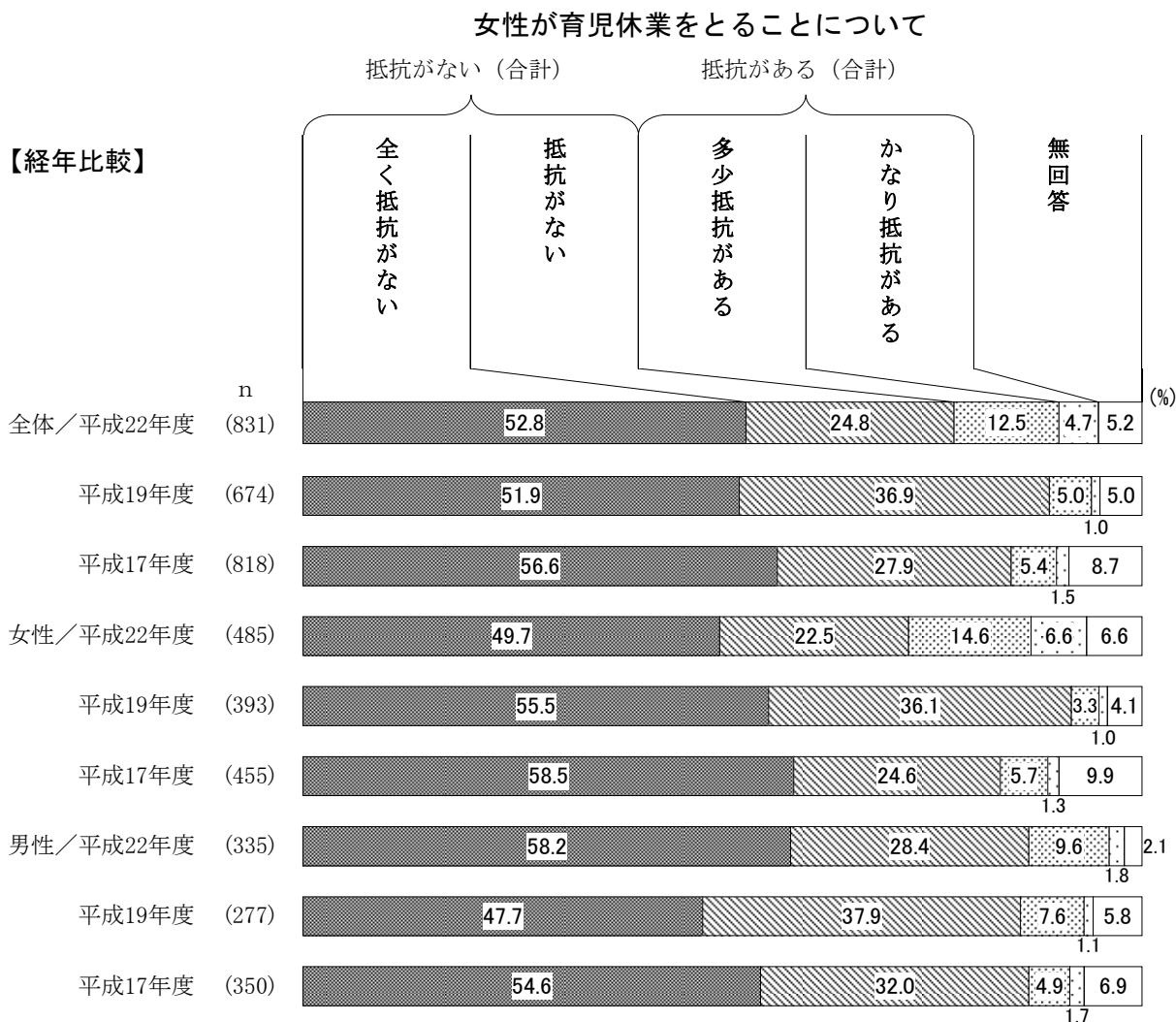
女性が育児休業、介護休業を取得することへの抵抗感については、全体では、「全く抵抗がない」と「抵抗がない」を合わせた《抵抗がない(合計)》は、育児休業(77.6%)、介護休業(74.1%)ともに7割を超えている。性別でみると、《抵抗がない(合計)》は、男性で育児休業(86.6%)、介護休業(83.0%)ともに8割を超え、女性に比べて高くなっている。(図表5-8)

図表5-9 育児休業や介護休業を取得することへの抵抗感

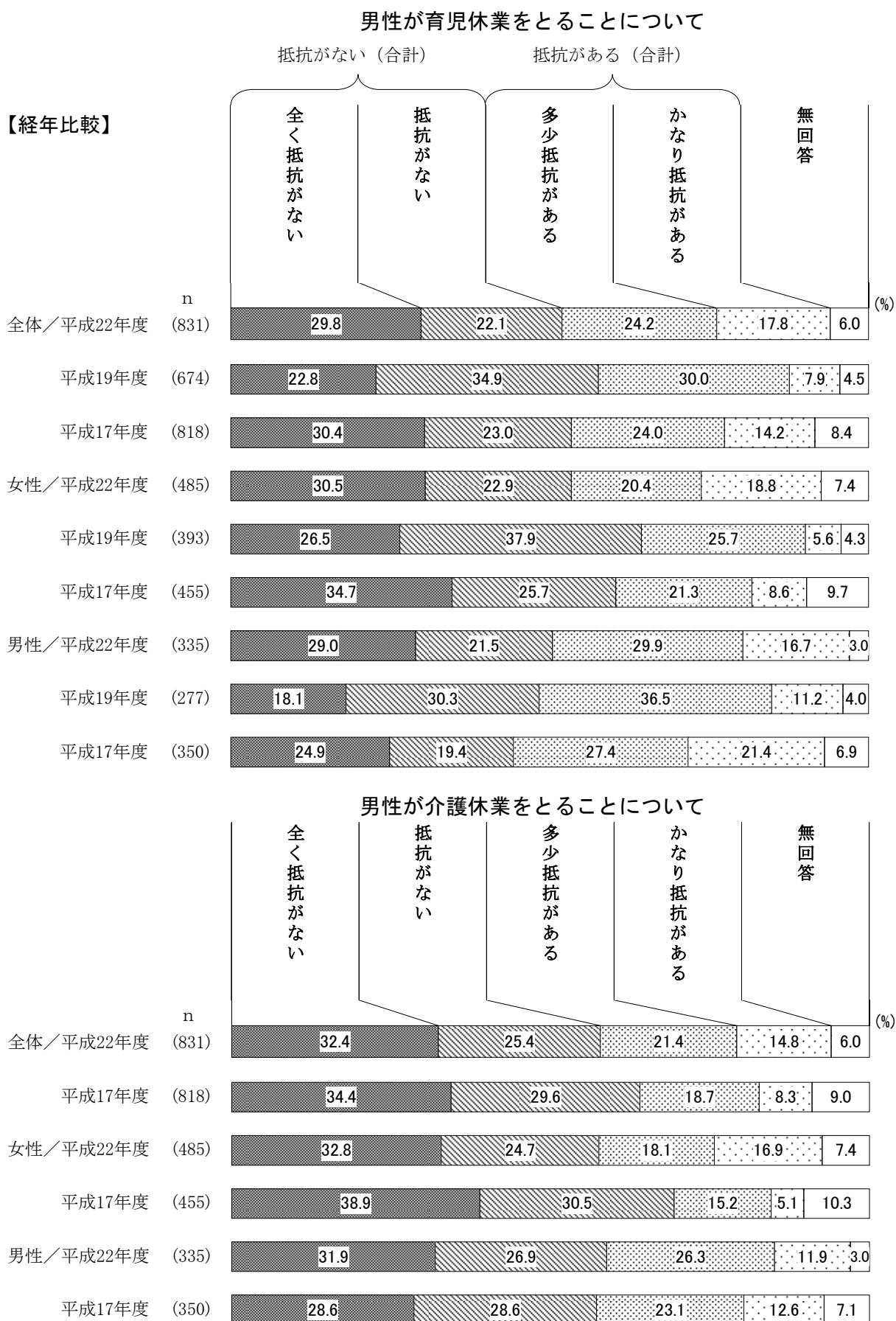


男性が育児休業、介護休業を取得することへの抵抗感については、全体では、「全く抵抗がない」と「抵抗がない」を合わせた《抵抗がない（合計）》は、育児休業（51.9%）、介護休業（57.8%）ともに半数を超えている。性別で見ると、《抵抗がない（合計）》は育児休業、介護休業ともに、大きな差は見られない。「多少抵抗がある」と「かなり抵抗がある」を合わせた《抵抗がある（合計）》は、男性で育児休業（46.6%）、介護休業（38.2%）となっており、女性に比べてやや高くなっている。（図表5-9）

図表5-10 育児休業や介護休業を取得することへの抵抗感



図表5-11 育児休業や介護休業を取得することへの抵抗感



第2章 市民意識調査結果の分析

経年で比較すると、女性の育児休業については、平成19年度から22年度にかけて、「抵抗がない（合計）」が女性で大きく減少し、「抵抗がある（合計）」が大きく増加している。男性では「抵抗がある（合計）」が僅かに増加している。女性の介護休業についても、平成17年度から22年度にかけて、「抵抗がない（合計）」が女性で減少し、「抵抗がある（合計）」が増加している。男性では「抵抗がある（合計）」がやや増加している。（図表5-10）

男性の育児休業については、平成19年度から22年度にかけて、「抵抗がない（合計）」が女性で減少し、「抵抗がある（合計）」が増加している。男性では「抵抗がある（合計）」が僅かに増加している。男性の介護休業についても、平成17年度から22年度にかけて、「抵抗がない（合計）」が女性で減少し、「抵抗がある（合計）」が増加している。男性では「抵抗がある（合計）」が僅かに増加している。（図表5-11）

(6) 女性の就業についての意識

問19 女性の働き方についてお伺いします。以下について、下の選択肢の中からそれぞれ1つずつ選び、番号を記入してください。

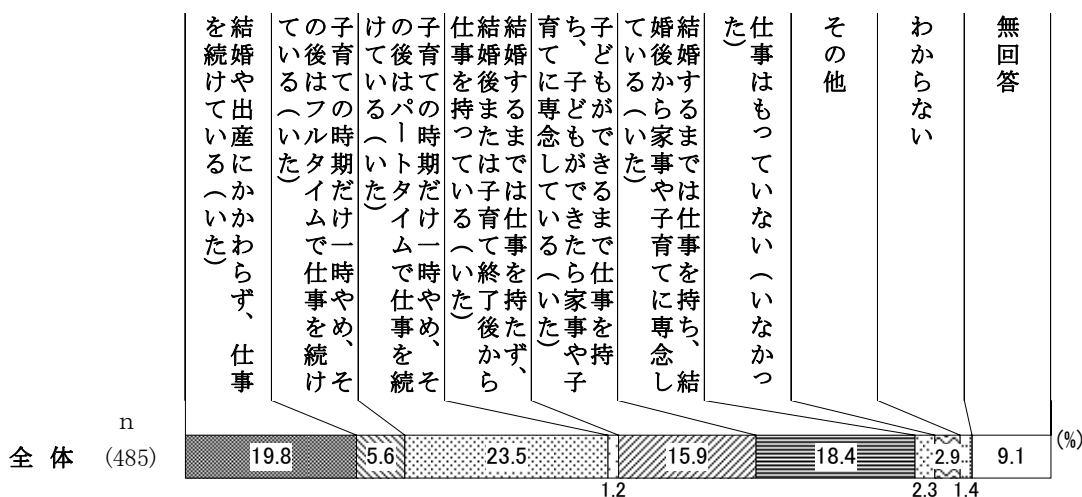
問19-1. 【女性の方】 あなた自身の働き方は、どれにあたると思いますか。
(未婚の方は結婚した場合に自分が望む働き方をお答えください。)

問19-2. 【男性の方】 あなたの妻の働き方は、どれにあたると思いますか。
(未婚の方は結婚した場合に相手に望む働き方をお答えください。)

問19-3. 【すべての方】 あなたの母親の働き方は、どれに近いですか。

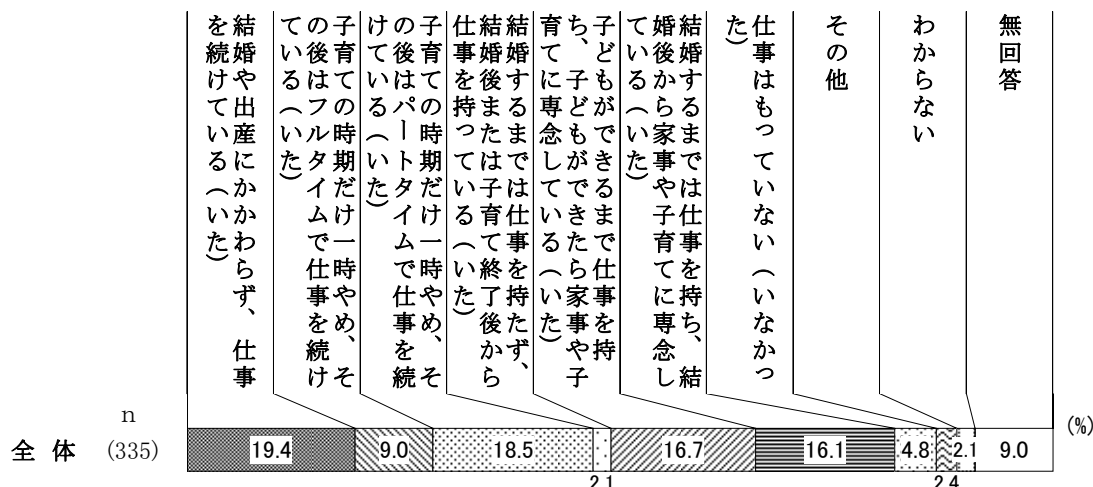
問19-4. 【すべての方】 一般的に、女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。

図表5-12 女性の就業についての意識 【女性の方】女性自身の働き方



女性自身の働き方は、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(いた)」が23.5%である。また、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(いた)」が19.8%、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後からは家事や子育てに専念している(いた)」が18.4%となっている。(図表5-12)

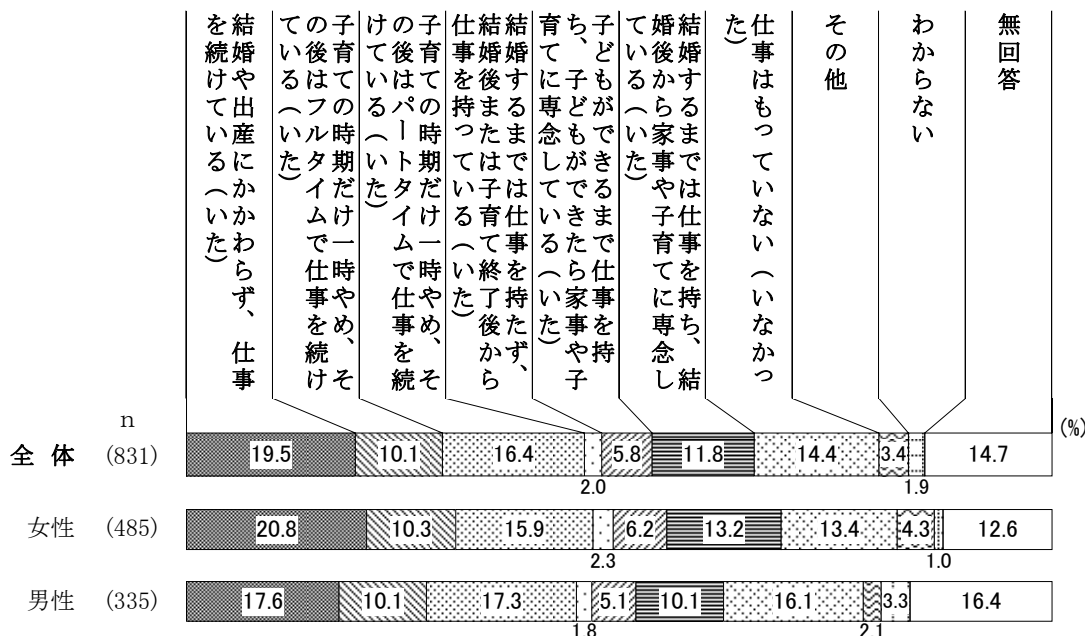
図表5-13 女性の就業についての意識 【男性の方】妻の働き方



妻の働き方は、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」が19.4%である。また、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている (いた)」が18.5%、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念している (いた)」が16.7%となっている。(図表5-13)

図表5-14 女性の就業についての意識 【すべての方】母親の働き方

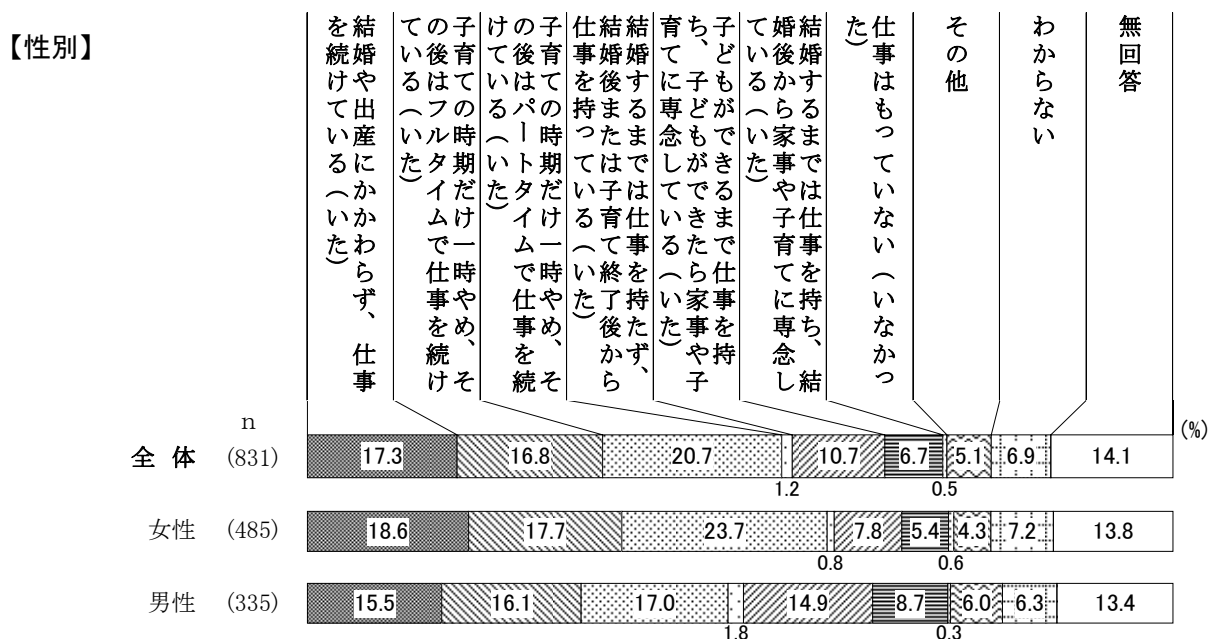
【性別】



母親の働き方は、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」が19.5%である。また、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている (いた)」が16.4%となっている。

性別で見ると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」が女性20.8%、男性17.6%と、女性が男性を上回っている。(図表5-14)

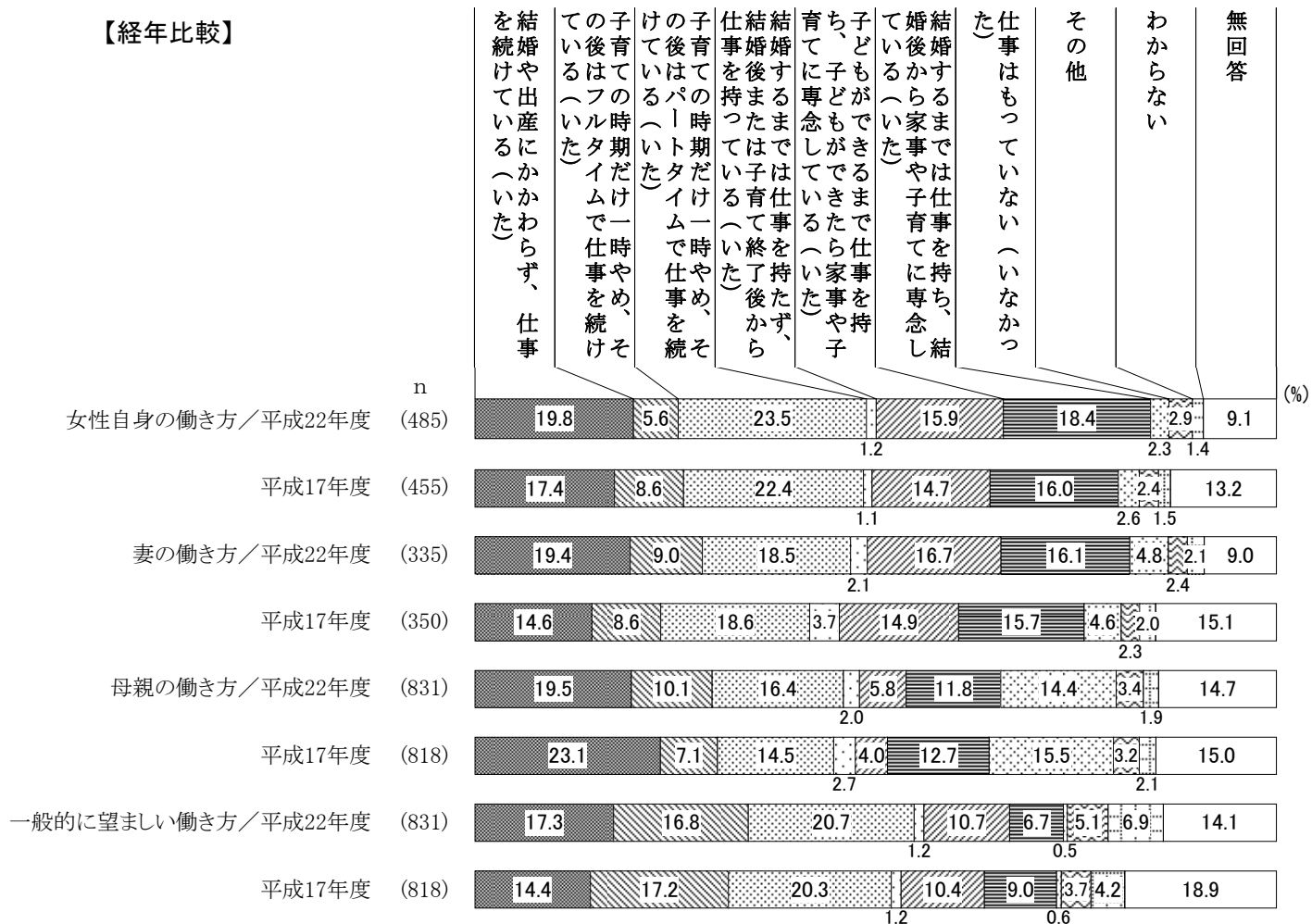
図表5-15 女性の就業についての意識 【すべての方】 一般的に望ましい働き方



一般的に望ましい働き方は、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている (いた)」が20.7%である。また、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」が17.3%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている (いた)」が16.8%となっている。

性別でみると、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている (いた)」が女性23.7%、男性17.0%と、女性が男性をやや上回っている。一方、「子どもができるまで仕事を続け、子どもができたなら家事や子育てに専念している (いた)」が女性7.8%、男性14.9%と、男性が女性を上回っている。(図表5-15)

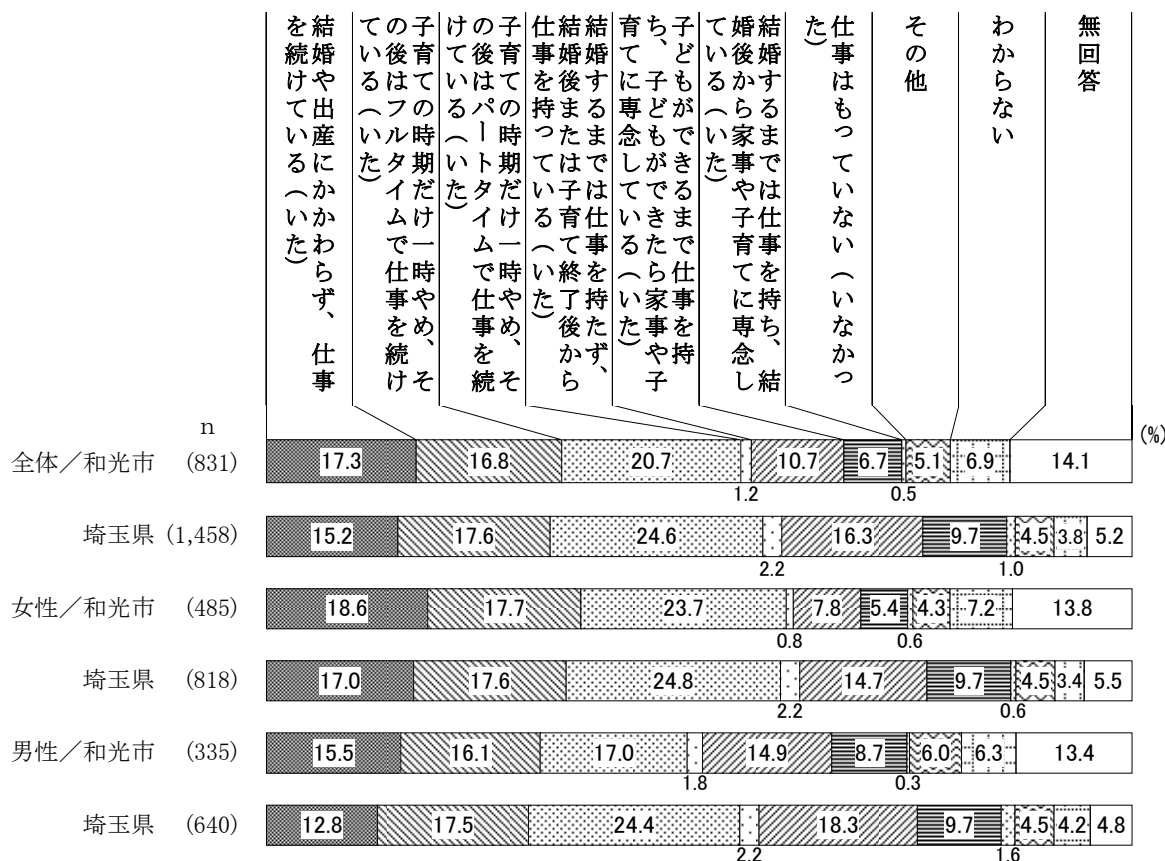
図表5-16 女性の就業についての意識



平成17年度調査と比較すると、女性自身の働き方については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後から家事や子育てに専念している (いた)」が僅かに増加し、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている (いた)」が僅かに減少している。妻の働き方については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」がやや増加している。母親の働き方については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」がやや減少し、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている (いた)」が僅かに増加している。一般的に望ましい働き方については、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)」が僅かに増加し、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後から家事や子育てに専念している (いた)」が僅かに減少している。(図表5-16)

図表5-17 女性の就業についての意識 【すべての方】一般的に望ましい働き方

【埼玉県（平成21年度）との比較】



埼玉県の調査と比較すると、女性では「子どもができるまで仕事をもち、子どもができれば家事や子育てに専念している(いた)」、「結婚するまでは仕事をもち、結婚後から家事や子育てに専念している(いた)」で県が市をやや上回っている。男性では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(いた)」、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができれば家事や子育てに専念している(いた)」で県が市を上回っている。(図表5-17)

(7) 現在就労していない理由

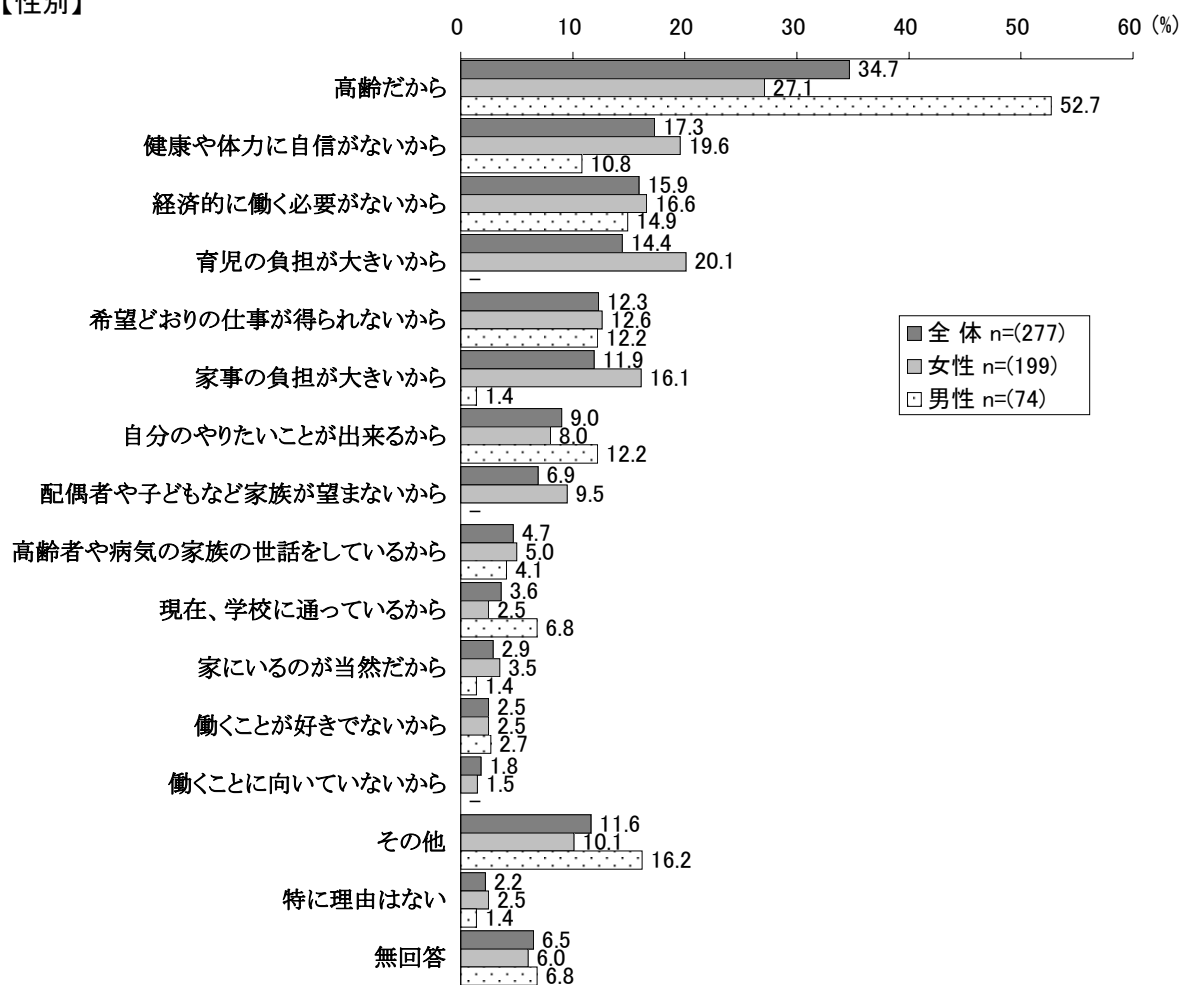
【問15「あなたは、今、収入を伴う仕事に就いていますか。」で「5 専業主婦・専業主夫」「6 学生」「7 無職」「8 その他」と回答された方のみにおたずねします。】

問20 あなたが現在仕事をしていないのはどのような理由からですか。

(あてはまるものすべてに○)

図表5-18 現在就労していない理由

【性別】



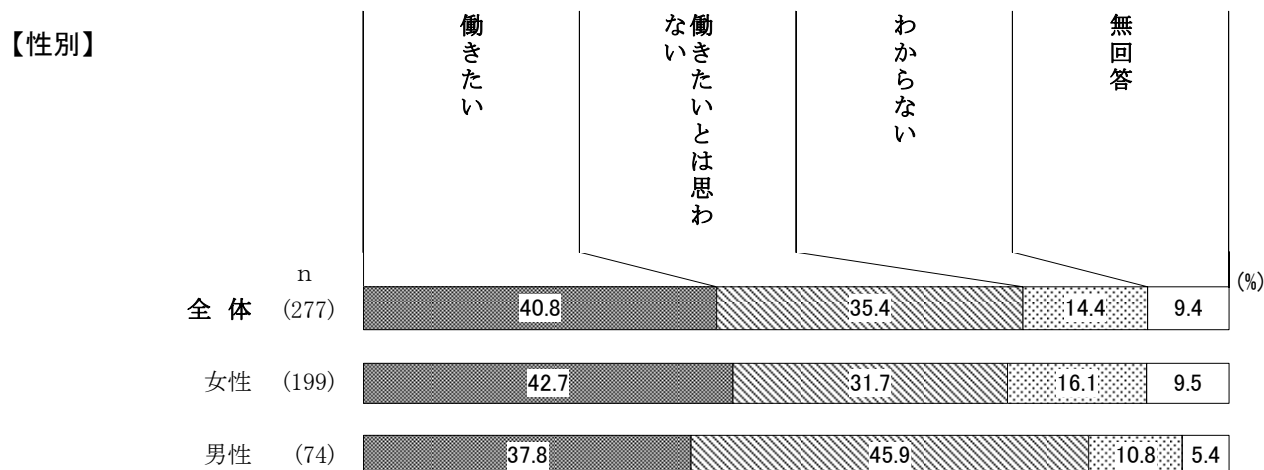
現在収入を伴う仕事に就いていない理由としては、「高齢だから」が34.7%と最も多くなっている。次いで「健康や体力に自信がないから」が17.3%、「経済的に働く必要がないから」が15.9%、「育児の負担が大きいから」が14.4%となっている。

性別でみると、女性では「育児の負担が大きいから」(20.1%)、「家事の負担が大きいから」(16.1%)が男性に比べて高くなっている。男性では「高齢だから」(52.7%)が女性に比べて高くなっている。(図表5-18)

(8) 今後の就労意向

問20-1 今後、働きたいと思いますか。(○は1つ)

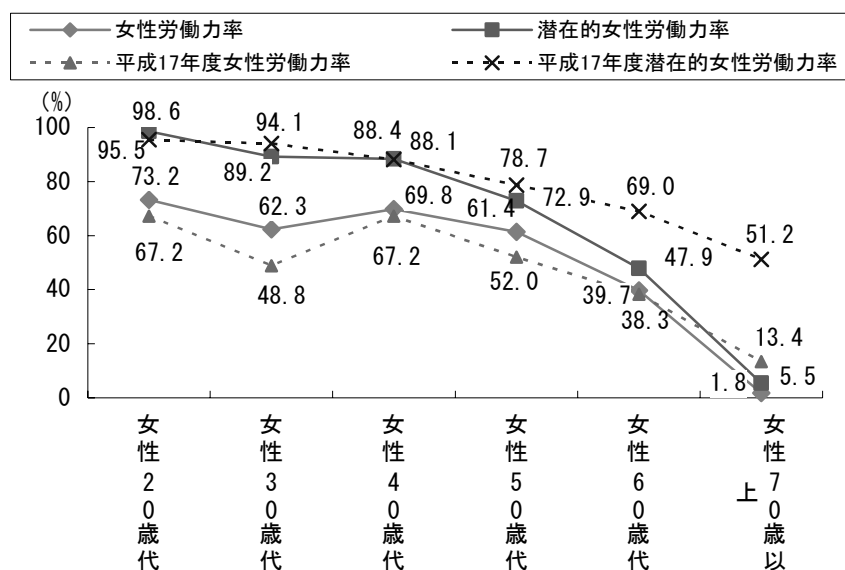
図表5-19 今後の就労意向



現在収入を伴う仕事に就いてない方に、今後の就労意向を聞いたところ、「働きたい」が40.8%、「働きたいとは思わない」が35.4%となっている。

性別で見ると、「働きたい」が女性42.7%、男性37.8%と、女性が男性をやや上回っている。(図表5-19)

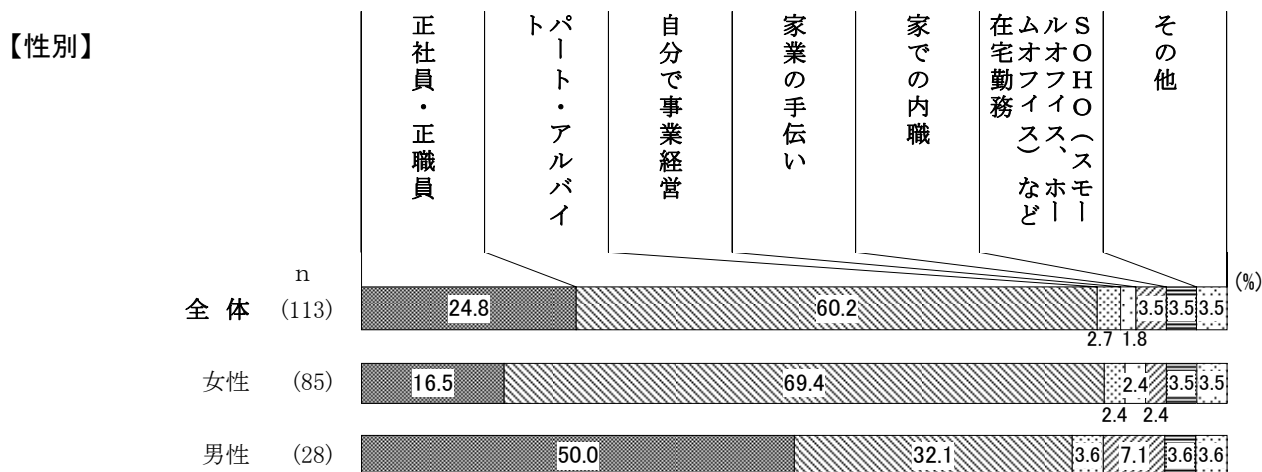
参考 女性労働率および潜在的な女性労働率



(9) 希望する就労形態

問20-2 今後、働くとすれば、どのような形で働きたいですか。(○は1つ)

図表5-20 希望する就労形態



希望する就労形態としては、「パート・アルバイト」が60.2%を占めている。「正社員・正職員」が24.8%となっている。

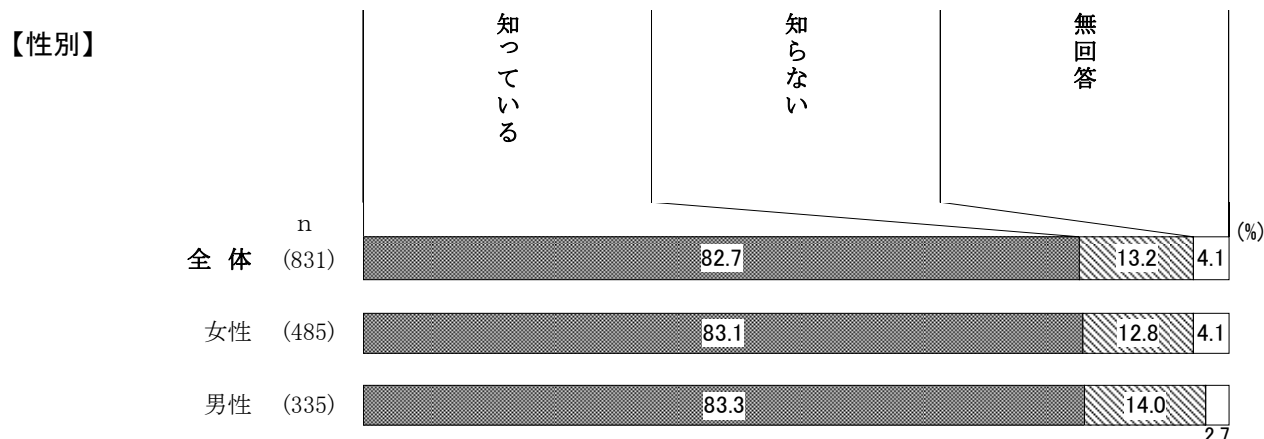
性別で見ると、女性では「パート・アルバイト」が69.4%、男性では「正社員・正職員」が50.0%を占めている。(図表5-20)

6. 健康について

(1) 性感染症の予防方法の認知状況

問21 あなたは、性感染症の予防方法を知っていますか。(〇は1つ)

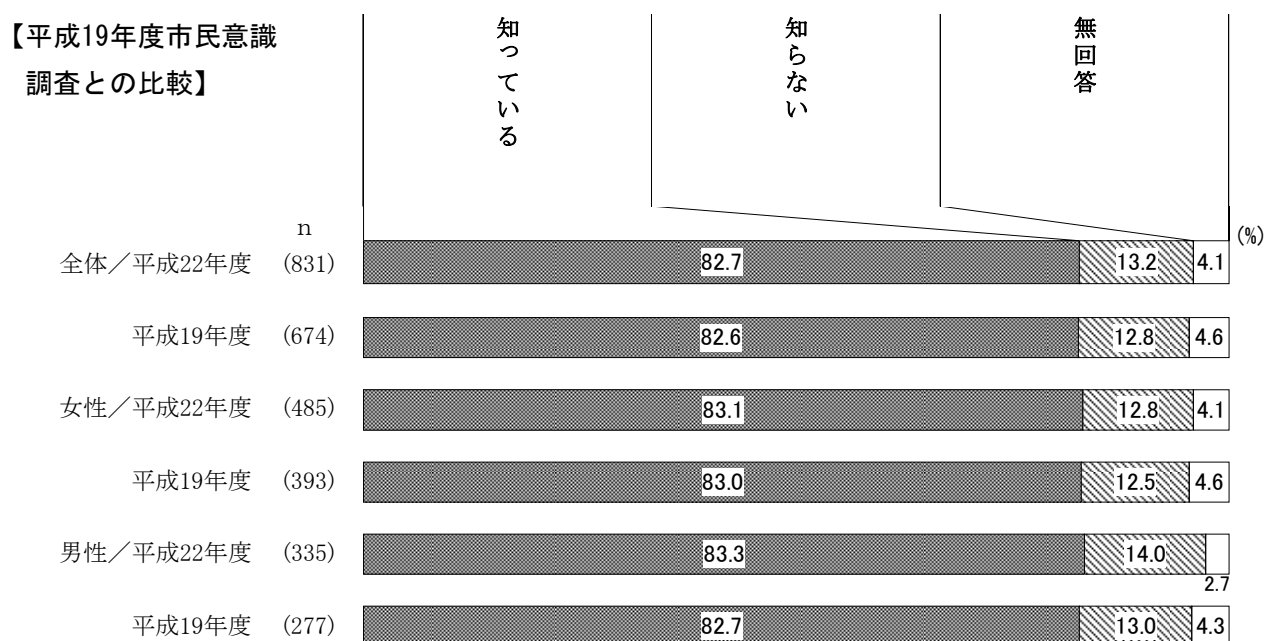
図表6-1 性感染症の予防方法の認知状況



性感染症の予防方法について、「知っている」が82.7%を占めている。

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。(図表6-1)

図表6-2 性感染症の予防方法の認知状況



※出典：平成19年度「和光市民意識調査(後期基本計画・男女共同参画)」

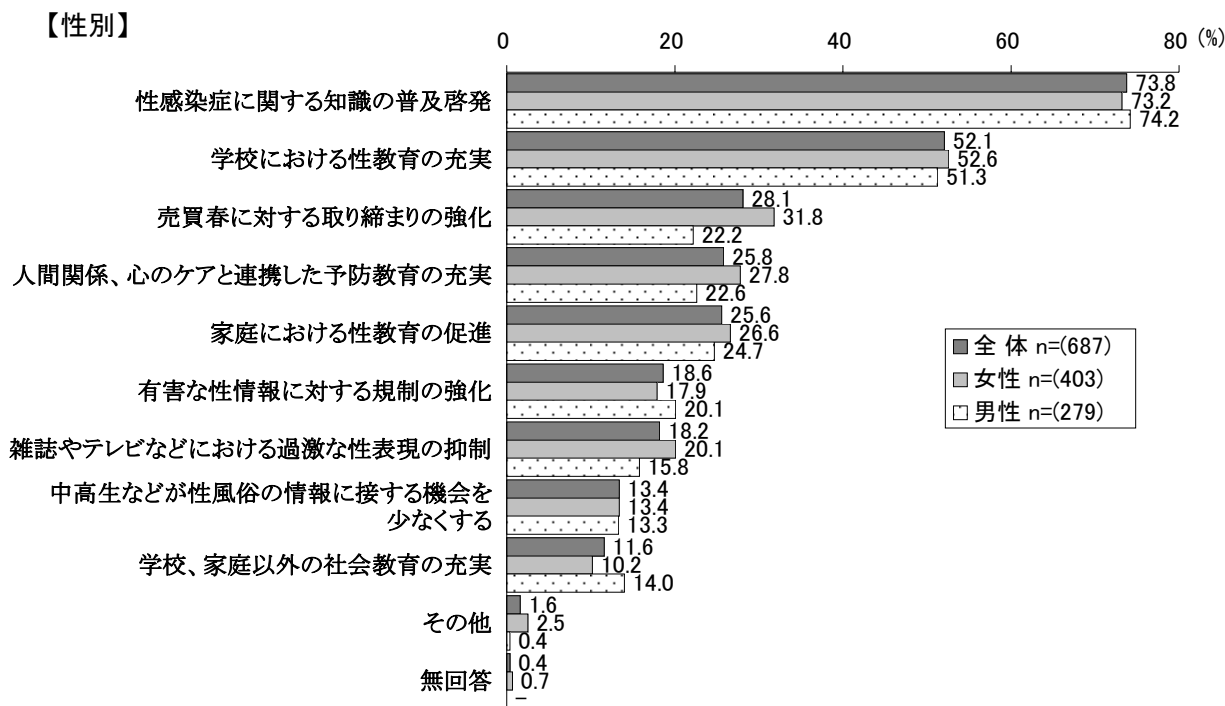
平成19年度調査と比較すると、大きな差はみられない。(図表6-2)

(2) 性感染症の予防対策として必要なこと

【問21で「知っている」と回答された方のみにおたずねします。】

問21-1 若い世代の間でH I Vなどの性感染症の蔓延が心配されています。あなたは、性感染症を防ぐために、どのような対策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表6-3 性感染症の予防対策として必要なこと

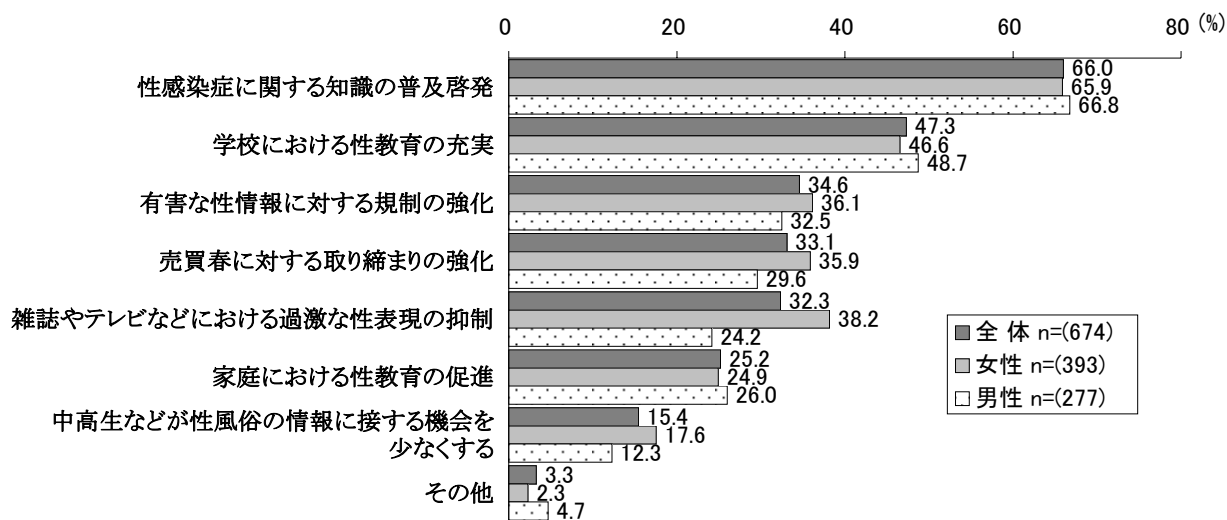


性感染症の予防対策として必要なことは、「性感染症に関する知識の普及啓発」が73.8%と最も多くなっている。次いで「学校における性教育の充実」が52.1%となっている。

性別でみると、女性では「売買春に対する取り締まりの強化」(31.8%)が男性に比べて高くなっている。(図表6-3)

■ 参考 ■ 和光市「和光市民意識調査」(平成19年度)の結果

性感染症の予防対策として必要なこと

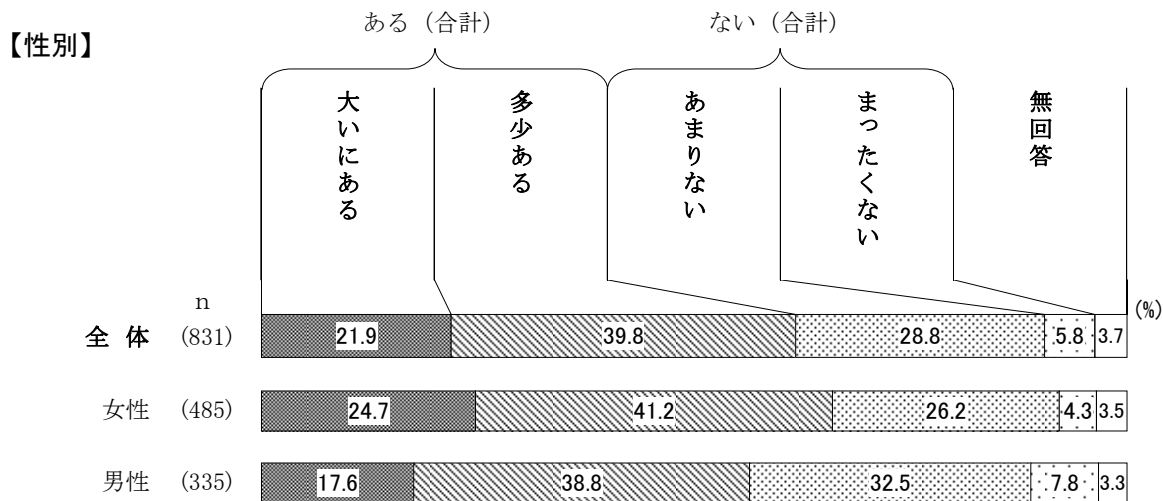


※回答者の前提条件、選択肢の数が異なるため、今回の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

(3) 日常生活での不満、悩み、苦労、ストレスの有無

問22 あなたは、この1ヶ月の間に日常生活で不満、悩み、苦労、ストレスなどがありましたか。(〇は1つ)

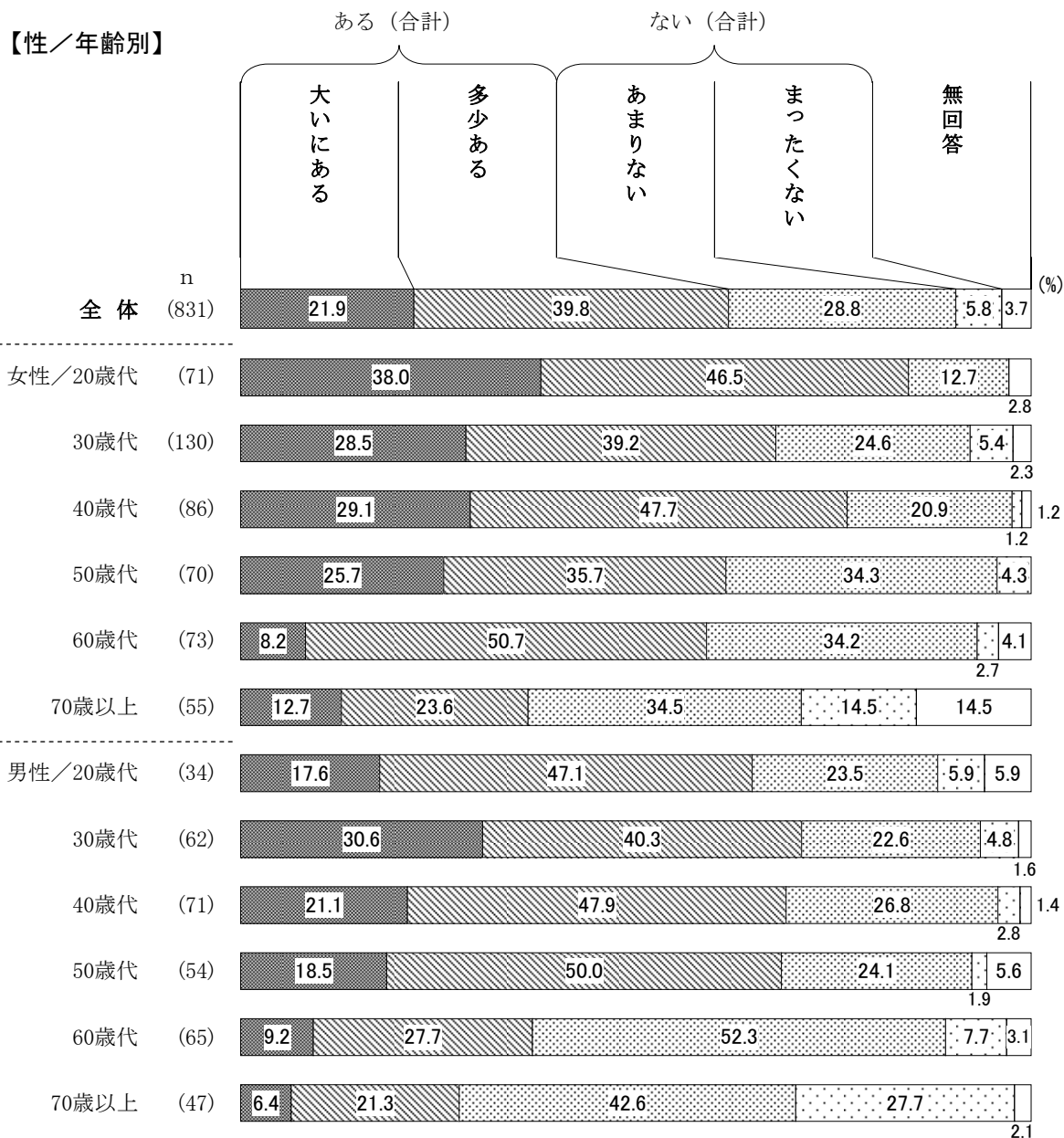
図表6-4 日常生活での不満、悩み、苦労、ストレスの有無



日常生活での不満、悩み、苦労、ストレスについては、「多少ある」が39.8%を占めており、「大いにある」(21.9%)を合わせた《ある(合計)》が61.7%となっている。

性別でみると、《ある(合計)》が女性65.9%、男性56.4%と、女性が男性を上回っている。(図表6-4)

図表6-5 日常生活での不満、悩み、苦勞、ストレスの有無

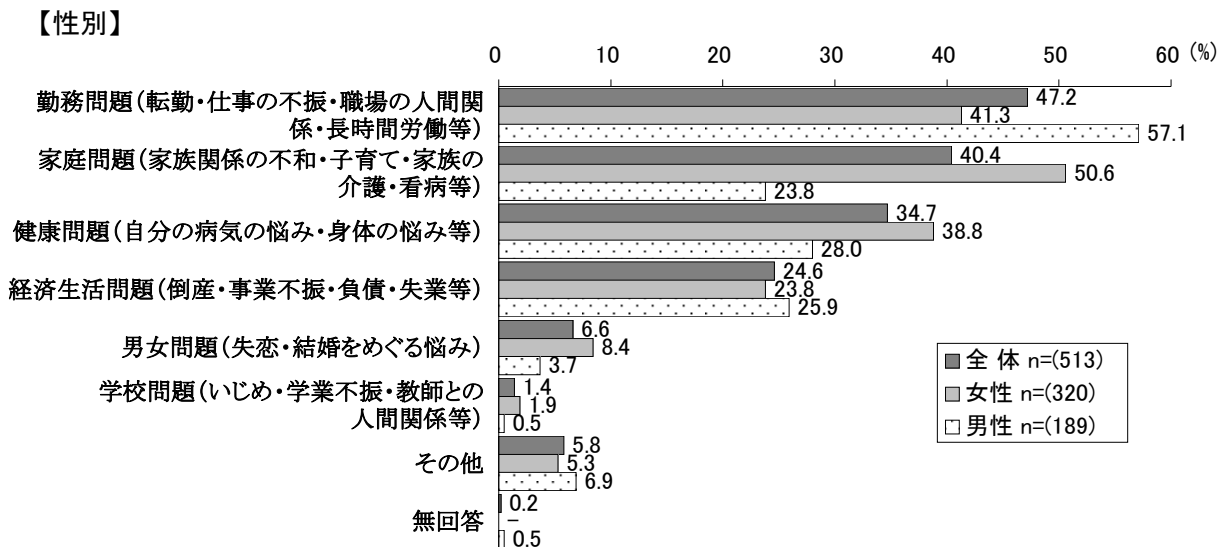


性／年齢別でみると、《ある (合計)》は、女性では20歳代で8割を超え、40歳代で7割台半ばとなっている。男性では20～50歳代で高く、特に30歳代で7割を超えている。《ない (合計)》は、男女ともに70歳以上で高く、特に男性では7割を超えている。(図表6-5)

(4) 日常生活での不満、悩み、苦労、ストレスの原因

【問22で「大いにある」または「多少ある」と回答された方のみにおたずねします。】
 問22-1 それは、どのような事柄が原因ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表6-6 日常生活での不満、悩み、苦労、ストレスの原因

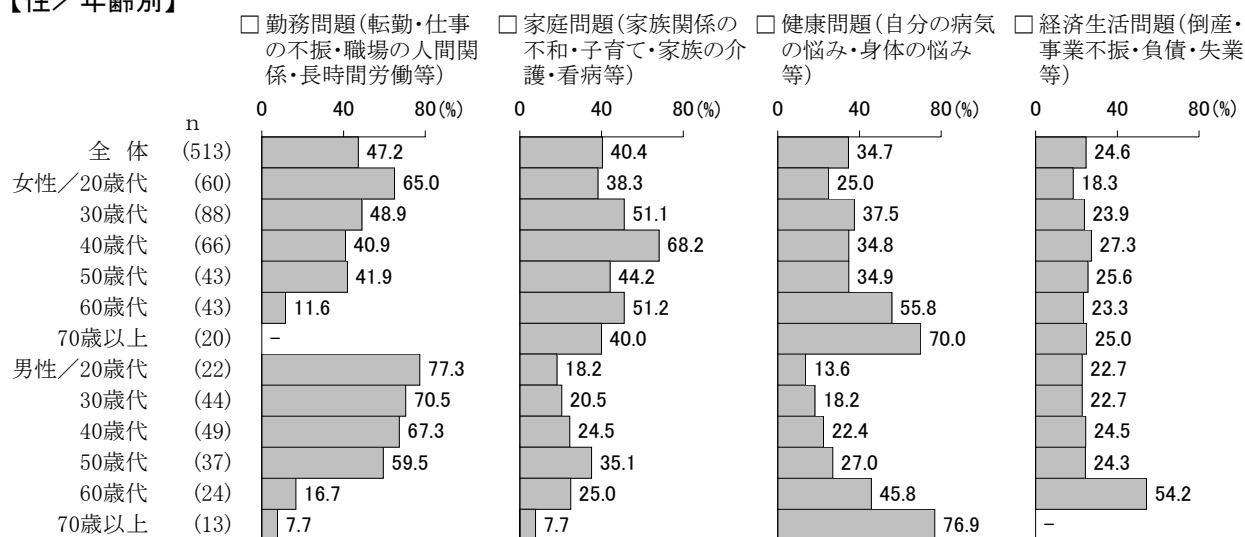


日常生活での不満、悩み、苦労、ストレスの原因としては、「勤務問題（転勤・仕事の不振・職場の人間関係・長時間労働等）」が47.2%と最も多くなっている。次いで「家庭問題（家族関係の不和・子育て・家族の介護・看病等）」が40.4%、「健康問題（自分の病気の悩み・身体の悩み等）」が34.7%となっている。

性別で見ると、女性では「家庭問題（家族関係の不和・子育て・家族の介護・看病等）」（50.6%）が男性に比べて高くなっている。男性では「勤務問題（転勤・仕事の不振・職場の人間関係・長時間労働等）」（57.1%）が女性に比べて高くなっている。（図表6-6）

図表6-7 日常生活での不満、悩み、苦勞、ストレスの原因（上位4項目）

【性／年齢別】

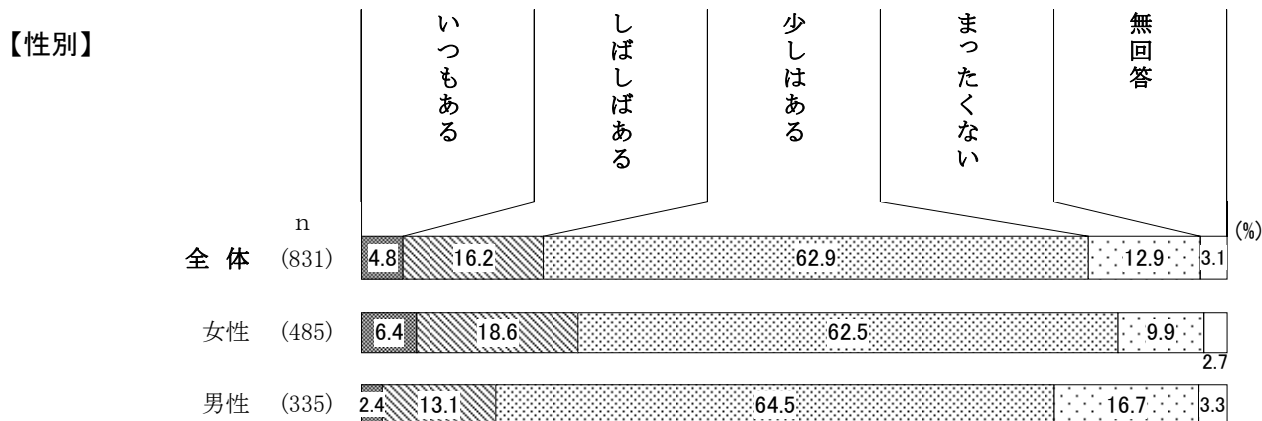


性／年齢別で見ると、「勤務問題（転勤・仕事の不振・職場の人間関係・長時間労働等）」は、男女ともに20～50歳代で高く、特に20歳代で女性が6割台半ば、男性が8割近くとなっている。「家庭問題（家族関係の不和・子育て・家族の介護・看病等）」は、女性では40歳代で7割近く、30歳代と60歳代で半数を超えている。「健康問題（自分の病気の悩み・身体の悩み等）」は、男女ともに60歳以上で多くなっている。「経済生活問題（倒産・事業不振・負債・失業等）」は、男性の60歳代で半数を超えている。（図表6-7）

(5) 気分がひどく落ち込むことの有無

問23 あなたは、気分がひどく落ち込むことがありますか。(〇は1つ)

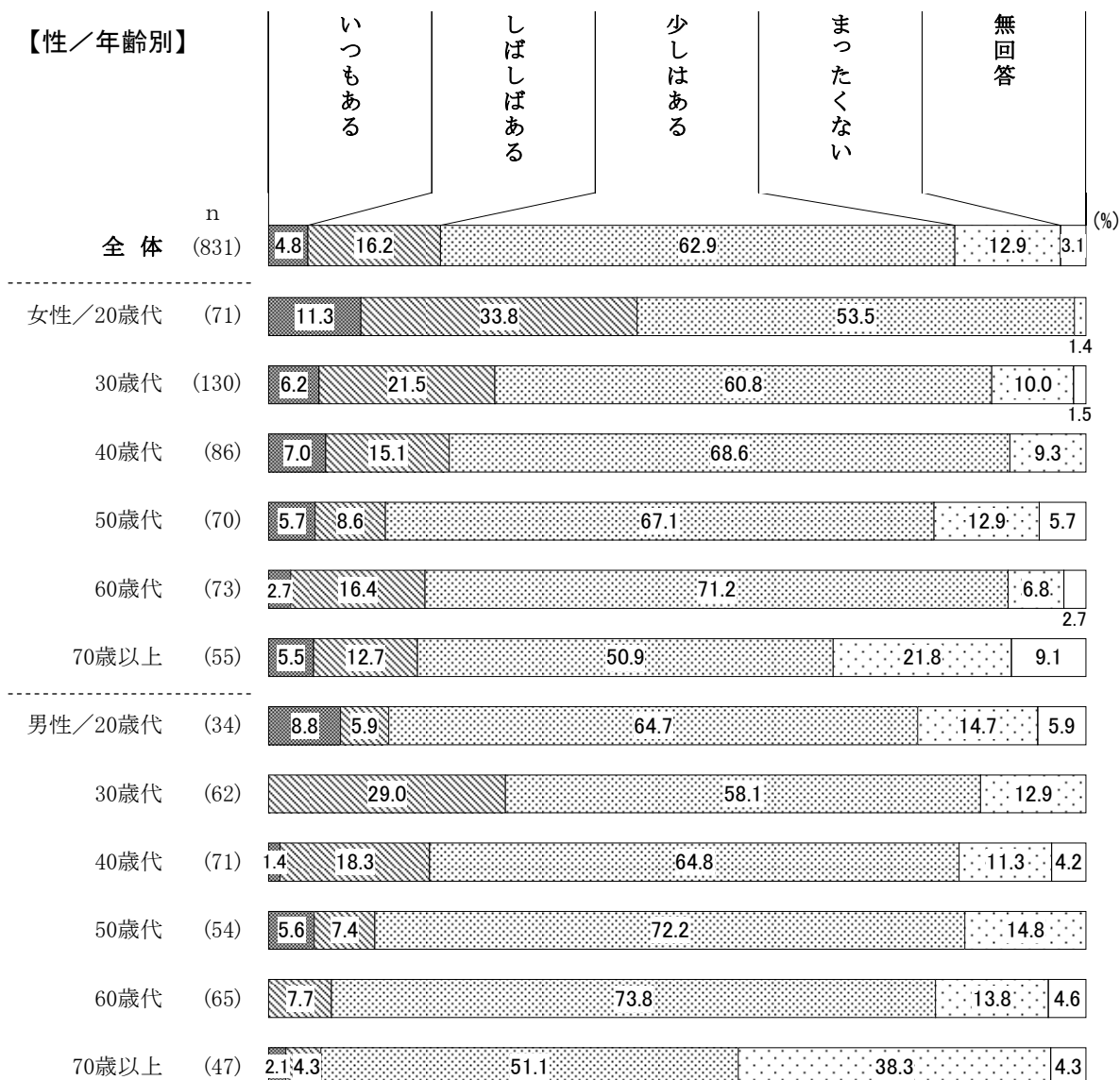
図表6-8 気分がひどく落ち込むことの有無



気分がひどく落ち込むことは、「少しはある」が62.9%を占めている。

性別で見ると、女性では「いつもある」(6.4%)と「しばしばある」(18.6%)がそれぞれ男性を上回っている。(図表6-8)

図表6-9 気分がひどく落ち込むことの有無



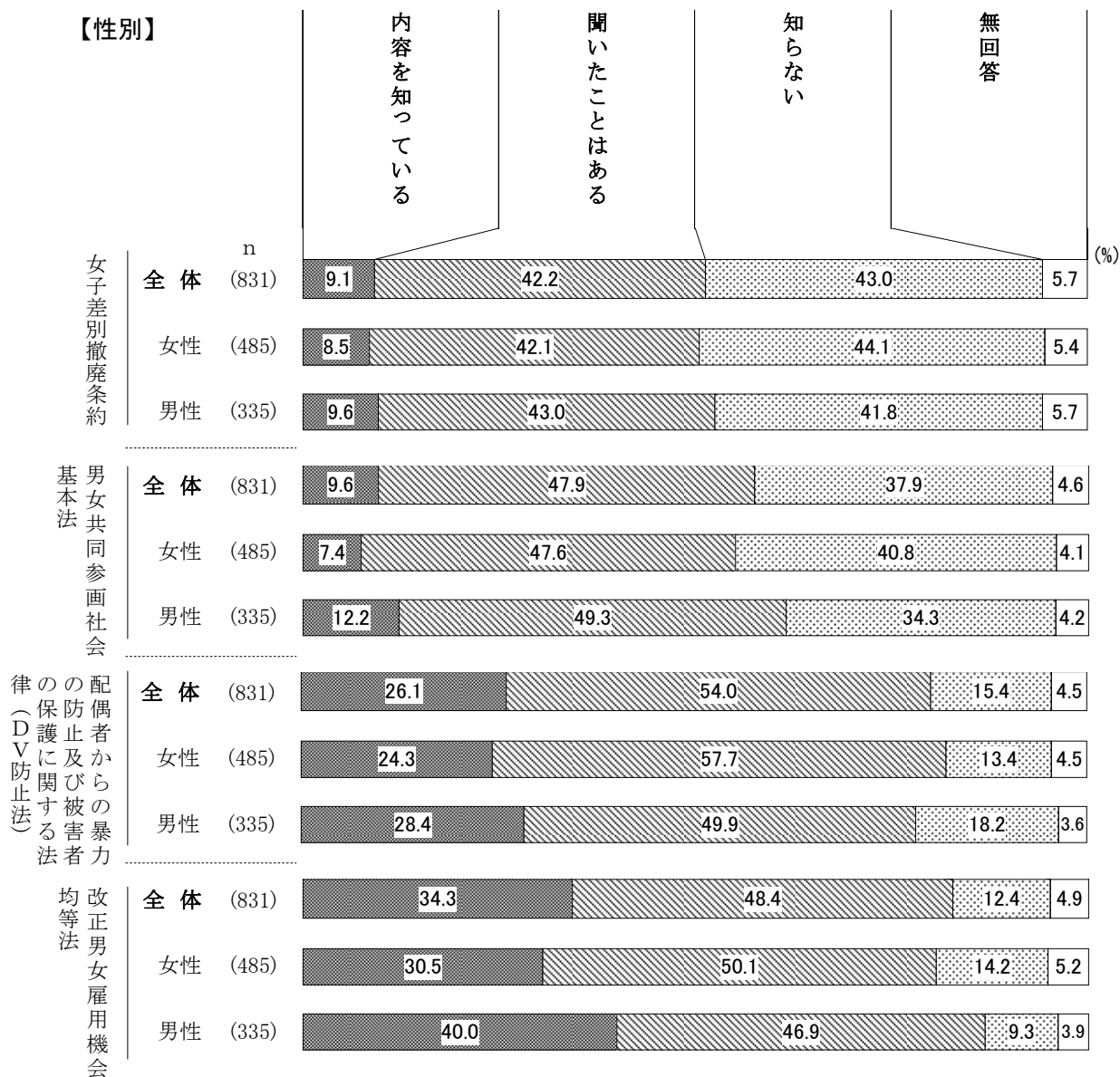
性／年齢別でみると、「いつもある」は、女性では20歳代で1割を超えている。男性では20歳代で1割近くとなっている。「しばしばある」は、女性では20歳代で3割を超え、30歳代で2割を超えている。男性では30歳代で約3割、40歳代で2割近くとなっている。「少しはある」は、女性では60歳代、男性では50～60歳代で7割を超えている。(図表6-9)

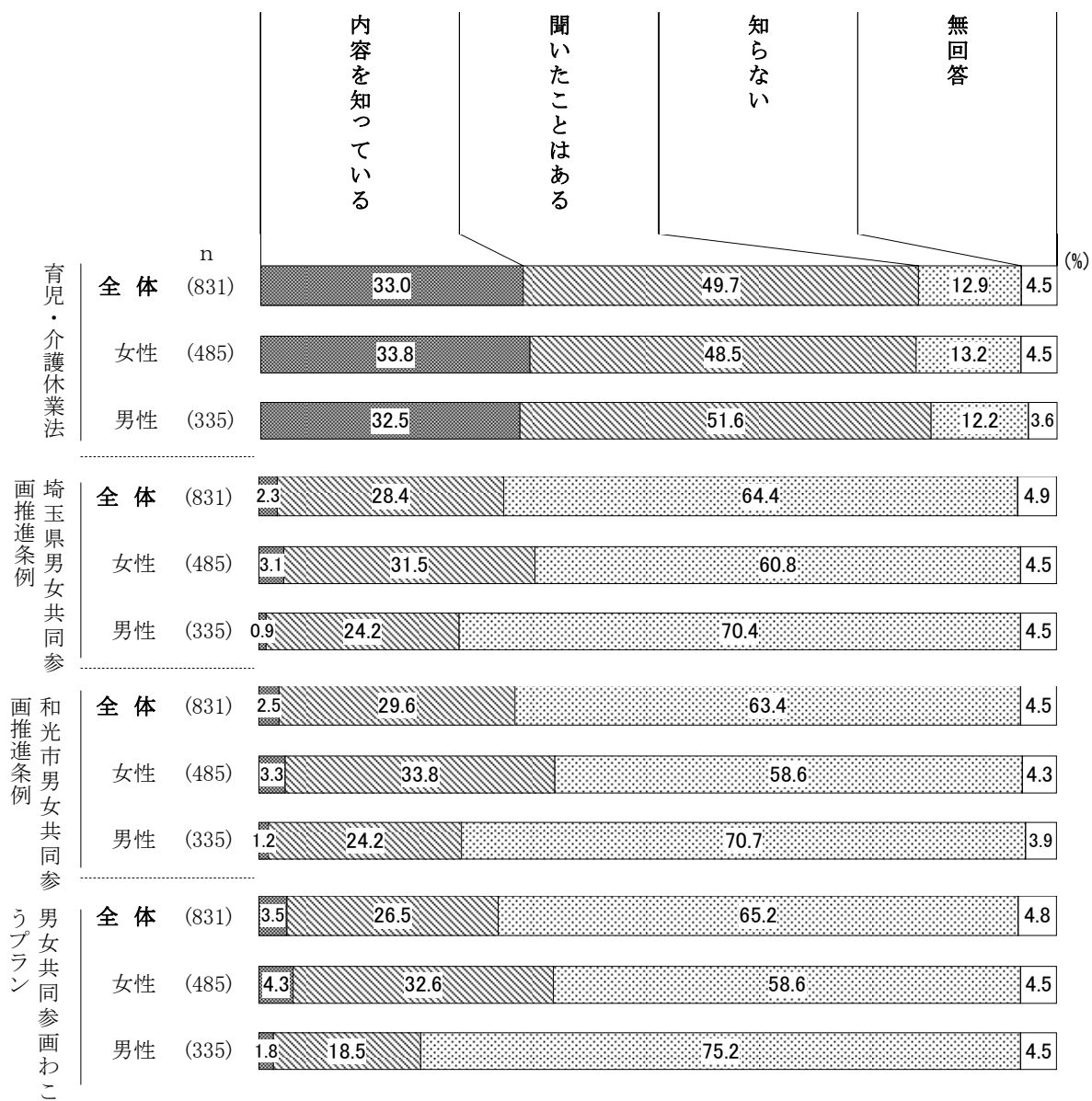
7. 男女共同参画の取り組みについて

(1) 男女共同参画に関する言葉の認知度

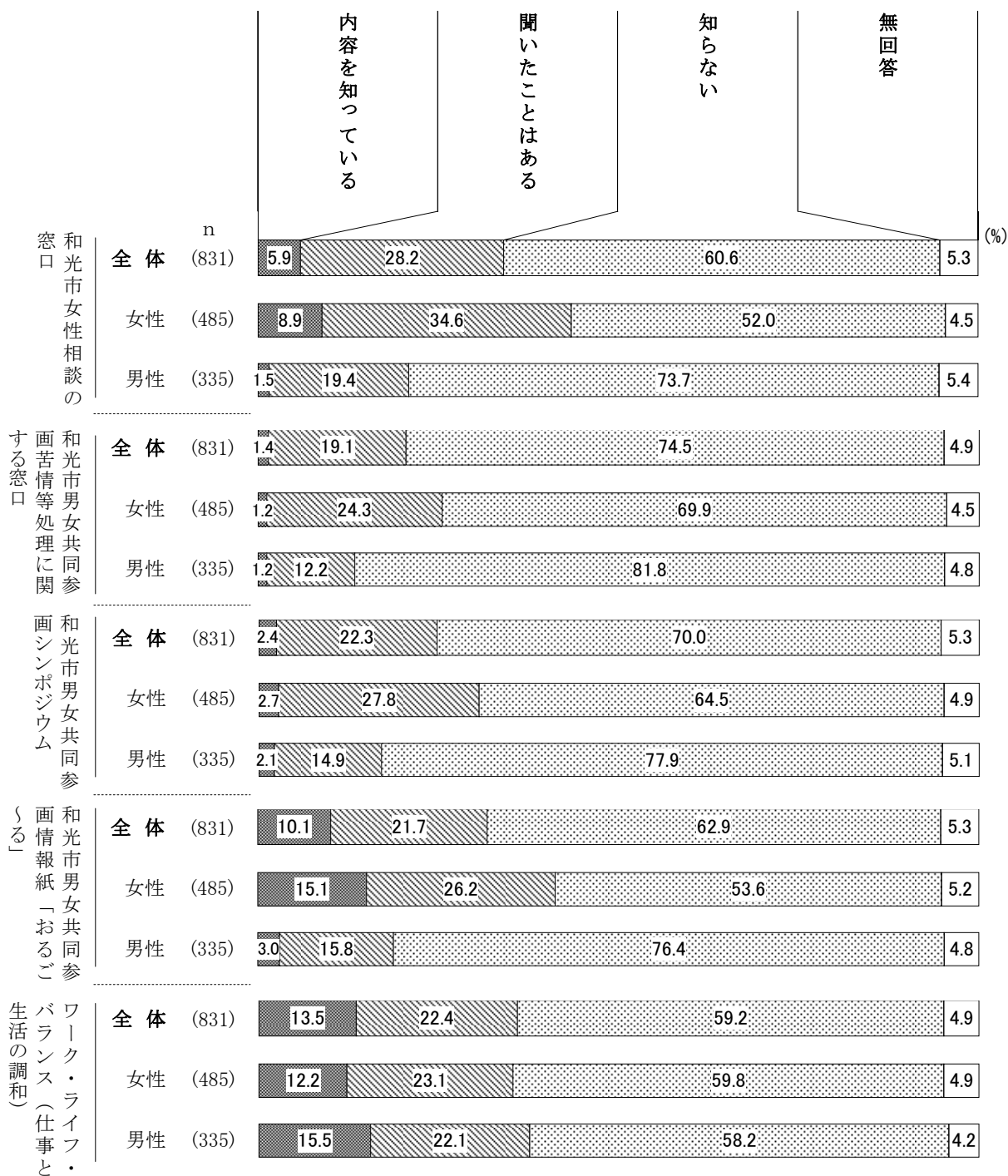
問24 次にあげる男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図表7-1 男女共同参画に関する言葉の認知度





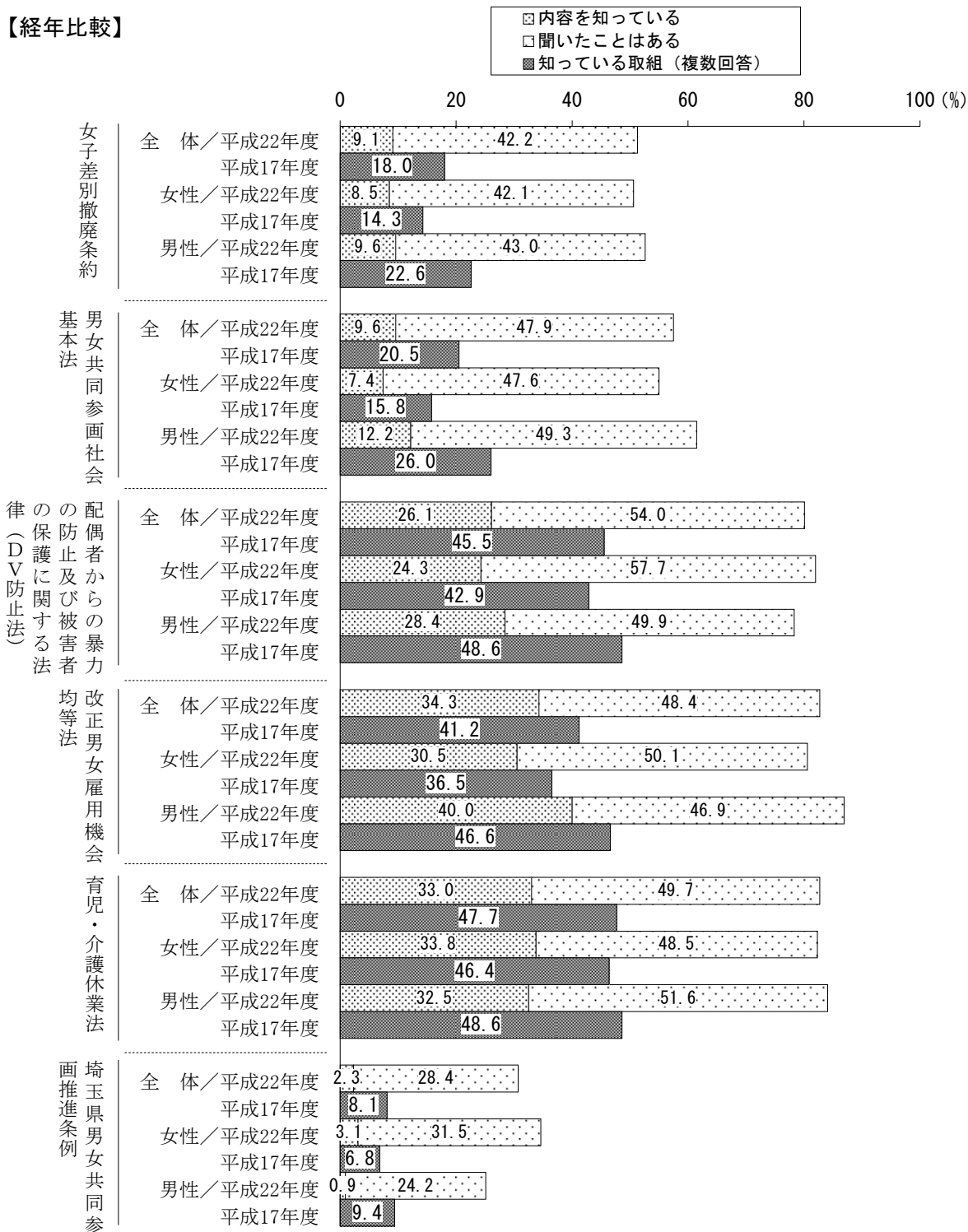
第2章 市民意識調査結果の分析



男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、「内容を知っている」は、改正男女雇用機会均等法、育児・介護休業法で3割を超え、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）で2割台半ばとなっている。「内容を知っている」と「聞いたことはある」を合わせた「認知度」は、改正男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）で8割を超えている。一方、「知らない」は、和光市男女共同参画苦情等処理に関する窓口で7割台半ば、和光市男女共同参画シンポジウムで7割、男女共同参画わこうプランで6割台半ばである。

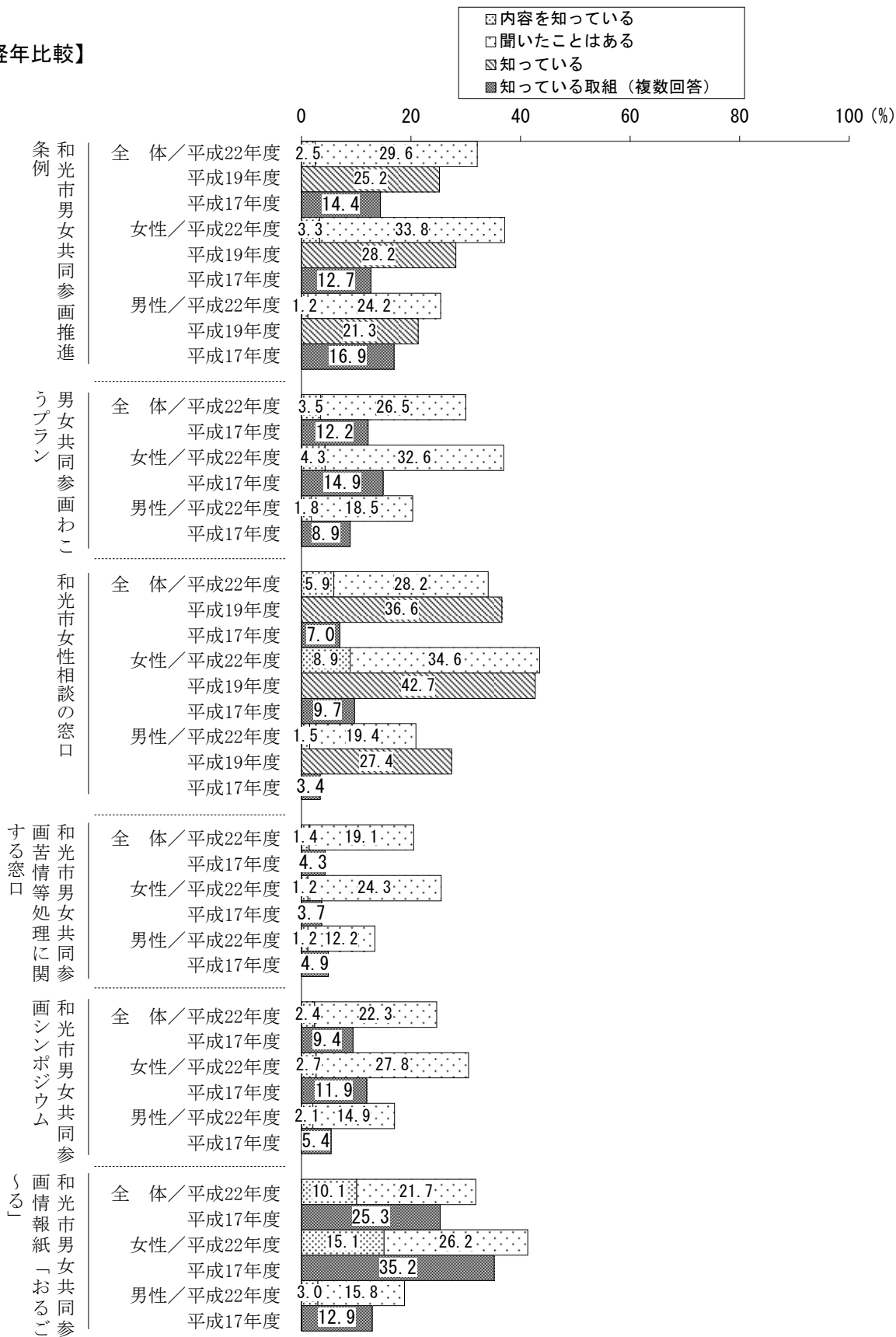
性別でみると、「認知度」は、男女ともに、改正男女雇用機会均等法、育児・介護休業法で8割を超えている。また、女性では、和光市女性相談の窓口（女性43.5%、男性20.9%）、和光市男女共同参画情報紙「おるご〜」（女性41.3%、男性18.8%）で、男性を大きく上回っている。（図表7-1）

図表7-2 男女共同参画に関する言葉の認知度



第2章 市民意識調査結果の分析

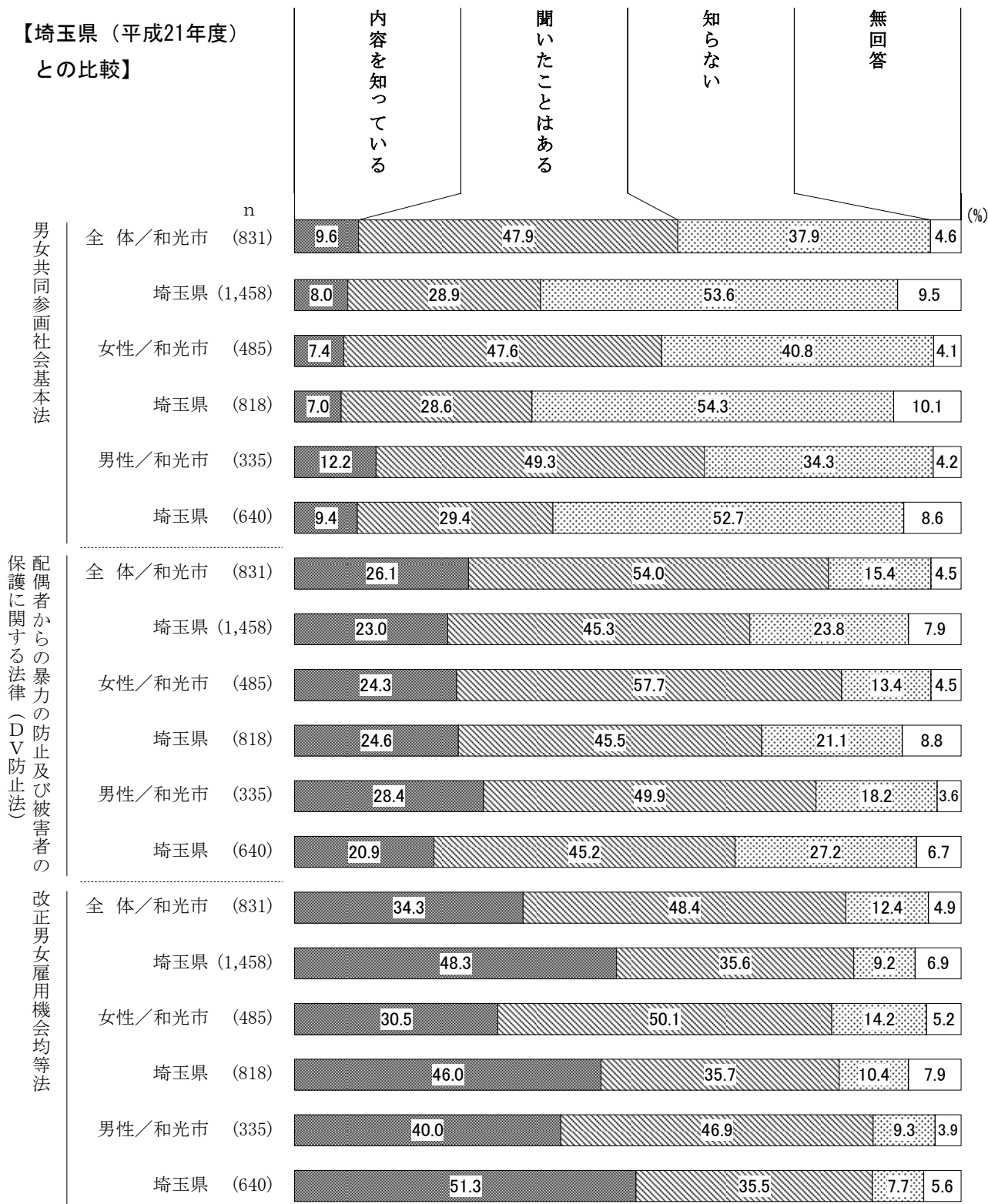
【経年比較】



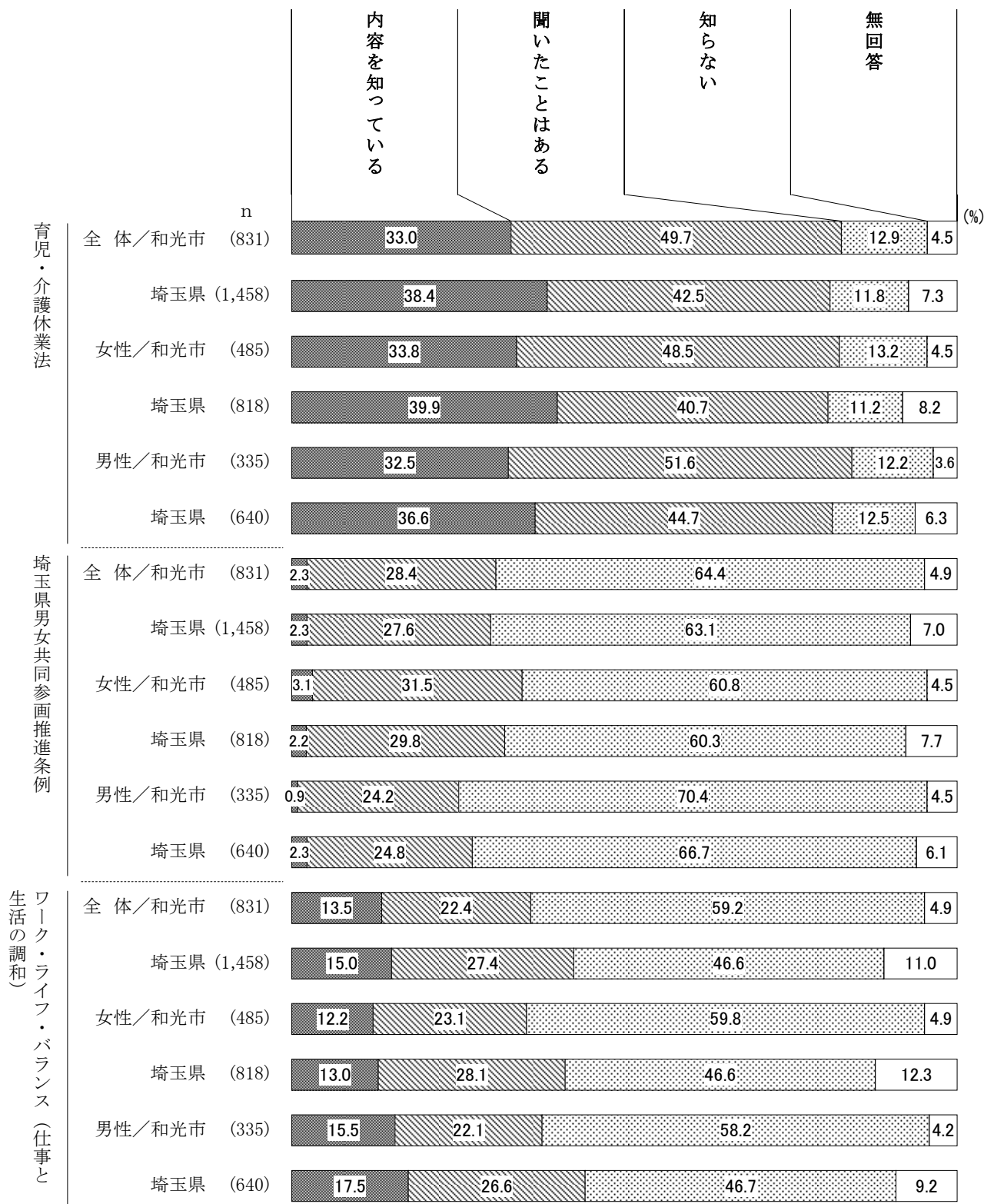
※「和光市男女共同参画シンポジウム」は、平成17年度では「和光市男女共同参画フォーラム」となっている。

平成17年度調査および平成19年度調査と比較すると、男女ともにほとんどの項目で認知度が上がっている。特に「和光市男女共同参画推進条例」、「男女共同参画わこうプラン」は特に女性で認知度が大きく増加している。一方、男性では「和光市女性相談の窓口」は平成19年度からやや減少している。
 (図表7-2)

図表7-3 男女共同参画に関する言葉の認知度

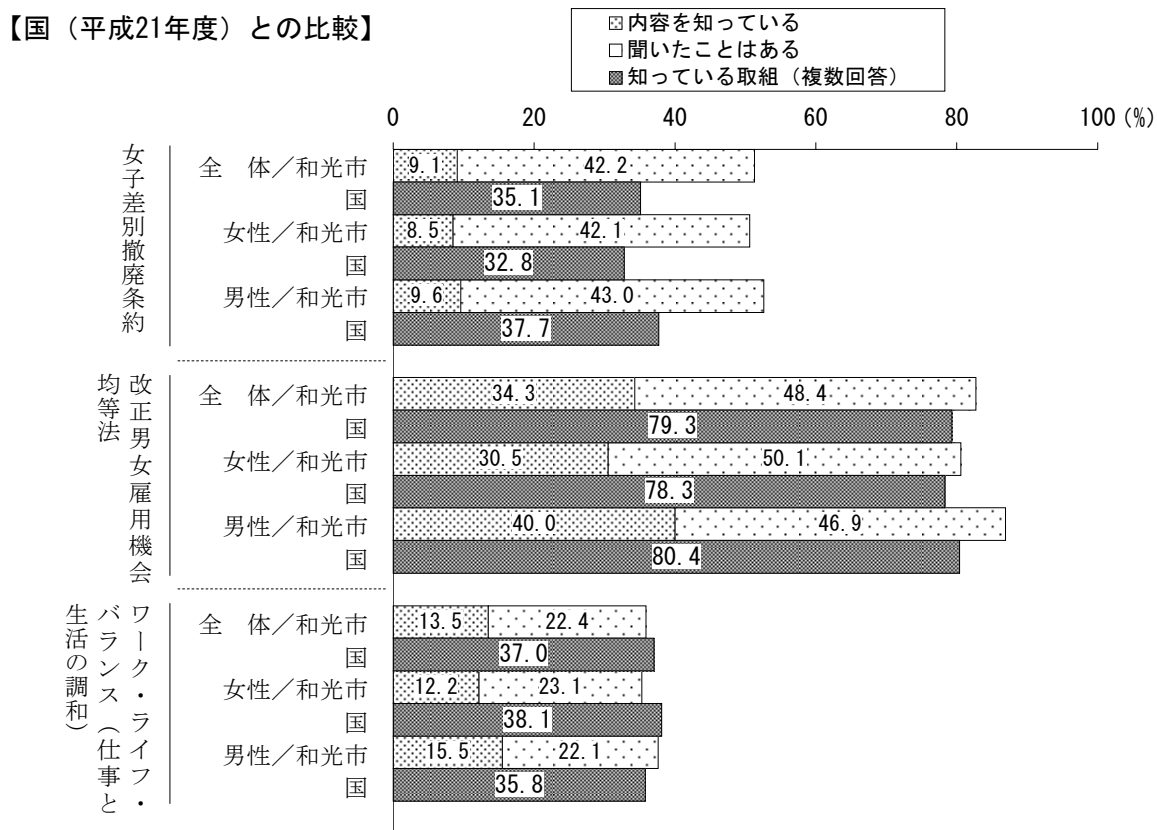


第2章 市民意識調査結果の分析



埼玉県の結果と比較すると、男女ともに「男女共同参画社会基本法」と「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の認知度は和光市が埼玉県を大きく上回っている。一方、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」では和光市が埼玉県を下回っている。（図表7-3）

図表7-4 男女共同参画に関する言葉の認知度



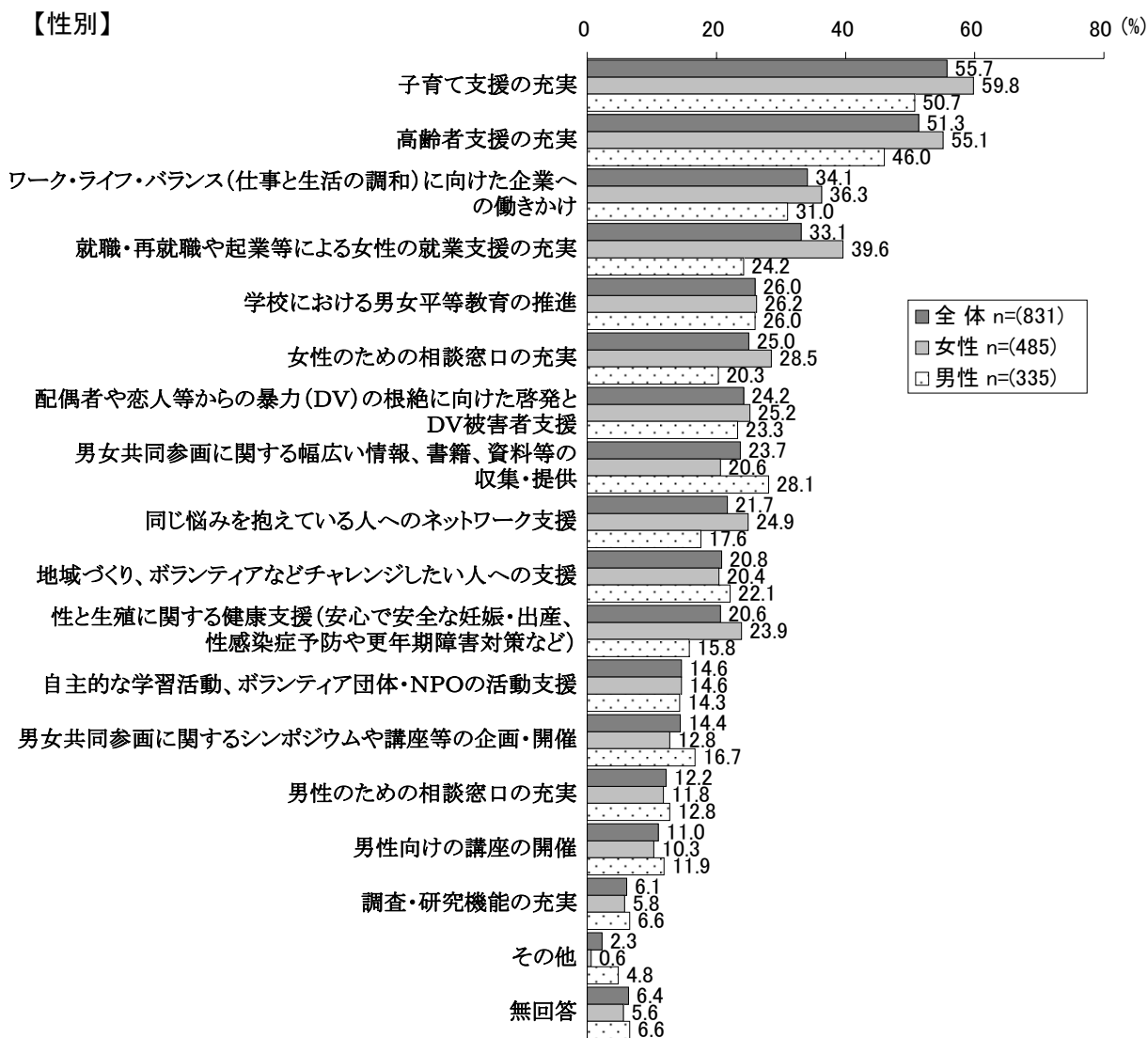
国の調査結果と比較すると、男女ともに「女子差別撤廃条約」で和光市が国を上回っている。男性では「改正男女雇用機会均等法」で和光市が国を上回っている。（図表7-4）

(2) 男女共同参画の推進で和光市に期待すること

問25 男女共同参画を推進する上で、和光市にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものすべてに○)

図表7-5 男女共同参画の推進で和光市に期待すること



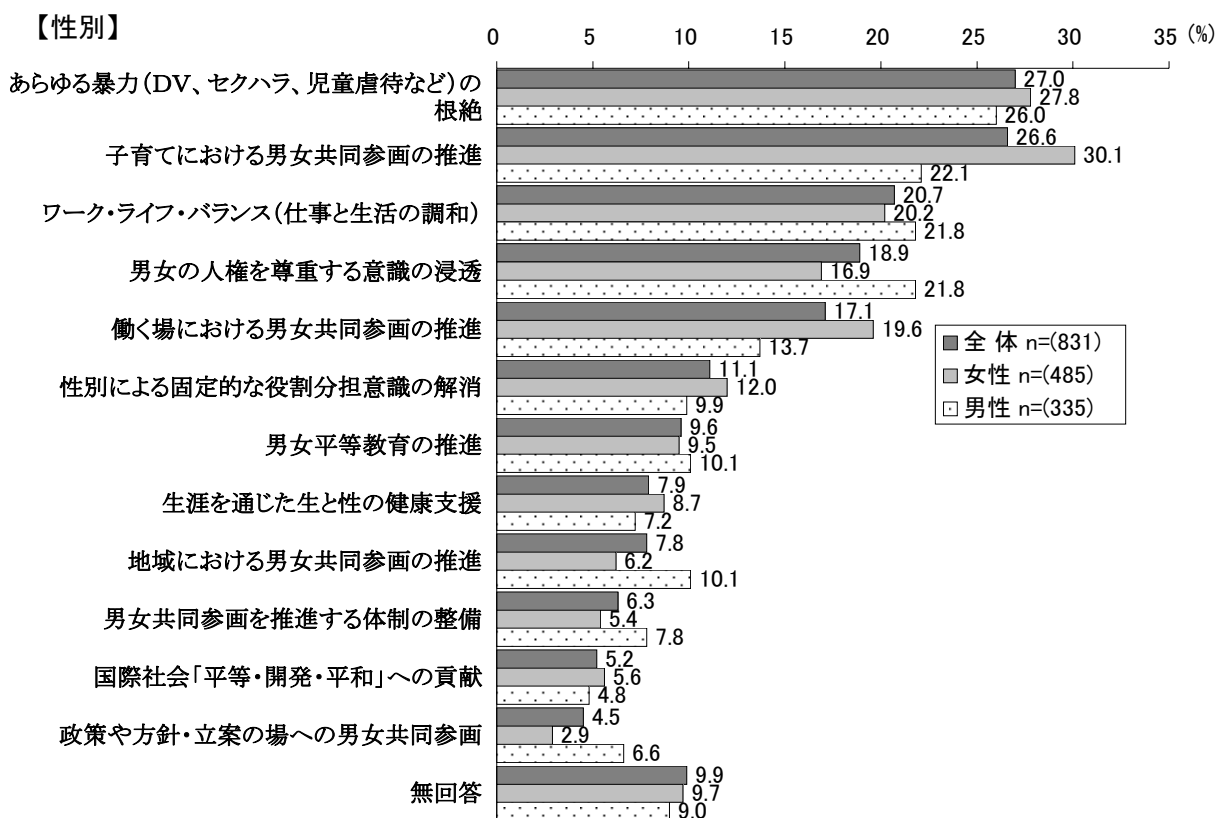
男女共同参画の推進で和光市に期待することは、「子育て支援の充実」が55.7%と最も多くなっている。次いで「高齢者支援の充実」が51.3%、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に向けた企業への働きかけ」が34.1%、「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実」が33.1%となっている。

性別でみると、女性では「子育て支援の充実」(59.8%)、「高齢者支援の充実」(55.1%)、「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実」(39.6%)が男性に比べて高くなっている。(図表7-5)

(3) 男女共同参画社会の実現のために重点的に解決すべき課題

問26 男女共同参画わこうプランでは、男女共同参画社会を実現するために、次の12の課題を取り上げ、取り組みを進めてきました。今後、重点的に解決すべき課題は、どれだと思いますか。(〇は2つまで)

図表7-6 男女共同参画社会の実現のために重点的に解決すべき課題

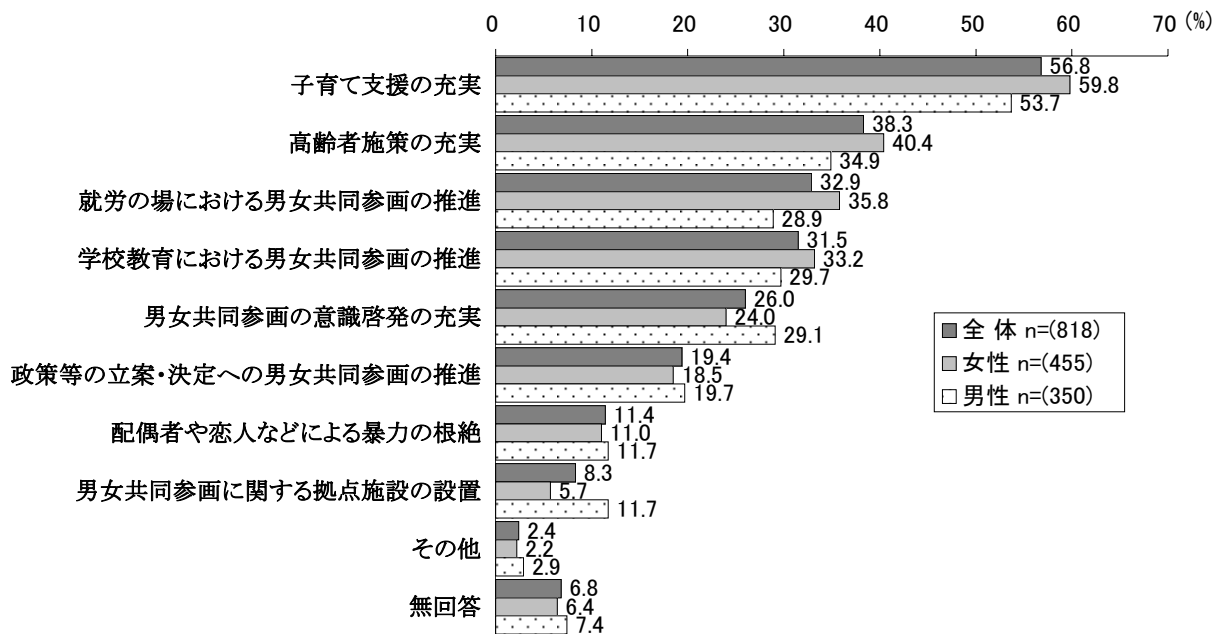


男女共同参画社会の実現のために重点的に解決すべき課題としては、「あらゆる暴力（DV、セクハラ、児童虐待など）の根絶」が27.0%と最も多くなっている。次いで「子育てにおける男女共同参画の推進」が26.6%、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が20.7%となっている。

性別で見ると、女性では「子育てにおける男女共同参画の推進」（30.1%）、「働く場における男女共同参画の推進」（19.6%）が男性に比べて高くなっている。男性では「男女の人権を尊重する意識の浸透」（21.8%）、「地域における男女共同参画の推進」（10.1%）が女性に比べてやや高くなっている。（図表7-6）

■ 参考 ■ 和光市「男女共同参画意識調査」(平成17年度)の結果

男女共同参画推進のために重点的に進めたらよいと思う施策



※選択肢の内容が異なるため、今回の結果と比較せずに「参考」扱いとする。

8. 自由意見

和光市の男女共同参画の取組についてご意見がございましたら、お書きください。

和光市の男女共同参画の取組についての意見を自由に記述していただいたところ、110人から述べ118件の回答が寄せられた。ここでは、記述された内容から各項目に分類した件数を掲載する。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、それぞれを各項目に分類している。

	(件)
総計	118
男女共同参画の取り組みについて	47
男女共同参画に関する意識について	9
家庭生活（子育て）について	8
仕事について	13
地域参加について	3
配偶者や恋人からの暴力について	1
その他の意見	37

◇代表的な意見

男女共同参画の取組について

- このアンケートにて初めて、和光市での取り組みを知りました。大変難しい問題ではありますが、一人一人の意識を高める事が出来ればと思います。（女性・30歳代）
- 男女差別のない社会を目指して下さい。基本的人権の守れる社会を目指して下さい。（男性・60歳代）
- 和光市から男女平等の流れを、そして県、国へと配信して行って欲しいと思います。（女性・30歳代）
- 市民がもっと分かるよう取り組んで欲しいです。「男女共同参画」とは何か。知らない人がほとんどだと思います。自分もそうでした。これから期待します。（男性・60歳代）
- 非常に先進的で画期的な取り組みと思います。協力できる事は、少しでもやっていきたいと思いません。（男性・50歳代）
- 若いこれからの人達が希望を持って生活できる世の中、和光市になってもらいたい。（女性・70歳以上）

家庭生活（子育て）について

- 子育てにもっと男性が協力参加できるといいなと思います。幼児期も大切ですが、思春期の子供達にもっと父親の力が欲しいですね。（女性・30歳代）
- 子育ても仕事も家事も、全部両立してやりたいと思っている人は多いと思う。しかし、保育園不足、職場の環境、家族の協力がなければ出来ない。どれかひとつでもかけると犠牲になるのは、子供。家族の協力が得られるかも、職場環境（夫の）とか、全てがつながっている。是非、取り組みで改善されるなら期待する。（女性・30歳代）
- 男女が育児に参加しやすい社会環境を和光市が全国に先駆けて整備することを期待しています。（男性・30歳代）
- 子育てへの更なる支援が、男女の社会貢献の推進につながると思うので、子育ての支援をまず考えて欲しい。（男性・30歳代）

仕事について

- 子育ても仕事も家事も、全部両立してやりたいと思っている人は多いと思う。しかし、保育園不足、職場の環境、家族の協力がなければ出来ない。どれかひとつでもかけると犠牲になるのは、子供。家族の協力が得られるかも、職場環境（夫の）とか、全てがつながっている。是非、取り組みで改善されるなら期待する。（女性・30歳代）
- 企業の方が、女性に対して（子供のことにに対して）協力的ではないので、役所からお手本を見せるべき。また介護や育児の休みを取っても、安心して働ける社会だということをメディア等を使いアピールして、男性、女性が力を合わせていい社会を作れるようになってほしい。（女性・30歳代）

地域参加について

- 地域での活動をもっと活発に出来ないだろうか。（男性・50歳代）
- 和光市の取り組みを知りませんでした。約8年住んでいますが、ゴミ0の日も出てくるのは、女性ばかりで、いつの間にか自分も出なくなりました。もっと、男性も出れば私も出ますよ。（男性・40歳代）

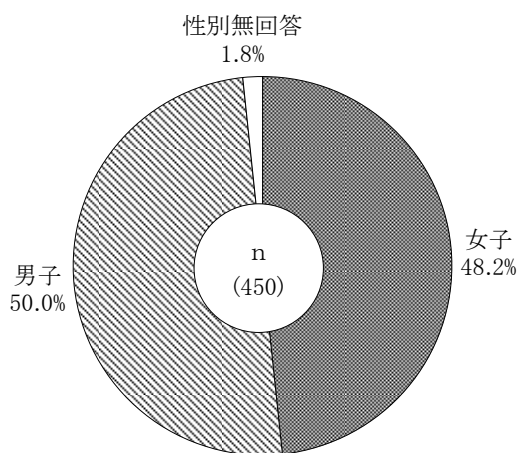
第3章 中学生意識調査結果の分析

(1) 回答者の性別

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

	基数	構成比
女子	217	48.2%
男子	225	50.0%
性別無回答	8	1.8%
全体	450	100.0%

図表1 回答者の性別



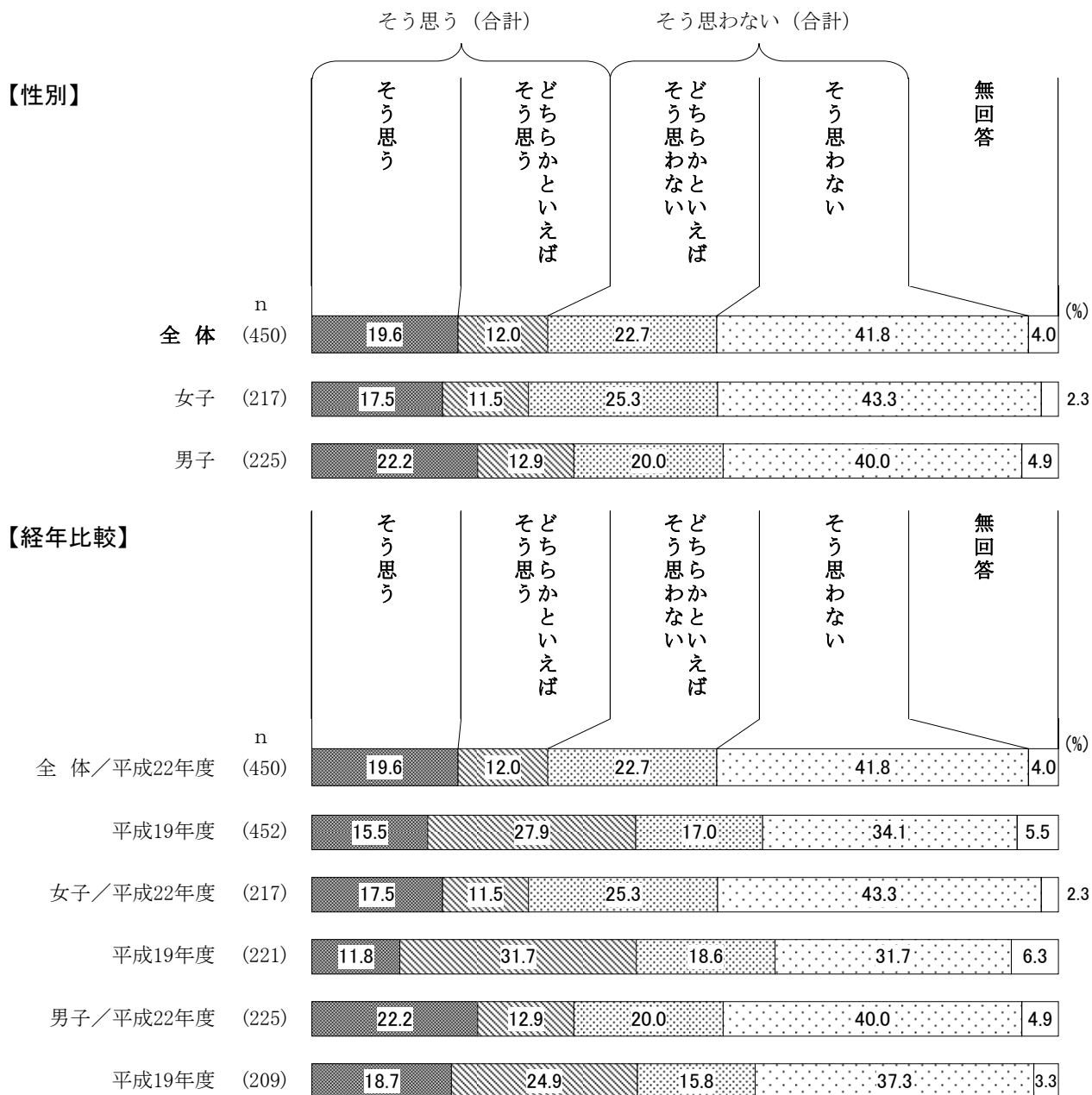
回答者の性別は、女子が48.2%、男子が50.0%である。(図表1)

(2) 男女の性差についての意識

問2 次のことについてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

図表2 男女の性差についての意識

① 学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある

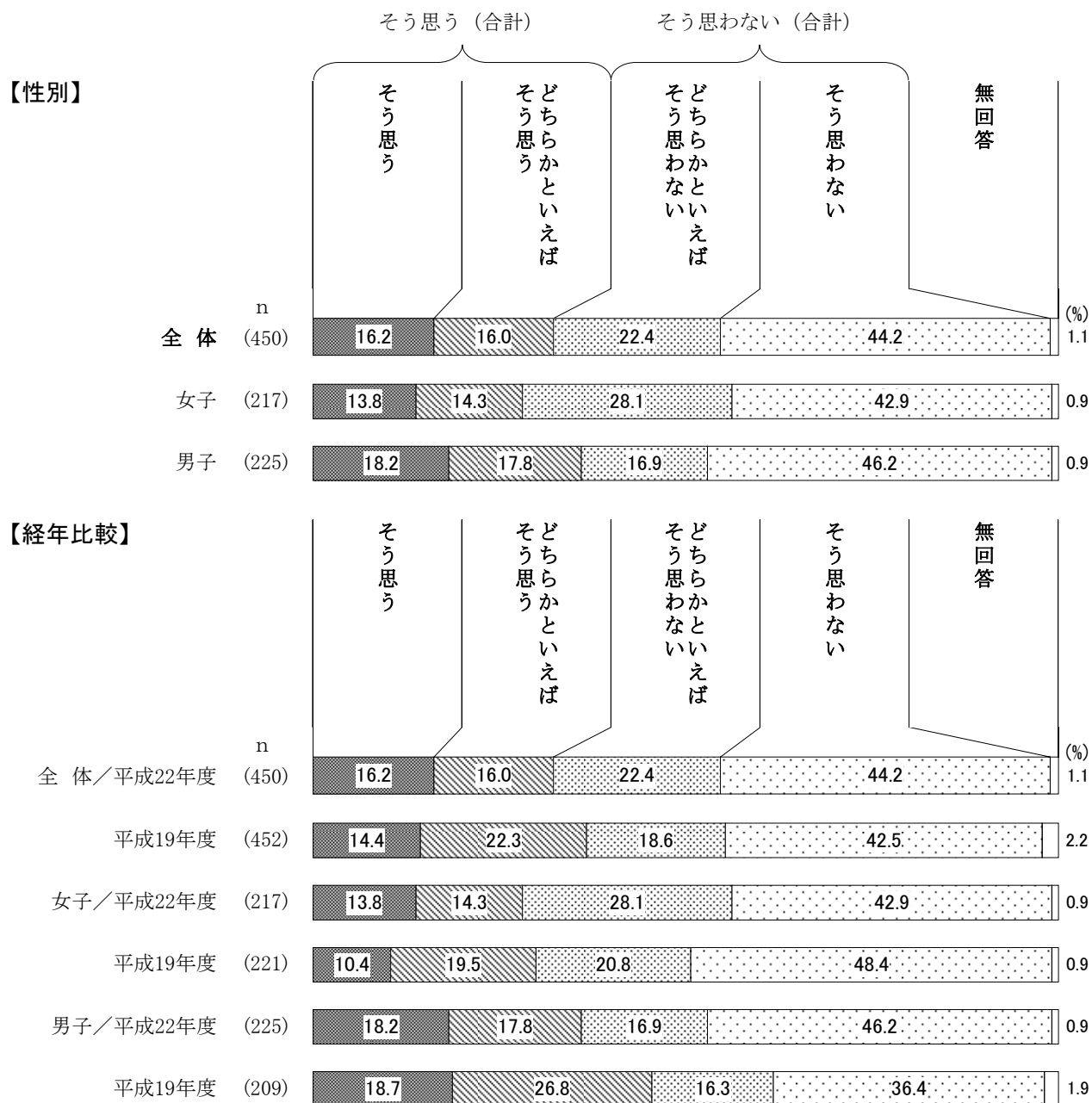


『学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある』について、全体では「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない(合計)》が64.5%を占めている。性別で見ると、《そう思わない(合計)》が女子68.6%、男子60.0%と、女子が男子を上回っている。

平成19年度調査と比較すると、男女ともに「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う(合計)》が減少し、《そう思わない(合計)》が増加している。(図表2)

図表3 男女の性差についての意識

② 学級委員、生徒会長は男子に向いている

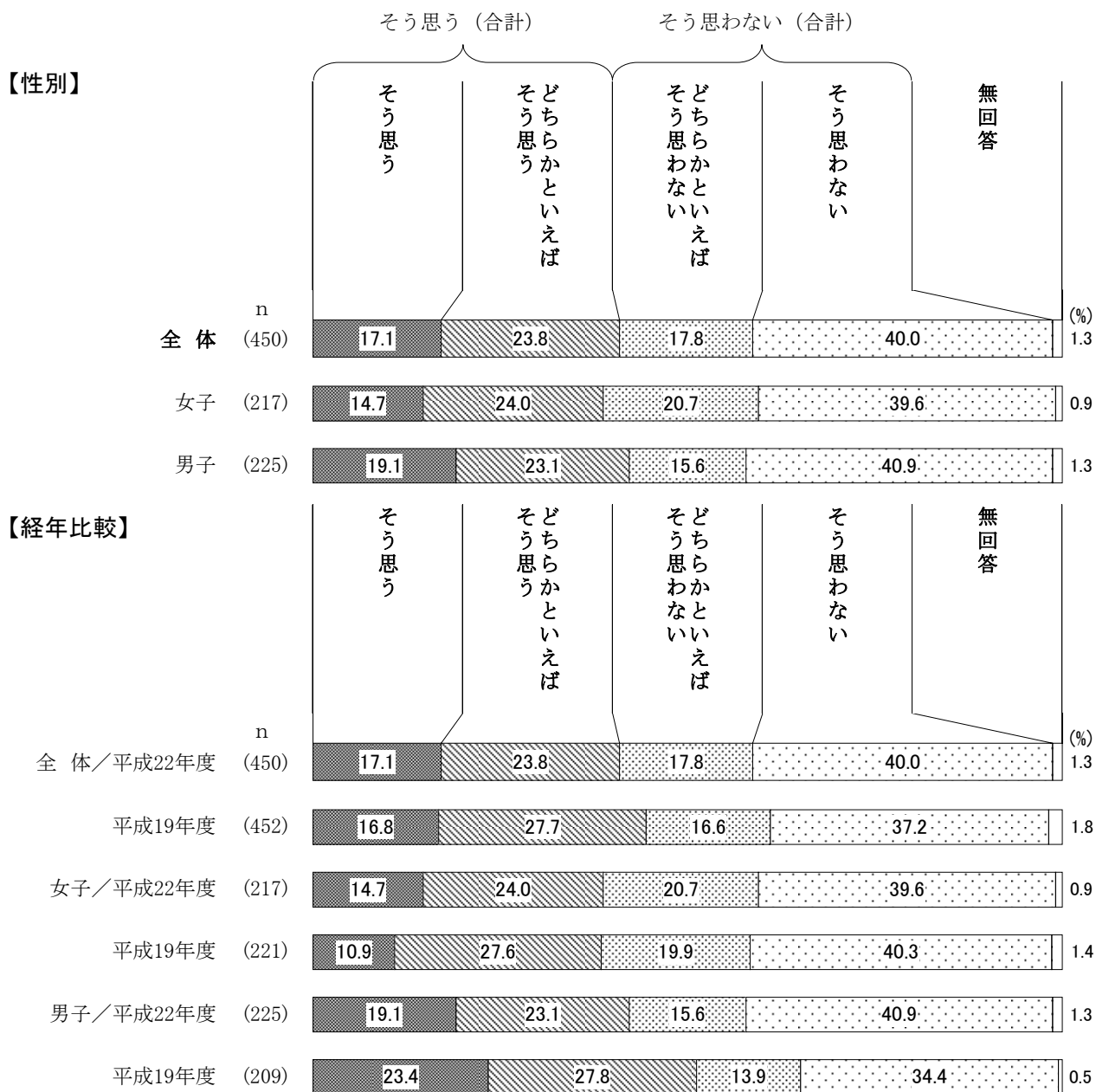


『学級委員、生徒会長は男子に向いている』について、全体では《そう思わない (合計)》が66.6%を占めている。性別で見ると、《そう思わない (合計)》が女子71.0%、男子63.1%と、女子が男子をやや上回っている。

平成19年度調査と比較すると、男子で《そう思う (合計)》が減少し、《そう思わない (合計)》が増加している。(図表3)

図表4 男女の性差についての意識

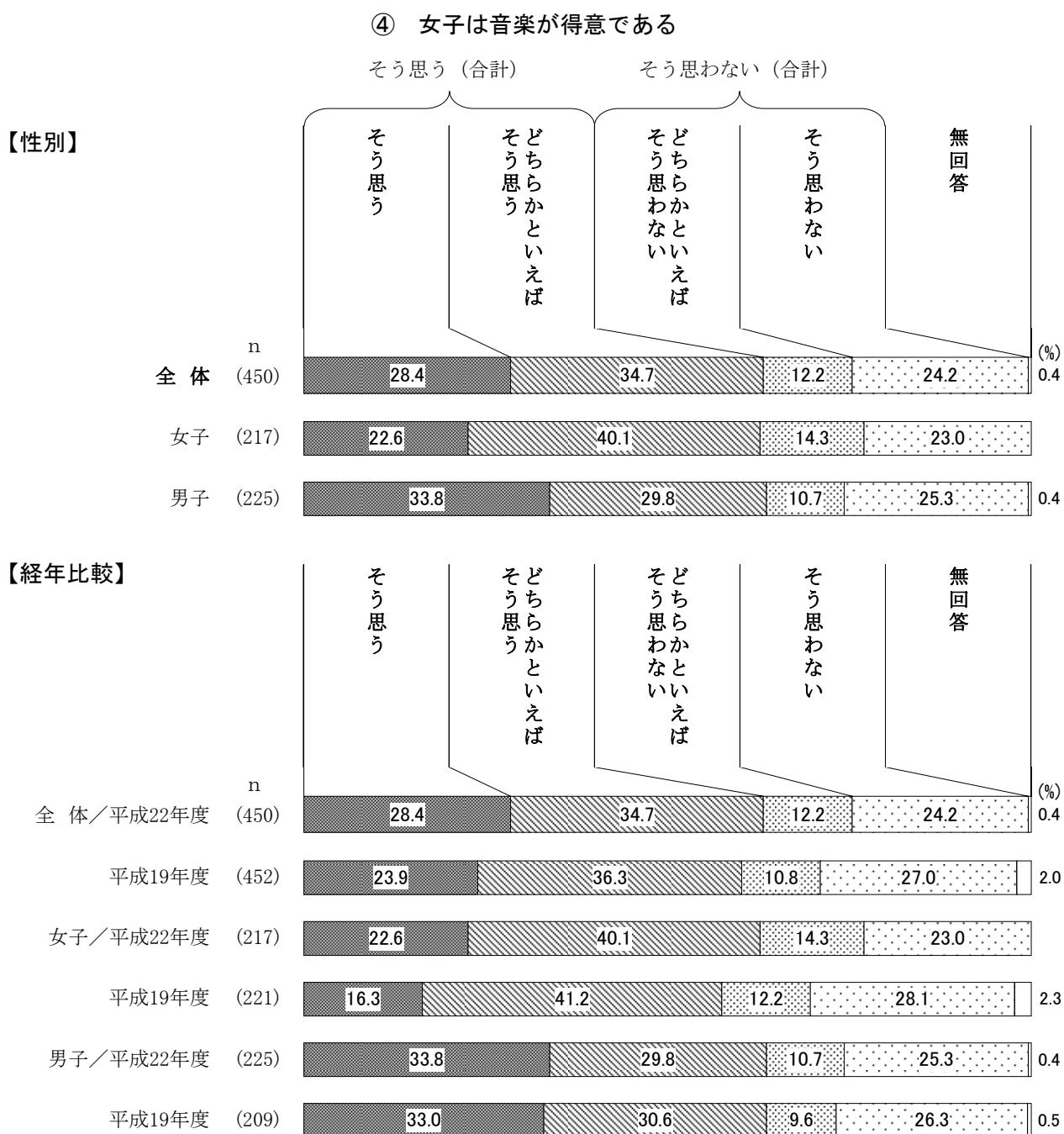
③ 教室のそうじや整理整頓は女子に向いている



『教室のそうじや整理整頓は女子に向いている』について、全体では《そう思わない（合計）》が57.8%を占めている。性別で見ると、《そう思わない（合計）》が女子60.3%、男子56.5%と、女子が男子をやや上回っている。

平成19年度調査と比較すると、女子では変化は見られないが、男子では《そう思う（合計）》が減少し、《そう思わない（合計）》が増加している。（図表4）

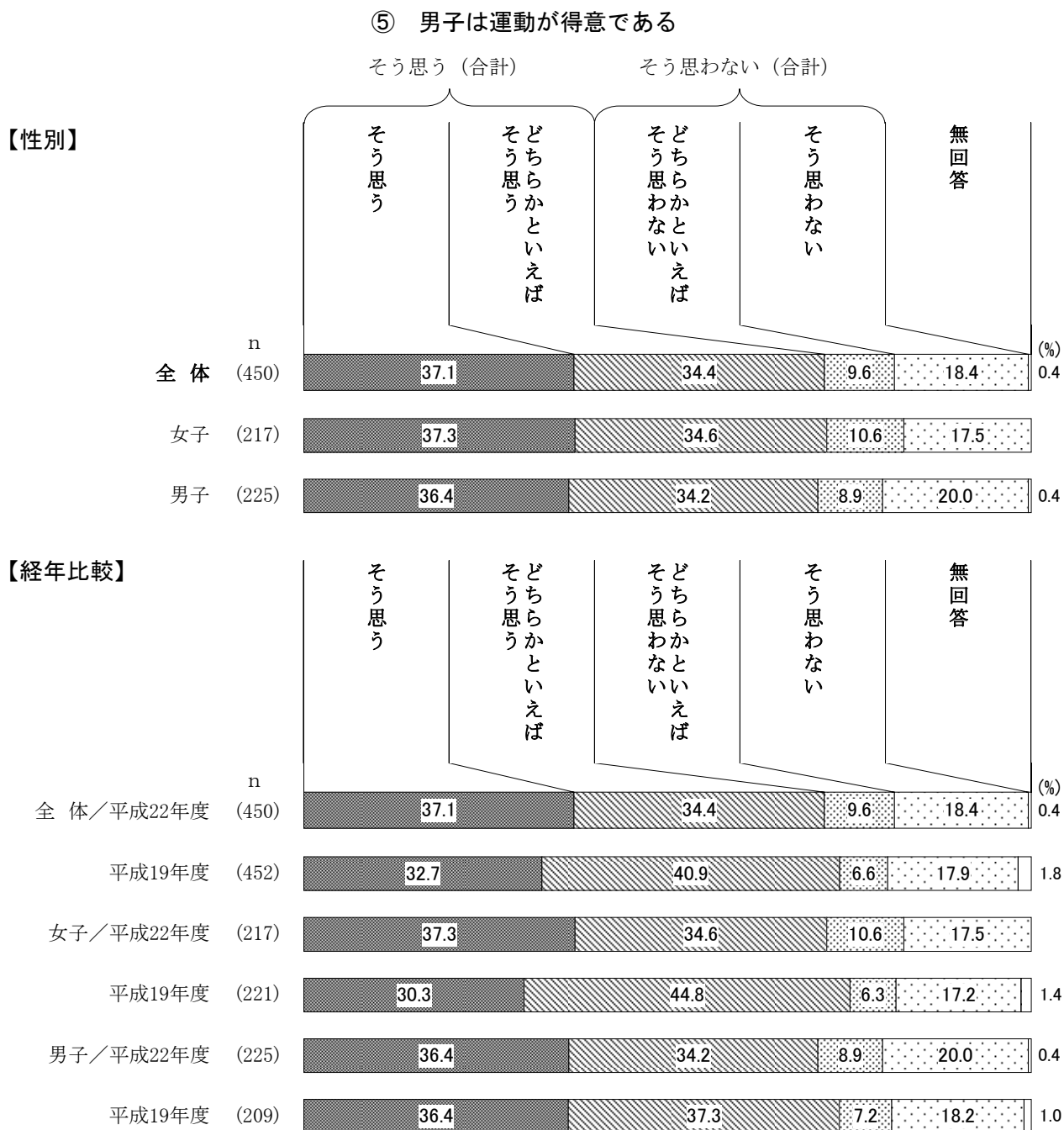
図表5 男女の性差についての意識



『女子は音楽が得意である』について、全体では「**そう思う (合計)**」が63.1%を占めている。性別で見ると、「**そう思う (合計)**」が女子62.7%、男子63.6%と、男女ともに6割を超えている。

平成19年度調査と比較すると、女子で「**そう思う (合計)**」がやや増加し、「**そう思わない (合計)**」が僅かに減少している。(図表5)

図表6 男女の性差についての意識



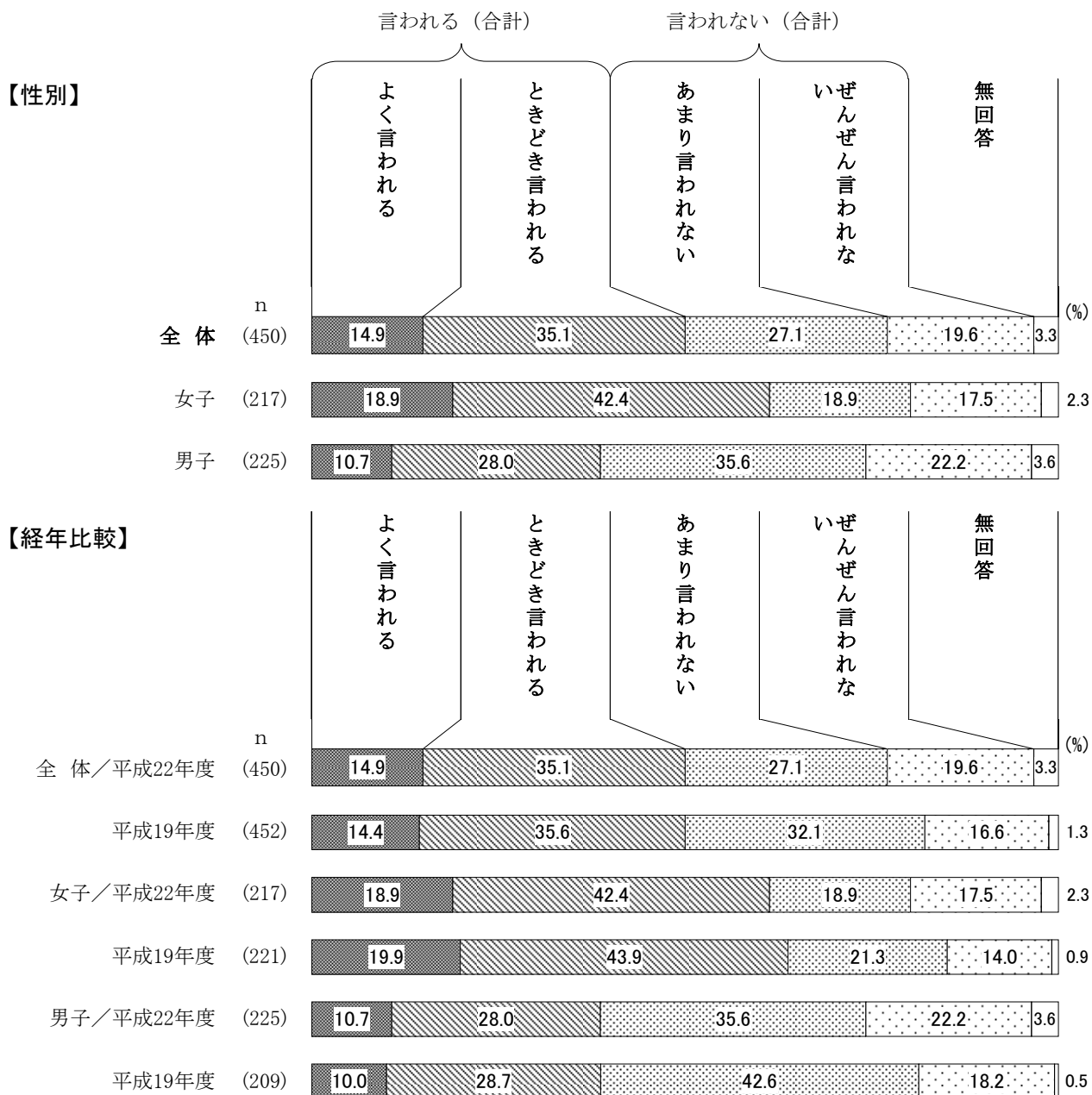
『男子は運動が得意である』について、全体では「**そう思う (合計)**」が71.5%を占めている。性別で見ると、「**そう思う (合計)**」が女子71.9%、男子70.6%と、男女ともに7割を超えている。

平成19年度調査と比較すると、男女ともに「**そう思う (合計)**」が僅かに減少し、「**そう思わない (合計)**」がやや増加している。(図表6)

(3) 性別役割意識に対する大人の言動

問3 あなたはおとなの人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(〇は1つ)

図表7 性別役割意識に対する大人の言動



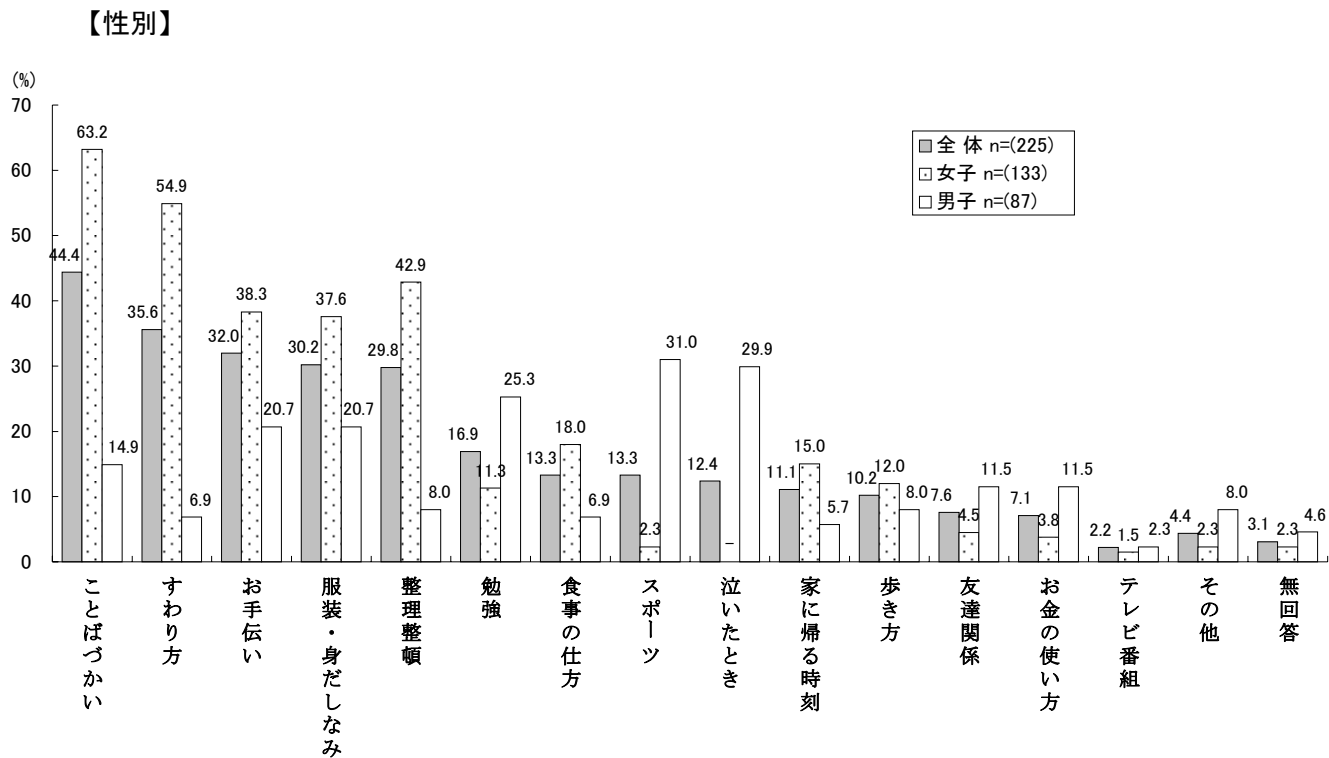
性別役割意識に対する大人の言動については、全体では「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた《言われる(合計)》が50.0%、「あまり言われない」と「ぜんぜん言われない」を合わせた《言われない(合計)》が46.7%となっている。性別で見ると、女子では《言われる(合計)》が61.3%、男子では《言われない(合計)》が57.8%となっている。

平成19年度調査と比較すると、女子では《言われる(合計)》が僅かに減少している。男子では《言われない(合計)》が僅かに減少している。(図表7)

(4) 性別役割意識に対する大人の言動のきっかけ

問4 問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。どんな時に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

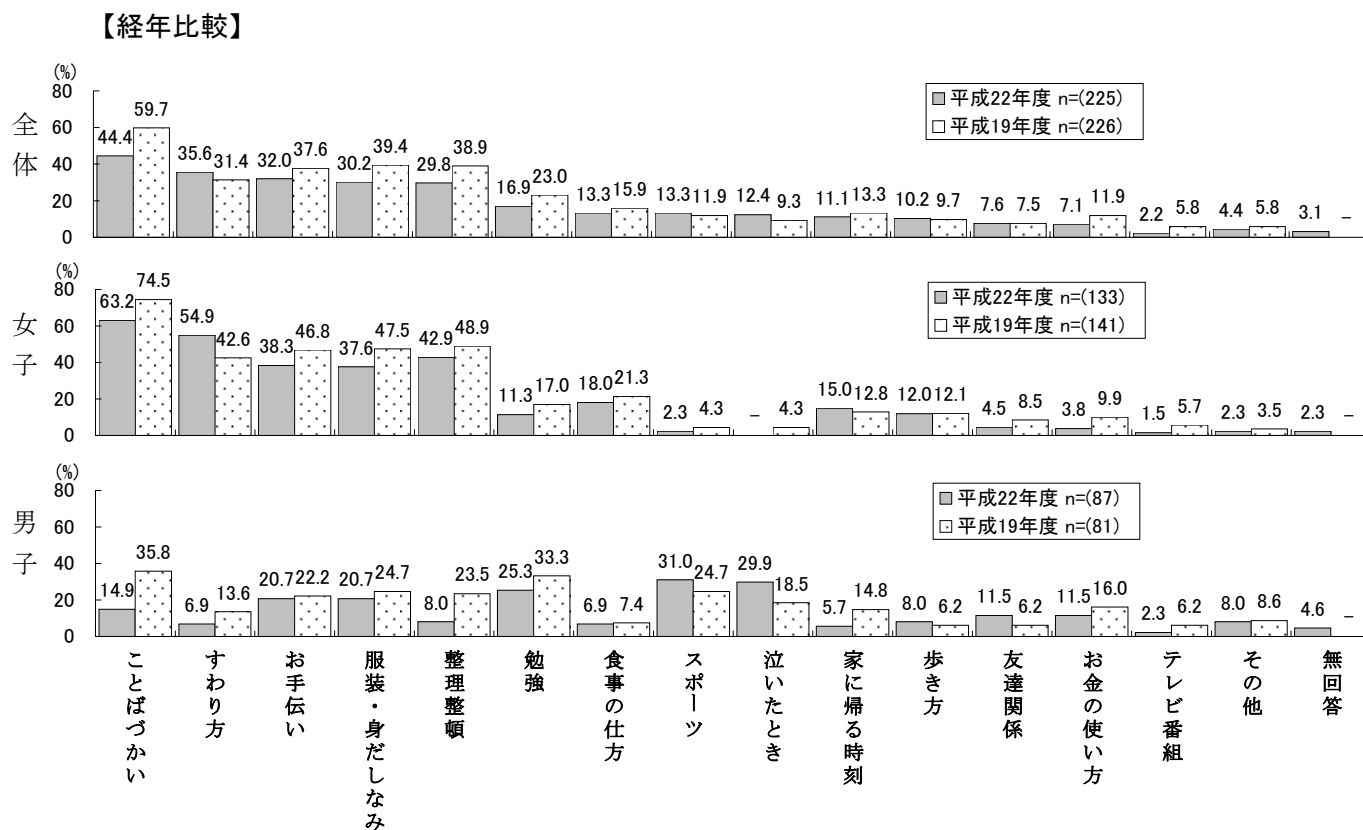
図表8 性別役割意識に対する大人の言動のきっかけ



性別役割意識に対する大人の言動のきっかけは、「ことばづかい」が44.4%と最も多くなっている。次いで「すわり方」が35.6%、「お手伝い」が32.0%となっている。

性別で見ると、女子では「ことばづかい」(63.2%)、「すわり方」(54.9%)、「お手伝い」(38.3%)、「服装・身だしなみ」(37.6%)、「整理整頓」(42.9%)が男子に比べて高い。一方、男子では「勉強」(25.3%)、「スポーツ」(31.0%)、「泣いたとき」(29.9%)が女子に比べて高くなっている。(図表8)

図表9 性別役割意識に対する大人の言動のきっかけ

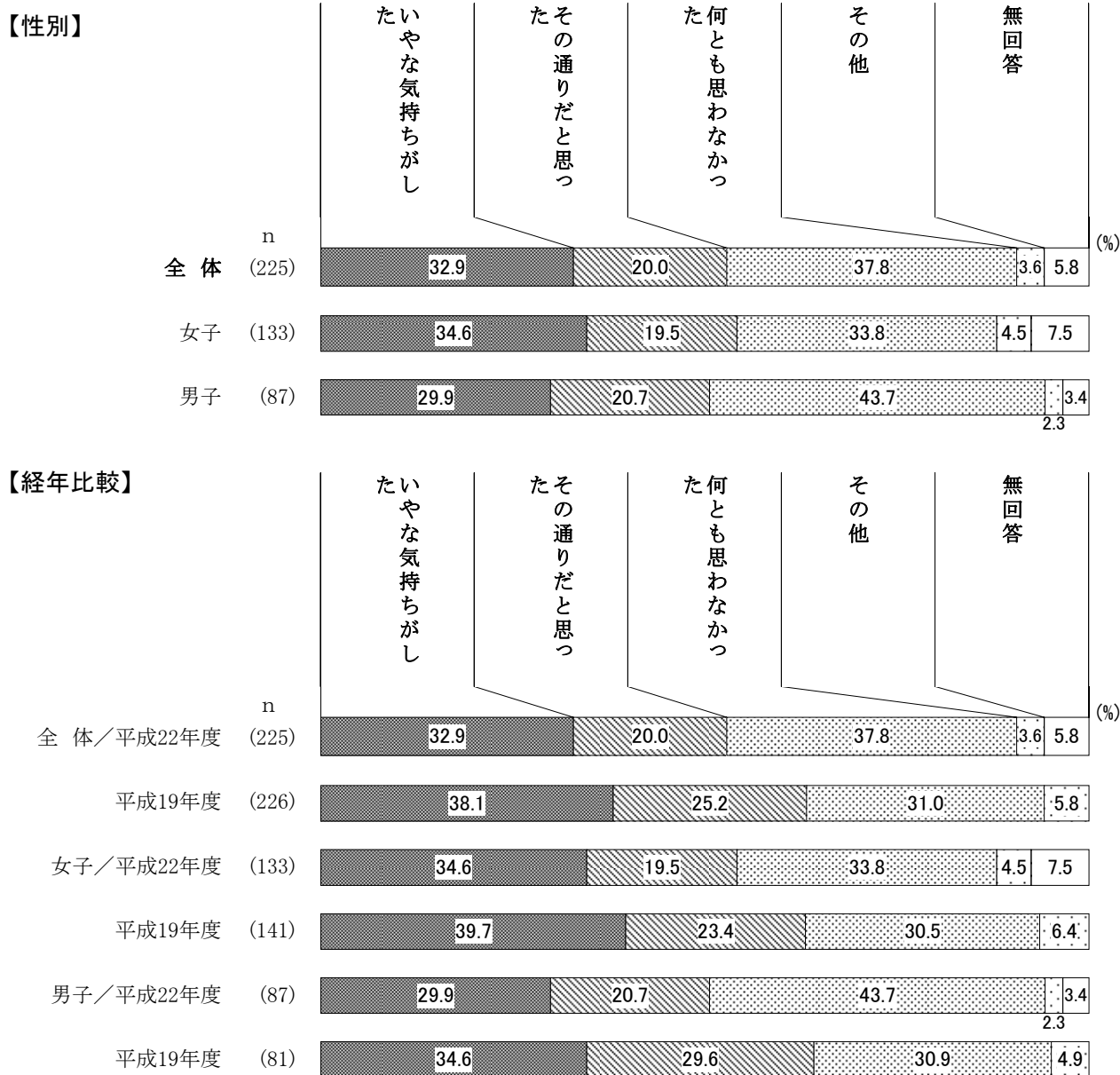


平成19年度調査と比較すると、女子では「すわり方」が増加し、「家に帰る時刻」が僅かに増加し、男子では「泣いたとき」が増加し、「スポーツ」と「友達関係」がやや増加している。一方、女子では「ことばづかい」、「お手伝い」、「服装・身だしなみ」が減少し、男子では「ことばづかい」、「整理整頓」が大きく減少、「すわり方」、「勉強」、「家に帰る時刻」が減少している。(図表9)

(5) 性別役割意識に対する大人の言動による影響

問5 問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。あなたは
その時どんな気持ちがありましたか。(〇は1つ)

図表10 性別役割意識に対する大人の言動による影響



性別役割意識に対する大人の言動による影響は、全体では、「いやな気持ちがあった」が32.9%、「その通りだと思った」が20.0%、「何とも思わなかった」は37.8%となっている。性別で見ると、女子では「いやな気持ちがあった」が34.6%、男子では「何とも思わなかった」が43.7%である。

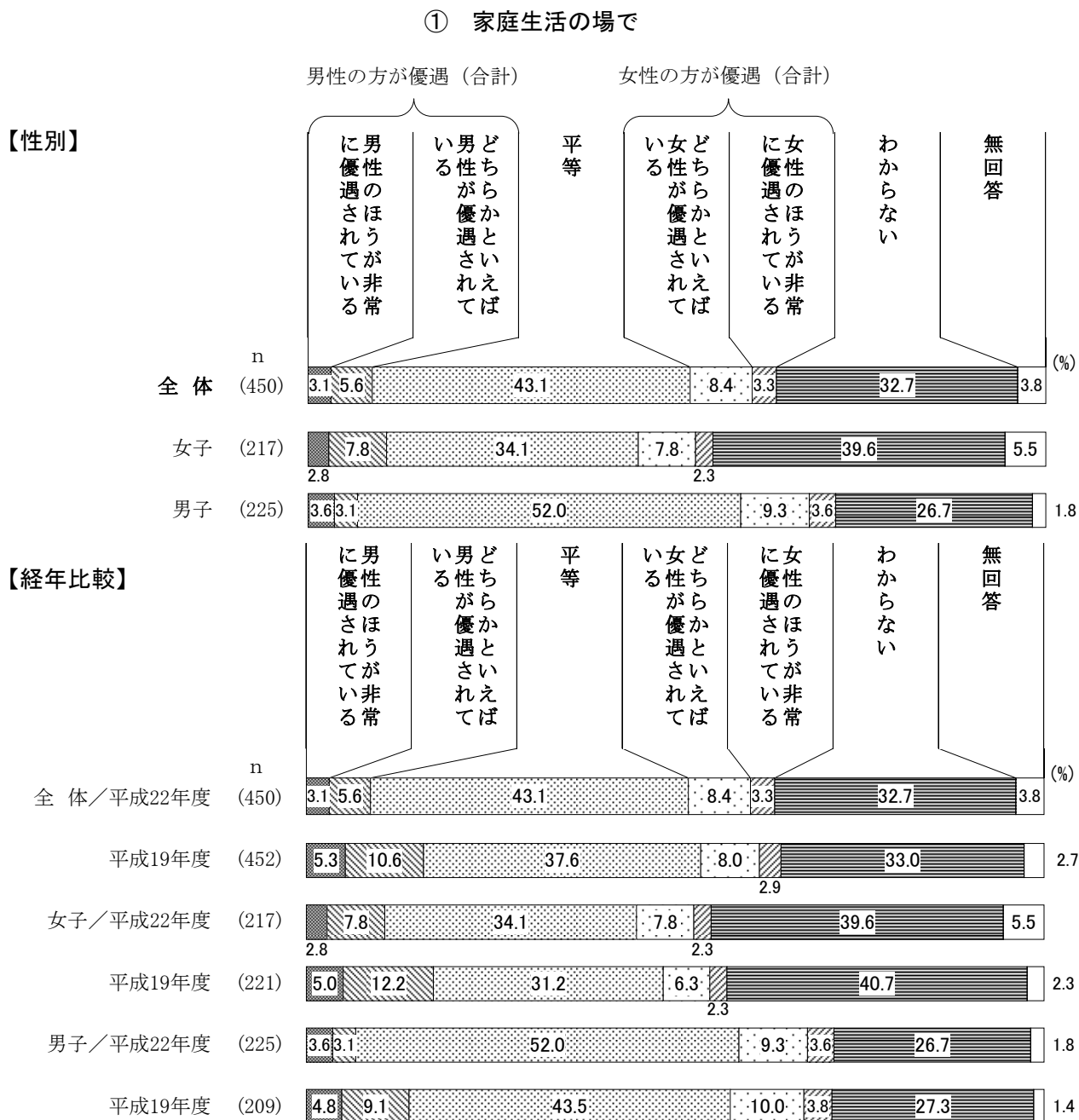
平成19年度調査と比較すると、男女ともに「いやな気持ちがあった」がやや減少しているが、「その通りだと思った」も男子で減少、女子でもやや減少している。男子では「何とも思わなかった」が増加している。(図表10)

(6) 男女の地位の平等感について

問6 次の①～③の場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つ)

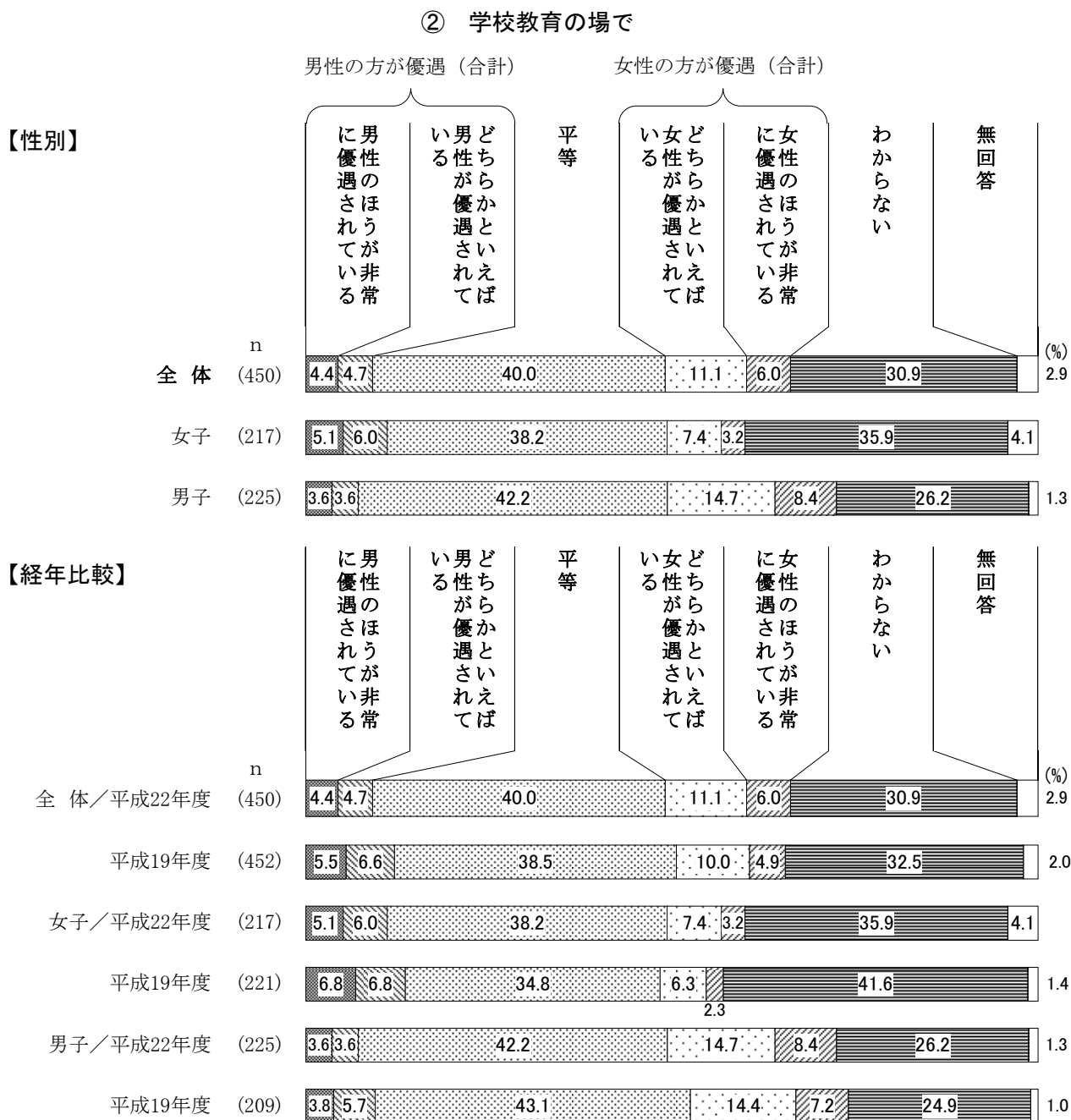
図表11 男女の地位の平等感について



『家庭生活の場で』については、全体では「平等」が43.1%である。性別で見ると、「平等」は女子34.1%、男子52.0%と、男子が過半数となっている。

平成19年度調査と比較すると、「平等」は男子で増加し、女子でも僅かに増加している。《男性の方が優遇 (合計)》は男女ともにやや減少している。(図表11)

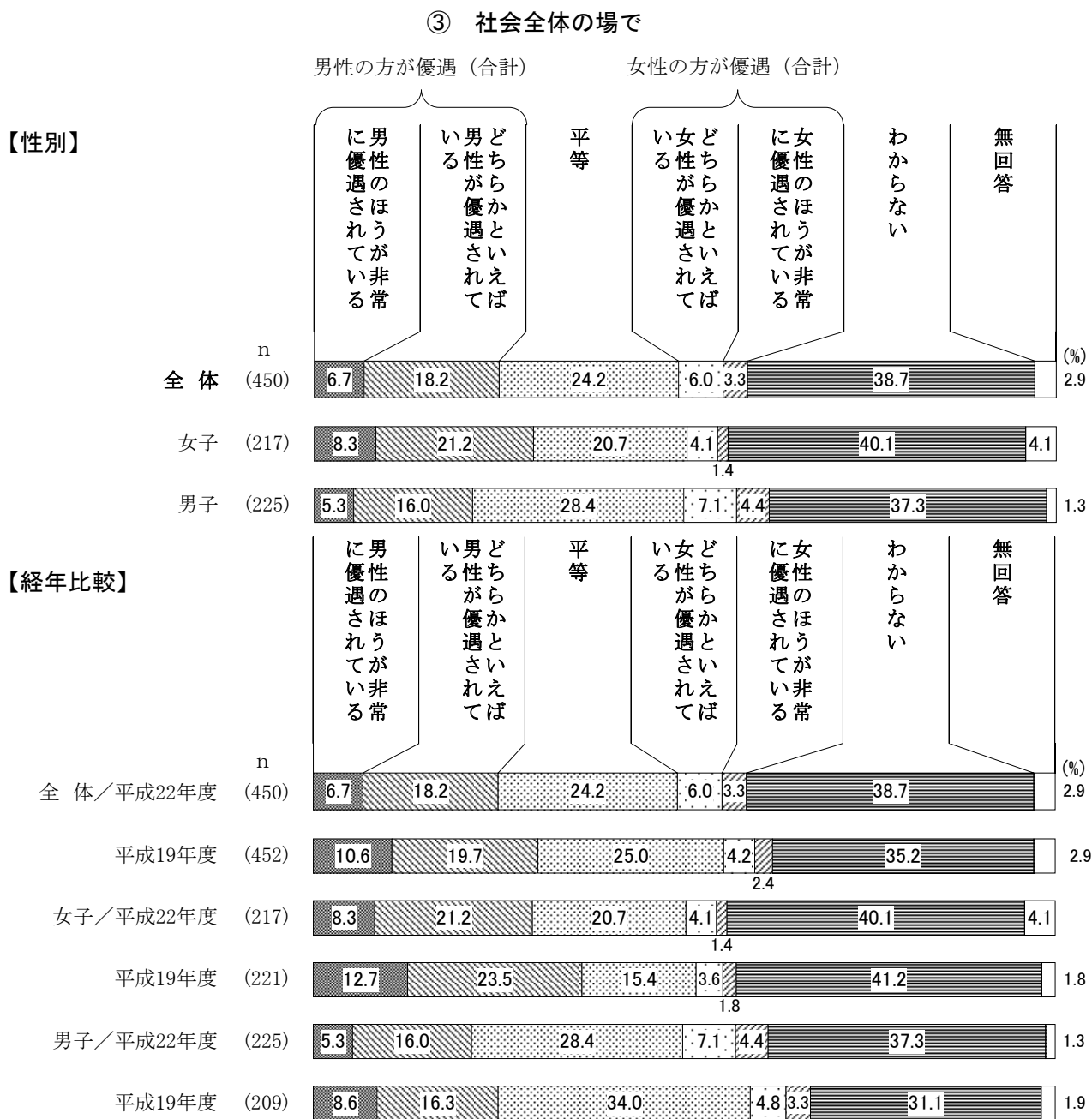
図表12 男女の地位の平等感について



『学校教育の場で』については、全体では「平等」が40.0%である。性別でみると、「平等」は女子38.2%、男性42.2%と、男子が女子をやや上回っている。《女性の方が優遇（合計）》は男子で23.1%となっている。

平成19年度調査と比較すると、「平等」は女子で僅かに増加している。《男性の方が優遇（合計）》は男女ともに僅かに減少している。(図表12)

図表13 男女の地位の平等感について



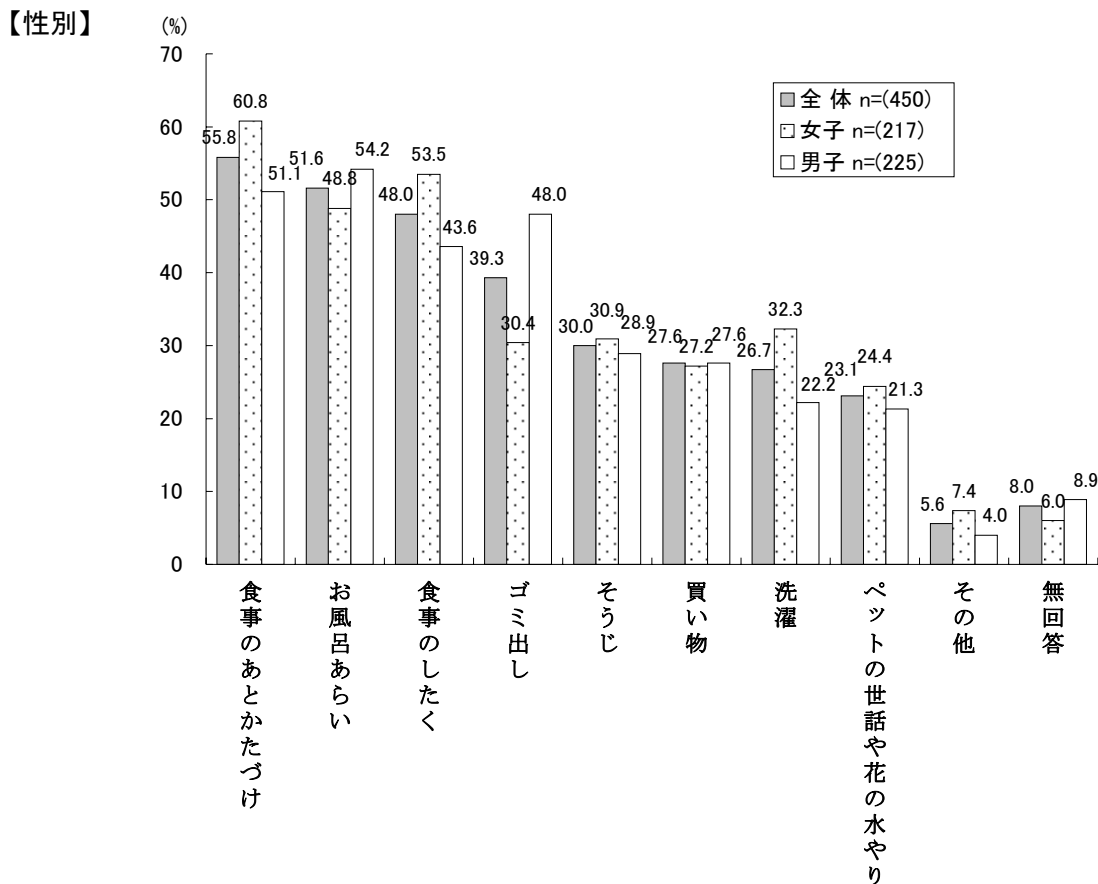
『社会全体の場合』については、全体では「平等」が24.2%、「男性の方が優遇 (合計)」が24.9%である。性別で見ると、「平等」は女子20.7%、男子28.4%と、男子が女子を上回っている。「男性の方が優遇 (合計)」は女子29.5%、男子21.3%と、女子が男子を上回っている。

平成19年度調査と比較すると、「平等」は女子でやや増加、男子でやや減少している。「男性の方が優遇 (合計)」は女子でやや減少し、男子で僅かに減少している。「女性の方が優遇 (合計)」は男子で僅かに増加している。(図表13)

(7) 家の中でのお手伝いの状況

問7 あなたは家の中でどのようなお手伝いをしますか。(あてはまるものすべてに○)
 ※なにもしていない場合は○をつけないでください。

図表14 家の中でのお手伝いの状況

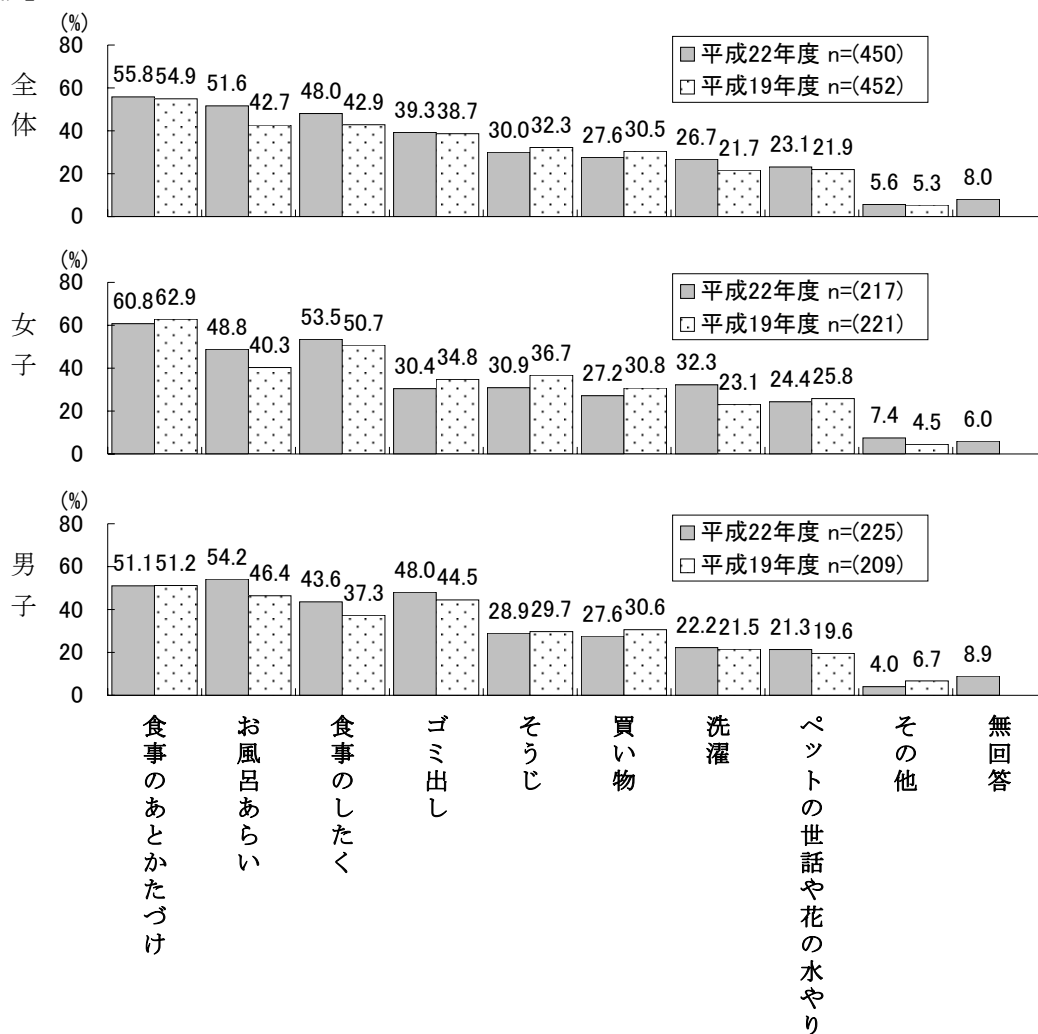


家の中でのお手伝いの状況については、「食事のあとかたづけ」が55.8%と最も多くなっている。次いで「お風呂あらい」が51.6%、「食事のしたく」が48.0%となっている。

性別でみると、女子では「食事のあとかたづけ」(60.8%)、「食事のしたく」(53.5%)、「洗濯」(32.3%)が男子に比べて高い。一方、男子では「ゴミ出し」(48.0%)が女子に比べて高くなっている。(図表14)

図表15 家の中での手伝いの状況

【経年比較】



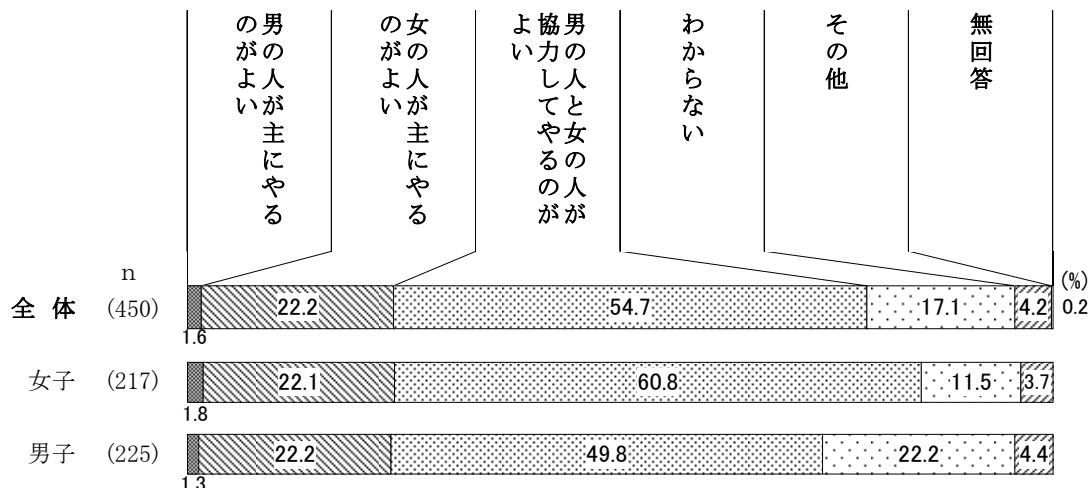
平成19年度調査と比較すると、男女ともに「お風呂あらい」が増加している。女子では「洗濯」が増加、男子では「食事のしたく」、「ゴミ出し」がやや増加している。(図表15)

(8) 家庭での役割分担

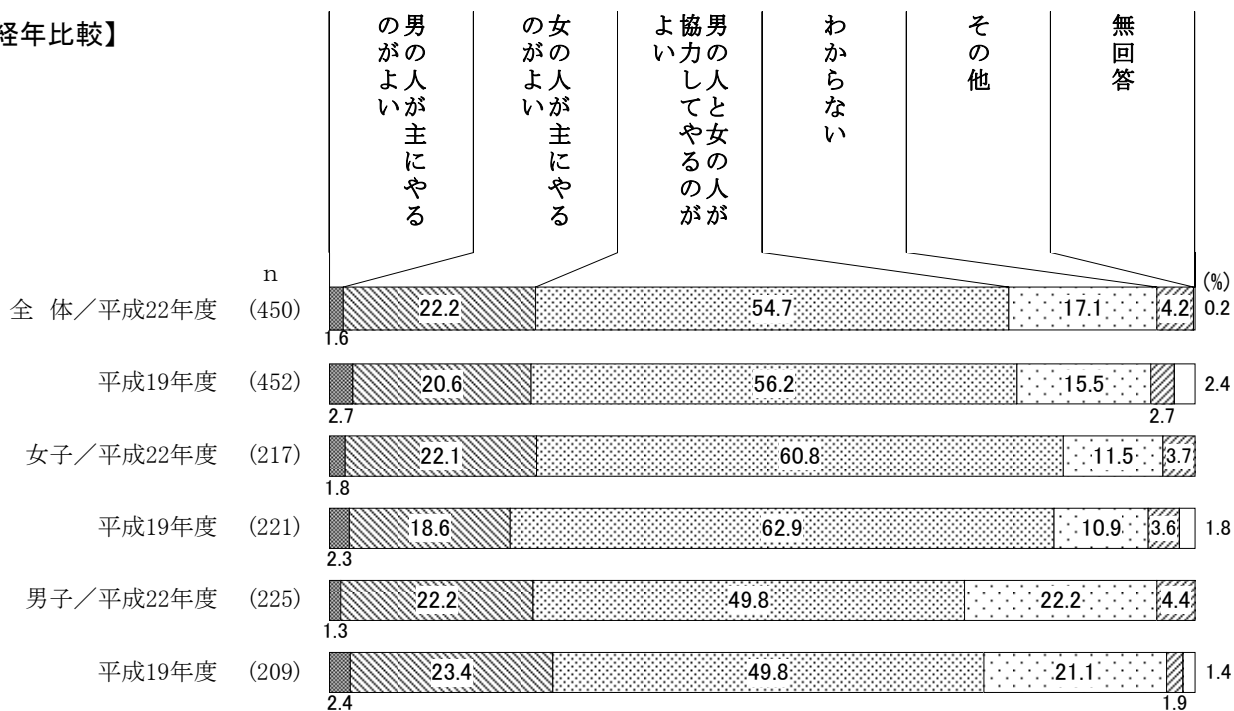
問8 あなたは家の中で、食事のしたくやそうじ、洗濯のような家事は、誰がやるのが一番よいと思いますか。(〇は1つ)

図表16 家庭での役割分担

【性別】



【経年比較】



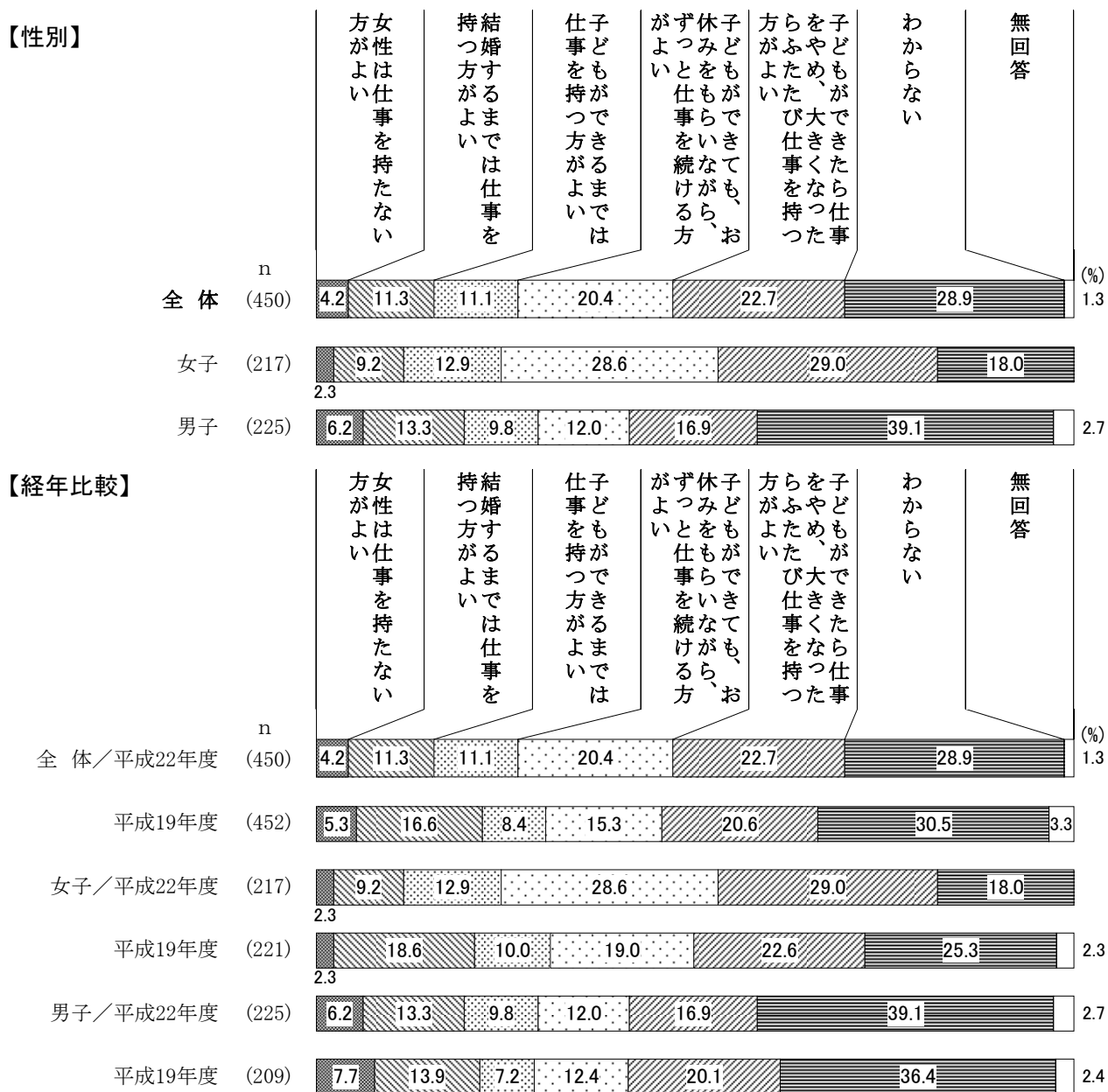
家庭での役割分担については、全体では「男の人と女の人が協力してやるのがよい」が54.7%を占めている。性別で見ると、「男の人と女の人が協力してやるのがよい」は女子60.8%、男子49.8%と、女子が男子を上回っている。

平成19年度調査と比較すると、女子では「女の人が主にやるのがよい」が僅かに増加し、「男の人と女の人が協力してやるのがよい」が僅かに減少している。(図表16)

(9) 女性が仕事を持つことについて

問9 女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)

図表17 女性が仕事を持つことについて



女性が仕事を持つことについては、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらふたたび仕事を持つ方がよい」が22.7%、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続ける方がよい」が20.4%となっている。

性別でみると、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらふたたび仕事を持つ方がよい」が女子29.0%、男子16.9%と、女子が男子を大きく上回っている。また、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続ける方がよい」が女子28.6%、男性12.0%と、女子が男子を大きく上回っている。

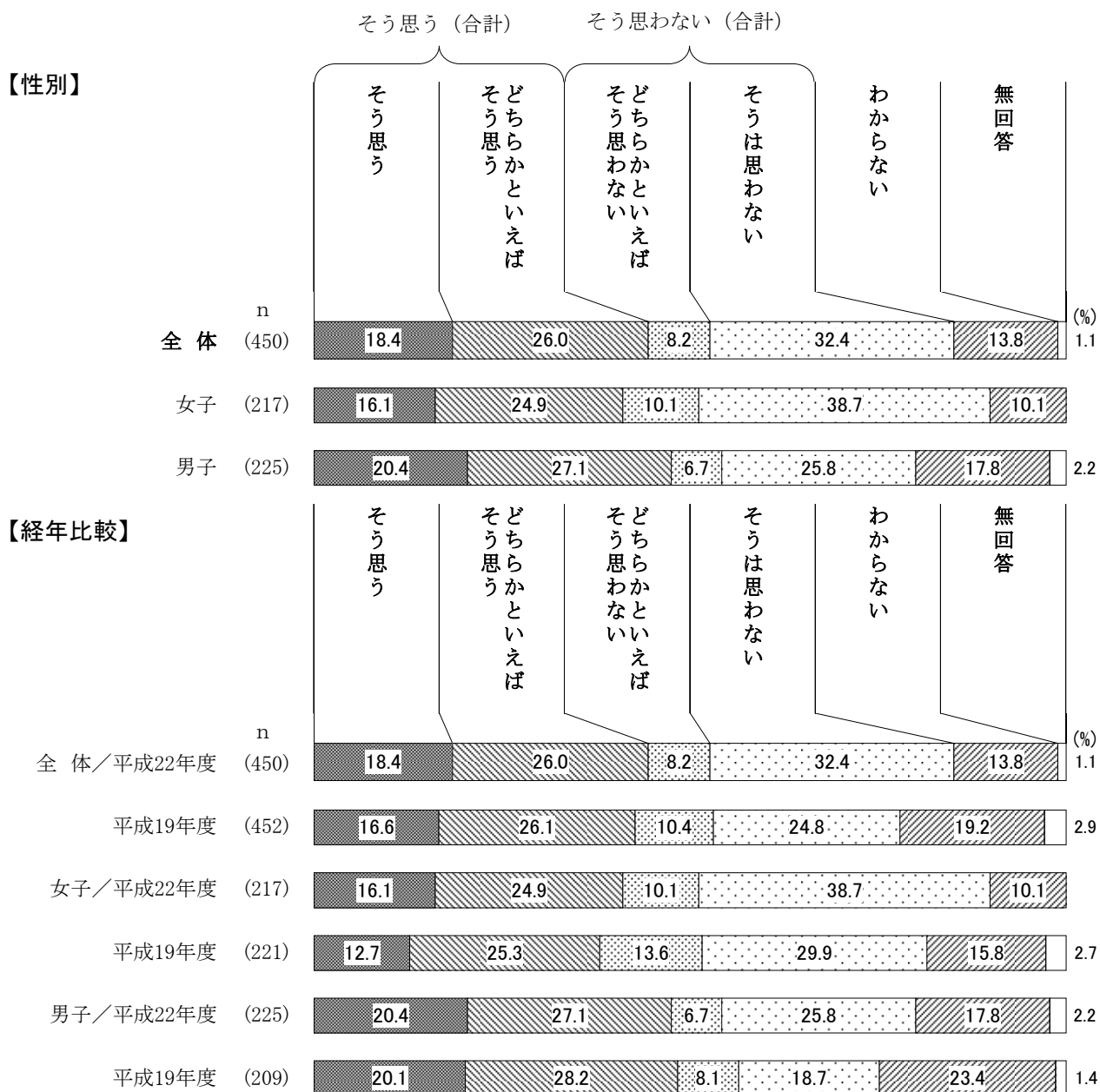
第3章 中生意識調査結果の分析

平成19年度調査と比較すると、女子では「結婚するまでは仕事を持つ方がよい」が減少し、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続ける方がよい」が増加、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらふたたび仕事を持つ方がよい」がやや増加している。男子では「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらふたたび仕事を持つ方がよい」が僅かに減少している。(図表17)

(10) 性別役割分担について

問10 「男は仕事・女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

図表18 性別役割分担について



性別役割分担については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う (合計)》が44.4%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない (合計)》が40.6%となっている。性別で見ると、《そう思う (合計)》が女子41.0%、男子47.5%と、男子が女子をやや上回っている。一方、《そう思わない (合計)》が女子48.8%、男子32.5%と、女子が男子を大きく上回っている。

平成19年度調査と比較すると、男女ともに《そう思わない (合計)》がやや増加している。(図表18)

(11) 将来の職業について

問11 あなたは、将来どのような仕事につきたいと思いますか。(○は5つまで)

図表19 将来の職業について（上位10位まで）

【性別】		(%)		
順位	男子 (n=225)	女子 (n=217)		
1	スポーツ選手	34.2	保育園、幼稚園の先生	29.5
2	ゲームデザイナー	15.1	ペット屋さん、動物の飼育	19.8
3	会社員、銀行員	14.2	美容師、理容師	13.8
4	店員・販売員	11.1	パティシエ	13.4
5	歌手、タレントなどの芸能人	10.2	スポーツ選手	12.4
	自動車、機械などのエンジニア			
7	コンピュータ関係の仕事	9.8	店員・販売員	12.0
			歌手、タレントなどの芸能人	
8	科学者、科学技術者	9.3	マンガ家、イラストレーター	11.5
9	警察官、刑事	8.0	食べ物屋さん（ケーキ屋さん、パン屋さんなど）	9.7
10	会社経営	7.6	習い事の先生（ピアノ、エレクトーン、習字などの先生）	9.2

将来就きたい職業については、男子では「スポーツ選手」(34.2%)が最も多い。以下、「ゲームデザイナー」(15.1%)、「会社員、銀行員」(14.2%)、「店員・販売員」(11.1%)、「歌手、タレントなどの芸能人」(10.2%)、「自動車、機械などのエンジニア」(10.2%)となっている。

女子では「保育園、幼稚園の先生」(29.5%)が最も多い。以下、「ペット屋さん、動物の飼育」(19.8%)、「美容師、理容師」(13.8%)、「パティシエ」(13.4%)、「スポーツ選手」(12.4%)となっている。(図表19)

図表20 将来の職業について

【性別】				(%)
順位	男子 (n=225)		女子 (n=217)	
1	スポーツ選手	34.2	保育園、幼稚園の先生	29.5
2	ゲームデザイナー	15.1	ペット屋さん、動物の飼育	19.8
3	会社員、銀行員	14.2	美容師、理容師	13.8
4	店員・販売員	11.1	パティシエ	13.4
5	歌手、タレントなどの芸能人	10.2	スポーツ選手	12.4
6	自動車、機械などのエンジニア	10.2	店員・販売員	12.0
7	コンピュータ関係の仕事	9.8	歌手、タレントなどの芸能人	12.0
8	科学者、科学技術者	9.3	マンガ家、イラストレーター	11.5
9	警察官、刑事	8.0	食べ物屋さん(ケーキ屋さん、パン屋さんなど)	9.7
10	会社経営	7.6	習い事の先生(ピアノ、エレクトーン、習字などの先生)	9.2
11	公務員	6.7	会社員、銀行員	8.3
12	学校の先生	6.7	画家、デザイナーなどの芸術家	8.3
13	シェフ、調理師など	6.7	獣医	6.9
14	ペット屋さん、動物の飼育	6.2	看護師、理学療法士など病院で働く人	6.0
15	建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人	5.8	公務員	5.5
16	科学者以外の学者、博士	5.3	学校の先生	5.1
17	自動車、電車の運転手	5.3	作家、作曲家	5.1
18	保育園、幼稚園の先生	4.9	薬剤師	5.1
19	弁護士、検察官、裁判官など	4.9	通訳、翻訳家	4.1
20	医者	4.4	フライトアテンダント	3.7
21	農業、漁業、林業など	4.4	ゲームデザイナー	3.2
22	マンガ家、イラストレーター	3.6	シェフ、調理師など	3.2
23	獣医	3.6	医者	3.2
24	自衛官	3.6	警察官、刑事	2.8
25	食べ物屋さん(ケーキ屋さん、パン屋さんなど)	3.1	アナウンサー、レポーター	2.8
26	作家、作曲家	3.1	福祉施設で働く人	2.8
27	パイロット	3.1	コンピュータ関係の仕事	1.8
28	画家、デザイナーなどの芸術家	2.7	科学者、科学技術者	1.8
29	消防士、救急隊、レスキュー隊	2.7	建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人	1.8
30	パティシエ	2.2	農業、漁業、林業など	1.8
31	薬剤師	2.2	消防士、救急隊、レスキュー隊	1.8
32	政治家	2.2	自衛官	1.4
33	商店など自営業	2.2	弁護士、検察官、裁判官など	0.9
34	看護師、理学療法士など病院で働く人	1.8	政治家	0.9
35	アナウンサー、レポーター	1.8	商店など自営業	0.9
36	習い事の先生(ピアノ、エレクトーン、習字などの先生)	1.3	宇宙飛行士	0.9
37	宇宙飛行士	1.3	新聞記者	0.9
38	美容師、理容師	0.9	会社経営	0.5
39	福祉施設で働く人	0.9	科学者以外の学者、博士	0.5
40	新聞記者	0.4	パイロット	0.5
41	花屋さん	0.4	花屋さん	0.5
42	通訳、翻訳家	0.0	自動車、機械などのエンジニア	0.0
43	フライトアテンダント	0.0	自動車、電車の運転手	0.0
	その他	6.7	その他	11.5
	わからない	10.2	わからない	6.5
	なりたい仕事がない	2.7	なりたい仕事がない	2.8
	無回答	2.2	無回答	0.9

図表 2 1 将来の職業について（上位10位まで）

【経年比較】

順位	男子		女子	
	平成 22 年度	平成 19 年度	平成 22 年度	平成 19 年度
1	スポーツ選手	スポーツ選手	保育園、幼稚園の先生	保育園・幼稚園の先生
2	ゲームデザイナー	会社員・銀行員	ペット屋さん、動物の飼育	ペット屋さん・動物の飼育
3	会社員、銀行員	公務員	美容師、理容師	漫画家・イラストレーター
4	店員・販売員	コンピュータ関係	パティシエ	画家・デザイナーなどの芸術家
5	歌手、タレントなどの芸能人	歌手など芸能人	スポーツ選手	食べ物屋さん
	自動車、機械などのエンジニア	弁護士・検察官など 消防士・救急隊など		習い事の先生
6			店員・販売員	
7	コンピュータ関係の仕事		歌手、タレントなどの芸能人	歌手・タレントなどの芸能人
				美容師・理容師
8	科学者、科学技術者	警察官・刑事	マンガ家、イラストレーター	
9	警察官、刑事	学校の先生	食べ物屋さん（ケーキ屋さん、パン屋さんなど）	看護師など病院で働く人
		自動車・機械などのエンジニア		
		建設業・大工など		
10	会社経営		習い事の先生（ピアノ、エレクトーン、習字などの先生）	学校の先生

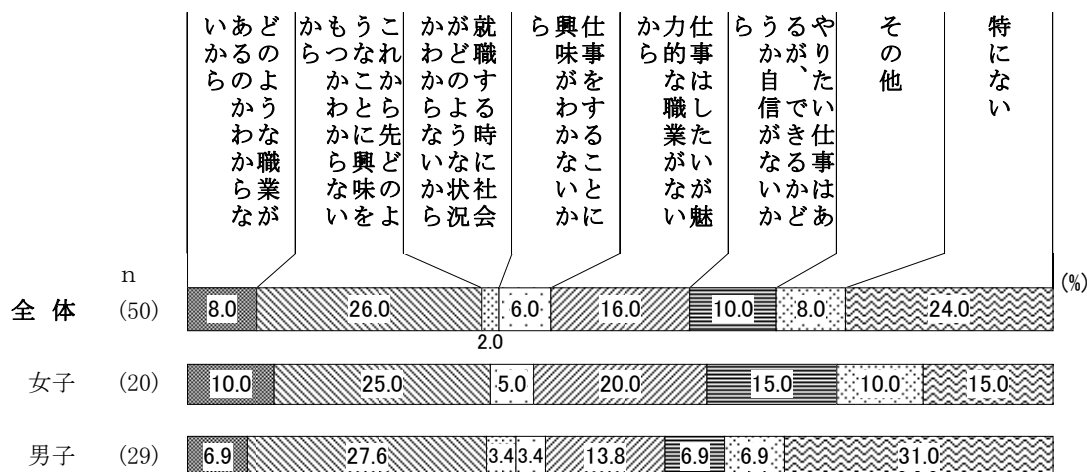
平成19年度調査と比較すると、男子では「スポーツ選手」が1位を維持、女子では「保育園、幼稚園の先生」、「ペット屋さん、動物の飼育」が1位と2位を維持している。男子では平成19年度で3位の「公務員」が圏外（11位）となり、「ゲームデザイナー」が2位、「店員・販売員」が4位に入っている。女子では平成19年度で7位の「美容師、理容師」が3位、圏外（11位）の「スポーツ選手」が5位に上昇し、「パティシエ」が4位、「店員・販売員」が6位に入っている。（図表 2 1）

(12) 就きたい仕事がない理由

問12 問11で「なりたい仕事がない」または「わからない」と答えた方に聞きます。つきたい仕事がない、または、わからない理由は何ですか。(○は1つ)

図表22 就きたい仕事がない理由

【性別】



現在、就きたい仕事がない理由としては、「これから先どのようなことに興味をもつかわからないから」が26.0%、「仕事はしたいが魅力的な職業がないから」が16.0%となっている。

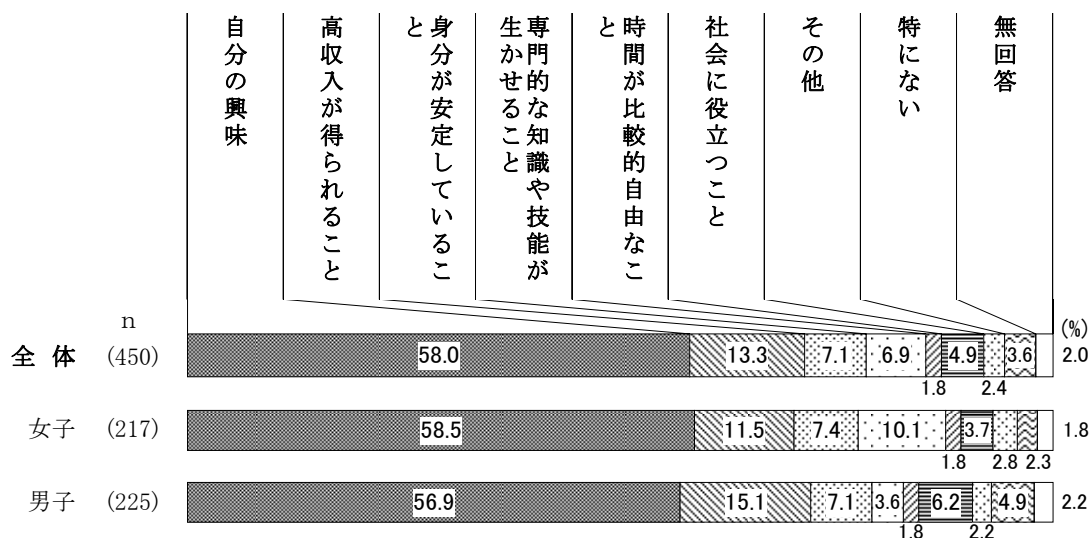
性別でみると、「これから先どのようなことに興味をもつかわからないから」は女子25.0%、男子27.6%と、男女ともに2割を超えている。また、「特にない」が男子で31.0%となっている。(図表22)

(13) 仕事を選ぶ時に重視すること

問13 仕事を選ぶ時に重視することは何ですか。(○は1つ)

図表23 仕事を選ぶ時に重視すること

【性別】



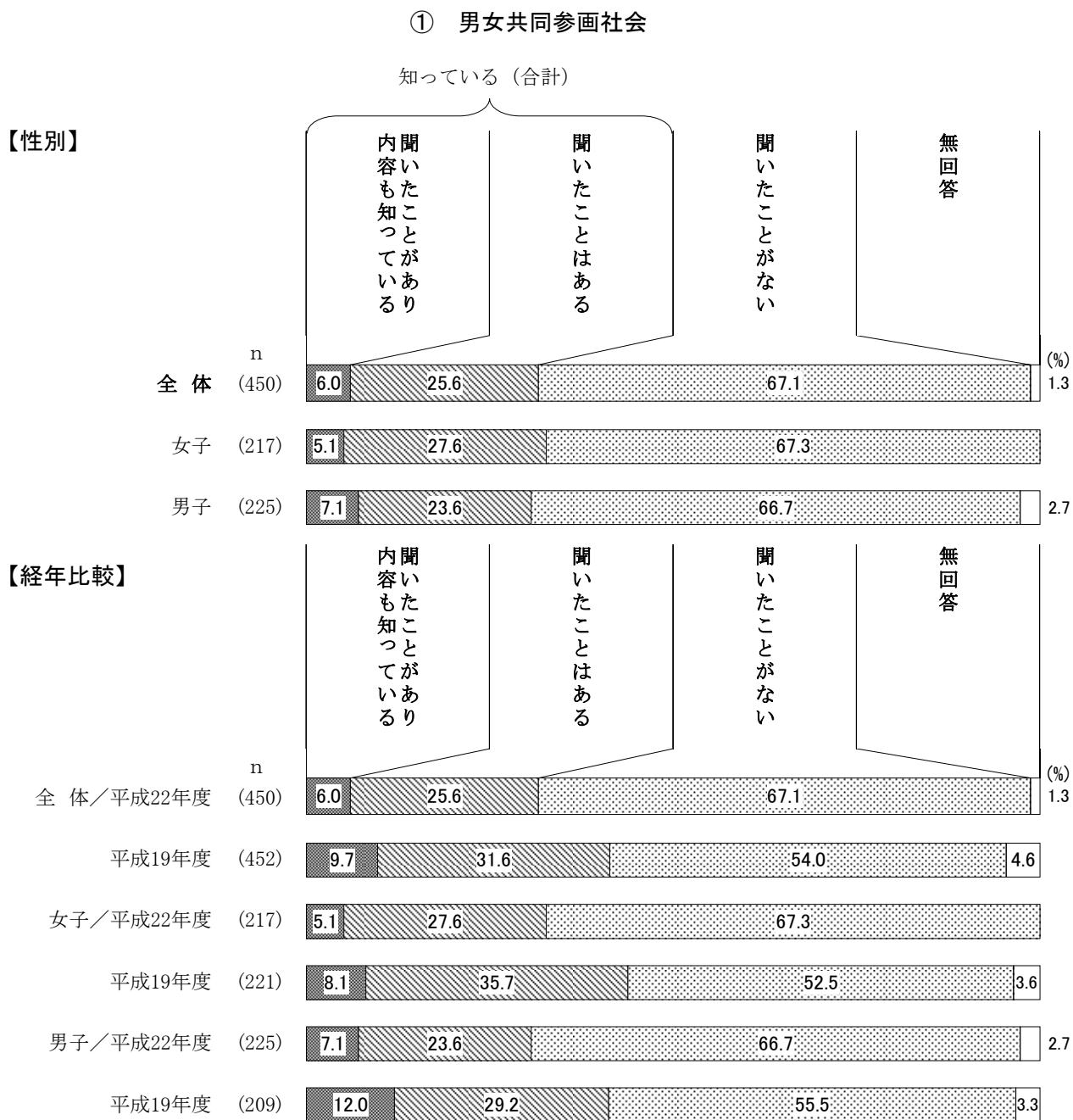
仕事を選ぶ時に重視することは、「自分の興味」が58.0%を占めている。また、「高収入が得られること」が13.3%となっている。

性別でみると、「自分の興味」は女子58.5%、男子56.9%と、男女ともに過半数となっている。また、「高収入が得られること」が男子で15.1%となっている。(図表23)

(14) 男女共同参画に関する言葉の周知度

問14 あなたは次の言葉を聞いたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

図表24 男女共同参画に関する言葉の周知度

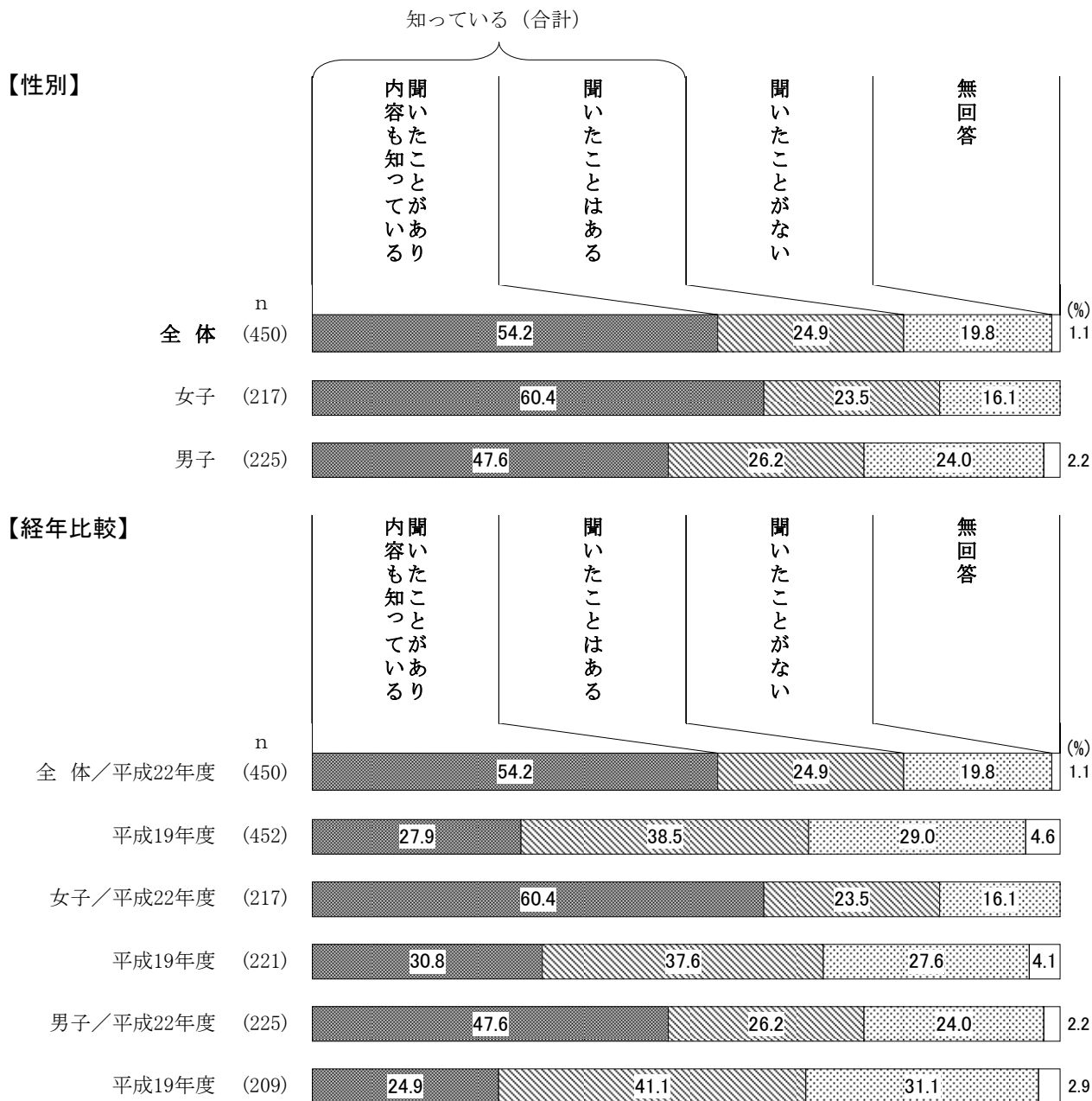


『男女共同参画社会』については、全体では、「聞いたことがあり内容も知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた「知っている (合計)」が31.6%である。性別で見ると、男女間に大きな差はみられない。

平成19年度調査と比較すると、男女ともに「知っている (合計)」が減少し、「聞いたことがない」が増加している。(図表24)

図表25 男女共同参画に関する言葉の周知度

② DV（ドメスティック・バイオレンス）

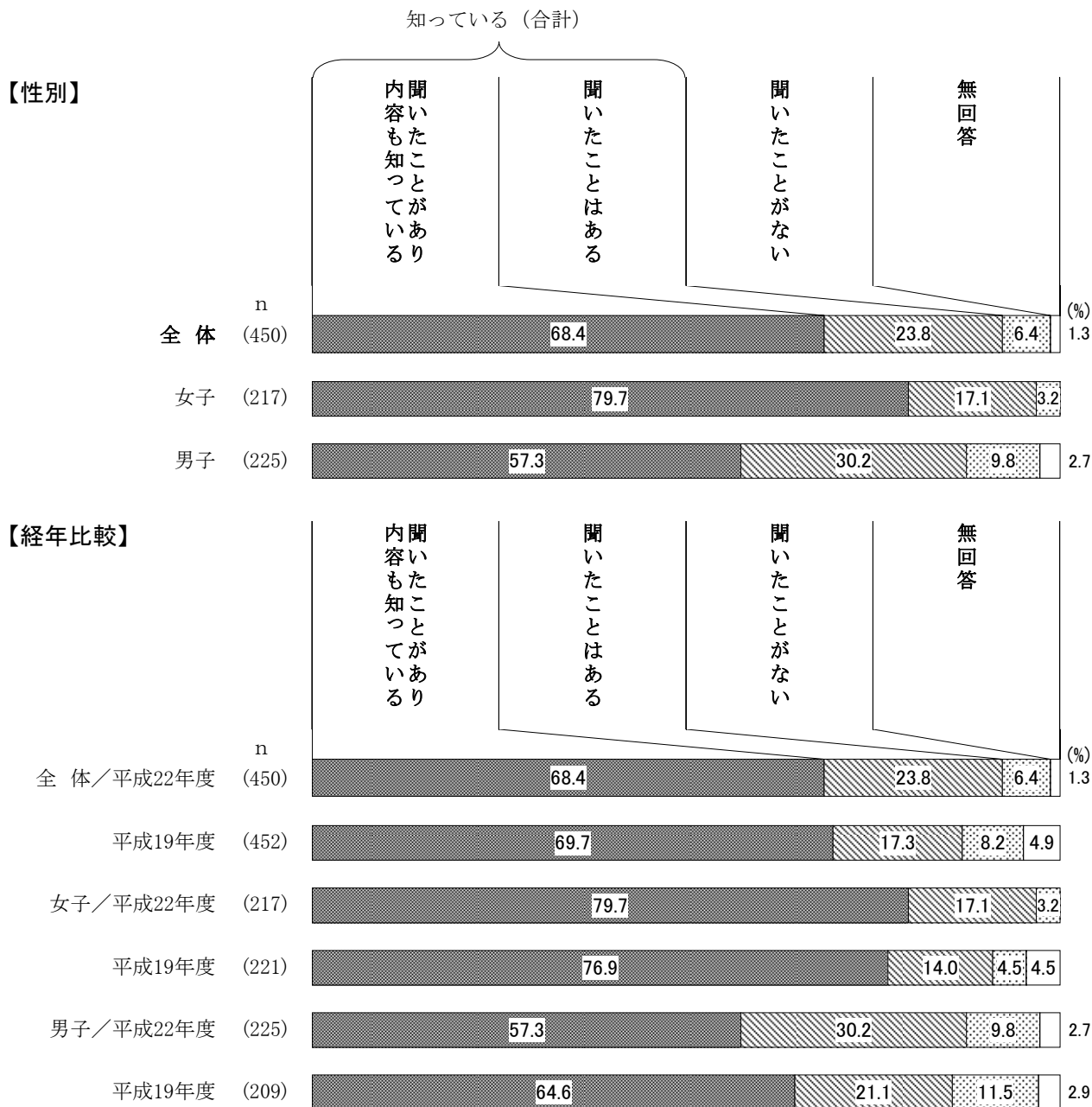


『DV（ドメスティック・バイオレンス）』については、全体では、「知っている（合計）」が79.1%を占めている。性別で見ると、「知っている（合計）」は女子83.9%、男子73.8%と、女子が男子を上回っている。

平成19年度調査と比較すると、男女ともに「聞いたことがあり内容も知っている」が大きく増加しており、「知っている（合計）」もそれぞれ増加している。（図表25）

図表26 男女共同参画に関する言葉の周知度

③ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）



『セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）』については、全体では、「知っている（合計）」が92.2%を占めている。性別で見ると、「知っている（合計）」は女子96.8%、男子87.5%と、女子が男子を上回っている。

平成19年度調査と比較すると、女子では「知っている（合計）」がやや増加し、ほぼ全数となっている。男子では「知っている（合計）」が僅かに増加しているが、「聞いたことがあり内容も知っている」はやや減少している。（図表26）

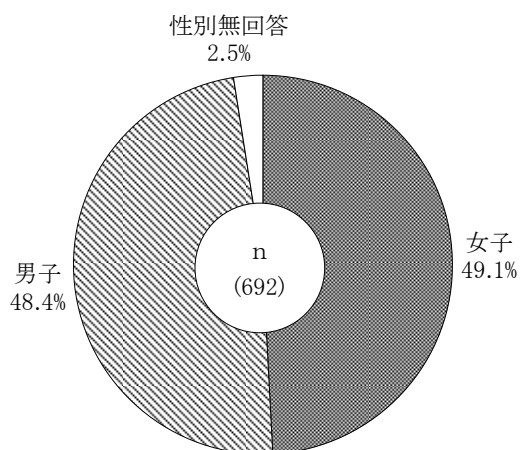
第4章 小生意識調査結果の分析

(1) 回答者の性別

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

	基数	構成比
女子	340	49.1%
男子	335	48.4%
性別無回答	17	2.5%
全体	692	100.0%

図表1 回答者の性別

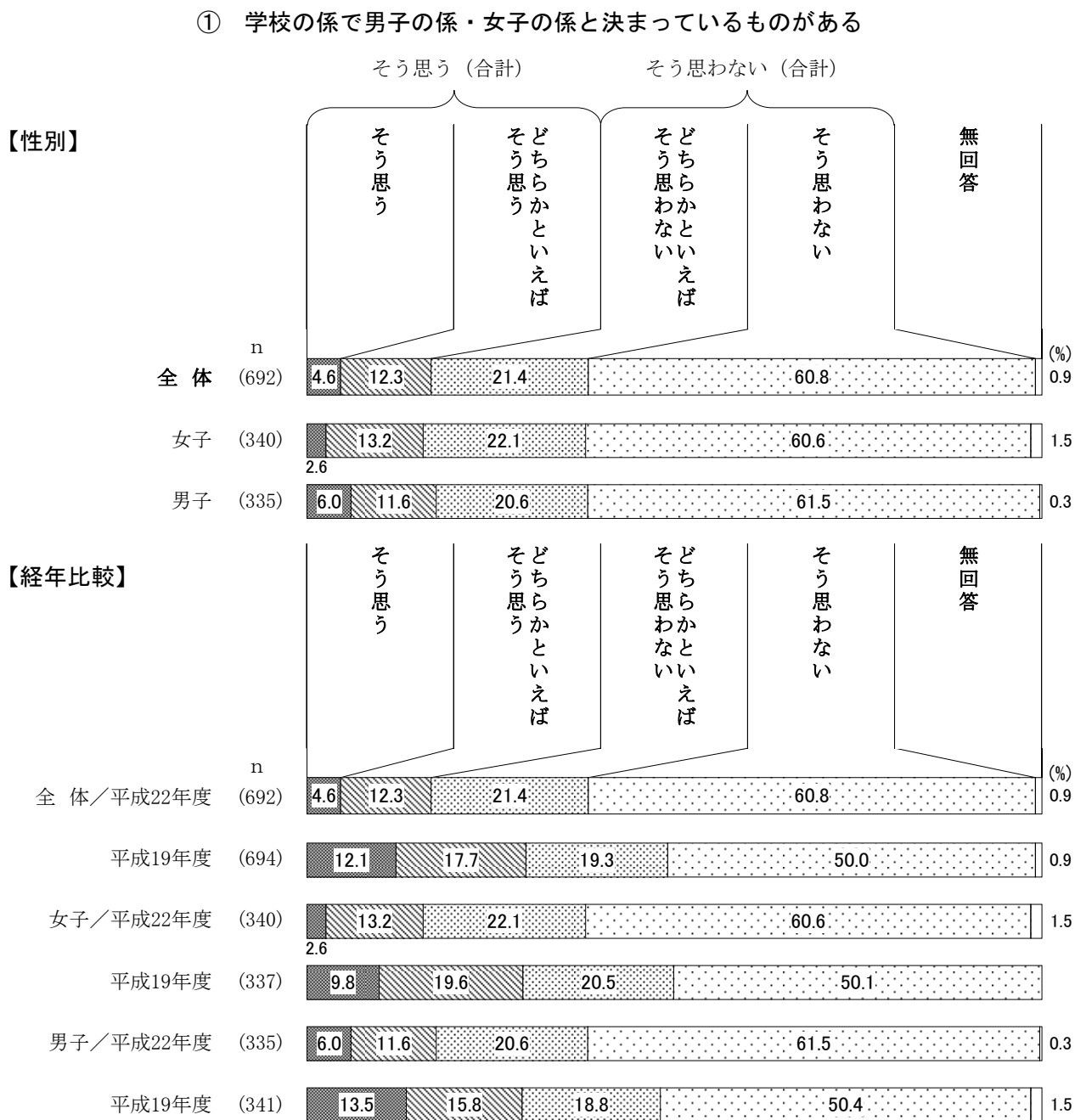


回答者の性別は、女子が49.1%、男子が48.4%である。(図表1)

(2) 男女の性差についての意識

問2 次のことについてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

図表2 男女の性差についての意識

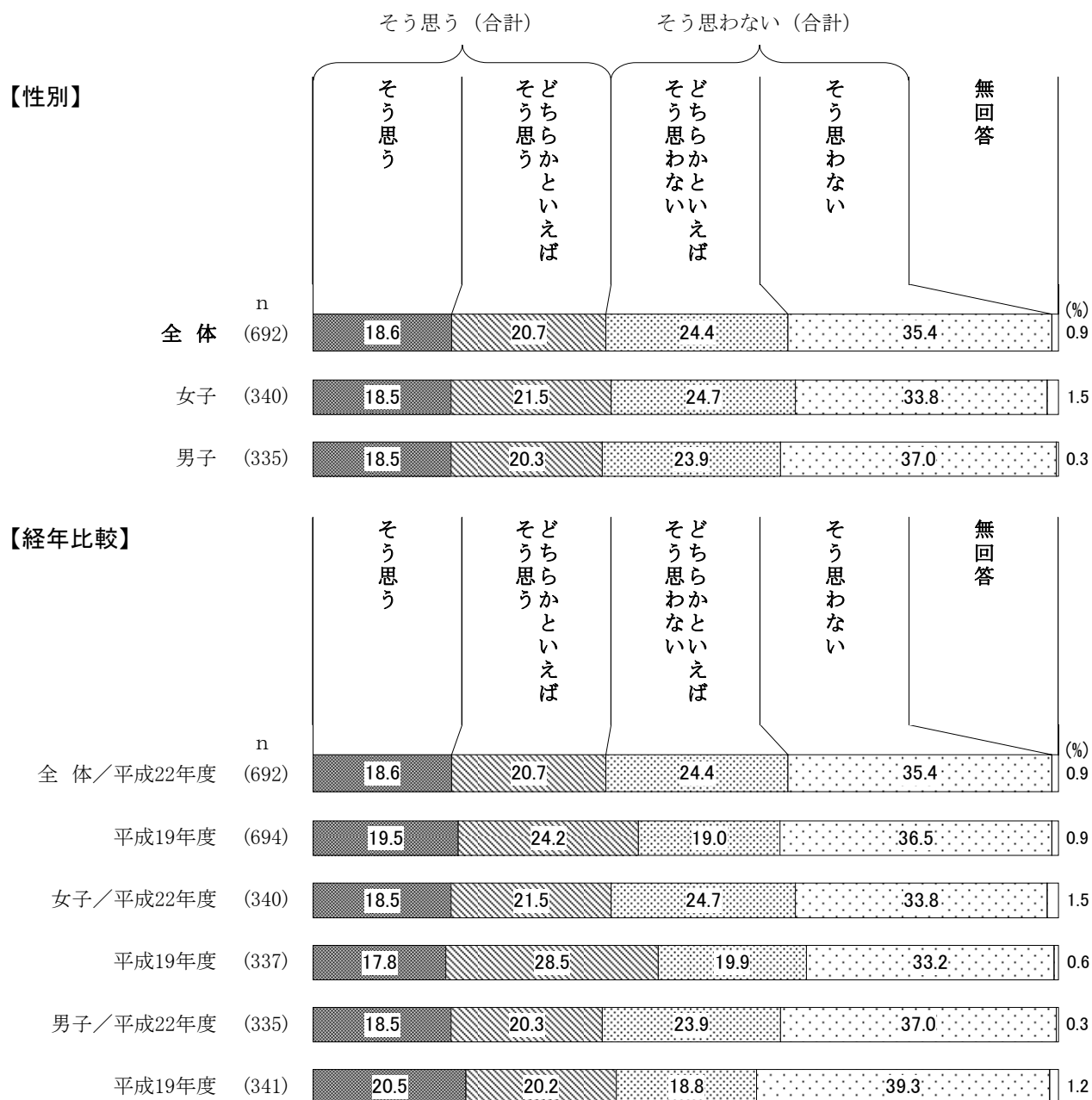


『学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある』について、全体では「どちらかといえませんがそう思わない」と「そう思わない」を合わせた《そう思わない(合計)》が82.2%を占めている。性別で見ると、《そう思わない(合計)》が女子82.7%、男子82.1%と、男女ともに8割を超える。

平成19年度調査と比較すると、男女ともに《そう思う(合計)》が減少し、《そう思わない(合計)》が増加している。(図表2)

図表3 男女の性差についての意識

② なにかにつけて男子が先、女子が後にされている

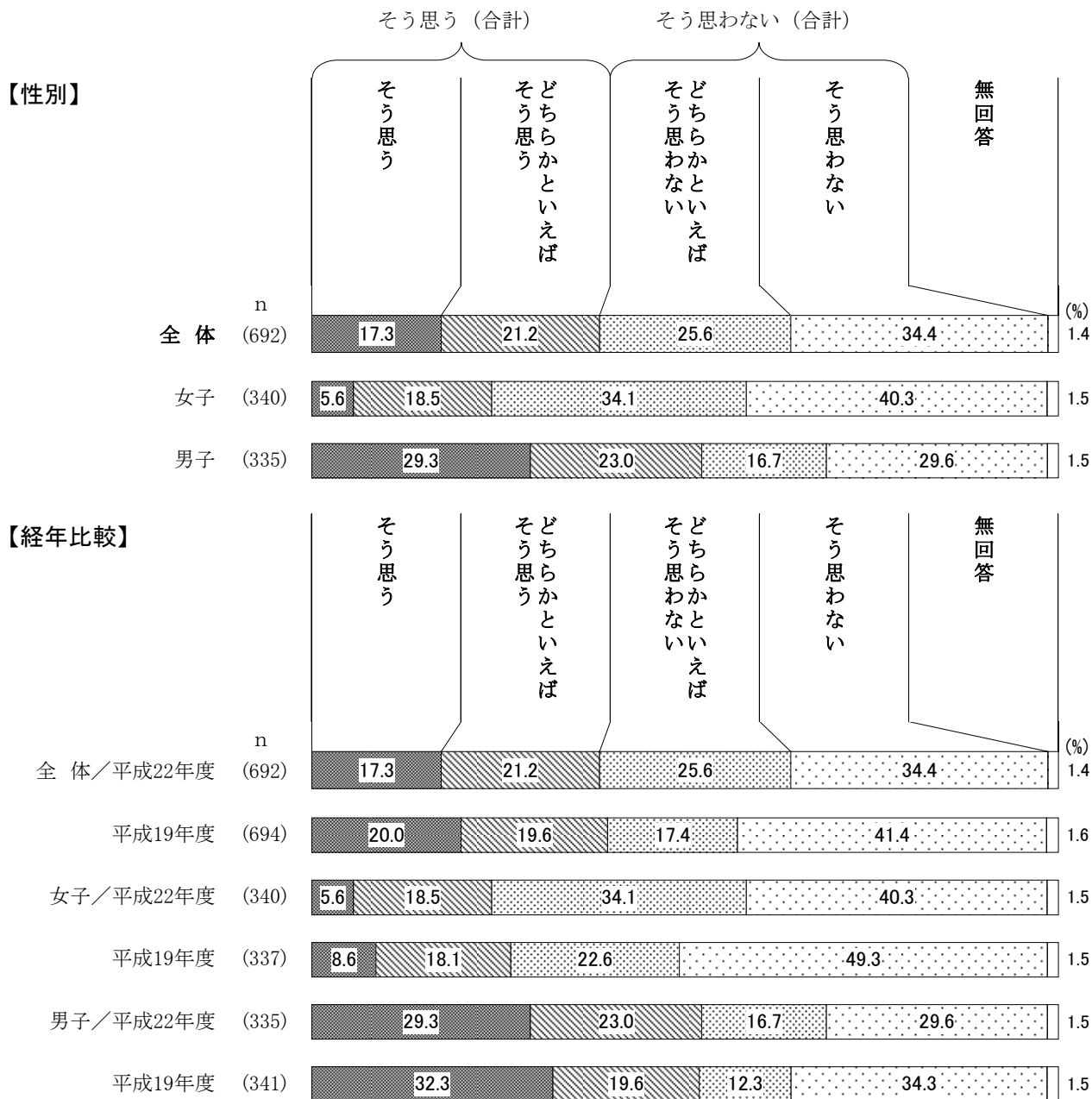


『なにかにつけて男子が先、女子が後にされている』について、全体では「そう思わない（合計）」が59.8%を占めている。性別で見ると、「そう思わない（合計）」が女子58.5%、男子60.9%と、男女ともに過半数となっている。

平成19年度調査と比較すると、女子では「そう思う（合計）」がやや減少し、「そう思わない（合計）」がやや増加している。（図表3）

図表4 男女の性差についての意識

③ いろいろな場面で女子のほうが甘やかされている

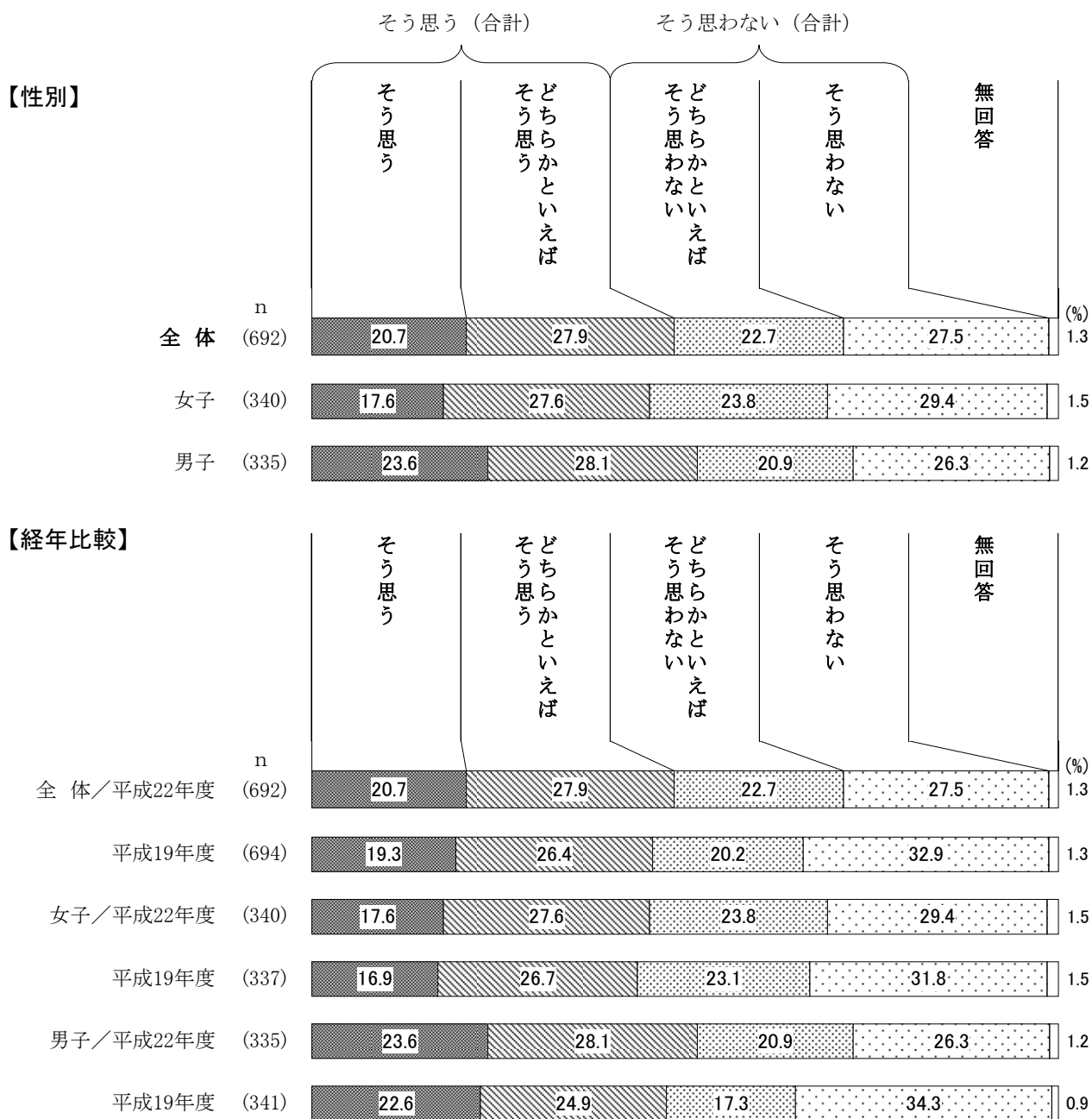


『いろいろな場面で女子のほうが甘やかされている』について、全体では「そう思わない（合計）」が60.0%を占めている。性別で見ると、女子では「そう思わない（合計）」が74.4%、男子では「そう思う（合計）」が52.3%となっている。

平成19年度調査と比較すると、女子では「そう思う（合計）」が僅かに減少し、「そう思わない（合計）」が僅かに増加している。（図表4）

図表5 男女の性差についての意識

④ いろいろな場面で男子のほうが期待されている

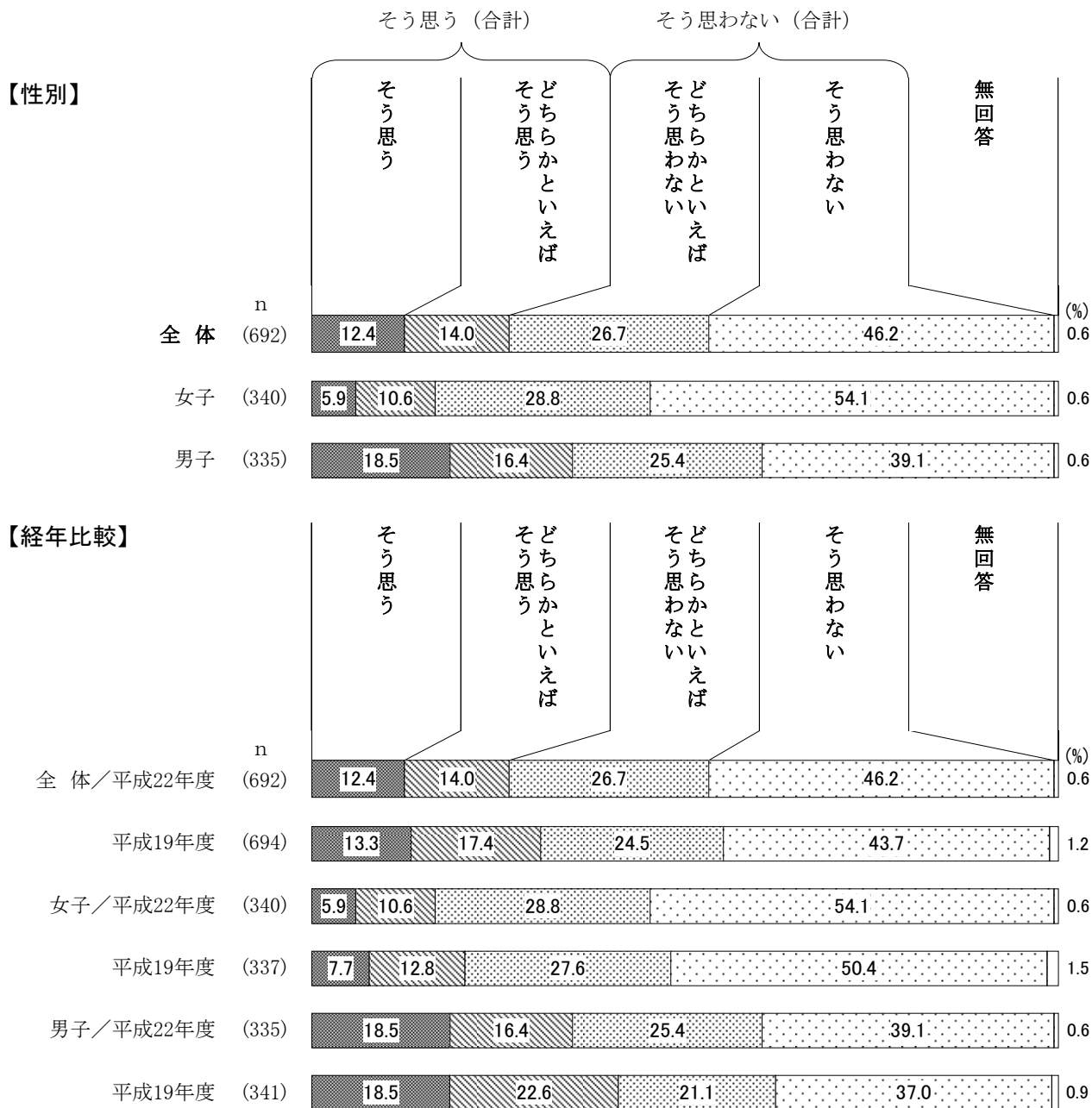


『いろいろな場面で男子のほうが期待されている』について、全体では《そう思う（合計）》が48.6%、《そう思わない（合計）》が50.2%となっている。性別で見ると、女子では《そう思わない（合計）》が53.2%、男子では《そう思う（合計）》が51.7%となっている。

平成19年度調査と比較すると、女子では《そう思う（合計）》が僅かに増加し、《そう思わない（合計）》が僅かに減少している。(図表5)

図表6 男女の性差についての意識

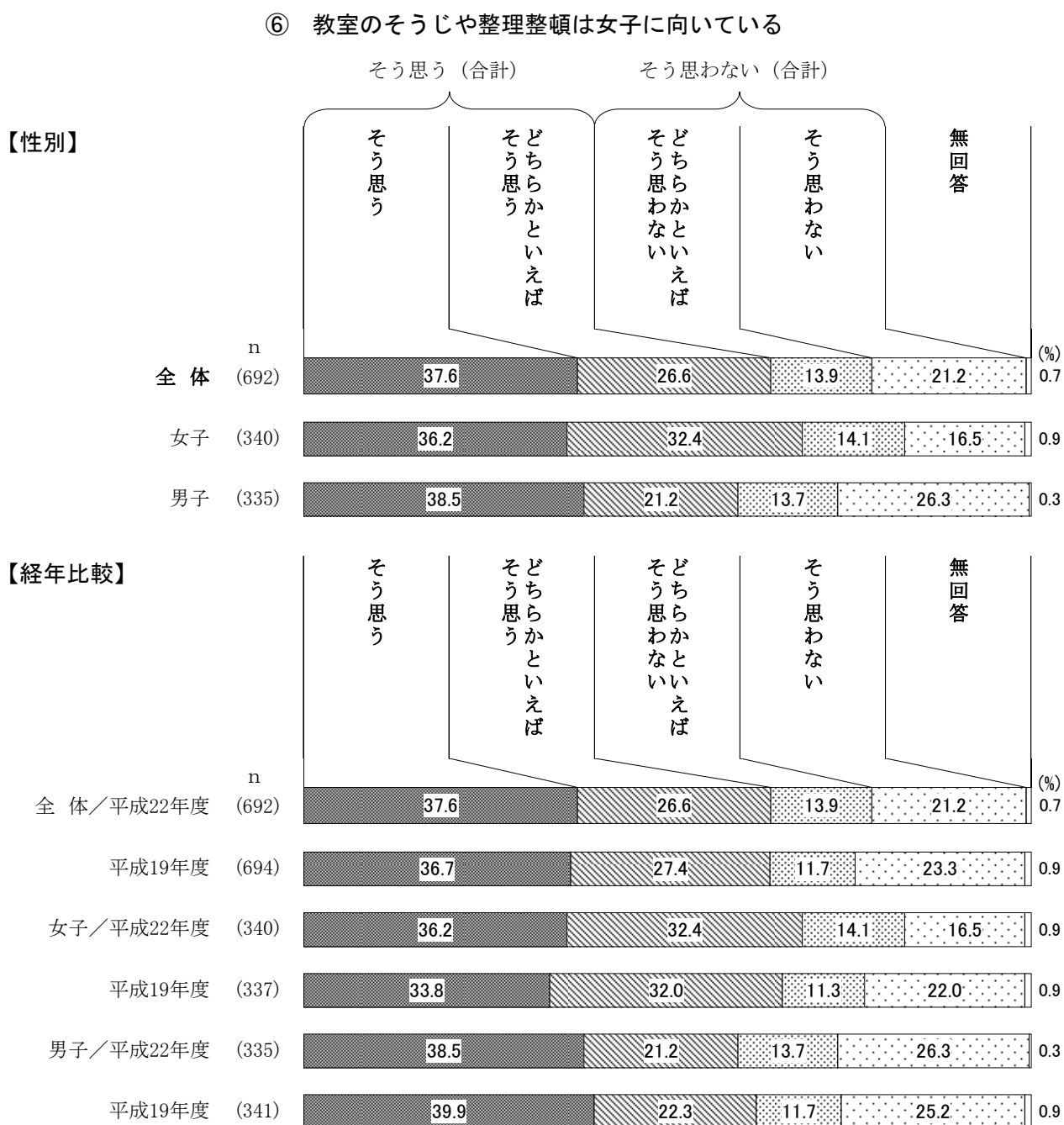
⑤ 代表委員、児童会長は男子に向いている



『代表委員、児童会長は男子に向いている』について、全体では「そう思わない（合計）」が72.9%を占めている。性別で見ると、「そう思わない（合計）」は女子82.9%、男子64.5%と、女子が男子を大きく上回っている。「そう思う（合計）」は女子16.5%、男子34.9%と、男子が女子を大きく上回っている。

平成19年度調査と比較すると、男女ともに「そう思う（合計）」がやや減少し、「そう思わない（合計）」がやや増加している。（図表6）

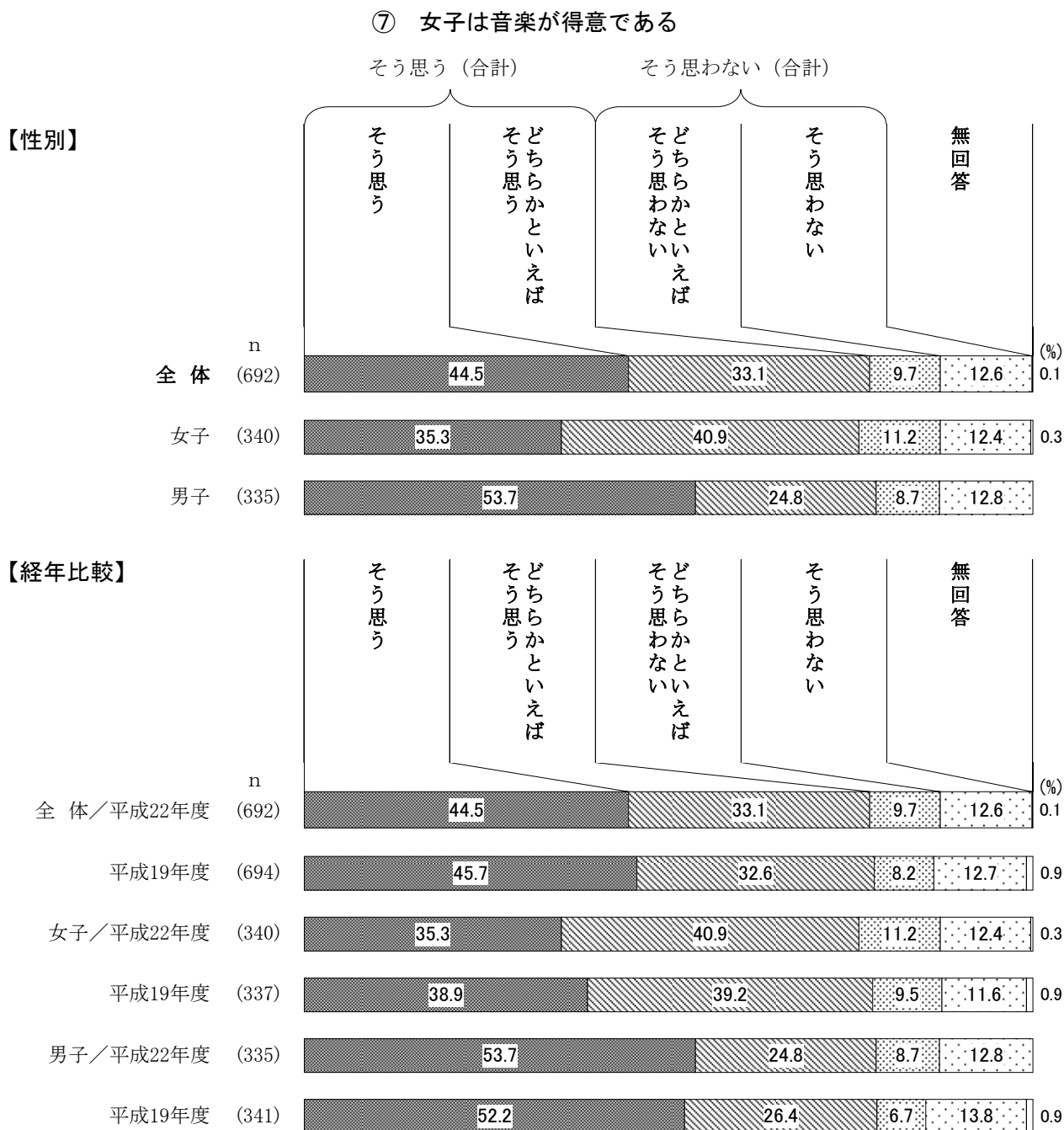
図表7 男女の性差についての意識



『教室のそうじや整理整頓は女子に向いている』について、全体では《そう思う (合計)》が64.2%を占めている。性別で見ると、《そう思う (合計)》が女子68.6%、男子59.7%と、女子が男子を上回っている。

平成19年度調査と比較すると、《そう思う (合計)》は女子では僅かに増加し、男子では僅かに減少している。《そう思わない (合計)》が女子では僅かに減少し、男子では僅かに増加している。(図表7)

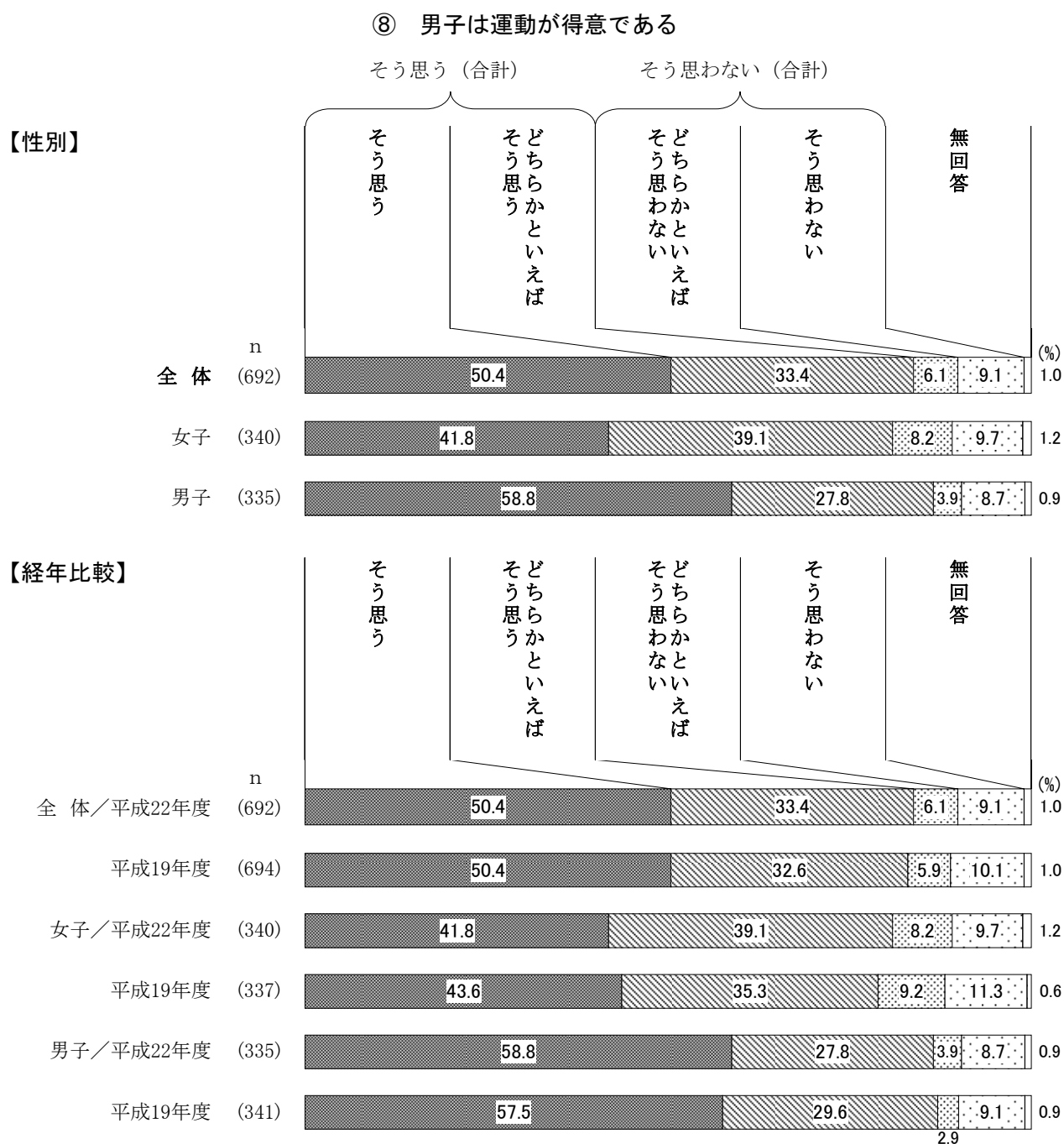
図表8 男女の性差についての意識



『女子は音楽が得意である』について、全体では《そう思う (合計)》が77.6%を占めている。性別でみると、《そう思う (合計)》が女子76.2%、男子78.5%と多く、特に男子では「そう思う」(53.7%)が過半数を占めている。

平成19年度調査と比較すると、女子では《そう思う (合計)》が僅かに減少し、《そう思わない (合計)》が僅かに増加している。(図表8)

図表9 男女の性差についての意識



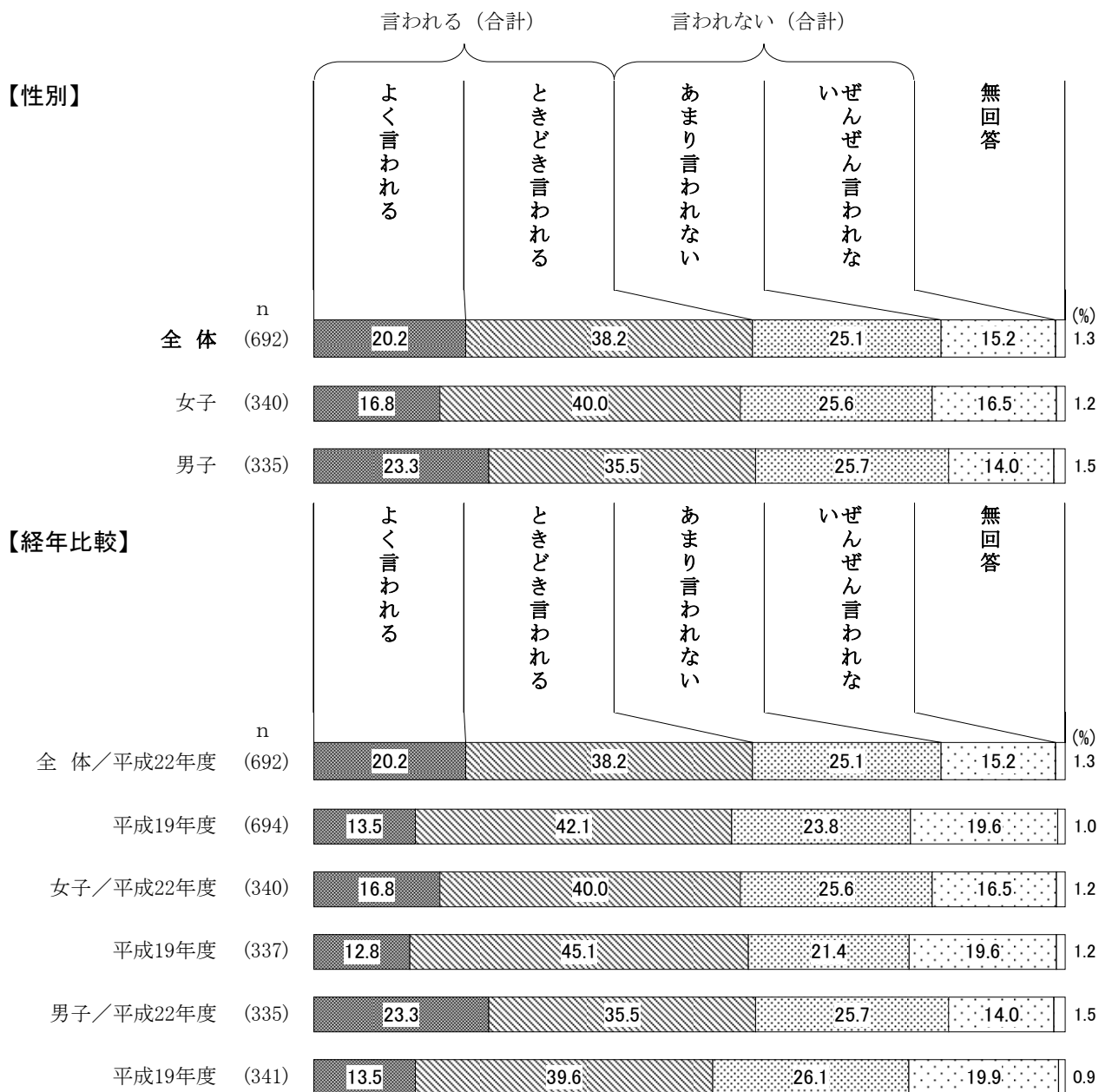
『男子は運動が得意である』について、全体では《そう思う (合計)》が83.8%を占めている。性別でみると、《そう思う (合計)》が女子80.9%、男子86.6%と多く、特に男子では「そう思う」(58.8%)が6割近くとなっている。

平成19年度調査と比較すると、女子では《そう思う (合計)》が僅かに増加し、《そう思わない (合計)》が僅かに減少している。(図表9)

(3) 性別役割意識に対する大人の言動

問3 あなたはおとなの人に「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(〇は1つ)

図表10 性別役割意識に対する大人の言動



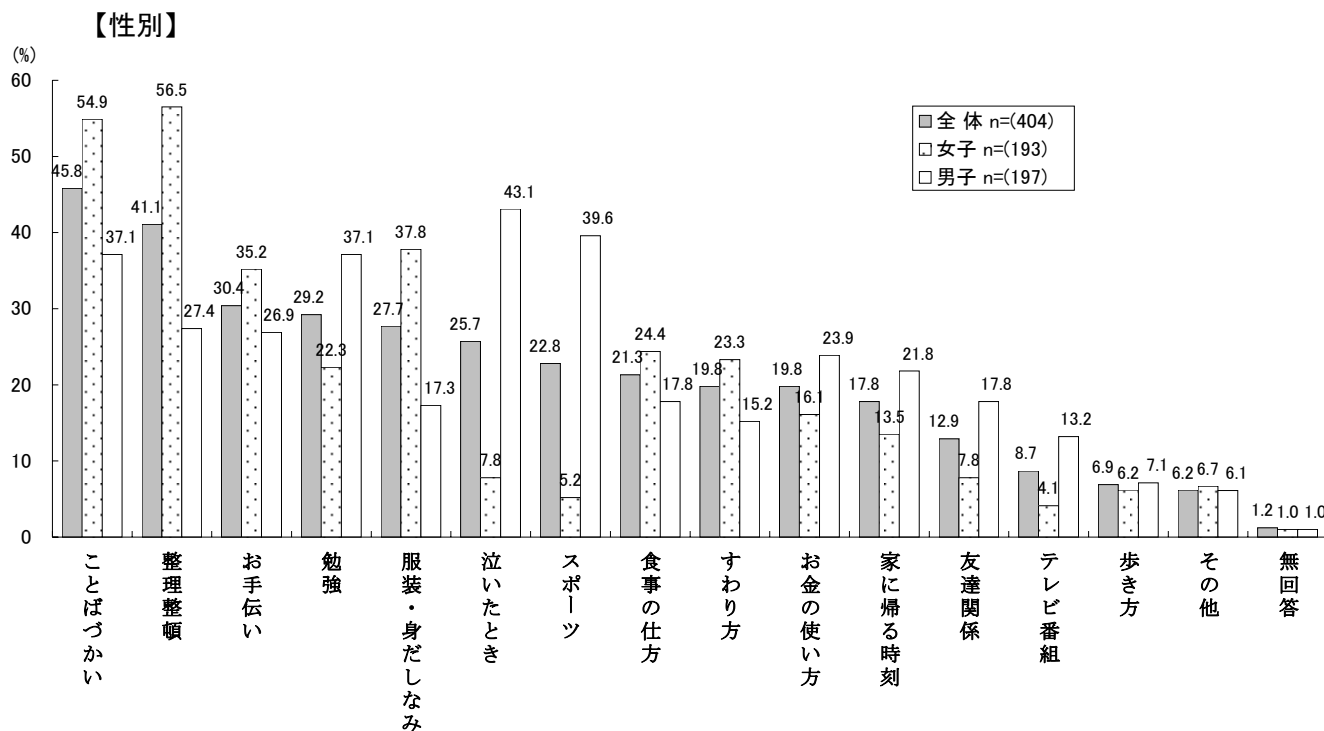
性別役割意識に対する大人の言動については、全体では「よく言われる」と「ときどき言われる」を合わせた《言われる (合計)》が58.4%、「あまり言われない」と「ぜんぜん言われない」を合わせた《言われない (合計)》が40.3%となっている。性別で見ると、「よく言われる」は女子16.8%、男子23.3%と、男子が女子をやや上回っている。

平成19年度調査と比較すると、女子では変化が見られないが、男子では《言われる (合計)》がやや増加し、《言われない (合計)》がやや減少している。(図表10)

(4) 性別役割意識に対する大人の言動のきっかけ

問4 問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。どんな時に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

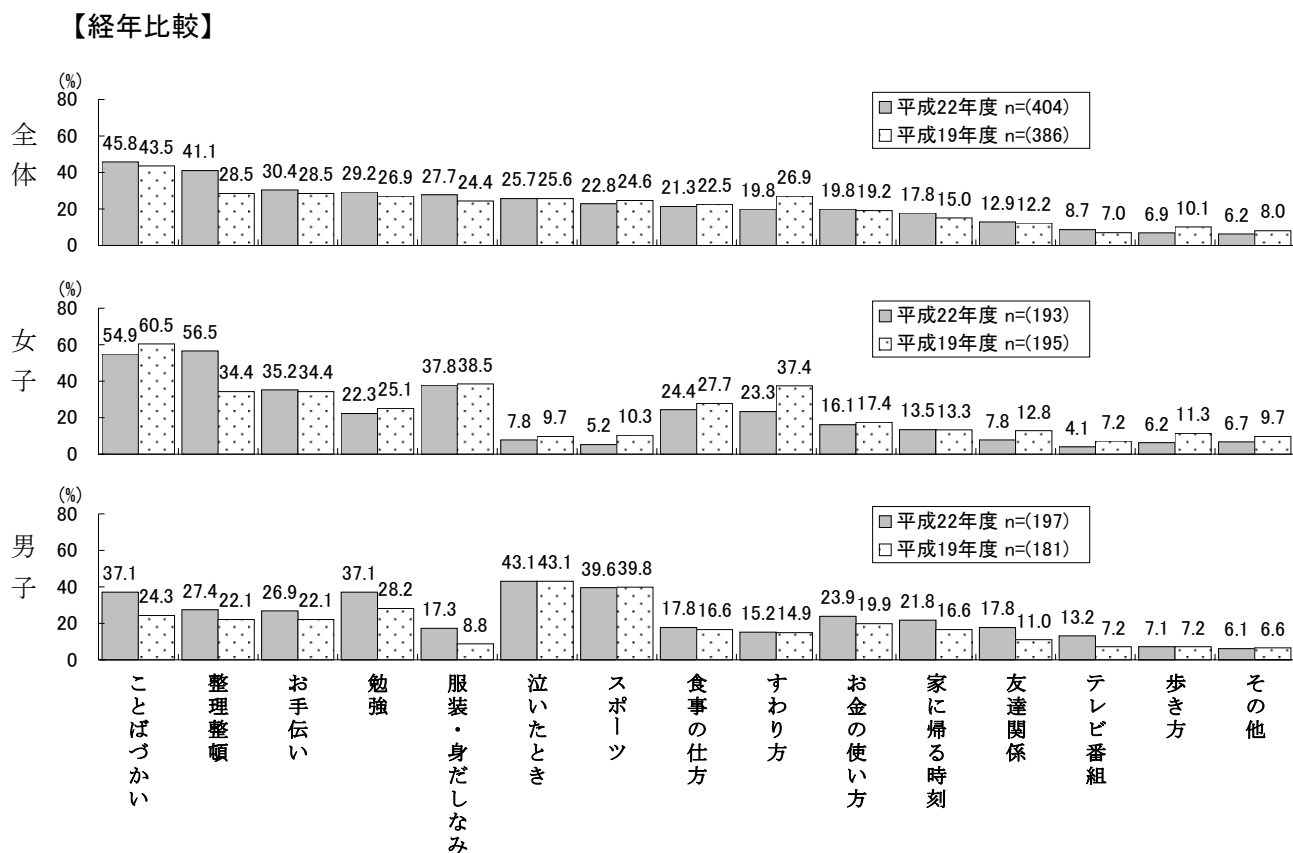
図表11 性別役割意識に対する大人の言動のきっかけ



性別役割意識に対する大人の言動のきっかけは、「ことばづかい」が45.8%と最も多くなっている。次いで「整理整頓」が41.1%、「お手伝い」が30.4%となっている。

性別でみると、女子では「ことばづかい」(54.9%)、「整理整頓」(56.5%)、「お手伝い」(35.2%)、「服装・身だしなみ」(37.8%)が男子に比べて高い。一方、男子では「勉強」(37.1%)、「泣いたとき」(43.1%)、「スポーツ」(39.6%)が女子に比べて高くなっている。(図表11)

図表12 性別役割意識に対する大人の言動のきっかけ

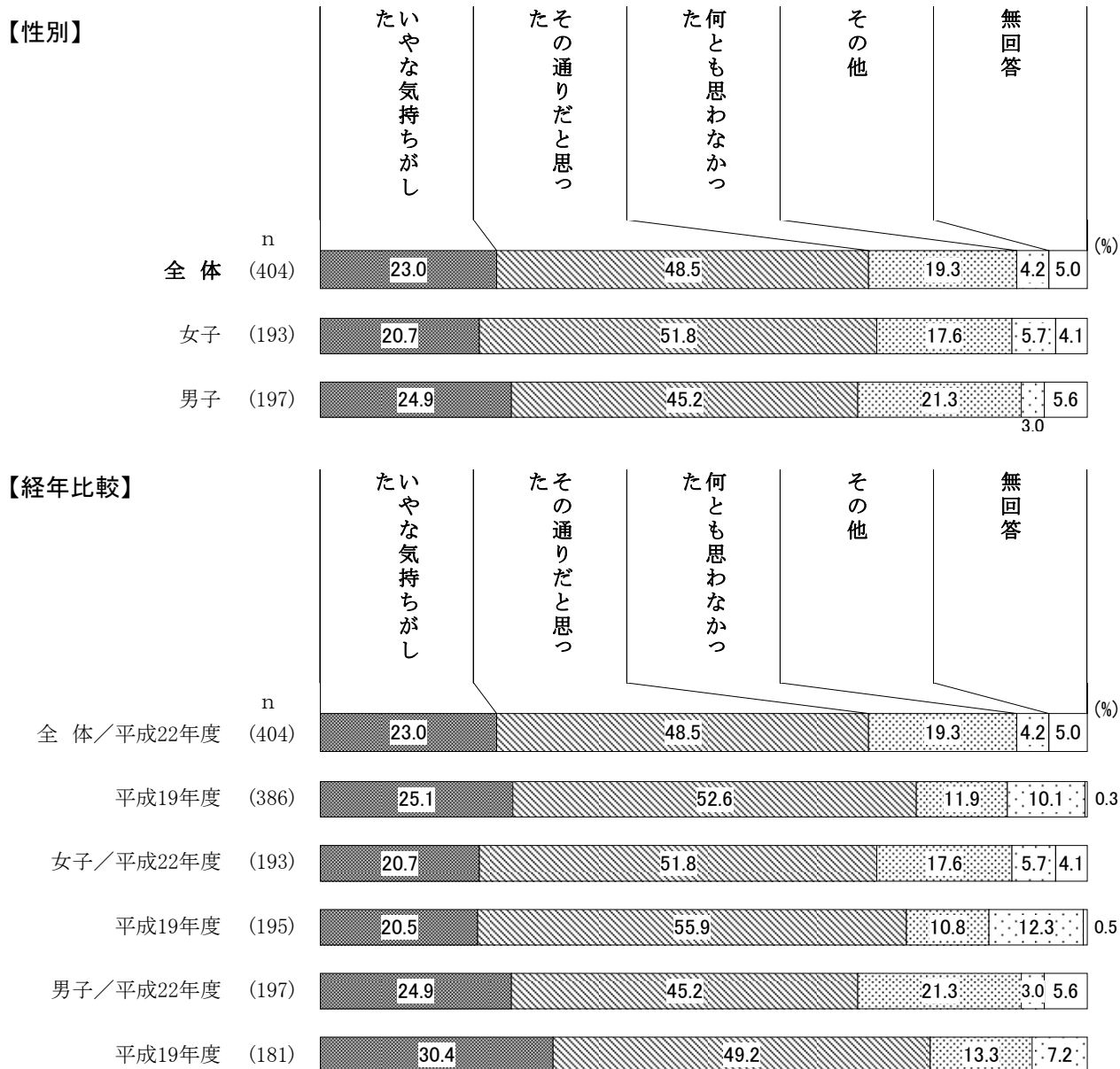


平成19年度調査と比較すると、女子では「整理整頓」が大きく増加し、一方、「ことばづかい」、「スポーツ」、「すわり方」、「友達関係」が減少している。男子では「ことばづかい」、「勉強」、「服装・身だしなみ」が増加するなど、ほとんどの項目で増加傾向にある。(図表12)

(5) 性別役割意識に対する大人の言動による影響

問5 問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。あなたは
その時どんな気持ちがありましたか。(〇は1つ)

図表13 性別役割意識に対する大人の言動による影響



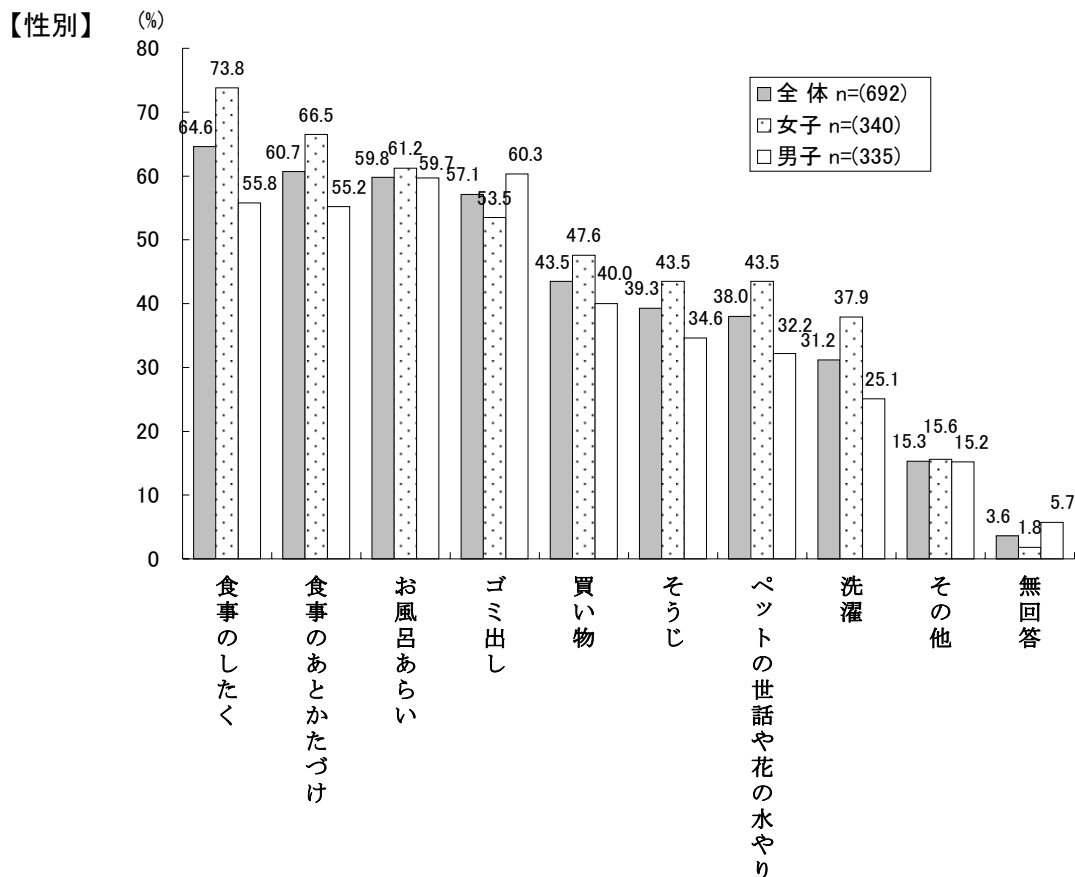
性別役割意識に対する大人の言動による影響は、全体では、「いやな気持ちがあった」が23.0%、「その通りだと思った」が48.5%、「何とも思わなかった」は19.3%となっている。性別で見ると、「その通りだと思った」が女子51.8%、男子45.2%と、女子で過半数となっている。

平成19年度調査と比較すると、女子では「その通りだと思った」がやや減少している。男子では「いやな気持ちがあった」がやや減少し、「その通りだと思った」もやや減少している。また、男女ともに「何とも思わなかった」がやや増加している。(図表13)

(6) 家の中でのお手伝いの状況

問6 あなたは家の中でどのようなお手伝いをしますか。(あてはまるものすべてに○)
 ※なにもしていない場合は○をつけないでください。

図表14 家の中でのお手伝いの状況

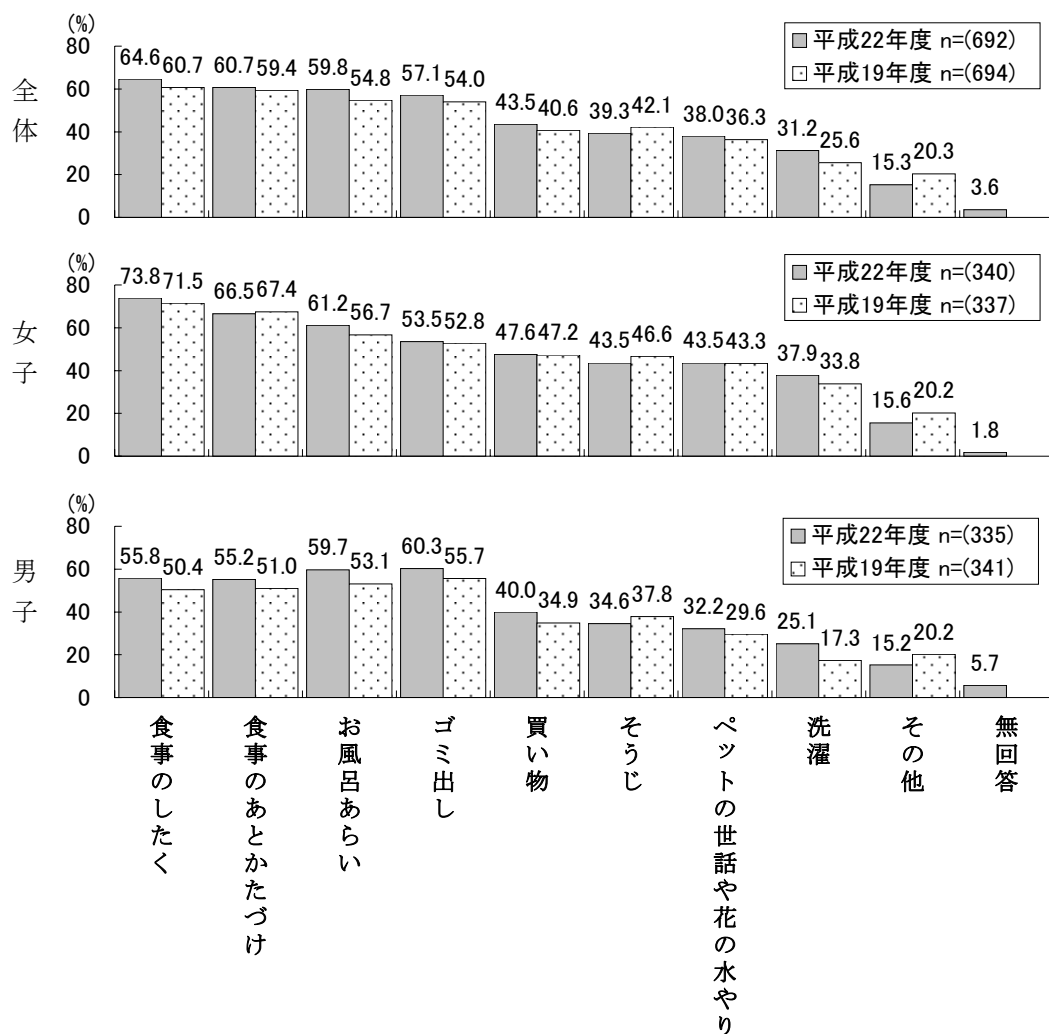


家の中でのお手伝いとして、「食事のしたく」が64.6%と最も多くなっている。次いで「食事のあとかたづけ」が60.7%、「お風呂あらい」が59.8%、「ゴミ出し」が57.1%となっている。

性別で見ると、女子では「食事のしたく」(73.8%)、「食事のあとかたづけ」(66.5%)など、男子に比べて高い項目が多い。一方、男子では「ゴミ出し」(60.3%)が女子に比べて高くなっている。(図表14)

図表15 家の中での手伝いの状況

【経年比較】

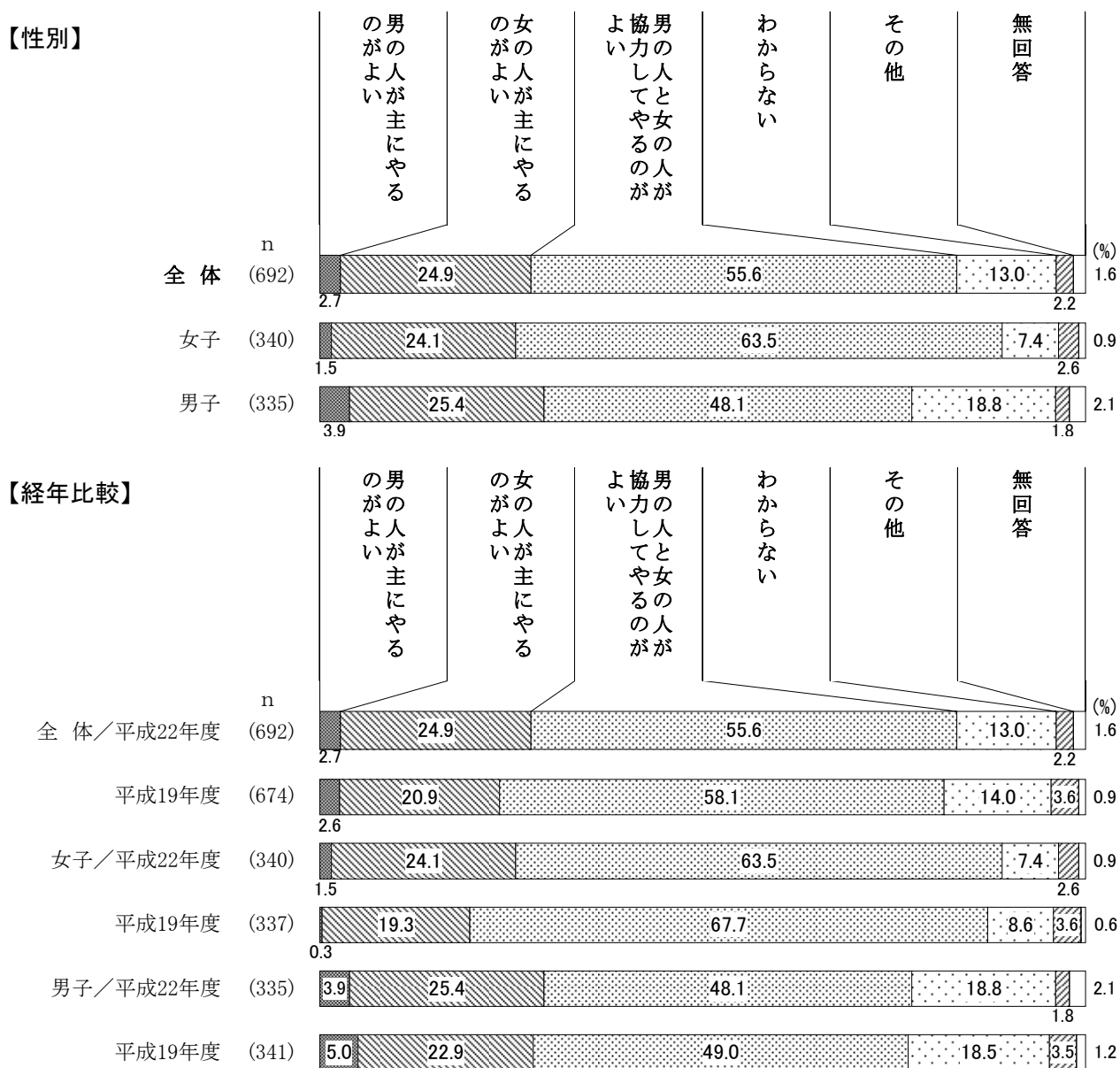


平成19年度調査と比較すると、男女ともに「お風呂あらい」、「洗濯」がやや増加しており、男子では「食事のしたく」、「食事のあとかたづけ」、「ゴミ出し」、「買い物」、「ペットの世話や花の水やり」がやや増加している。一方、男女ともに「そうじ」が僅かに減少している。(図表15)

(7) 家庭での役割分担

問7 あなたは家の中で、食事のしたくやそうじ、洗濯のような家事は、誰がやるのが一番よいと思いますか。(〇は1つ)

図表16 家庭での役割分担



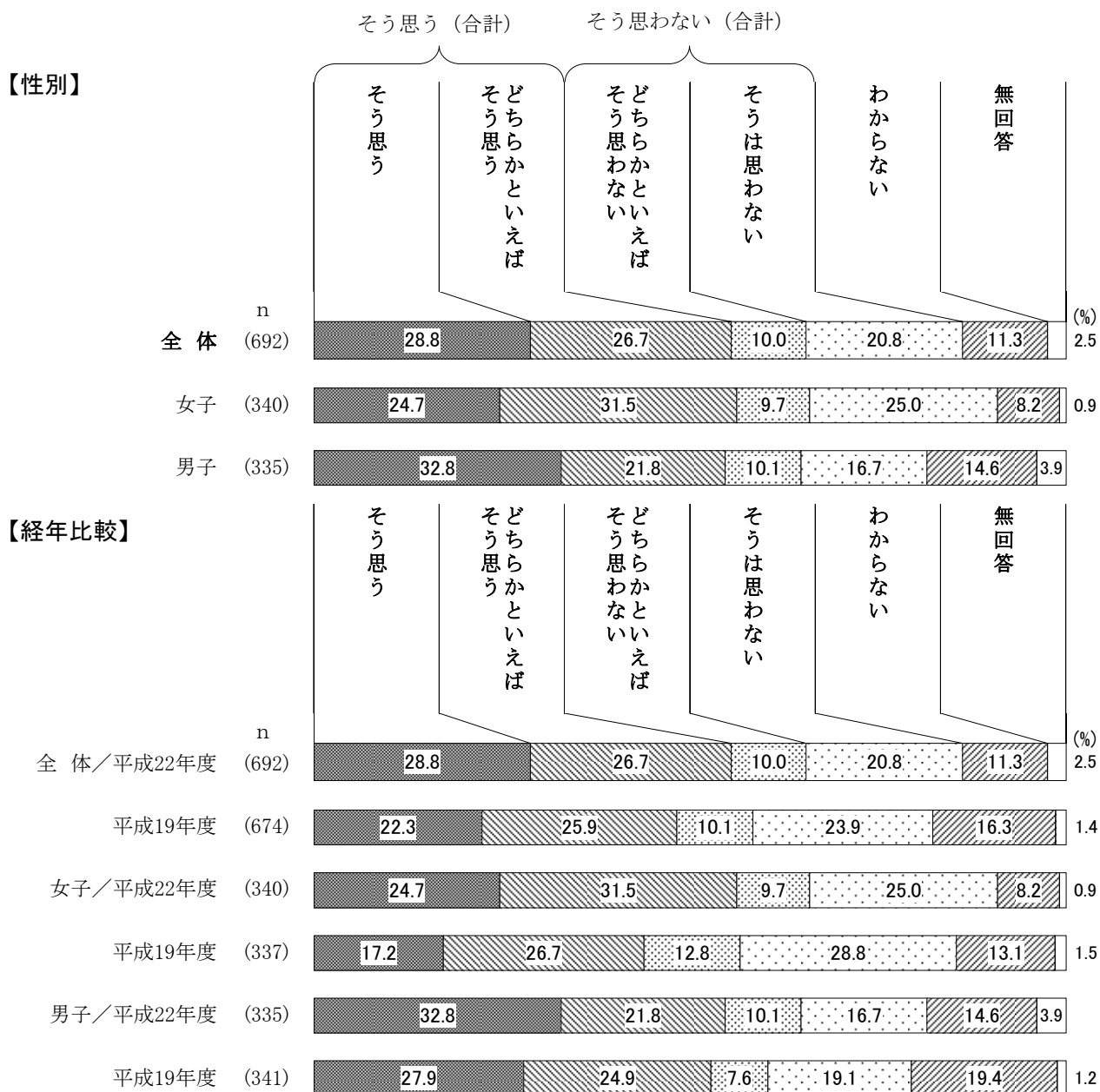
家庭での役割分担については、全体では「男の人と女の人が協力してやるのがよい」が55.6%を占めている。性別でみると、「男の人と女の人が協力してやるのがよい」は女子63.5%、男子48.1%と、女子が男子を上回っている。

平成19年度調査と比較すると、女子では「女の人が主にやるのがよい」がやや増加し、「男の人と女の人が協力してやるのがよい」がやや減少している。(図表16)

(8) 性別役割分担について

問8 「男は仕事・女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。(〇は1つ)

図表17 性別役割分担について



性別役割分担については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う(合計)》が55.5%、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた《そう思わない(合計)》が30.8%となっている。性別でみると、《そう思わない(合計)》は女子34.7%、男子26.8%と、女子が男子を上回っている。

平成19年度調査と比較すると、女子では《そう思う(合計)》が増加し、《そう思わない(合計)》がやや減少している。(図表17)

(9) 将来の職業について

問9 あなたは、大きくなったらどのような仕事につきたいと思いますか。(〇は5つまで)

図表18 将来の職業について(上位10位まで)

【性別】		(%)		
順位	男子 (n=335)		女子 (n=340)	
1	スポーツ選手	58.8	ペット屋さん、動物の飼育	34.4
2	ゲームデザイナー	32.8	パティシエ	33.5
3	科学者、科学技術者	17.6	保育園、幼稚園の先生	27.6
4	宇宙飛行士	16.4	食べ物屋さん(ケーキ屋さん、パン屋さんなど)	22.4
5	マンガ家、イラストレーター	13.4	マンガ家、イラストレーター	20.0
6	歌手、タレントなどの芸能人	11.0	歌手、タレントなどの芸能人	19.4
7	警察官、刑事	10.7	スポーツ選手	17.1
8	パイロット	10.4	学校の先生	13.8
9	建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人	10.1	画家、デザイナーなどの芸術家	13.2
10	コンピュータ関係の仕事	9.6	習い事の先生(ピアノ、エレクトーン、習字などの先生)	12.9

将来就きたい職業については、男子では「スポーツ選手」(58.8%)が最も多い。以下、「ゲームデザイナー」(32.8%)、「科学者、科学技術者」(17.6%)、「宇宙飛行士」(16.4%)、「マンガ家、イラストレーター」(13.4%)となっている。

女子では「ペット屋さん、動物の飼育」(34.4%)が最も多い。以下、「パティシエ」(33.5%)、「保育園、幼稚園の先生」(27.6%)、「食べ物屋さん(ケーキ屋さん、パン屋さんなど)」(22.4%)、「マンガ家、イラストレーター」(20.0%)となっている。(図表18)

図表19 将来の職業について

【性別】				(%)
順位	男子 (n=335)		女子 (n=340)	
1	スポーツ選手	58.8	ペット屋さん、動物の飼育	34.4
2	ゲームデザイナー	32.8	パティシエ	33.5
3	科学者、科学技術者	17.6	保育園、幼稚園の先生	27.6
4	宇宙飛行士	16.4	食べ物屋さん(ケーキ屋さん、パン屋さんなど)	22.4
5	マンガ家、イラストレーター	13.4	マンガ家、イラストレーター	20.0
6	歌手、タレントなどの芸能人	11.0	歌手、タレントなどの芸能人	19.4
7	警察官、刑事	10.7	スポーツ選手	17.1
8	パイロット	10.4	学校の先生	13.8
9	建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人	10.1	画家、デザイナーなどの芸術家	13.2
10	コンピュータ関係の仕事	9.6	習い事の先生(ピアノ、エレクトーン、習字などの先生)	12.9
11	消防士、救急隊、レスキュー隊	9.3	花屋さん	12.4
12	自動車、電車の運転手	9.3	シェフ、調理師など	11.5
13	ペット屋さん、動物の飼育	9.0	医者	10.9
14	医者	8.7	美容師、理容師	9.1
15	シェフ、調理師など	7.5	看護師、理学療法士など病院で働く人	8.2
16	自動車、機械などのエンジニア	7.2	アナウンサー、レポーター	7.9
17	自衛官	6.6	作家、作曲家	6.8
18	科学者以外の学者、博士	6.6	薬剤師	5.6
19	会社員、銀行員	6.3	警察官、刑事	5.3
20	店員・販売員	6.3	獣医	5.3
21	食べ物屋さん(ケーキ屋さん、パン屋さんなど)	5.4	店員・販売員	5.3
22	農業、漁業、林業など	4.8	科学者、科学技術者	5.0
23	パティシエ	4.2	フライトアテンダント	5.0
24	習い事の先生(ピアノ、エレクトーン、習字などの先生)	3.9	ゲームデザイナー	3.8
25	学校の先生	3.6	宇宙飛行士	2.9
26	弁護士、検察官、裁判官など	3.6	通訳、翻訳家	2.4
27	会社経営	3.3	自衛官	2.1
28	政治家	3.3	消防士、救急隊、レスキュー隊	1.8
29	アナウンサー、レポーター	3.3	新聞記者	1.8
30	画家、デザイナーなどの芸術家	2.7	弁護士、検察官、裁判官など	1.5
31	作家、作曲家	2.7	会社員、銀行員	1.2
32	新聞記者	2.7	自動車、電車の運転手	1.2
33	獣医	2.4	福祉施設で働く人	1.2
34	保育園、幼稚園の先生	1.2	商店など自営業	1.2
35	看護師、理学療法士など病院で働く人	0.9	農業、漁業、林業など	1.2
36	商店など自営業	0.9	公務員	0.9
37	美容師、理容師	0.6	政治家	0.9
38	通訳、翻訳家	0.6	科学者以外の学者、博士	0.9
39	公務員	0.3	コンピュータ関係の仕事	0.9
40	フライトアテンダント	0.3	自動車、機械などのエンジニア	0.9
41	福祉施設で働く人	0.3	会社経営	0.6
42	薬剤師	0.3	建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人	0.6
43	花屋さん	0.0	パイロット	0.0
	その他	6.3	その他	7.4
	なりたい仕事がない	2.1	なりたい仕事がない	0.6
	わからない	1.8	わからない	0.3
	無回答	2.1	無回答	1.2

図表20 将来の職業について（上位10位まで）

【経年比較】

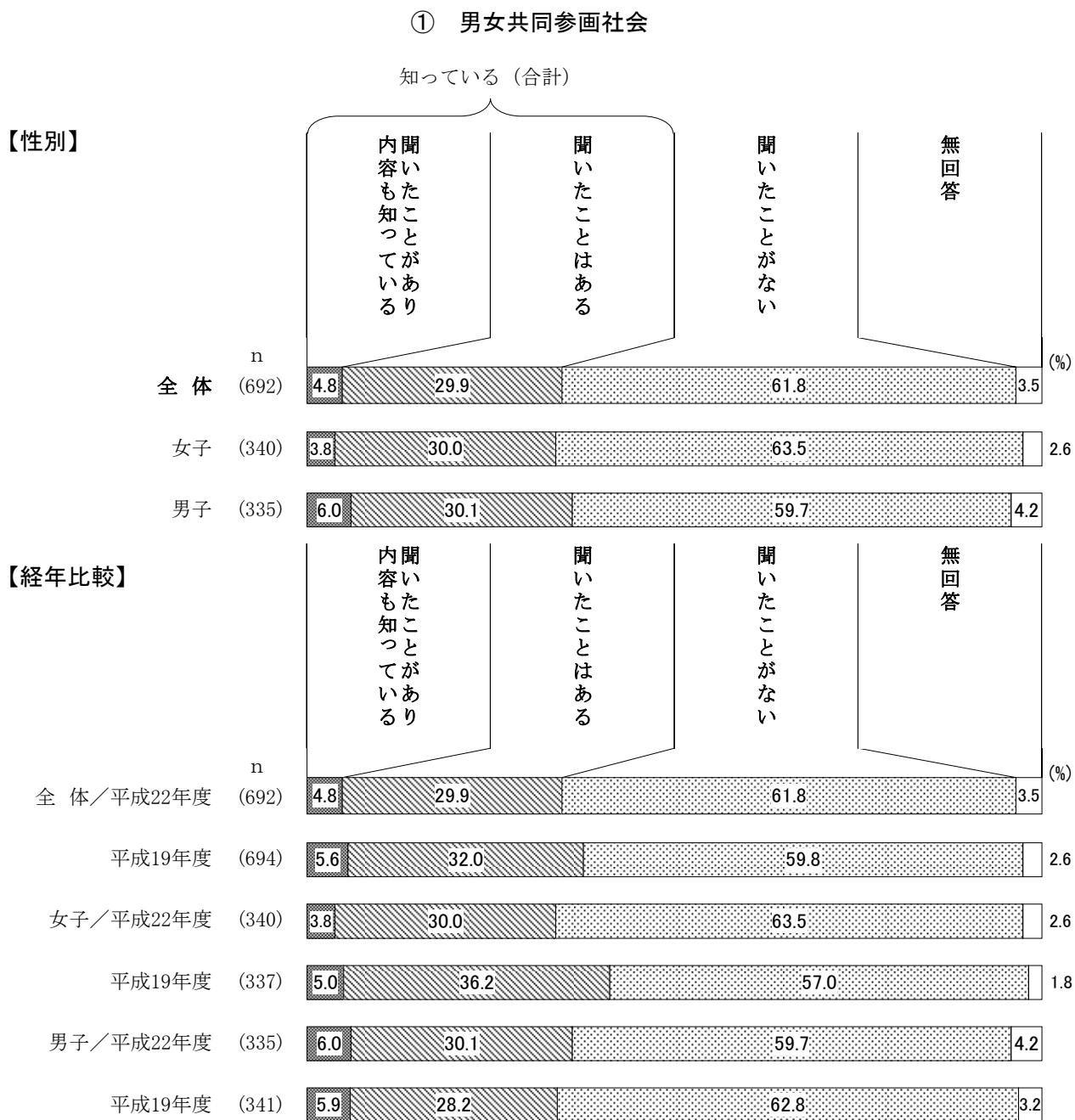
順位	男子		女子	
	平成22年度	平成19年度	平成22年度	平成19年度
1	スポーツ選手	スポーツ選手	ペット屋さん、動物の飼育	ペット屋さん・動物の飼育
2	ゲームデザイナー	学者・博士	パティシエ	食べ物屋さん
3	科学者、科学技術者	建築業・大工など	保育園、幼稚園の先生	保育園・幼稚園の先生
4	宇宙飛行士	ペット屋さん・動物の飼育	食べ物屋さん（ケーキ屋さん、パン屋さんなど）	歌手など芸能人
5	マンガ家、イラストレーター	会社員・銀行員 宇宙飛行士	マンガ家、イラストレーター	画家・デザイナーなどの芸術家
6	歌手、タレントなどの芸能人	/	歌手、タレントなどの芸能人	マンガ家・イラストレーター 習い事の先生
7	警察官、刑事		警察官・刑事	スポーツ選手
8	パイロット	歌手・タレントなどの芸能人	学校の先生	スポーツ選手
9	建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人	消防士・救急隊・レスキュー隊	画家、デザイナーなどの芸術家	美容師・理容師
10	コンピュータ関係の仕事	食べ物屋さん	習い事の先生（ピアノ、エレクトーン、習字などの先生）	調理師・コック

平成19年度調査と比較すると、男子では「スポーツ選手」が1位を維持、女子では「ペット屋さん、動物の飼育」、「保育園、幼稚園の先生」が1位と3位を維持している。男子では平成19年度で3位の「建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人」が9位、5位の「会社員・銀行員」が圏外（19位）となり、「ゲームデザイナー」が2位、「マンガ家、イラストレーター」が5位に入っている。女子では「パティシエ」が2位に入っている。（図表20）

(10) 男女共同参画に関する言葉の周知度

問10 あなたは次の言葉を聞いたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

図表2-1 男女共同参画に関する言葉の周知度

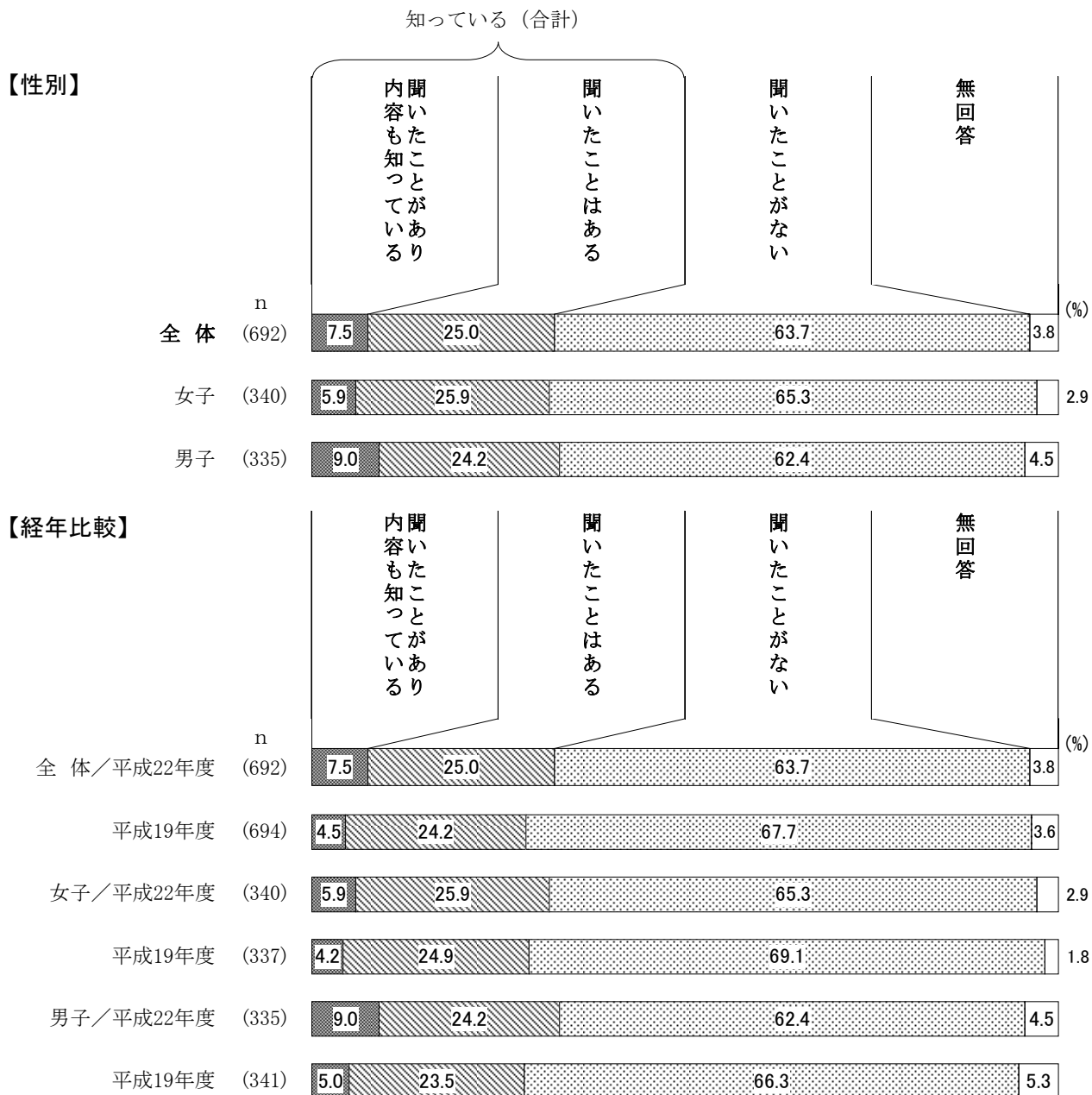


『男女共同参画社会』については、全体では、「聞いたことがない」が61.8%を占めている。「聞いたことがあり内容も知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた《知っている(合計)》が34.7%である。性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

平成19年度調査と比較すると、《知っている(合計)》は女子でやや減少し、男子で僅かに増加している。「聞いたことがない」は女子でやや増加し、男子で僅かに減少している。(図表2-1)

図表2.2 男女共同参画に関する言葉の周知度

② DV（ドメスティック・バイオレンス）

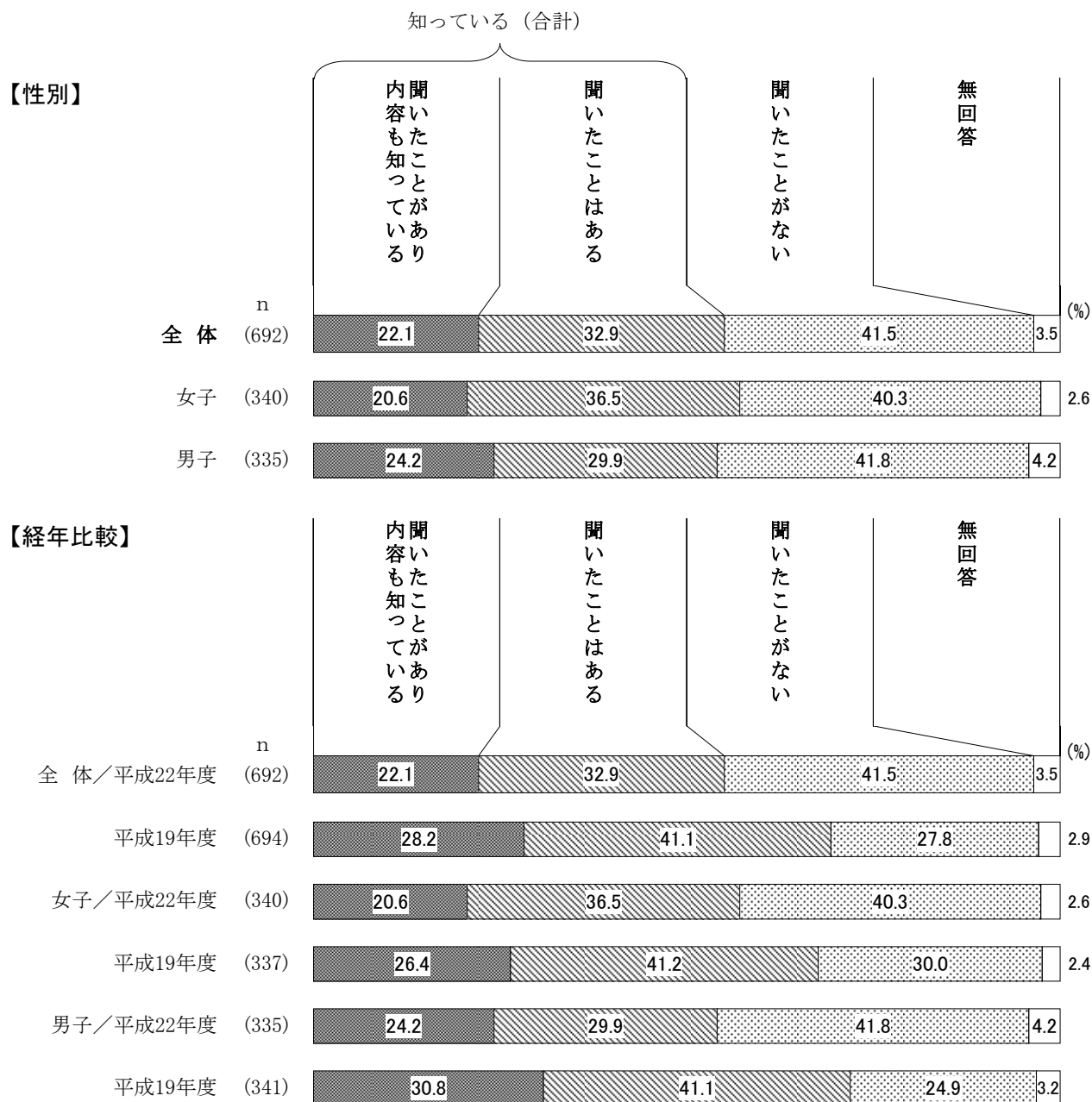


『DV（ドメスティック・バイオレンス）』については、全体では、「聞いたことがない」が63.7%を占めている。《知っている（合計）》が32.5%である。性別で見ると、男女間に大きな差はみられない。

平成19年度調査と比較すると、《知っている（合計）》は女子で僅かに増加し、男子でやや増加している。「聞いたことがない」は男女ともにやや減少している。（図表2.2）

図表23 男女共同参画に関する言葉の周知度

③ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）



『セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）』については、全体では、「知っている（合計）」が55.0%を占めている。性別で見ると、男女間に大きな差はみられない。

平成19年度調査と比較すると、男女ともに「知っている（合計）」は減少し、「聞いたことがない」は増加している。（図表23）

第5章 調査票

和光市男女共同参画意識調査



和光市男女共同参画推進係
「わこうさん」

調査へのお願い

市民の皆様には、日ごろから市政へご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

和光市は、平成17年4月に「和光市男女共同参画推進条例」を施行し、市民、事業者の皆様とともに男女共同参画社会の実現に向けて、計画的に施策を進めております。また、平成23年3月に「第2次男女共同参画わこうプラン」の満期を迎えることから、「第3次男女共同参画わこうプラン」の策定に向けて審議を進めております。

つきましては、これら取組の一環としまして、このたび、市内にお住まいの皆様のご意識と実態を把握するため、20歳以上の市民の方2,000人を無作為に選ばせていただき、「和光市男女共同参画意識調査」を実施させていただき運びとなりました。

この調査で出された結果は、和光市男女共同参画施策の基本的指針である「第3次男女共同参画わこうプラン」を策定するための基礎資料とさせていただき、今後の男女共同参画施策へと反映してまいりたいと存じます。

市民の皆様には、大変お忙しいところお手数をおかけしますが、本調査の趣旨を何卒ご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成22年6月

和光市長 松本 武洋

ご記入にあたって

- 1 アンケートの記入は、封筒のあて名のご本人にお願いします。
- 2 質問ごとにあてはまる回答の番号を選び、○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は()内にその内容を具体的にご記入ください。
- 3 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、【 】内のことわり書きをよくお読みください。また、矢印(→)のあるところは、矢印に従ってお進みください。
- 4 記入は、鉛筆又は黒・青のボールペンでお願いします。
- 5 すべてのご記入が終わりましたら、お手数ですが記入もれがないかお確かめの上、同封の返信用封筒(切手は必要ありません)に入れて、6月15日(火)までにご投函ください。

※調査は、無記名であるため、個人が特定されることは一切ございません。また、調査結果は、計画策定および男女共同参画施策の推進以外の目的に利用することはございません。

《問い合わせ先》

和光市企画部人権文化課人権担当
〒351-0192和光市広沢1番5号
TEL 048-424-9088 FAX 048-464-1234
E-MAIL a0400@city.wako.lg.jp

男女共同参画に関する意識について

問1 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

	女性の方が非常に優遇されている	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている
ア 家庭で	1	2	3	4	5	
イ 地域で	1	2	3	4	5	
ウ 職場で	1	2	3	4	5	
エ 学校で	1	2	3	4	5	
オ 法律や制度で	1	2	3	4	5	
カ 社会通念・慣習などで	1	2	3	4	5	
キ 社会全体で	1	2	3	4	5	

問2 「男は仕事、女は家庭」という性別による固定的な役割分担意識に同意しますか。
(○は1つ)

1 同意する	3 どちらともいえない
2 同意しない	4 わからない

▶【問2で「同意する」と回答された方のみにおたずねします。】

問2-1 同意する理由は何ですか。(○は2つまで)

1 日本の伝統・美德だと思うから	4 個人的にそうありたいと思うから
2 役割分担をした方が効率が良いと思うから	5 その他 ()
3 子どもの成長にとって良いと思うから	6 理由を考えたことはない

▶【問2で「同意しない」と回答された方のみにおたずねします。】

問2-2 同意しない理由は何ですか。(○は2つまで)

1 男女平等に反すると思うから
2 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから
3 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
4 一方的な考えを押しつけるのは良くないと思うから
5 少子高齢化に伴う労働力の減少に対応するため
6 その他 ()
7 理由を考えたことはない

問3 あなたは以下の「A」「B」の意見のうち、どちらの考えに近いですか。

(○はそれぞれ1つずつ)

Aの意見	Aに近い	どちらかという とAに近い	どちらかという とBに近い	Bに近い	Bの意見
家庭内では妻と夫は対等に話し合うべき	1	2	3	4	家庭内では妻は夫の意見に従うべき
やさしい男の子やたくましい女の子がいてもいい	1	2	3	4	男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」あるべきだ
妊娠・出産は女性自身の負担が大きいため、女性の意見を尊重しながら考えた方がよい	1	2	3	4	妊娠・出産は夫婦だけでなく「家」の問題であるため、男性の意見を尊重した方がよい
電話ボックスや街中の壁の風俗広告は規制すべき	1	2	3	4	電話ボックスや街中の壁などの風俗広告も、利用する人がいるのだから規制したりすべきではない

問4 人権に関してお尋ねします。あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなときですか。(あてはまるものすべてに○)

1 売春、買春、援助交際	6 女性のヌード写真を掲載した雑誌・インターネットサイト
2 セクシュアル・ハラスメント	7 女性の身体の一部やこびたポーズなどを内容と無関係に掲載した広告
3 夫や恋人などからの暴力	8 ポルノ映画・アダルトビデオ
4 レイプ(強姦)などの女性への性暴力	9 その他()
5 女性の容姿を競うコンテストなど	10 特に感じない

問5 テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1 内容に関係なく、女性の性的側面が過度に表現されている
2 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
3 そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない
4 女性のイメージや男性のイメージについて固定的な表現をしている
5 暴力シーンを流すことは犯罪を助長するおそれがある
6 その他()
7 特に上記のようなことは感じない



家庭生活について

問6 あなたの家庭では次のことについて、主にどなたが行っていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	主として男性	共同して分担	主として女性	その他	該当しない
ア 家事（炊事・洗濯・掃除など）	1	2	3	4	5
イ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）	1	2	3	4	5
ウ 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）	1	2	3	4	5
エ 地域の行事への参加	1	2	3	4	5
オ 自治会、PTA活動	1	2	3	4	5
カ 生活費の確保	1	2	3	4	5
キ 家計の管理	1	2	3	4	5
ク 重大事項の決定（高額な商品や土地、家屋の購入など）	1	2	3	4	5


問7 あなたが平日や休日に、家事・子育て・介護にかかわる時間はどのくらいですか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	なし	1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～8時間未満	8時間以上
平日	1	2	3	4	5	6
休日	1	2	3	4	5	6

問8 今後、男女がともに、家事・子育て・介護に参加していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。(○は3つまで)

- 1 学校で男女平等意識を育てる教育を推進する
- 2 男女の役割分担をなくすための啓発活動をさらに進める
- 3 育児休業・介護休業制度の一層の普及を図る
- 4 企業が男女ともに仕事と家庭生活を両立できる職場環境を整える
- 5 労働時間を短縮する
- 6 フレックスタイム制や在宅勤務などを普及させる
- 7 その他（



)

地域参加について

問9 あなたは、過去3年間に次のような活動に参加したことがありますか。また、今後参加してみたいですか。(あてはまるものすべてに○)

	自治会、商店街等の地域活動	保育園・幼稚園等の保護者会、学校のPTA活動	子ども会や子どものスポーツチームの指導や世話	趣味やスポーツの活動	地域の仲間が集って行う勉強会や研究会	環境問題、消費者問題、リサイクル等の市民活動	高齢者や障害者の介護・介助等のボランティア活動	審議会・委員会などの政策決定に関わる活動	その他の活動	参加していない・参加したいとは思わない	参加している・参加したい
ア 過去3年間に参加したことがある活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
イ 今後参加してみたい活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

【問9でアとイのいずれかで「10」と回答された方のみにおたずねします。】

問9-1 活動に参加していない・参加したいとは思わない理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 仕事・学業・家事が忙しいから
- 2 趣味など自分の楽しみに時間を使いたいから
- 3 経済的負担が大きいから
- 4 家族の理解が得られないから
- 5 参加方法などの情報が得られないから
- 6 健康上の理由から
- 7 興味のある活動がないから
- 8 その他 ()
- 9 特に理由はない

問10 現在、自治会、PTAなどの役職、議員や行政委員(審議会・委員会など)における女性の割合が低い傾向にあります。その理由は何だと思えますか。(○は3つまで)

- 1 女性は指導力が低いというような能力に対する偏見があるから
- 2 女性は控えめな方がよいという社会意識があるから
- 3 女性の登用に対する認識や理解が足りないから
- 4 地域の会長や政策決定の場に出られるような女性の人材がないから
- 5 男性になる方がよい(なるものだ)と思っている人が多いから
- 6 女性自身が役職に対する関心がないから
- 7 女性が女性の活躍をはばむ雰囲気があるから
- 8 女性が経験や力をつけるチャンスがないから
- 9 その他 ()



配偶者や恋人からの暴力について

問11 あなたは、次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）

	どんな場合でも 暴力にあたる	暴力の場合と そうでない場合 がある	暴力にあたる とは思わない
平手でぶつ、足でける	1	2	3
身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3
突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	1	2	3
打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
骨折させる	1	2	3
刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす	1	2	3
なぐるふりをしておどす	1	2	3
物を投げつける	1	2	3
何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3
交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する	1	2	3
「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	1	2	3
大声でどなる	1	2	3
人格を否定するような暴言を吐く	1	2	3
生活費を渡さない	1	2	3
仕事をやめさせる	1	2	3
いやがるのに、性的な行為を強要する	1	2	3
見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3



【問12から問13-8は、配偶者や恋人がいらっしゃる方（過去にいらっしゃった方）に伺います】

※これまでに配偶者や恋人がいない（いなかった）方は問14（P. 9）へお進みください。

（ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

問12 これまでに、あなたの配偶者や恋人に対して次のような行為をしたことがありますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

	あ っ た も	あ っ た 1、 2 度	な い ま っ た く
平手でぶつ、足でける	1	2	3
身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3
突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	1	2	3
打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
骨折させる	1	2	3
刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす	1	2	3
なぐるふりをしておどす	1	2	3
物を投げつける	1	2	3
何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3
交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する	1	2	3
「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	1	2	3
大声でどなる	1	2	3
人格を否定するような暴言を吐く	1	2	3
生活費を渡さない	1	2	3
仕事をやめさせる	1	2	3
いやがるのに、性的な行為を強要する	1	2	3
見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3

【問12で1つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答された方のみにおたずねします。】

問12-1 あなたが問12であげたような行為をするに至ったきっかけは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした
- 2 イライラがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した
- 3 相手がそうされても仕方がないようなことをした
- 4 相手が自分に対して危害を加えてきたので、身を守ろうと思った
- 5 親しい関係ではこうしたことは当然である
- 6 その他 ()
- 7 覚えていない
- 8 特に理由はない

第5章 調査票

問13 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人から、次のような行為をされたことがありますか。(○はそれぞれ1つずつ)



	あ っ た も	あ っ た 1、 2 度	な い ま っ た く
なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた	1	2	3
人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
生活費を渡さない、お酒、ギャンブル、異性に生活費を使い込む、お金の使途を細かくチェックする、仕事をやめさせるなどの行為を受け	1	2	3
いやがっているのに、性的な行為を強要された	1	2	3



【問13で1つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答された方のみにおたずねします。】

問13-1 あなたが、その相手の行為を受けたのはいつ頃ですか。(あてはまるものすべてに○)

	あ っ た 1 年 に	年 こ の あ っ た 2 〜 5	あ っ た そ れ 以 前 に
なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた	1	2	3
人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
生活費を渡さない、お酒、ギャンブル、異性に生活費を使い込む、お金の使途を細かくチェックする、仕事をやめさせるなどの行為を受け	1	2	3
いやがっているのに、性的な行為を強要された	1	2	3

問13-2 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(○は1つ)

1 感じたことがある	2 感じたことはない
------------	------------

問13-3 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、ケガをしたり、医師の治療を受けたことがありますか。(○は1つ)

1 ケガをして医師の治療を受けた
2 ケガをして医師の治療が必要となる程度であったが、治療は受けなかった
3 ケガをしたが、医師の治療が必要にならない程度であった
4 ケガはしなかった

問13-4 あなたが、その行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1 目撃していた | 3 目撃していない |
| 2 目撃していたかどうかはわからない | 4 子どもはいない |

問13-5 その相手は、あなたのお子さんに対して、あなたがされていたのと同じ行為をしたことがありましたか。(○は1つ)

- | | |
|---------|-----------|
| 1 あった | 3 なかった |
| 2 わからない | 4 子どもはいない |

問13-6 あなたは問13であげたような行為を受けたことについて、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|------------|-----------------|
| 1 相談した | 2 相談できなかった | 3 相談しようとは思わなかった |
|--------|------------|-----------------|

【問13-6で「相談した」と回答された方のみにおたずねします。】

問13-7 あなたが相談した人(場所)を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 家族・親せき | 8 弁護士・家庭裁判所 |
| 2 友人・知人 | 9 3～8以外の公的機関 |
| 3 警察 | 10 医師・カウンセラー |
| 4 人権擁護委員 | 11 民間の相談機関 |
| 5 役所の相談窓口・電話相談など | 12 学校関係者(教員・スクールカウンセラー) |
| 6 配偶者暴力相談支援センター・婦人相談センター | 13 その他() |
| 7 民生・児童委員 | |
- 

【問13-6で「相談できなかった」または「相談しようとは思わなかった」と回答された方のみにおたずねします。】

問13-8 誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから |
| 2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから |
| 3 相談しても無駄だと思ったから |
| 4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから |
| 5 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから |
| 6 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから |
| 7 世間体が悪いから |
| 8 他人を巻き込みたくないから |
| 9 思い出したくないから |
| 10 自分に悪いところがあると思ったから |
| 11 相談するほどのことではないと思ったから |
| 12 その他() |

第5章 調査票

問14 あなたはこれまでに、職場・学校・地域で、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。職場、学校、地域ごとに、該当するものすべてに○をつけてください。

	職場	学校	地域
いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	1	1	1
「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた	2	2	2
異性に身体をさわられた	3	3	3
宴会でお酒やデュエットを強要された	4	4	4
交際を強要された	5	5	5
性的行為を強要された	6	6	6
性的な噂をたてられた	7	7	7
結婚や異性との交際についてしつこく聞かされた	8	8	8
容姿について傷つくようなことを言われた	9	9	9
帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	10	10	10
プライバシーに関することや性的な内容の手紙や電話を受けた	11	11	11
ヌード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	12	12	12
その他（ ）	13	13	13
特にない	14	14	14

仕事について

問15 あなたは、今、収入を伴う仕事に就いていますか（出産や育児・介護のために休んでいる場合は働いていると考えてください）。（○は1つ）

1 会社員・団体職員	5 専業主婦・専業主夫
2 自由業・自営業・家業	6 学生
3 パート・アルバイト	7 無職
4 公務員・教員	8 その他（ ）



問16へお進みください。

【問15で「1 会社員・団体職員」「2 自由業・自営業・家業」「3 パート・アルバイト」「4 公務員・教員」と回答された方のみにおたずねします。】

問15-1 あなたは現在以下のような立場にありますか。（○は1つ）

1 事業主・経営責任者	4 職場の責任者・チーフ・係長など
2 会社などの役員	5 上記のような立場にはいない
3 役員以外の管理職（部長・課長）	



問16 以下の事柄のうち、あなたの職場であてはまるものはありますか。現在お勤めでない方は過去の経験からお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- 1 希望職種に就く機会に男女差がある
- 2 女性は昇進・昇格が遅い、または望めない
- 3 教育・訓練を受ける機会に男女差がある
- 4 出張、海外勤務、転勤体制に男女差がある
- 5 定年の年齢に男女差がある
- 6 男女間で賃金・手当に差がある
- 7 お茶くみや雑用は主に女性がする
- 8 男性は育児・介護休業を取得できない、または取得しにくい
- 9 女性に対して、結婚・妊娠・出産による退職の慣行がある
- 10 服務規律や就業規則としてセクシュアル・ハラスメント防止のための規定がなされていない
- 11 セクシュアル・ハラスメントを受けたときの相談・苦情の窓口がない
- 12 その他 ()
- 13 これまで働いたことはない

問17 働くことを希望する女性が働き続けるのに必要なことは何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 給与等の男女格差を廃止する
- 2 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する
- 3 セクシュアル・ハラスメントのない職場環境をつくる
- 4 知識・技術等の研修機会を確保する
- 5 女性の昇進等の機会を男性と平等に確保する
- 6 女性自身が意欲・能力を高める
- 7 代替要員の確保など、育児休業や介護休業を取得できる環境をつくる
- 8 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的保障を充実する
- 9 育児や介護等のため退職した人の再雇用制度を導入する
- 10 保育サービスを充実する
- 11 介護サービスを充実する
- 12 家族の理解・協力
- 13 その他 ()
- 14 わからない

問18 育児休業や介護休業は男女ともに利用できる制度ですが、あなたの職場の人がこれらの制度を利用することについて、あなたはどのように思いますか。現在お勤めでない方は過去の経験からお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	全く抵抗がない	抵抗がない	多少抵抗がある	かなり抵抗がある
ア 女性が育児休業をとることについて	1	2	3	4
イ 女性が介護休業をとることについて	1	2	3	4
ウ 男性が育児休業をとることについて	1	2	3	4
エ 男性が介護休業をとることについて	1	2	3	4



問19 女性の働き方についてお伺いします。
以下について、下の選択肢の中からそれぞれ1つずつ選び、番号を記入してください。

問19-1. 【女性の方】あなた自身の働き方は、どれにあたると思いますか。
(未婚の方は結婚した場合に自分が望む働き方をお答えください。)

問19-2. 【男性の方】あなたの妻の働き方は、どれにあたると思いますか。
(未婚の方は結婚した場合に相手に望む働き方をお答えください。)

問19-3. 【すべての方】あなたの母親の働き方は、どれに近いですか。

問19-4. 【すべての方】一般的に、女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのはどれですか。

<選択肢>

- 1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている (いた)
- 2 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている (いた)
- 3 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている (いた)
- 4 結婚するまでは仕事を持たず、結婚後または子育て終了後から仕事を持っている (いた)
- 5 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念している (いた)
- 6 結婚するまでは仕事をもち、結婚後から家事や子育てに専念している (いた)
- 7 仕事はもっていない (いなかった)
- 8 その他 ()
- 9 わからない



【問15「あなたは、今、収入を伴う仕事に就いていますか。」で「5 専業主婦・専業主夫」「6 学生」「7 無職」「8 その他」と回答された方のみにおたずねします。】

※現在、収入の伴う仕事に就いている方は、問21へお進みください。

問20 あなたが現在仕事をしていないのはどのような理由からですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 経済的に働く必要がないから | 9 高齢者や病気の家族の世話をしているから |
| 2 自分のやりたいことができるから | 10 現在、学校に通っているから |
| 3 家にいるのが当然だから | 11 高齢だから |
| 4 家事の負担が大きいから | 12 働くことに向いていないから |
| 5 育児の負担が大きいから | 13 働くことが好きでないから |
| 6 健康や体力に自信がないから | 14 その他 () |
| 7 希望どおりの仕事を得られないから | 15 特に理由はない |
| 8 配偶者や子どもなど家族が望まないから | |

問20-1 今後、働きたいと思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------|--------------|---------|
| 1 働きたい | 2 働きたいとは思わない | 3 わからない |
|--------|--------------|---------|

問20-2 今後、働くとするば、どのような形で働きたいですか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|----------------|------------------|
| 1 正社員・正職員 | 4 家業の手伝い | 7 その他 () |
| 2 パート・アルバイト | 5 家での内職 | *SOHO |
| 3 自分で事業経営 | 6 SOHO* など在宅勤務 | スモールオフィス、ホームオフィス |

健康について

問21 あなたは、性感染症の予防方法を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

→【問21で「知っている」と回答された方のみにおたずねします。】

問21-1 若い世代の間でHIVなどの性感染症の蔓延が心配されています。あなたは、性感染症を防ぐために、どのような対策が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 売買春に対する取り締まりの強化 | 6 家庭における性教育の促進 |
| 2 有害な性情報に対する規制の強化 | 7 中高生などが性風俗の情報に接する機会を少なくする |
| 3 雑誌やテレビなどにおける過激な性表現の抑制 | 8 学校、家庭以外の社会教育の充実 |
| 4 性感染症に関する知識の普及啓発 | 9 人間関係、心のケアと連携した予防教育の充実 |
| 5 学校における性教育の充実 | 10 その他 () |

第5章 調査票

問22 あなたは、この1ヶ月の間に日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスなどがありましたか。
(○は1つ)

1 大いにある	3 あまりない
2 多少ある	4 まったくない

▶【問22で「大いにある」または「多少ある」と回答された方のみにおたずねします。】

問22-1 それは、どのような事柄が原因ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 家庭問題（家族関係の不和・子育て・家族の介護・看病等）
2 健康問題（自分の病気の悩み・身体の悩み等）
3 経済生活問題（倒産・事業不振・負債・失業等）
4 勤務問題（転勤・仕事の不振・職場の人間関係・長時間労働等）
5 男女問題（失恋・結婚をめぐる悩み）
6 学校問題（いじめ・学業不振・教師との人間関係等）
7 その他（ ）

問23 あなたは、気分がひどく落ち込むことがありますか。(○は1つ)

1 いつもある	3 少しはある
2 しばしばある	4 まったくない

男女共同参画の取り組みについて

問24 次にあげる男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	知っている	あるが、内容は知らない	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
女子差別撤廃条約	1	2	3	3
男女共同参画社会基本法	1	2	3	3
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	1	2	3	3
改正男女雇用機会均等法	1	2	3	3
育児・介護休業法	1	2	3	3
埼玉県男女共同参画推進条例	1	2	3	3
和光市男女共同参画推進条例	1	2	3	3
男女共同参画わこうプラン	1	2	3	3
和光市女性相談の窓口	1	2	3	3
和光市男女共同参画苦情等処理に関する窓口	1	2	3	3
和光市男女共同参画シンポジウム	1	2	3	3
和光市男女共同参画情報紙「おるご〜る」	1	2	3	3
ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	3

問25 男女共同参画を推進する上で、和光市にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供
- 2 男女共同参画に関するシンポジウムや講座等の企画・開催
- 3 学校における男女平等教育の推進
- 4 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に向けた企業への働きかけ
- 5 配偶者や恋人等からの暴力（DV）の根絶に向けた啓発とDV被害者支援
- 6 女性のための相談窓口の充実
- 7 男性のための相談窓口の充実
- 8 子育て支援の充実
- 9 性と生殖に関する健康支援（安心して安全な妊娠・出産、性感染症予防や更年期障害対策など）
- 10 高齢者支援の充実
- 11 就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実
- 12 男性向けの講座の開催
- 13 自主的な学習活動、ボランティア団体・NPOの活動支援
- 14 地域づくり、ボランティアなどチャレンジしたい人への支援
- 15 同じ悩みを抱えている人へのネットワーク支援
- 16 調査・研究機能の充実
- 17 その他（ ）

問26 男女共同参画わこうプランでは、男女共同参画社会を実現するために、次の12の課題を取り上げ、取り組みを進めてきました。今後、重点的に解決すべき課題は、どれだと思えますか。

(○は2つまで)

- 1 男女の人権を尊重する意識の浸透
- 2 性別による固定的な役割分担意識の解消
- 3 男女平等教育の推進
- 4 あらゆる暴力（DV、セクハラ、児童虐待など）の根絶
- 5 子育てにおける男女共同参画の推進
- 6 働く場における男女共同参画の推進
- 7 地域における男女共同参画の推進
- 8 生涯を通じた生と性の健康支援
- 9 政策や方針・立案の場への男女共同参画
- 10 国際社会「平等・開発・平和」への貢献
- 11 男女共同参画を推進する体制の整備
- 12 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



さいごにあなたご自身のことについて

F 1 あなたの性別は。(○は1つ)

1 女性	2 男性
------	------

F 2 あなたの年齢は。(○は1つ)

1 20～24歳	5 40～44歳	9 60～64歳
2 25～29歳	6 45～49歳	10 65～69歳
3 30～34歳	7 50～54歳	11 70歳以上
4 35～39歳	8 55～59歳	

F 3 あなたは結婚されていますか(事実婚*を含みます)。(○は1つ)

1 結婚している	2 結婚していない	3 結婚していたが、離・死別した
----------	-----------	------------------

*事実婚とは、戸籍上は婚姻関係にないが、事実上婚姻関係にあること。

【F 3で「結婚している」と回答した方のみにおたずねします。】

F 3-1 共働きですか(パートなども含みます)。(○は1つ)

1 共働きである	2 共働きではない	3 2人とも働いていない
----------	-----------	--------------

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(○は1つ)

1 いる	2 いない
------	-------

F 4-1 一番下のお子さんは現在次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 乳幼児(3歳未満の子ども)	4 中学生
2 未就学児(3歳以上小学校入学前の子ども)	5 高校生(その年齢にあたる方を含む)
3 小学生	6 19歳以上の子ども

F 5 介護の必要な同居者がいらっしゃいますか。(○は1つ)

1 いる	2 いない
------	-------

◎ 和光市の男女共同参画の取組についてご意見がございましたら、お書きください。

ご記入もれがないかご確認の上、返信用封筒にて6月15日(火)までにご投函ください。

～ご協力ありがとうございました～



(中学生意識調査)

和光市男女共同参画に関する中学生意識調査

【お願い】



和光市男女共同参画推進係
わこうさん

中学2年生のみなさんこんにちは！


これはテストではありません。

この調査は、和光市の中学2年生のみなさんが、男女平等をどのように考えているのかを知るために行っています。

あなたの名前は書かなくてよいので、答えは先生や他の人にはわかりません。あなたがいつも思っていることを答えてください。

【答え方】

1. 答えは、問の後のあてはまる番号に○をつけてください。
2. 「その他」に○をした時は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。
3. あてはまるものすべてと書かれている時は、思ったところ全部に○をつけてください。
4. 答えの数が5つまでと書かれている時は、「1つ」でも「2つ」でも「3つ」でも「4つ」でも「5つ」でもかまいません。
5. 意味のわからない質問や答えたくない質問があったときは、その質問をとばして先に進んでください。

和光市企画部人権文化課人権担当  : 048-424-9088



問1 あなたの性別は。(○は1つ)

1 女	2 男
-----	-----

問2 次のことについてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

① 学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある。

1 そう思う	3 どちらかといえばそう思わない
2 どちらかといえばそう思う	4 そう思わない

② 学級委員、生徒会長は男子に向いている。

1 そう思う	3 どちらかといえばそう思わない
2 どちらかといえばそう思う	4 そう思わない

③ 教室のそうじや整理整頓は女子に向いている。

1 そう思う	3 どちらかといえばそう思わない
2 どちらかといえばそう思う	4 そう思わない

④ 女子は音楽が得意である。

1 そう思う	3 どちらかといえばそう思わない
2 どちらかといえばそう思う	4 そう思わない

⑤ 男子は運動が得意である。

1 そう思う	3 どちらかといえばそう思わない
2 どちらかといえばそう思う	4 そう思わない

問3 あなたはおとなの人に「男だから○○しなさい」や「女だから○○しなさい」と言われたことがありますか。(○は1つ)

1 よく言われる	3 あまり言われない
2 ときどき言われる	4 ぜんぜん言われない

→ 問6へ

問4 問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。どんな時に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)

1 ことばづかい	6 すわり方	11 家に帰る時刻
2 服装・身だしなみ	7 歩き方	12 スポーツ
3 整理整頓	8 勉強	13 お金の使い方
4 お手伝い	9 テレビ番組	14 泣いたとき
5 食事の仕方	10 友達関係	15 その他 ()



問5へ

問5 問3で「よく言われる」または「ときどき言われる」と答えた方に聞きます。
あなたはその時どんな気持ちがありましたか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 いやな気持ちでした | 3 何とも思わなかった |
| 2 その通りだと思った | 4 その他 () |

問6 次の①~③の場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(〇はそれぞれ1つ)

① 家庭生活の場で

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 男性のほうが非常に優遇されている | 4 どちらかといえば女性が優遇されている |
| 2 どちらかといえば男性が優遇されている | 5 女性のほうが非常に優遇されている |
| 3 平等 | 6 わからない |

② 学校教育の場で

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 男性のほうが非常に優遇されている | 4 どちらかといえば女性が優遇されている |
| 2 どちらかといえば男性が優遇されている | 5 女性のほうが非常に優遇されている |
| 3 平等 | 6 わからない |


③ 社会全体の場で

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 男性のほうが非常に優遇されている | 4 どちらかといえば女性が優遇されている |
| 2 どちらかといえば男性が優遇されている | 5 女性のほうが非常に優遇されている |
| 3 平等 | 6 わからない |

問7 あなたは家の中でどのようなお手伝いをしますか。(あてはまるものすべてに〇)
※なにもしていない場合は〇をつけしないでください。

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 食事のしたく | 6 買い物 |
| 2 食事のあとかたづけ | 7 ゴミ出し |
| 3 そうじ | 8 ペットの世話や花の水やり |
| 4 洗濯 | 9 その他 () |
| 5 お風呂あらい | |

問8 あなたは家の中で、食事のしたくやそうじ、洗濯のような家事は、誰がやるのが一番よいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------------|---|
| 1 男の人が主にやるのがよい |  |
| 2 女の人が主にやるのがよい | |
| 3 男の人と女の人が協力してやるのがよい | |
| 4 わからない | |
| 5 その他 () | |

問9 女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)

- 1 女性は仕事を持たない方がよい
- 2 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- 3 子どもができるまでは仕事を持つ方がよい
- 4 子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと仕事を続ける方がよい
- 5 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらふたたび仕事を持つ方がよい
- 6 わからない

問10 「男は仕事・女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そうは思わない
- 5 わからない

問11 あなたは、将来どのような仕事につきたいと思いますか。(○は5つまで)

- | | | |
|------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1 会社員、銀行員 | 17 コンピュータ関係の仕事 | 33 ゲームデザイナー |
| 2 会社経営 | 18 自動車、機械などのエンジニア | 34 スポーツ選手 |
| 3 学校の先生 | 19 建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人 | 35 歌手、タレントなどの芸能人 |
| 4 保育園、幼稚園の先生 | 20 シェフ、調理師など | 36 新聞記者 |
| 5 公務員 | 21 パティシエ | 37 アナウンサー、レポーター |
| 6 警察官、刑事 | 22 美容師、理容師 | 38 食べ物屋さん(ケーキ屋さん、パン屋さんなど) |
| 7 消防士、救急隊、レスキュー隊 | 23 習い事の先生(ピアノ、エレクトーン、習字などの先生) | 39 花屋さん |
| 8 自衛官 | 24 通訳、翻訳家 | 40 ペット屋さん、動物の飼育 |
| 9 弁護士、検察官、裁判官など | 25 医者 | 41 商店など自営業 |
| 10 政治家 | 26 看護師、理学療法士など病院で働く人 | 42 店員・販売員 |
| 11 科学者、科学技術者 | 27 福祉施設で働く人 | 43 農業、漁業、林業など |
| 12 科学者以外の学者、博士 | 28 獣医 | 44 その他() |
| 13 宇宙飛行士 | 29 薬剤師 | 45 なりたい仕事がない |
| 14 パイロット | 30 画家、デザイナーなどの芸術家 | 46 わからない |
| 15 フライトアテンダント | 31 作家、作曲家 | |
| 16 自動車、電車の運転手 | 32 マンガ家、イラストレーター | |

問12へ



問12 問11で「なりたい仕事がない」または「わからない」と答えた方に聞きます。
つきたい仕事がない、または、わからない理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | どのような職業があるのかわからないから |
| 2 | これから先どのようなことに興味をもつかわからないから |
| 3 | 就職する時に社会がどのような状況かわからないから |
| 4 | 仕事をすることに興味がわからないから |
| 5 | 仕事はしたいが魅力的な職業がないから |
| 6 | やりたい仕事はあるが、できるかどうか自信がないから |
| 7 | その他 () |
| 8 | 特にない |

【※すべての人にお聞きします。】

問13 仕事を選ぶ時に重視することは何ですか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|------------------|---|-------------|
| 1 | 自分の興味 | 5 | 時間が比較的自由なこと |
| 2 | 高収入が得られること | 6 | 社会に役立つこと |
| 3 | 身分が安定していること | 7 | その他 () |
| 4 | 専門的な知識や技能が生かせること | 8 | 特にない |

【※すべての人にお聞きします。】

問14 あなたは次の言葉を聞いたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

① 男女共同参画社会

- | | | | |
|---|--------------------|---|----------|
| 1 | 聞いたことがあります内容も知っている | 3 | 聞いたことがない |
| 2 | 聞いたことはあるが内容は知らない | | |

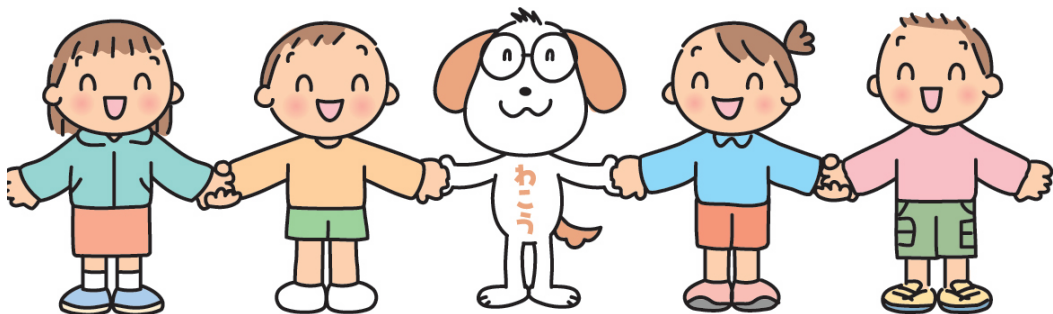
② DV (ドメスティック・バイオレンス)

- | | | | |
|---|--------------------|---|----------|
| 1 | 聞いたことがあります内容も知っている | 3 | 聞いたことがない |
| 2 | 聞いたことはあるが内容は知らない | | |

③ セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)

- | | | | |
|---|--------------------|---|----------|
| 1 | 聞いたことがあります内容も知っている | 3 | 聞いたことがない |
| 2 | 聞いたことはあるが内容は知らない | | |

ご協力ありがとうございました！



(小学生意識調査)

わ こう し だんじょきょうどうさんかく かん しょうがくせい い し き ちょうさ
和光市男女共同参画に関する小学生意識調査

ねが
【お 願 い】



わ こう し だんじょきょうどうさんかくせいしんかかり
和光市男女共同参画推進係
わこうさん

ねんせい
4年生のみなさんこんにちは！

これはテストではありません。

ちょうさ わこうし ねんせい だんじょびょうどう かんが
この調査は、和光市の4年生のみなさんが、男女平等をどのように考
えているのかを知るために行っています。

なまえ か こた せんせい ほか ひと
あなたの名前は書かなくてよいので、答えは先生や他の人にはわかりま
せん。あなたがいつも思っていることを答えてください。

こた かた
【答 え 方】

- こた たい あと ばんごう
1. 答えは、問の後のあてはまる番号に○をつけてください。
- た た とき なか じぶん かんが こた か
2. 「その他」に○をした時は、() 中に自分で考えた答えを書いて
ください。
- か とき おも ぜんぶ
3. あてはまるものすべてと書かれている時は、思ったところ全部に○をつ
けてください。
- こた かす か とき
4. 答えの数が5つまでと書かれている時は、「1つ」でも「2つ」で
も「3つ」でも「4つ」でも「5つ」でもかまいません。
- い み しつもん こた しつもん
5. 意味のわからない質問や答えたくない質問があったときは、その質問を
とばして先に進んでください。

わこうしきかくぶじんけんぶんかか じんけんたんとう
和光市企画部人権文化課 人権担当 ☎ : 048-424-9088



問1 あなたの性別は。(○は1つ)

1 <small>おんな</small> 女	2 <small>おとこ</small> 男
---------------------------	---------------------------

問2 次のことについてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

① 学校の係で男子の係・女子の係と決まっているものがある。

1 <small>おも</small> そう思う	3 <small>おも</small> どちらかといえばそう思わない
2 <small>おも</small> どちらかといえばそう思う	4 <small>おも</small> そう思わない

② なにかにつけて男子が先、女子が後にされている。

1 <small>おも</small> そう思う	3 <small>おも</small> どちらかといえばそう思わない
2 <small>おも</small> どちらかといえばそう思う	4 <small>おも</small> そう思わない

③ いろいろな場面で女子のほうがかやかされている。

1 <small>おも</small> そう思う	3 <small>おも</small> どちらかといえばそう思わない
2 <small>おも</small> どちらかといえばそう思う	4 <small>おも</small> そう思わない

④ いろいろな場面で男子のほうか期待されている。

1 <small>おも</small> そう思う	3 <small>おも</small> どちらかといえばそう思わない
2 <small>おも</small> どちらかといえばそう思う	4 <small>おも</small> そう思わない

⑤ 代表委員、児童会長は男子に向いている。

1 <small>おも</small> そう思う	3 <small>おも</small> どちらかといえばそう思わない
2 <small>おも</small> どちらかといえばそう思う	4 <small>おも</small> そう思わない

⑥ 教室のそうじや整理整頓は女子に向いている。

1 <small>おも</small> そう思う	3 <small>おも</small> どちらかといえばそう思わない
2 <small>おも</small> どちらかといえばそう思う	4 <small>おも</small> そう思わない

⑦ 女子は音楽が得意である。

1 <small>おも</small> そう思う	3 <small>おも</small> どちらかといえばそう思わない
2 <small>おも</small> どちらかといえばそう思う	4 <small>おも</small> そう思わない



第5章 調査票

⑧ 男子は運動が得意である。

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 そう ^{おも} 思う | 3 どちらかといえばそう ^{おも} 思わない |
| 2 どちらかといえばそう ^{おも} 思う | 4 そう ^{おも} 思わない |

問3 あなたはおとなの^{ひと}人に「男^{おとこ}だから〇〇しなさい」や「女^{おんな}だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 よく ^い 言われる | 3 あまり ^い 言われない |
| 2 ときどき ^い 言われる | 4 ぜんぜん ^い 言われない |

→ 問4 問3で「よく^い言われる」または「ときどき^い言われる」と答えた方に聞きます。どんな^{とき}時に言われましたか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | | |
|-------------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| 1 ことばづかい | 6 すわり ^{かた} 方 | 11 家に帰る時刻 |
| 2 服装・身だしなみ ^{ふくそう み} | 7 ある ^{かた} 歩き方 | 12 スポーツ |
| 3 整理整頓 ^{せいりせいとん} | 8 勉強 ^{べんきょう} | 13 お金の使い方 ^{かね つか かた} |
| 4 お手伝い ^{てつだ} | 9 テレビ番組 ^{ぼんぐみ} | 14 泣いたとき ^な |
| 5 食事の仕方 ^{しょくじ しかた} | 10 友達関係 ^{ともだちかんけい} | 15 その他 () |

→ 問5 問3で「よく^い言われる」または「ときどき^い言われる」と答えた方に聞きます。あなたは^{とき}その時どんな^{きも}気持ちがありましたか。(〇は1つ)

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1 いやな ^{きも} 気持ちでした | 3 何とも ^{なん おも} 思わなかった |
| 2 その通り ^{とお} だと思った ^{おも} | 4 その他 () |

問6 あなたは家の中^{いえ なか}でどのような^{てつだ}お手伝いをしますか。(あてはまるものすべてに〇)
※なにもしていない場合は〇をつけしないでください。

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1 食事 ^{しょくじ} のしたく | 6 買い物 ^{か もの} |
| 2 食事 ^{しょくじ} のあとかたづけ | 7 ゴミ ^だ 出し |
| 3 そうじ | 8 ペットの世話 ^{せわ} や花 ^{はな} の水 ^{みず} やり |
| 4 洗濯 ^{せんたく} | 9 その他 () |
| 5 お風呂 ^{ふろ} あらい | |



問7 あなたは家の中で、食事のしたくやそうじ、洗濯のような家事は、誰がやるのが一番よいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 男の人が主にやるのがよい
- 2 女の人が主にやるのがよい
- 3 男の人と女の人が協力してやるのがよい
- 4 わからない
- 5 その他()

問8 「男は仕事・女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方についてどう思いますか。(〇は1つ)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そうは思わない
- 5 わからない

問9 あなたは、大きくなったらどのような仕事につきたいと思いますか。(〇は5つまで)

- | | | |
|------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1 会社員、銀行員 | 17 コンピュータ関係の仕事 | 33 ゲームデザイナー |
| 2 会社経営 | 18 自動車、機械などのエンジニア | 34 スポーツ選手 |
| 3 学校の先生 | 19 建設業、大工など建物、道路、橋などをつくる人 | 35 歌手、タレントなどの芸能人 |
| 4 保育園、幼稚園の先生 | 20 シェフ、調理師など | 36 新聞記者 |
| 5 公務員 | 21 パティシエ | 37 アナウンサー、レポーター |
| 6 警察官、刑事 | 22 美容師、理容師 | 38 食べ物屋さん(ケーキ屋さん、パン屋さんなど) |
| 7 消防士、救急隊、レスキュー隊 | 23 習い事の先生(ピアノ、エレクトーン、習字などの先生) | 39 花屋さん |
| 8 自衛官 | 24 通訳、翻訳家 | 40 ペット屋さん、動物の飼育 |
| 9 弁護士、検察官、裁判官など | 25 医者 | 41 商店など自営業 |
| 10 政治家 | 26 看護師、理学療法士など病院で働く人 | 42 店員・販売員 |
| 11 科学者、科学技術者 | 27 福祉施設で働く人 | 43 農業、漁業、林業など |
| 12 科学者以外の学者、博士 | 28 獣医 | 44 その他() |
| 13 宇宙飛行士 | 29 薬剤師 | 45 なりたい仕事がない |
| 14 パイロット | 30 画家、デザイナーなどの芸術家 | 46 わからない |
| 15 フライトアテンダント | 31 作家、作曲家 | |
| 16 自動車、電車の運転手 | 32 マンガ家、イラストレーター | |



問10 あなたは次の^{つぎ}言葉^{ことば}を聞いたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

① ^{だんじょきょうどうさんかくしゃかい}男女共同参画社会

- | | | | | |
|---|------------|----------|---|----------|
| 1 | 聞いたことがあります | 内容も知っている | 3 | 聞いたことがない |
| 2 | 聞いたことはあるが | 内容は知らない | | |

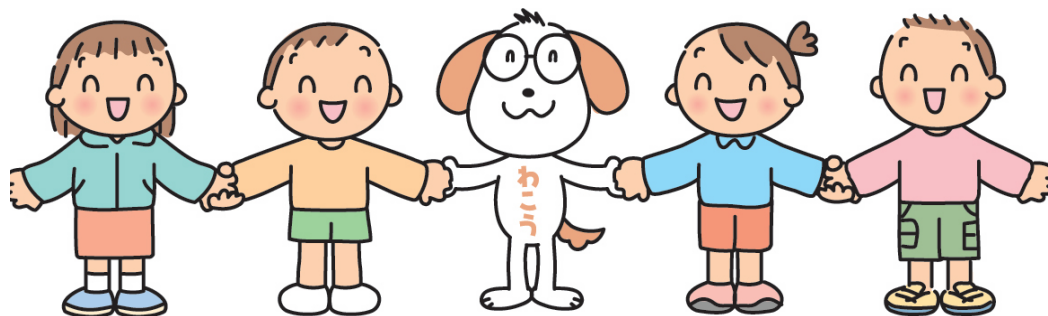
② DV (ドメスティック・バイオレンス)

- | | | | | |
|---|------------|----------|---|----------|
| 1 | 聞いたことがあります | 内容も知っている | 3 | 聞いたことがない |
| 2 | 聞いたことはあるが | 内容は知らない | | |

③ セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)

- | | | | | |
|---|------------|----------|---|----------|
| 1 | 聞いたことがあります | 内容も知っている | 3 | 聞いたことがない |
| 2 | 聞いたことはあるが | 内容は知らない | | |

^{きょうりよく}
ご協力ありがとうございました!



平成22年度
和光市男女共同参画意識調査
報告書

平成22年10月

発行 和光市企画部人権文化課
〒351-0192 和光市広沢1番5号
TEL 048-424-9088
ホームページ <http://www.city.wako.lg.jp/>